

2023 栄光への軌跡

2023年春、志望大学に現役で進学した仙台育英学園高等学校卒業生による
大学合格までの軌跡



一般選抜

Middlebury College、東北大学、岩手大学、山形大学、
國學院大学、立命館大学

東北大学 医学部保健学科看護学専攻に
一般入試で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
青陵中等教育学校出身

先生方という「安心できる居場所」が 入試に挑む勇気をくれました

■自分を追い込まないよう 学習効率を工夫しました

私は高校2年生の冬にパニック障害になってしまい、受験生時代は体力、精神面でかなり苦労しました。入学当初から難関大学を志望大に設定し勉強していたこともあり、2年時までの成績は比較的安定していました。しかし、心と体のバランスを崩してからは、勉強へのやる気が湧かず成績が大幅に下がりました。苦手科目の物理や数学では、定期テストで赤点を取ることもありました。私が、この状況下で志望大合格のために意識していたことは主に2つあります。

1つ目は勉強の効率化です。体調を崩してからは、1日勉強ができない日もあったため、量を意識していた2年次までの学習方法を見直し効率の良さを重視するようになりました。例えば、授業で学習をある程度終わらせる事ができるように集中して授業に臨んだり、家庭学習では問題集をむやみに解くのではなく、宿題や授業の復習中心にしました。完璧にしようと自分自身にプレッシャーをかけてしまうと疲れてしまったため、授業で分からないことは解決しようという気持ちで臨むことを意識していました。学習塾には通っていなかったため、先生方に質問をして教えて頂くこともありました。

■受験期は体調を管理し マイペースで学習しましょう

2つ目は辛くなってしまった時の対処法を持つことです。先生方はとても優しく、受験生時代は何度も励まして頂きました。私は、安心できる居場所を校内に持つことができたお陰で受験に臨めたのだと思います。

自分自身、受験生時代に体調を崩すとは思っていませんでした。何があるか分からないのが受験ということ身を体験したため無理をせず体調第一で過ごすことが重要だと学びました。自分のペースで学習していけば、後悔のない受験生生活を送れるのではないかと思います。皆さんが素敵な高校生活を送れることを心よりお祈り申し上げます。

岩手大学 教育学部 小学校教育コースに
一般入試で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
宮城教育大学附属中出身

今の高校生活はとても恵まれているので 一日一日を噛み締めて過ごしましょう

■生徒会活動で培った力を 受験で大いに生かしました

私は大学進学のために部活動に力を入れ、陸上競技部短距離と生徒会執行部に所属していました。

生徒会執行部としては、企画運営などに関わることがありました。企画運営を通して、生徒会役員間や先生方ももちろん、保護者の方ともコミュニケーションを図りました。コミュニケーションを図ることで人と関わるマナーや意思疎通する力が身につきました。この力は受験に使う面接やディスカッション、受験生同士で行う実技試験に生かすことが出来ると思います。

■自己の成長を常に意識して 部活動に励んでいました

陸上競技部としては、大会等の成績にもこだわってきました。また成績に限らず、人として成長することも意識して活動してきました。成績を出すためには、日頃の練習のオンオフの切り替えをしっかりとすること、分からないことを恥ずかしがらずにチームメイトや顧問の先生に尋ねるなど、向上心を持って練習に臨むことが重要だと思います。向上心は何事をおいても生かせる要素だと思うのでぜひこの要素を持って大学受験に臨んでください。他にも、どうしたら自分自身が強くなれるか試行錯誤する思考力も大切です。ただガムシャラに練習することも悪くありませんが、冷静に着実に練習していくことをおすすめします。勉強も同じで、ガムシャラに勉強を進めるのではなく、なぜその問題を間違えたのかや自分はどの科目・単元が苦手で得意なのかという分析することが大切なので意識して欲しいです。また、運動という身体的感覚を言語化して質問したりノートに書き出してみたりする、この言語化する力も養うことができました。感覚的に済ませるのではなく、言葉での表現力にも気にしてみてください。人としての成長という面では、選手間のリスペクトや顧問の先生や保護者、練習環境に感謝することも大切です。何気ない日々の学校生活や練習は「当たり前のように当たり前では無い」とよく言われると思います。正直、なかなか実感することも出来ず日々を過ごしていました。ですが今更ではあります、競技から離れての生活、また卒業が近い時期ということもあり、私は「当たり前は当たり前のように当たり前では無い」ということを実感しています。後輩のみなさんには競技に触れている今のうちにこの感情に気づいて欲しいです。この感情に気づいて一日一日の何気ない生活を噛み締めて生活してほしいです。

受験を大きな壁だとは思わず、一大イベントに参加するような心意気でぜひ受験に臨んでください。仙台育英卒業生として応援しています。

山形大学 理学部理学科に
一般入試で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
寺岡中出身

学校生活では友達との時間と勉強を 上手く切り替えることが大事です

■自分を信じて本番に臨み 達成感に満ちています

高校受験では試験本番で力を出せなかったため、大学受験では勉強したことを試験会場でできるように、日々の学習でも時間制限を設けて、過去問では解く順番や時間配分を意識しました。ただ問題を解いて答えを見て○×をつけるだけでなく、解説を読んで考察するようにしました。共通テストでは、多量の問題文を正確に読み、選択肢を吟味することが大事です。英語リーディングでは、傾向から設問ごとに解き方を決めて、先に文章を読むか設問を読むかさらに選択肢まで見るかなど自分で工夫しました。そうすると時間に余裕が生まれ本番では9割取れました。また、二次試験などでは、答案を作成する記述力が重要となります。特に数学では、答えは導き出せても添削すると過程を書き出せてないことが多くありました。日頃から手を動かして問題を解くようにしたほうが良いと思います。努力してきたからこそ試験本番はすごく緊張してマイナスなことも頭に浮かんでプレッシャーに押しつぶされそうになりましたが、自分を信じました。受験をやり遂げた今は達成感に満ち溢れています。

高校生活は学校行事などまとまったの活動は多くありませんでしたが、さりげない日常の中にある小さな出来事にみんなで盛り上がりたりしていたのもいい思い出です。後輩の皆さん切り替えが大事です。自分は朝学校の自販機でブラックコーヒーを買ってスイッチを入れていました。そうすると居眠りしなくなります！ たくさん遊びながらも進路実現に向けて勉強を頑張れ!!

國學院大学 文学部日本文学科に
一般入試で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
秀光中出身

日常生活の中でモチベーションを保つ 自分なりの手段を見つけましょう

■自己分析をして進路を決め

効率よく勉強しましょう

自分の受験生としての生活を顧みて、大学受験において全員に共通して重要なことは2つあると思いました。

まずは自己分析をすることです。やみくもに大学を調べてみたり、無計画に勉強してみたりすることも否定はしませんし、人によっては必要な時間かもしれません。しかし、一旦自分自身を見つめ直し、大学に行って何がしたいのか、どのような分野に興味を持っているのか、学習において今何ができていて何が不足しているのか、そういったことをしっかりと考えてみてほしいです。一概に言えることではありませんが、大学を選ぶにも、志望大合格に向けて勉強をするにも、自分のことを理解している人とそうでない人とでは大きな差が生まれると思います。次に、モチベーションを保ち続けることです。受験勉強をしている中で、やる気がなくなる日はもちろんあります。逆に、常にやる気に満ちあふれた状態でいられる人は、そうそういません。ただ、やりたくないからといって何もしないまま惰性的に日々を過ごしても大丈夫というほど現実には甘くありません。自分の気持ちと上手く折り合いをつけながら勉強する必要があります。モチベーションの保ち方は十人十色なので、日常生活の中で見つけていってほしいです。私の場合は、この頁まで解いたらちょっとだけYouTubeを見ようかな！とか、なんとなく行き詰まった気がしたら大好きな曲を聴きながら近所を散歩してみよう！といった方法でした。

■自分と同じく努力を続ける

仲間の姿が励みになります

どんなに努力しても、結果に満足いかないことはたくさんあります。大学受験は、合格通知を見るまでずっと不安や葛藤が付きまとうものです。全部を投げ出したくなるときもあるでしょう。そんな時は周りを見てください。あなたと同じように目標に向かって突っ走っている仲間たちがいるはずですよ。両親や先生方、友人など色々な人の力を借りながら、ライバルに負けないように、そして自分の弱気さにまけないように、休み休み頑張ってください。後輩の皆さんにも、晴れやかな未来が訪れますように。応援しています！

立命館大学 薬学部薬学科に
一般入試で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
向陽台中出身

周囲の意見に流されることなく 志望大を変えなかったのが勝因です

■どんなに勉強しても必ず しっかり睡眠を取りました

幼いころから、母が医療関係者であることや、入院が多く医療従事者が身近であったことから、医療系の道に進むことを志していたので、高校に入学してから薬学の分野を極めることに決めました。理系は理系科目の配点が高いので、文系科目は2年次のうちにある程度は固めておいたのが良かったと思います。また、英語と数学は毎日ふれるようにしていました。勉強時間としては、1、2年は休日は10時間、3年生は14時間は費やしていました。睡眠時間は決して削らず7時間半は寝ていました。定期テストはその場限りの勉強にならないよう、英文や古文を丸暗記するのではなく、文法を理解して覚えるのが大切だと思います。苦手な分野は、夏休みなどの長期休みを使って、徹底的にその箇所の参考書をやっていました。

■第一志望合格のために もがいた3年間でした

私は、自分を追い込んで落ち込んでしまうことが多かったので、そんな時は友達と話して気分を上げたり、志望大の動画や写真を見てモチベーションを保っていました。受験当日は緊張してしまうので、友達と話したり電話したり、ラムネなどのお菓子を食べてリラックスした状態で受験しました。私自身が大学受験に成功した勝因は誰にと言われても志望大を変えず諦めなかったことだと思います。高校生活とは、たくさんの友達との絆を深めることはもちろん第一志望に合格するために必死にもがいた3年間でした。どんなに判定や点数が悪くても楽観視せずにどの分野が苦手なのか、あと何点で上の判定にいけるのかを冷静に判断することが大切です。これから送る大学生活は、勉強はもちろん今までできなかったことや、新たに挑戦したいことに積極的に取り組んでいきたいです。

Middlebury College に
一般入試で合格（他 複数の海外大学にも合格）

令和 5 年 3 月 秀光コース卒
秀光中出身

外国系大学を志望するならば 学内外の活動に積極的に参加しましょう

■秀光でのカナダ研修で 海外大学を志しました

秀光中 3 年次にカナダ研修に行ったことをきっかけに、海外大進学を意識し始めました。自分自身の成長と、進路達成に向けて DP 資格の取得が重要であると判断し、秀光コースで DP 取得を目指すことを決意しました。いろいろな大学について知るために、Classi で国際センターから配信される海外大学の情報を、高 2 の頃から常にチェックしていました。また、何度かカウンセリングも利用しました。学校内にあるリソースは使いつくす事をお勧めします。TOEFL での高得点取得と海外大学受験のための対策は、TOEFL は高 1 の 12 月から、エッセイは高 2 の 3 月から対策を本格化しました。

■高校生活は将来の選択肢を 意識して過ごしましょう

海外大学受験では学業成績が非常に重要だったため、課題の提出期限と質、また授業での積極的な参加を常に意識していました。学校内での学力順位も提出するため、校内模試での順位にもこだわりました。IB を取得する生徒は、最終試験の点数も非常に重要になります。対策は高 2 の 1 月頃から始まり、高 3 の夏以降本格化しました。もっと早くから対策しておけばよかったと少し後悔しています。周りに流されず、自分の目標に向かって努力することが必要です。TOEFL のスコアは、高 3 の 8 月に大学の最低要件をクリアし、高 3 の 1 月に目標点数を達成しました。もっと短期集中で取り組むことも出来たと少し反省していますが、早めに取り組み始めたことが功を奏しました。高 3 の夏には点数が確保できていたため、日本の大学受験にも間に合わせる事が出来ました。

特に米国大学では課外活動も重視されるため、学内外での活動も積極的に行いました。インターアクト部での部長の経験や体育祭の運営、また中 3 での活動も記入できるため、生徒会副会長やなぎなた部に所属した経験を記載しました。学外では、地元のイベントの運営ボランティアや通っていた英語教室でのインターンシップ、近隣高校と合同で海岸清掃イベントなどに取り組みました。

忙しい中でも、色々な選択肢を意識しながら目標に向かって頑張ってください。

2023 栄光への軌跡

2023年春、志望大学に現役で進学した仙台育英学園高等学校卒業生による
大学合格までの軌跡



学校推薦型選抜【指定校推薦】

立教大学、法政大学、東京理科大学、芝浦工業大学、
東洋大学、同志社大学、立命館大学、東北学院大学、
東北工業大学、東北文化学園大学、東北医科薬科大学、
宮城学院女子大学、尚絅学院大学、仙台大学、
仙台青葉学院短期…

立教大学 法学部国際ビジネス法学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
広瀬中出身

1年次から勉強を習慣化させたことが 合格の支えになったと実感しています

■IBDPで磨いたスキルを 生かせる進路を探しました

私がこの大学に出願すると決めたのは、校内模試が終わってからでした。元々、指定校推薦で目指していた大学が他にありましたが、6月の校内模試の結果を受けその大学以外にも候補を挙げる必要が出てきました。候補とする大学がなかなか決まらず迷っていた時に担任の先生が立教大学を紹介してくださいました。決め手となったのは、グローバルコースの授業体制です。国際バカロレア・ディプロマ・プログラム（IBDP）で得た経験を生かしたいと考えていたことから、法律を学べるだけでなくグローバルに特化している環境は私にとって最適な条件でした。選考方法は書類審査のみだったため、志望理由書でできるだけ自分をアピールすることが重要でした。私は部活動に所属していませんでしたが、IBDPを受講していたのでディスカッションスキルなどを強みとして挙げました。進路を決定する前から、IBDPでは日々ディスカッションやエッセイの執筆に励み、自身の成長や大学生活に生かすことのできる有意義なものにすることができました。さらに、志望理由書を先生方に推敲していただくなど、限られた時間の中でできることを見つけ、より良い志望理由書を作成しました。また、出願条件には英検のスコアが必要で、できるだけ高いスコアで出願するために英検を2回受けました。このように、出願までの数ヶ月を有効活用したことで目標に近づくことができたと思います。

■目標を高く設定したことで 勉強に本気になれました

そして、大学に合格できた要因は校内模試での成績が大きかったと思います。校内模試を活用すると決めた時から勉強に励み、高校3年の春時点での校内順位から大幅に順位を上げることに成功しました。振り返って良かったと思うことは、目標を高く設定していたことです。個人的な意見ですが、志望大のレベルを高めに設定していたおかげで、校内模試の対策に本気になって励むことができ、進路選択の幅を広げることができました。校内模試の対策だけでなく、それ以前の高校生活があってこそ得る事ができた機会でした。1年生の頃から授業に積極的に参加し定期テストで高得点を狙うなど、現時点でできることに精一杯取り組むことを心がけていました。この1年次に培った勉強の習慣化は3年間を通して大きな力となり、合格の支えにもなってくれました。途中で進路が変更することはあると思いますが、高校生活全体を通して積み重ねてきた努力は確実にどこかで生きます。日々目の前にあることに一生懸命取り組んでいれば、いつ進路が変わったとしても心配することは少ないと思います。たとえ進路が変わっても焦らず、残された期間で自分にできることを見つけることが重要です。高校生活の送り方次第で、今後の選択が左右されます。後輩の方々には、受験の時に後悔することがないように高校生活を大切に送ってほしいと思います。

立教大学 異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
岩手 上田中出身

今ある時間を有意義に使うことが この先の未来に繋がるはずです

■英語に親しんだ高校生活を

大学で生かそうと思いました

私は高校入学後から指定校推薦を視野に入れました。しかし、自分のやりたいことがなかなか定まらず、志望大を確実に決断したのは3年生になってからです。高校では英語に触れる機会が多い環境で学んできたため、この経験を無駄にしたくないと思い語学系、国際系に焦点をあてて大学選びをしてきました。また、2年次の担任から実践的な学びがある学部が向いているのではないかと助言をいただいたことも志望大決定のきっかけの一つです。私が立教大学異文化コミュニケーション学部を選んだ理由は、複数の言語を身につけられる専門性に富んだカリキュラムや原則全員参加の留学研修などがあるからです。この学部でなら、広い視野を持ちながら学びたいことを追求して、多文化共生社会に貢献できる方法を見つけ出せると考えました。学習面で特に大切にしてきたのは、定期考査です。私はしばらく志望大を決定できなかつたため、どの学校・どの入試方法でも通用する力をつけるために1年生の頃から毎回良い成績を残せることを意識して取り組んできました。そのため、成績を落とさないよう日頃から学習方法を見直しながら予習・復習を習慣化させ、課題は後回しにせずできるだけ早く終わらせるようにしていました。

■資格の推薦条件は必ず

チェックしましょう

また、指定校推薦では第一回校内模試がかなり大切になってきます。私は、ちょうどこの時期に英検や定期考査、部活の行事が立て続けに控えていてすごく忙しかったです。しかし、時間がないからこそ早起きして登校前の時間を問題演習にあてたり、授業の合間の時間を活用して英単語を覚えたりしていました。そのため、短い時間に集中して学習することを心がけていました。さらに大学によっては条件で「英検〇級以上」「スコア〇点以上」と指定している学校があります。いくら校内模試の順位が良くても指定された資格や点数を取得していないと指定校推薦への出願すらできません。私は、コツコツと英検を受けていましたがスコアが足りなかつたため、出願するギリギリに再度英検を取得しました。志望大を決められた人は、早い段階で指定校推薦への情報収集をすることが肝心です。高校3年間はあっという間に過ぎてしまいます。今ある時間を無駄にせず、有意義なものにしていくことが皆さんの未来に繋がるはずです。自分が他の人に負けない強みは何か、今まで何を頑張ってきたのか、大学ではどのように学んでいきたいのか、自分の軸を持ちながら大学受験に向き合って頑張ってください。

立教大学 グローバル・リベラルアーツ・プログラムに
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
中国出身

I have used school recommendations and passed the Faculty of global Liberal Arts program at Rikkyo University. This essay, I will divide it into two sections, first is what preparations I have made to get the recommendation, then how to meet the English requirements that this course needed.

I didn't really want to get a recommendation at first, but I still prepared for the school exam and the English direction. The most essential requirement for the GLAP program at Rikkyo University is an IELTS score of 5.5. There are no high requirements for school grades, so the most important thing is to get an IELTS score. Although the requirement is 5.5 points, I believe a higher score is better, so my goal was to get 6.5 points. At the beginning of my second year of high school, I tried to take the IELTS test. The score was not very satisfactory, and I only got 5.5 points. I didn't know how to study at first, so I bought a lot of IELTS practice questions to practice. As I practiced, I found that I could score 7.0 in listening, but only got 6 on the first test, so I started to think about what went wrong. It turned out that many of my mistakes were spelling errors, so I started to practice spelling and tried to improve my listening scores. Then I tried the IELTS test for the second time, and this time my total score improved by 0.5, which was very good news for me. Then I found out that my reading score didn't grow either times and I knew reading was my weakness. To improve my reading, I tried to read short stories in English and tried to write down everything I heard. Then practice a lot of practice questions to improve your reading speed. This effect is very good, and my reading score increased to 6.5. As writing and speaking are the most difficult to score, I chose to improve my reading and listening skills. In the third year of high school, I managed to achieve my target IELTS score of 6.5.

法政大学 キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
富沢中出身

校内模試の順位が高いほど 進路の選択肢が広がります

■志望大が決まっていなくても 英検は取得しておきましょう

私が指定校推薦で大学に入学しようと思ったのは高校2年生の終わりごろでした。興味があった大学の推薦枠があったことや、受験のチャンスを増やそうと思ったことが主な理由です。私が校内選考で内定を頂くにあたって取り組んだことは主に3つあります。

1つ目は、校内模試で高い点数を取るための勉強です。校内模試の勉強を始めた際は、まず先生に過去問を貰いました。過去問を解くことで出題形式や苦手分野を知ることができるからです。国語は四字熟語や慣用句を中心に勉強し、英語では単語の暗記と並行して、80分間で問題を解き切り見直しまでできるように時間配分などを考えて何回も問題を解きました。苦手だった数学でも基礎を固めるため必死に取り組んだ結果、校内模試では7位を取ることができました。高い順位を取ることで選択できる大学の幅が広がるため、1、2年次から気を抜かず勉強することが大切だと思います。

2つ目は、評定平均を上げるための定期考査の勉強と課題提出です。上位の大学では評定平均4.0を満たすことが条件となるため、1年生の頃から定期考査や普段の授業に真剣に取り組む高い評定をキープすることが大切です。

3つ目は、英検2級の取得です。色々な大学で出願資格として英語の資格や英検のスコアが必要とされているため、志望大が決まっていなくても英検を受けることをおすすめします。学校のWeblioで面接対策のレッスンもあるため、ぜひ活用してみてください。

■書類や面接でアピールできる 経験が少なく後悔しました

また、指定校推薦を考えている皆さんにはぜひ部活動に所属したり外部の活動をしたりと自分をアピールできる活動に打ち込んでほしいです。私は部活動に所属していなかったため、志望理由書や面接でアピールできることがあまり無く後悔しました。指定校推薦では3年間の頑張りが評価されるため、是非自分が頑張れることを見つけて欲しいと思います。

校内選考が通ってからは面接対策に取り組みました。面接練習はなるべく早く始めて、自分の将来のビジョンやそれを達成するために大学で何を学びたいのかはっきりさせておくといいと思います。私も初めは言葉に詰まってしまい不安でしたが、担当の先生のご指導のおかげで本番では詰まることなく答えることができ、とても感謝しています。

後輩の皆さんには、まだ入試方式を考えていなくても定期考査に真剣に取り組む評定を取ることで、欠席日数に気を付けることを意識してほしいと思います。そうすることで3年生になって推薦入試を視野に入れた時にも安心できます。卒業が迫った今振り返ると、高校生活は本当にあっという間です。皆さんが充実した高校生活を送ることができるよう願っています。頑張ってください！

法政大学 理工学部応用情報工学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
成田中出身

探究活動の時間を有効に活用して 将来の夢を見つけましょう

■早く合格して大学の学問の 準備をしたいと思いました

私が、指定校推薦で受験しようと思ったきっかけは2つあります。1つ目は、志望大学の入学の選択肢を増やし、確実に合格したいと思ったことです。探究の時間に自分の興味のある分野が学べる大学を比較していたら、最も学びたい分野に近い、そして自分の夢を叶えられる大学を見つけることができました。さらに、学校に指定校推薦枠が来ているということを知り、指定校推薦を利用して確実に入学したいという思いが強くなり、この受験方式を選びました。2つ目は、一般受験と比べ早い時期に進路が決定することで時間に余裕ができることを生かし、効率的に勉強したいと思ったことです。元々国立大学が第一志望でしたが、情報系に特化した高校やコースの方とのスタートラインの差に不安を感じ始めていたため、志望大学での勉強に必要となる教科や資格の勉強に費やせる時間ができることに魅力を感じました。

■推薦入試を考えていなくても 資格は取得しておきましょう

私は3年生の夏頃になってから指定校推薦での受験を考え始めたため、自分のアピールポイントとなることは多くありませんでしたが、英検を取得していたことが救いとなりました。英検などの資格取得をしておくことは、指定校推薦での受験を目標としている方に限らず大切だと感じました。また、日々心がけていたことは、定期テストである程度の点数を維持する、提出物の期限を守る、欠席や遅刻・早退をしないように体調管理に気を配り生活していました。当たり前のことのように思えますが、日頃の小さな努力の積み重ねで受験の選択肢は広がります。1年生の時から行われる探究活動の時間を大切に、自分の興味ある分野や将来の夢を見つけ、それを目標として生活することで自分の夢を叶えられると思います。

東京理科大学 工学部建築学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
宮城教育大学附属中出身

先生や友人、家族など信頼できる人の 存在はかけがえのないものです

■定期考査は点数よりも 評定を重視していました

指定校推薦での進学を検討し始めたのは、2年生の秋ごろです。指定校枠がある大学の中でも両親と話し合い、自身の興味のある研究室があること、父親が背中を押してくれたことで東京理科大学を志望することにしました。

校内選考では、主に定期考査と普段の提出物、3年生の春の校内模試での成績が影響してきます。定期考査ではすごくいい点数を取るためではなく全体として5が多くなるようにバランスよく、2週間ほど前から勉強していました。長時間集中することが苦手だったため、放課後に友人と自習室に残り、4時間ほど短い時間集中していました。普段の提出物も友人と協力し合い、答え合わせをしていました。ただ、答えがわからなくても期限までに提出することが一番大切だと思います。校内模試は緊張しましたが、国語と英語は8割を超えるように、数学は7割5分になるように共通テストの過去問を解いて対策しました。

■友人の励ましで前向きに 頑張ることができました

私は元々、推薦で受験をするつもりはありませんでした。しかしながら2年生のころに母親から勧められ、担任の先生に相談し、3年生になって挑戦だけしてみようとダメもとで校内選考に希望を提出した結果、合格しました。迷ったり、悩んだりしたらぜひ担任の先生に相談してみてください。二年生のころ、私は成績がうまく伸びないこと、文転しようか迷っていること、指定校を取るか悩んでいること、色々担任の先生に相談させてもらいました。また、友人とお互いに進路への不安を打ち明けあうときもありました。

少し後ろ向きな気持ちになったり、どうしてもなく不安になったりするときもありますが、その時は友人の存在でどうにか前向きになれました。周りに頼れる人を作ることで、自分の考えを整理したり、前向きになれたりできます。ぜひ信頼できる人を作って、楽しい学生生活を送ってください。

東京理科大学 経営学部ビジネスエコノミクス学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
東向陽台中出身

進路を決めていなくても勉強に励み 資格や課外活動にも取り組みましょう

■入学当初から模試や考査で 高得点を目標にしていました

私は、1, 2年生の頃は特にどの方式で受験するか考えておらず、模試や学校の定期テストでできる限り高得点を取ることを目標に勉強していました。日々の積み重ねが自分の成績の向上、ひいては大学受験の際にどのような受験方法になっても役に立つと考えたからです。実際に、私が指定校推薦での受験を考え始めたのは3年生の頃からでしたが、今までの評定平均、校内模試での得点率などを評価していただき、指定校推薦の受験資格を得ることができました。

指定校推薦では、評定平均だけでなく、校内模試での点数も重要です。定期テストの少し前に内容を詰め込んで高得点を取るという方法では、内容が定着しづらいです。そうならないためにも、授業の予習や復習をしっかりと行い、模試の結果などから自分に足りない知識を埋めていくなどの方法で、確実に自分の成績を上げていくことがおすすめです。また、大学によっては出願資格を得るために英語などの資格・検定のスコアが必要な大学もあります。総合型選抜や指定校推薦を視野に入れている人は、目標としている大学について早めに調べ、資格などが必要なのか知っておくことが大事です。

■サイエンス・コ・ラボ参加を 出願書類でアピールしました

加えて、課外活動なども経験しておくとうりに働くことが多いです。私は、大学に提出する書類に高校での課外活動について書く必要がありました。仙台育英が開催しているサイエンス・コ・ラボという講座に参加したことがあったので、それについて書きました。仙台育英には様々なイベントがあるので、こまめにチェックして興味のあるものに参加してみると良いでしょう。

すでに自分の目標が定まっているという人も多いと思いますが、私のように進路に悩んでいる人もいます。そのような人は、定期テストや模試などに真剣に取り組んで成績を上げていき、時間があれば資格や課外活動などにも取り組んでおくとう将来の選択肢を広く持てるのでおすすめです。これを読んできた皆さんが少しでも参考にしていただけたら幸いです。進路実現に向けて頑張ってください。

芝浦工業大学 工学部情報通信工学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
三条中出身

人生で一度きりの高校生活だからこそ 思い切って何でもやりましょう！

■早く合格を決め大学の学問の 準備をしたいと考えました

私が指定校推薦という方法を選んだのは高校3年生の初めて、選んだ理由はいくつかあります。一つは興味のある大学への合格チャンスを獲得できるという点です。もう一つは受験の合否が一般受験と比べて早く出るため、そこで合格できれば残りの高校生活を大学の入学準備にあてることができるという点です。これらのことから私は指定校推薦に魅力を感じ、この入試方法を選びました。高校入学時から高校2年生までの学習では定期考査に手を抜かず、苦手な科目であっても高得点を獲得できるよう努力してきました。その結果高い評定平均を出すことができました。高校3年生では学校から推薦をいただけるように、定期考査の学習も継続しながら日々の生活態度にも気をつけました。定期考査においては日々の授業にしっかり集中し、先生方の定期考査に関しての発言を細かくメモに取って効率的に学習をしていくのが私のおすすめの勉強法です。また、私自身指定校推薦で受験するというのを決断したのは少し遅めであったので、英検や校内模試まで3か月もなく、これらに向けて猛勉強しました。そして校内模試、英検のどちらでも良い成績をとることができました。短期間で学力を上げるために私は勉強の妨げとなる携帯電話の使用などに制限をかけ、過去問を中心に問題の傾向を考えながらとにかく効率的に勉強しました。

■コロナ禍で登校できない間も 先生方が支えて下さいました

高校生活3年間を振り返ると、本当にあっという間だったと感じます。特に私達はコロナが原因で、高校1年生のころからオンライン授業がほとんどで例年通りの文化祭や体育祭もなく、修学旅行も行くことができませんでした。そのため、ほとんど家で過ごし勉強面においても何が正解か分からず不安な日々を送っていました。しかしながら先生方にはいつも親身に相談に乗っていただき、私自身も精神的にすごく成長できた3年間でした。もし今の高校生活に満足していなかったとしても、人生で1回しか味わえない高校生活を楽しまつつ自分のやりたいことをやってみてください。それらをあとから振り返ると良い経験となっていたりします。皆さんの努力が実ることを願っています。

東洋大学 経済学部国際経済学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
七ヶ浜中出身

今の頑張りが必ず将来の自分を 助けてくれると信じましょう

■初めてのテストの結果を見て 意識を変えて勉強しました

私は、入学当初から指定校推薦での進学を考えていました。しかし、高校最初のテストの結果は良くはありませんでした。そこでこのままではダメだと感じ、全教科評定5を取ることを目標に学習を始めました。私は吹奏楽部に所属していて、家での学習時間を十分に確保することが難しかったので、授業中は集中して先生の話の聞いたり、計画的にワークなどの提出物を進め、必ず期日までに提出できるようにしていました。部活動で公認欠席をした際には休んだ日のノートを見せてもらったり、分からない数学の問題の解き方を教えてもらったり、友だちにもたくさん助けられました。定期考査前はワークを何回も解き直したり、類似問題を探して解いたり、特に力を入れて勉強しました。少し意識を変えただけで点数も今までよりも取れるようになり、順位も上がっていきました。その結果、評定平均値を高い水準で維持することができました。勉強と部活動の両立を心掛けてきたため、目標に向かって日々努力する継続力を高校生活で養うことができたと思います。

校内選考では、3年生の第1回校内模試試験での順位が重視されます。ここで点数を取れず校内での順位が低くなってしまうと、選択肢が狭まってしまいます。順位を上げるには過去問を解くのが早道です。最低でも過去3年分の問題は解いてください。校内模試の傾向が把握できると思います。早い段階から取り組むことで、対策をとることができます。

■英検の取得や評定の維持が 推薦枠獲得に繋がりました

私自身3年生の夏頃になっても志望大を決めることができていませんでした。それでも、1年生の頃から英検の取得に励み、定期考査に真剣に取り組んで評定を維持してきたおかげで、東洋大学の出願基準を満たしており、合格することができたのだと実感しています。ときには、この勉強に何の意味があるのか分からなくなることがあると思います。しかし、今の自分の頑張りは必ず近い将来の自分の手助けをしてくれます。必要、不必要と割り切ってしまうのではなく、必要になるかもしれないという気持ちを常に持って、授業や資格取得への勉強に励んでほしいと思います。

ここまで学業について書きましたが、高校生活を楽しむこともすごく大切なことだと私は思います。高校3年間はあっという間に終わってしまうので、悔いの残らないよう充実した高校生活を送ってください。

東洋大学 社会学部社会心理学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
成田中出身

受験はまだ先だと思わずに進路を考え 勉強や資格取得に励みましょう

■部活動や生徒会活動など 積極的に取り組みました

私は高校1年生の頃から指定校推薦での合格を目標としていたため、毎回の定期考査はもちろんのこと、ボランティア活動や国際交流などの校外での活動にも尽力してきました。具体的には、定期考査ではオール5を目指し平均評定を落とさないようにすることや、外部の作文コンテストなどに積極的に挑戦することを心がけて学校生活を送ってきました。また、校内模試で良い成績を残すために、過去問や共通テストをひたすら解き、長文読解に慣れる対策をしました。生徒会執行部に所属してさまざまなボランティア活動に参加したことや、部活動で部長を務めたことも大きなプラスの要素に繋がったと思います。

それから、できる限り多くの検定試験を受けて資格を取得しておくことも重要です。私は高校3年生の夏休み前ギリギリに英検2級を受けたので、もっと余裕をもって計画的に検定を受けておくべきだったと後悔しました。特に英検は出願条件に取り入れている大学が多いため、2級は早めに取得しておくことで安心だと思います。そのほかにもGTECやTOEICなども使える場合も多いので、これから大学受験を目指すみなさんは、まだ早いと思わずに検定を受けると良いと思います。CBTというパソコンで英検を受けられる制度もあるため、CBTを活用するのもおすすめです。

■入試の出願条件を 早めに確認しましょう

指定校推薦はひとつの枠を複数人と競うこともあるため、何かひとつでも自分の強みとなる実績を残しておくことが、指定校推薦を勝ち取るためのカギと言えると思います。また、早い段階から過去の指定校推薦枠の各大学の出願条件を見ておくことで、いざ受験大学を決めようというときに、幅広い大学へ対応できるようになります。私は過去数年分の指定校推薦枠をすべて見て気になった大学を調べ、長い時間をかけて受験大学を慎重に決めました。受験はまだまだ先だと考えがちになってしまうと思いますが、指定校推薦では特に1年生の頃からの成績が重要なので、油断はできません。これから指定校推薦を目指すみなさんが、無事に合格できることを願っています。

東洋大学 国際観光学部国際観光学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
渡波中出身

推薦枠を獲得できなかった場合を 前もって想定しておくとお精神的に楽です

■外国人観光客と日本を結ぶ 存在になりたい

私がこの大学を目指したのは、国際教育に関するプログラムが豊富にあり、観光業と語学を並行して学ぶことができるからです。私は、今までの人生の中での旅行を通して、旅の楽しさや旅から得る学びを感じ、観光業への関心を抱くようになりました。また、日本は観光産業に盛んで外国人観光客も多いことから、私自身が外国人観光客と日本の観光をつなぐ人材になりたいと目指すようになりました。その上で、大学生になったら、留学や海外でのインターンシップなどを経験したいという考えのもと、本格的に東洋大学への入学を目指すようになりました。

指定校推薦を利用しようと決めたのは高校2年の秋頃でした。そこから、指定校推薦の枠を得るために必要な資格の獲得や校内模試の対策を徐々に始めていきました。しかし、バドミントン部に所属していたこともあり、平日は練習が続き、休日も講習と練習に半日を費やしていたので、当初はなかなか勉強と部活の両立が難しかったのですが、少しずつスキマ時間に単語帳に目を通したり、授業で自習時間があればその時間を有効的に使うなど、時間やスケジュール管理に対する意識が変わっていきました。まずは自分が何に取り組まなければならないのか、どのくらいの期間を使って取り組んでいくのかを勉強を始める前に可視化していました。そうすることで一日に取り組む量などが明確化されてモチベーションも崩さずに勉強することができ、それもあって、3年間の期末考査は好成績を修めることができました。

■好成績を維持していたので 心配はしていませんでした

3年生になってから指定校の予備調査が始まり、校内模試の結果や約2年間の期末考査の結果が良好だったことに加え、枠を取れなかった場合の選択肢の計画も立てていたため、大きな不安や心配をすることなく予備調査に備えることができたと思います。また、枠を獲得してからの指定校推薦入試も書類審査のみだったので、入試の準備が終わってからも資格試験の勉強などに励むことができました。

高校3年間の生活を通して、部活動に所属している人は勉強と部活の両立で多忙な日々を送ることが多いですが、大学進学においてどの入試方法でもスケジュール管理が大事になってくると思います。また、たとえ指定校であっても枠を取れなかった時のことを考えて、総合型選抜での場合を視野に入れておくなどの準備をしていくこともメンタルコントロールの一つになると思います。皆さんもそれぞれの目標を定め、志望大合格が実現できるよう頑張ってください。

東洋大学 理工学部応用化学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
広瀬中出身

頑張って部活動と勉強を両立したことで 計画性や忍耐力が身に付きました

■ 校内模試は苦手克服に注力し 予想以上の成績を修めました

私が指定校推薦での受験を決めたのは、3年生になってからでした。学校の指定校推薦枠が幅広く展開されており、自分の希望している大学の学部があったことから指定校推薦での受験を決めました。

学習面で意識してきたことは、高い評定を維持し続けることと、校内模試の対策です。定期考査では、いい点数をとるために問題集で解けなかった問題を何回も解いたり、友達と問題を出し合ったりして対策しました。その結果、3年間高い評定を維持し続けることができ、志望大を決めるのが遅れましたが、必要な平均評定を越えることができました。

校内模試は校内選考を通るために必要なとても重要な模試です。私は、校内模試の対策を始めるのが遅れてしまい、焦りがありました。過去問を解いて苦手な分野を見つけ、苦手を確実に減らしていくことを意識して勉強しました。当日までに完璧な状態にすることはできなかったものの、予想よりもいい点数が取れました。

■ 3年進級後に志望大を決め かなり苦労しました

また、部活動での経験も役に立ちました。部活動と勉強の両立は簡単なものではありませんが、忍耐力がついたり、時間が少し制限される中で計画的に勉強をする力がついたりと様々な力が身につく、自身をアピールするための貴重な経験になったので、3年間部活動をやっていてよかったと思いました。

私は3年生になってすぐに進路を決めました。そのため、3年生になってからかなり忙しくなり苦労しました。高校の3年間はあっという間に過ぎ去ります。3年生になってからやろうとすると苦労するので、1, 2年生のうちに行えることは早めにやることで、3年生になったときに後悔することが少なくなると思います。目標達成に向けて頑張ってください。

東洋大学 理工学部建築学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
中国出身

得意教科と苦手教科の両方を バランス良く勉強するのがおすすめです

■災害に強い建造物を設計し 地域に貢献するのが夢です

私が建築を学びたい理由は、地震が多い地域で生まれ、子供の頃から多くの地震を経験し、震災後に廃墟となった建物をたくさん見てきました。地震対策として、自分に何かできることがあるのかをずっと考えてきました。そこで、建築を学び、日本の耐震安全性や地域防災について学び、将来は建築士として働きたいと考えたからです。

私はなぜ東洋大学を志望したのか、1つ目の理由は建学精神の核心に共感を抱いたからです。2つ目の理由は立地です。「小江戸」とも呼ばれる川越市に位置しており、数々の伝統的な建造物が存在します。歴史や文化の魅力を感じます。3つ目の理由は、オンライン体験授業がとても分かりやすかったことです。就職率が高かったことも大学を決定した1つの理由です。

■面接は実践に近い形式で 先生と練習しました

私は高校3年間、進路の幅を広げるためにも勉強に力を入れていました。分からない問題があれば、先生に直接聞きました。定期考査前の週末時間は自分の部屋で勉強し、友達と教えあいをすることで、より理解が深まります。自分の得意な教科と苦手な教科と共に勉強すれば、評定値が上がります。授業中の態度と宿題の提出も重要です。

入試の準備について、私の場合、書類提出と面接があります。面接について伝えたいと思います。面接は学校で2回練習しました。1回目は下書きがありませんでした。担任の先生は質問して、私が考えながら答えました。この後は、先生の質問の下書きをして、覚えました。2回目の練習は面接試験の全部の流れを練習しました。正式の入試面接の頃、答えはできるだけ簡潔に、ゆっくり読みます。頭が白くなったら、何を考えているのかをそのまま言えばいいです。本番の時に特に気を付けたのは表情です。マスクをつけながらも、まなざしも重要です。緊張してしまったときは、一度面接官の鼻や口のあたりを見ればよいと思います。

最後になりますが、いい高校生活を過ごして自分の選んだ進路に後悔しないでください。全力で将来の夢を叶える努力をしてください。

東洋大学 健康スポーツ科学部栄養科学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
埼玉 白幡中出身

部活動で学んだ多くのことを 将来に役立てていきたいです

■隙間時間を活用するなど

周りの何倍も勉強しました

私は、将来スポーツをやっている選手を健康面でサポートするトレーナーになりたいという夢があります。そのため私は自分の将来にとって一番近道だと考えた東洋大学健康スポーツ科学部栄養科学科に進学することを決断しました。

大学進学に向けて努力したことは主に2つあり、1つ目は校内模試の勉強です。私が今後通っていく大学は偏差値が高く人気の大学なので校内模試では全体の200位くらいに入らないといけません。私自身勉強は得意ではなく、人より数倍多く勉強する必要があり、時間ができたら図書館に行き英単語をやったり、家では過去問をたくさんやり自分にとって必要なことからやっていくようにしました。その結果が実り校内模試では順位を上げることができました。2つ目は地域掃除です。これは受験にとって直接的に効果があるわけではないのですが、いい順位を取る事ができたとしても自分よりいい順位の人が自分と同じ学部を選んだ場合、希望する大学には行けないので指定校推薦は運も必要となります。そのため少しでも運を拾うために合格発表の2週間前からやるようにしました。

■サッカー部の経験を活かせる

トレーナーになりたい

私は12年間サッカーをやってきて、サッカーの知識はもちろん食生活や筋トレなども改善していき、人間性も学ぶなど多くの経験をしてきました。部活では最初は下のカテゴリーでやっていて、自分と上手い選手を比較し、自分の中で足りないものを考え、行動に移していき2年生の頃には高いレベルで練習をさせてもらい、新人戦にも出場することができました。このような経験を活かすことができる仕事を将来やりたいと感じ、私はトレーナーになることを決意しました。

最後に後輩たちには悔いの残らない生活をして欲しいと思います。勉強面で英検を校内模試までには取った方が自分の大学選択の幅が広がるのでより有利になっていくと思います。サッカーでは自分の代ではできなかった三冠をとってほしいです。どんなにきつい時でも、仲間と助け合い優勝をもぎ取ってほしいです。応援しています。

日本大学 国際関係学部国際教養学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
中国出身

大学では語学を学び異文化への理解を さらに深めていきたいです

■日本人の友達から言語や 異文化を学びました

私は指定校推薦で日本大学国際関係学部合格しました。これは先生達のご協力と、両親の応援のおかげです。

私は高校3年生の時、来日したため、私にとって一番難しかったのは、言葉の難しさを克服することでした。日本語の勉強と大学入試の両方を準備しなければなりません。

まず、日本語能力試験N2に合格するために、毎日放課後に日本語の補習に参加し、新しい文法や単語を学んでいました。また、試験前に過去問を解いておくことも大切だと思います。

また、中国の高校時代には、寿司祭りを企画し、さまざまな国際コースの学生と交流しながら、日本文化の普及に努めました。来日後、研修合宿では、日本人の初めて会う生徒達と、英語でグループディスカッションを通して議論し、最後に英語でプレゼンテーションを行いました。この研修を通して、言葉の問題を克服し、日本語と英語でコミュニケーションを取り、同時に話す力を身につけることができました。また、多くの日本人の友人ができ、自国とは違う生活習慣や話し方を学ぶことができ、私にとって、とても貴重な経験となりました。ですから、私は語学を勉強して様々な人とコミュニケーションをとり、異文化への理解を深めていきたいと思っています。

■入試準備は大変でしたが 充実した時間を過ごしました

次は面接の事前練習が必要です。担任の先生が事前に面接のシミュレーションを行い、注意事項があり、面接で自信を持って答えられるように、聞かれそうな質問に対する答えをあらかじめ用意しておかなければなりません。

先生は大学への出願準備のためにとても助けてくれました。書類を作成するとき、何回も繰り返して書きました。とても大変な時期でしたが、楽しかったです。大学に入って、勉強を続けたいと思っています。大学生活も楽しみにしています。

日本大学 生産工学部応用分子化学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
愛知 西春中出身

大学説明会でお話を伺ったのが 進路決定のきっかけになりました

■将来は化学エンジニアとして 暮らしの役に立ちたいです

私が大学進学を志望した理由は将来、化学工業を用いた製品開発に携わる化学エンジニアになりたいと考えたからです。

自分自身に技術を身につけ、自ら作ったもので、より多くの人の役に立ちたいと考え、調べていく中で、エンジニアについて知りました。

近年はSDGsやESG投資などの関心が高まっている中で、製品が何であれ、環境問題に取り組む企業は増えてくると考えます。その中でSDGsに配慮した生産方法や素材を作ることに興味を湧きました。

私が進学した大学を知ったのは自分の学校で開かれた大学説明会です。

その時は、学部紹介だけでしたが、調べてみると化学工学を中心とした工学教育やバイオテクノロジーについて学べることを知りました。就職や勉強面でのサポートが手厚く安心して学業に専念できると感じたので、志望しました。

また、人の暮らしの役に立つため化学に関する産業知識やビジネス分野での経験を積むことができるからです。元々物質の合成に興味を持っており、大学では物質の仕組みや合成方法について学び、他の物質の特性などについて学びたいと考えていました。物質同士を合成し、どのように活用していけるのか、深く研究出来る環境に大きな魅力を感じたからです。

■推薦枠を頂いた後は 万全の対策をしました

指定校推薦でその大学に進学するためには、校内選考で内定を頂かなければなりません。評定を上げるために、授業に対して真面目に取り組み、定期テストの点数をあげるなど勉学に注力を注いだり、平日頃から高校生としてあるべき過ごし方をするようにしました。また推薦の多くは部活動での実績を求められる事があるので、学業だけではなく部活動にも力を入れてきました。

指定校推薦の枠を頂き、大学受験の際には様々な対策をして、万全な状態で挑みました。受験後は手応えが薄く、不安がありましたがこれまでの自分の努力を振り返ることで、自分を信じることができ、合格出来ました。

日本大学 工学部情報工学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
上杉山中出身

完全に勉強をしない日を作らずに 一日30分でも机に向かいましょう

■英語力は情報系に必要なので 英検はプラスになりました

私は高校入学時から、情報系の学科に進学すると決めていて、受験を検討した大学の中で通いやすさや学校の特色を見て、日本大学工学部を志望することにしました。入学の可能性を少しでも高く設けたいと思い、指定校推薦を利用しました。

資格は高校2年生の春に英検2級を取りました。日本大学工学部の指定校推薦の方法は面接と小論文で、面接では英語技能についての質問もされました。情報系の学科では入学後も英語ができないと苦労することがあるので、高校在学中に英検2級を取得できたことは、自分の進路を考える上でプラスになったと思います。在学中は、進路が工学系ということもあって、数学と物理の勉強に重点を置いていました。数学Bで分からない分野が多くなり、その課題解決に時間を割いていました。特に三角関数の考え方は物理でも応用されているので、問題を何度も解いて解き方を忘れないように心がけました。

■大学で苦労しないように 勉強習慣をつけましょう

勉強では指定校推薦を視野に入れる前から、定期テストの勉強に力を入れていました。不得意な分野ができないように、その時の定期テストの範囲は何が出題されても答えられるようにすることを目標に頑張っていました。定期テストで苦手だと思った分野は、テストが終わってから復習するようにして、勉強をする習慣をつけるようにしました。一日休むと次の日にやりたくなくなるので、完全に勉強をしない日は作らず、一日30分でも机に向かうことが大切だと思います。

高校での勉強をコツコツ続けることができれば、大学入学後も勉強で苦労はしないので、地道に勉強する癖をつけておくと将来が楽になります。高校で培った経験を活かして、大学生活にも励んでいきたいです。

専修大学 経済学部生活環境経済学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
神奈川 稲田中出身

出願条件などがあるので1年次から 入試を意識し進路の幅を広げましょう

■仙台育英の推薦枠の多さを 部活動の先輩から聞きました

私が指定校推薦で大学に進学しようと決めたのは高校2年生の時でした。進路について本格的に考え始めた高校2年生の頃、部活の先輩に仙台育英は指定校推薦の枠が豊富だから活かした方がいいと言われました。指定校推薦について調べると、私が元々興味があった大学の枠があることを知り、決意しました。

校内選考を勝ち取るために私が取り組んだことは、平均評定に関わってくる定期テストや校内模試の勉強です。

定期テストに関しては、普段の授業から真面目に取り組み、時には友達や先生に頼って問題を解決しました。2週間前から計画的に勉強することで部活と両立することを頑張りました。

校内模試の勉強に関しては、自分は国語と英語の勉強をしました。特に苦手な英語は2ヶ月前から単語帳で勉強しました。2週間前になってから、国語と英語の過去問題に取り組みました。

■グループディスカッションは テーマの予習が大切です

専修大学の指定校推薦入試は、事前課題の小論文とその小論文を用いたグループディスカッションが内容でした。事前課題の小論文は、指定された本について書かなければいけなかったため本をすぐ読み、書くことに時間を割きました。1ヶ月前から書き始めたことにより、余裕を持って終わらせることができ、先生に入念にチェックしてもらうことができました。グループディスカッションでは、事前に喋りそうなことをメモし、先生と対面でグループディスカッションの練習を行いました。グループディスカッションなので、討論のテーマに関連することはある程度、自分で調べることが大切だと感じました。

最後に私自身の経験から後輩に伝えたいことは、高校2年生と言わず、高校1年生のときから進路を意識することです。指定校推薦で行きたい大学があったとしても、出願条件で英検などの検定が必要な場合があります。3年生からだだと遅いので1年生から意識して自分の進路の幅を広げましょう。

専修大学 法学部法律学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
中野中出身

指定校推薦では部活動で忙しい中でも 学業にしっかり取り組むことが大切です

■工夫してトレーニングに励み 東北大会出場を果たしました

私は専修大学法学部法律学科を志望し、指定校推薦で合格することができました。専修大学の指定校枠を得るために、私は文武両道を目指し、特に二つのことを意識して学校生活を送ってきました。

一つ目は部活動です。私は陸上部に所属し、走り幅跳びと4×400メートルリレーを担当していました。しかし、短距離陸上部は宮城野校舎が練習場所であり、私は英進進学コースの特別選抜クラスに入っていたため授業時間が他クラスよりも長く、宮城野校舎までの移動時間もあったため、練習時間が短くなってしまうこともありました。しかし、部活動終了後も自主練習を続けたり、自宅でも練習をしていたため、リレーと走り幅跳びで東北大会出場を果たすことができました。

■校内模試で差が付く英語の 学習に特に力を入れました

二つ目は学業です。スタディーサポートのテストや模試では一桁順位を取ることや、定期考査では高い評定を取れることを目標にし、常に上位を目指せるように学習を続けてきました。また、私は特に英語の学習に力を入れてきました。私の志望する大学は文系であったことに加え、校内模試では英語で差がつくと先生方からアドバイスをいただいたため、常に単語帳を見ることや、暇なときは英語の記事を読んだり、英語が得意な人によく教わりに行ったりしていました。そのおかげで少しずつ英語力がついていったことを実感しました。そして、そのような学習方法を続けてきたこともあり、私は校内模試では良い順位を取ることができ、専修大学の指定校推薦枠を得ることができました。指定校推薦では特に学業が重視され、校内模試での高い順位が必要になります。そのため、常に学習を続けることが大切だと思います。また同じくらいの順位の人と競り合いになった場合には、今までのテストの結果や、部活動での実績も重要視されます。そのために、学業も部活も怠ることなく、文武両道を目指すことが大切だと考えています。

駒澤大学 法学部法律学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
沖縄 石嶺中出身

部活動で仲間と切磋琢磨しながら 人として大きく成長できました

■勉強との両立は大変ですが
部活動を続けて良かったです

私は、入学当初から指定校推薦での大学進学を考えていました。そのため、3年間定期テストで良い点を取り、自分が志望する大学の評定を下回ることがないように努力しました。また、テストの点数だけでなく日頃の授業態度や提出物をしっかり出すように心がけました。コロナの影響でオンライン授業になることが増え、勉強のモチベーションを保つことが難しい時期もありましたが、勉強する環境を変えてみるなどの工夫をしました。

また、私はサッカー部に所属していました。朝早くからの練習やテスト期間中にも活動があり、勉強との両立がうまくいかないこともありましたが、部活動での経験が大学合格に繋がったと感じています。確かに部活動と勉強を両立することは難しいことではありますが、コミュニケーション能力や継続力、そして何よりも仲間との充実した時間を得ることができると思います。さらに、入試において勉強以外の部分も評価されるので外部の活動をやっておいて損はないと思います。

■事前にオープンキャンパスに
参加せず少し後悔しています

高校3年生の夏の面談になるまで、自分はどの学校、学部に行くか具体的に考えてもいませんでした。そのため、オープンキャンパスには参加せず、キャンパスの雰囲気を体感することもなく志望大学を決めてしまったことは後悔が残っています。そうならないように、早い段階から自分の将来について考えオープンキャンパスに参加することをおすすめします。また、英検などの資格も早めに取りすることで志望大学への選択肢が広がります。3年間は長いようであつという間に過ぎてしまうので、一日一日を大切に過ごし、悔いのない楽しい生活を送ってください。応援しています。

駒澤大学 グローバル・メディア・スタディーズ学部グローバル・メディア学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
高崎中出身

受験とIBの両立はとても大変でしたが 先生方のサポートで乗り越えられました

■国際的な視野を広げるべく IBDPの活動に励みました

私は、幅広い教養を身につけ実践的な英語力を磨ける点から駒澤大学を志望しました。私が選択した学部では、英語やメディア学のほか経済学などの教養を身に付けることができ、グローバルな社会で活躍するのに必要なスキルを習得することができます。

指定校推薦を得るために、主に力を入れたのは学習面です。1年生ではコロナウイルスの影響でオンライン授業が多かったのですが、期末テストで高い評定を維持することができるよう、復習と課題の提出を心掛け、集中して授業に取り組みました。授業を通して分からない事があったらすぐに先生や友達に聞くことも意識しました。そして、2年生では国際的な視野を広げ、新しい事に挑戦したいという思いから国際バカロレア・ディプロマ・プログラム（IBDP）を受講することを決意しました。IBでは辛いことも多く、プレゼンテーションやディスカッションなどのグループで活動することもたくさんありましたが、やらなければいけないことが多い中でも常に提出期限が遅れないように計画的に一つ一つのことをやり遂げるように努力しました。また、3年間の学校生活では欠席をしないように毎日登校することを常に心掛けていました。

■これからの自分のために 前に進んでほしいです

部活動は、様々な国の文化だけではなく自国である日本の伝統文化を学びたいという思いから茶道に所属し、部活動の日や茶道の講演会には積極的に参加しました。

指定校推薦の際には推薦書や部活動推薦書を書く必要があるのですが、いろいろな教科の先生に確認と修正をお願いし5回以上書き直すようにしていました。

指定校推薦を得るまでは、IBと進路が重なりどちらも両立させなければいけなかったのがとても大変な時期だったのですが、先生方が毎日サポートしてくださったおかげで乗り越えることができました。後輩の方々には、何事にも恐れず新しいことに挑戦することを頑張ってください。3年間の学校生活を楽しむことを忘れないで、これからの自分のために前に進んでほしいと思います。応援しています。

獨協大学 外国語学部英語学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
みどり台中出身

オープンキャンパスに参加して 入学後の自分をイメージしてみましょう

■学ぶ環境を重視して 志望大を絞り込みました

私の高校生活は勉強と友達に囲まれる3年間でした。この3年間は長かったようで短く感じました。大学受験もその長くて短かった頃に含まれます。

私が受験大学を絞り込むにあたって一番検討したことは学校の環境です。大学のパンフレットやホームページを見て調べていましたが、直接行ってみるのとは異なります。オープンキャンパスに行くことで、自身が興味を持っている学部の講義を視聴することや、図書館などパンフレットに記載されていない部分もよくわかります。私が行った大学は自然に囲まれており、自身の学習環境も考えることができ、入学したらどのように過ごすかも想像しやすいです。また、学校周辺の施設、公共交通機関と利便性などを知ることができます。実際に大学に足を運んだことで私は志望大を決めることができました。

推薦入試で受験しようと考えている方は、出願条件で英語検定や漢検などの資格を持っていないと出願できない大学があります。そのため、英検やGTECの資格を学校で受験でき、毎度試験前に配布される問題演習のワークに励んでいました。学年が上がる度に忙しくなるため、1, 2年生の時から取り組むことをおすすめします。3年生になると進路や模試が重なるため、資格の勉強に時間を取ることも難しくなると思います。

■自分自身と向き合うことで 進路の方向性が見えてきます

受験に成功した要因は最後まで諦めなかったからだと思います。私は推薦入試で受験し、その試験内容は筆記試験と面接でした。面接の練習をして下さった先生方に、喋るトーンや大きさを指摘していただき、練習する度に頂いたアドバイスによって本番の面接に挑むことができました。学校では何度も先生と友達とも練習をし、家でも家族が面接に付き添ってくれました。こういった周囲のサポートと自分に対して諦めない気持ちがあり合格することができたと思います。

もしまだ志望大や自分が何をしたいか分からないのであれば先生や家族、友達、先輩と相談することでいろいろな方向性が見えてくると思います。自分に合う大学は必ずあるので、一度紙に自分の強み、得意教科、学習したい分野などを自身のことに書き出してみることをおすすめします。

獨協大学 法学部法律学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
福島第三中出身

目標達成のための努力を怠らず 文武両道を意識しました

■校内模試は3ヶ月前から 対策し高順位を取りました

私が大学進学をめざしたきっかけは、私の将来に役立つ技能を身につけることや、様々なことを学びたいと考えたのでこの大学を志望しました。指定校推薦をいただく上で私は三つのことが重要だと考えています。

一つ目は、校内模試の結果です。指定校推薦を選ぶにあたって一番重要となってくるのが校内模試の順位だと私は思っています。そのため私は3ヶ月前から校内模試の対策を始めました。英語では単語や文法、過去の問題を解くなどして対策をしていました。また国語では過去問を解き、速読の練習を行い校内模試に向け努力をしました。その結果良い順位を取ることができ、指定校推薦をいただくことができました。

二つ目は、日頃の生活態度です。日々の生活態度が悪いといくら校内模試の順位が高くても、評定が足りないなどの理由で指定校を取れないなどの字体があるので、日頃から生活態度に気を配り続けていました。たとえば授業で積極的に発言したり、定期テストでは何のテストでも8割以上取れるように心がけていました。

■コロナ禍で3年間を送った私達の間まで 高校生活を楽しんでください

三つ目は、部活動と勉学の両立です。校内模試の対策の勉強をしていく中で部活動を疎かにしてしまう人も少なくはないと思います。私自身には仙台育英のサッカー部に入部し、全国大会に出場するという目標がありました。その目標のためにサッカー部に入ったのに、達成するための努力を怠っていたらこの学校に来た意味がないと思います。3年生に上がってからは特に文武両道を意識して生活を送ってきました。

最後に後輩たちに伝えたい事は二つあります。一つ目、1年次から進路を意識することで、3年次の進路選択で選択の幅が広がってくると思います。大学選びは人生を大きく左右することなので3年次に焦って大学を選ぶのではなく、1年次から余裕を持って大学選びをしたほうが良いと思います。

二つ目は、3年という少ない高校生活を全力で楽しんでほしいということです。自分たちはコロナの影響によって本来の学校生活とは違った学校生活を3年間送ってきました。後輩たちには私たちの分まで楽しんで高校生活を送ってほしいと思っています。

獨協大学 法学部法律学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
群馬 境南中出身

今の人生を生きていくのも 変えることができるのも自分だけです

■受験方式が同じ友達と協力し スキマ時間にも勉強しました

私は、獨協大学法学部法律学科に学校推薦型選抜で合格しました。推薦入試を目指した理由は、部活動に力を入れながらも一般入試に比べて大学進学ができる可能性が高いと考えたからです。私は野球部に所属していて勉強と部活動の両立を目標としていたため、定期考査や学校推薦型選抜の前の対策には特に力を入れていました。

まず、学校推薦型選抜で選ばれるためには校内模試での結果が重視されます。そのため、校内模試が行われる1年ほど前から対策を始めました。具体的な内容としては、過去問を先生や先輩などから入手し、私は文系だったので英語と国語に重点を置いて学習をしていきました。実際に問題に取り組んでいく中で、自分はどんなところが得意で苦手なのかを分析して試行錯誤を繰り返し、改善していきました。また、どうしても分からない箇所は友達や先生に聞いたり、インターネットを使って調べるなど工夫して、できる範囲を広げていきました。日々少しずつ学習を進めていくと、段々と自分で解ける問題が多くなってきたり、解くスピードが早くなってきたりするのを実感できました。私の場合は同じクラスに学校推薦型選抜を目指している友達が何人かいたので、そういった仲間たちと協力しながら、休み時間やちょっとした空き時間も無駄にせず取り組むことで大きく成長し本番では自分の実力を出し切ることができました。その結果、志望大の獨協大学法学部法律学科の受験資格を得ることができました。

■あつという間の3年間なので 一日一日を大切にしましょう

受験資格を得た後は、大学での試験に合格するために小論文の勉強と面接の対策に励みました。まず小論文では、同じレベルの大学の過去問とにかく何度も取り組み、小論文に慣れることから始めました。その度に先生に添削をしていただき、解き方を体に染み込ませていきました。本番ではどんな問題が出るかは分からないので、多少浅くても広い分野の知識を身につけておくことが大事になってくると考えます。1年以内のニュースをなんとなくでも頭に入れておくと、かなり役立つはずですよ。次に面接対策についてです。受ける大学によって質問される内容にある程度の傾向があります。そのため、先生に聞くのが最も効率がいいと考えます。また面接では、受験者の考え、将来的な目標が大学に合っているのかを探られる質問が多くありますので、自分の考えを明確に答えられるように準備をしました。私が練習から意識していたのは、落ち着いてとにかくゆっくりと話すことです。緊張した場面では誰しも早口になったり、焦って普段の自分を表現できないことがあります。それを防ぐために私は練習から本番を想定して、冷静になることを意識していました。その結果、本番では質問に的確に答え、自分が本当に考えていることや大学で学びたいことを伝えることができました。

これまで受験をするにあたって取り組んできたことを述べてきましたが、私が一番伝えたいのは1日1日を大切にするということです。高校生活の3年間は部活動に勉強、友達との交流など様々な出来事があり、あつという間に過ぎてしまいます。この3年間という全員に平等に与えられた時間をどう使うかによって未来が大きく変わることを忘れず、毎日を過ごしてください。自分の人生は自分しか生きることができません。変えられるのもまた、自分だけです。目標実現に向かって頑張ってください。

日本女子大学 文学部英文学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
涌谷中出身

勉強と部活動の両方に全力で取り組み 物事を効率よく進める力が付きました

■入学当初から指定校推薦での 受験を考えていました

私は高校入学当初から指定校推薦の利用を考えていました。私は、指定校推薦を利用する際に期末考査や校内模試、そして部活動やボランティア活動などの課外活動にも意欲的に励むことを心がけました。指定校推薦では、大学側が出す条件の評定平均を満たすほかに校内選考もあるため、3年間の期末考査では早めに準備を始め、力を入れました。また、指定校推薦の校内選考を通過するための大きな基準の1つである校内模試の学習にも力を入れました。少しでも良い成績が出せるように英語と現代文の参考書を使い、問題演習を積みました。しかし、私は校内模試の対策を始めた時は問題慣れを全くしておらず、四字熟語や慣用句などの知識も少なかったため現代文は接続詞の働きや現代文の重要語句の確認など基礎から固めました。そしてセンターの過去問で英語長文の速読や現代文の解き方を練習した後に共通テスト形式の問題演習に取り組みました。

■早めに大学の情報を収集し 準備を万全にしましょう

私は学習面以外にも部活動などの課外活動に積極的に取り組むことも大切だと思います。私は3年間チアリーディング部に所属し、部長を務め、ボランティアサークルにも所属していました。チア部では普段の練習に加え、応援活動や大会出場、イベント出演を行い、ボランティア活動では自主企画事業の運営を行いました。部活動の練習などでまとまった学習時間の確保が難しかったため、通学時間や部活が始まるまでの時間など自宅以外でも時間を見つけて勉強をするという習慣を早めに身につけることを意識していました。勉強と部活動などとの両立は大変なこともありましたが、どちらも全力で取り組むことでメリハリがつき、限られた時間の中で物事を進める力が身についたと感じています。

指定校推薦で大学合格をするためには、学校から推薦されるにふさわしい生徒として、学習面だけでなく挨拶や身だしなみ、普段の生活・授業態度など当たり前のことをこなすことが大切だと実感しました。また私は1度目の校内選考に落ちた際に情報不足を実感し、改めて早い段階での情報収集が大切だと感じました。情報収集や資格取得、評定平均を維持することなどが、進路決定の際に選択肢を広げることができると思います。大学受験は自分1人の力だけでは決して乗り越えることはできませんでした。支えてくださる先生方や友人、家族などへの感謝を忘れずに悔いのない高校生活を過ごしてほしいと思います。

日本女子大学 人間社会学部心理学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
長町中出身

少しでもよいので1年次から 将来を意識して生活しましょう

■当たり前のことをきちんと 行うことを意識しましょう

私は指定校推薦で大学に進学しようと思い、指定校枠がある日本女子大学への進学を志望しました。私が、指定校推薦の校内選考に通るために心がけたことは、2つあります。1つ目は、日々の積み重ねです。1年次からの評定平均などが推薦に関わってくるため、遅刻や欠席をしない、提出物は期日までにせず、定期テストの前にはちゃんと勉強をし点数を落とさないなど、当たり前のことを当たり前にやるのがとても重要になると思います。今は指定校推薦での進学を考えていない人も、方向転換した時に後悔をしないために、普段の生活を意識をした方がいいと思います。私自身は、1年次コロナ禍だったこともありでオンライン授業が多く、家でいかに集中して授業に取り組み、学習内容を理解し、テストで満足のいく結果を残せるかということ意識していました。

■友達と協力して 集中学習していました

2つ目は、校内模試の対策をしておくことです。指定校推薦の校内選考において、校内模試での結果が大きく左右されるということを2年生の時の面談で知り、すぐに過去問を貰い、勉強を始めました。直前の1ヶ月前には、より集中するため、細かい勉強の計画を立て、友達と放課後に同じ過去問を同時に解いて、答案を交換し、お互い丸つけをしあい、分からないところは教えあって、理解し、協力して勉強をしました。何年分かの過去問を解いている間に、ある程度の傾向が見えてきて、勉強の方向性も分かりやすくなったので、事前に過去問を解いておくことをおすすめします。自分なりに校内模試の対策をした結果、先生と相談して立てた目標を上回る結果を残すことが出来ました。高校生活は長いようで短く、あっという間に3年生になります。3年生になった時に後悔しないためにも、充実した学校生活を送り、1年生の時から少しでもよいので、将来を意識して頑張ってください。

日本女子大学 国際文化学部国際文化学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
渡波中出身

隙間時間を校内模試対策に充てて IBDP の勉強と両立しました

■ 2年次から IBDP を受講し 両立を志しました

私は、高校生活で大学受験と IBDP の両立を行うための努力をしました。私は2年次から IBDP を受講し、IB ディプロマ取得に向けた勉強を中心に行っていました。そこでは、各教科から出される課題を行うことや授業で行うグループワークを通して最終試験で必要とされる文章構成能力やコミュニケーション能力の向上を図りました。IBDP を始めた当初は勉強方法が分からないことがあり、苦勞したことがありましたが、何度も繰り返すことで自分に合った時間の使い方や勉強方法を見つけることができました。

3年次からは大学受験が本格化して来るため、校内模試が行われる数ヶ月前からは、受験に重点を置きながらも IBDP の学習を行い、校内模試へ向けた勉強の両立を図りました。IB ディプロマ取得へ向けた勉強も忙しくなり、校内模試に割く時間が限られてくる中、私は国語のことわざや四字熟語、作品・作者名などを覚えることに力を入れました。これらは通学時間や、休み時間などの隙間時間を活用できるため、とても有意義な勉強でした。その他、文章問題などは過去問やプリントなどを活用し、より多くの問題を解くことでテストに慣れることを心がけていました。英語は、授業の中で長文を読むことが多かったため、復習を行い、模試へ備えました。

■ 効率の良い時間の使い方を 目標を達成できました

校内模試終了後も、IB の最終課題や志望理由書、面接練習などやるべきことが多くありました。これらは何度も添削をしていただいたり、練習を繰り返したりと時間を要するものばかりだったため、タイムマネジメントを行い、効率的に時間を使いました。

以上のように、IBDP ではディプロマ取得へ向けた勉強を中心に行い、その中で受験勉強や準備に時間を割くことで両立を図り、IB ディプロマ取得と大学合格という2つの目標達成を実現することができました。

明治学院大学 文学部英文学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
石巻中出身

校内模試の前に時間が足りなくても 諦めずに過去問を解いてみましょう

■スキマ時間を勉強に充て 考查で好成绩を修めました

私は校内選考で内定をいただくために、部活動と学業の両立を心がけていました。部活動では陸上競技部に所属しており、部活動がある日は帰宅する時間が遅くなってしまうことが多くありました。そのため、学習する時間を十分に得ることができませんでした。ですが、通学時や休み時間といったスキマ時間をうまく活用して勉強時間を確保し、期末考查では良い成績を修めることが出来ました。このことが校内選考にも大きく繋がったと感じているので、指定校推薦を視野に入れているか入っていないかにかかわらず、1年次から期末考查で良い成績を取めることが大切だと思っています。そして、普段の授業や期末考查を頑張るだけでなく、英検などの資格・検定を取得することも推薦を頂く上では重要なことだと思います。私は大学でも英語を学び続けたいと考えていたため、英検やGTECだけでなく、TOEICも受験しました。今まで受けたことのなかった検定だったので不安もありましたが、受験したことで自分自身の視野も広がり、今後活かせる経験になったように感じました。なので、ぜひ皆さんにも今まで受けたことのない検定に挑戦してみたいと思います。

■校内模試は過去問で 弱点を見つけました

また、指定校推薦を目指している人は校内模試の結果が校内選考に大きく影響してきます。私は地区総体の頃まで部活動をしてきたため、引退してから本格的に校内模試に向けての勉強を始めました。校内模試は過去問が数年分掲載されます。私は初めにそれを解いてみてから自分が苦手な分野を見つけ、そこを重点的に勉強するようにしていました。国語はことわざ・慣用句の分野が苦手だったため、国語便覧や教科書に載っていることわざ・慣用句を暗記することに時間をかけました。英語では共通テストのように長文読解がカギになってくるため、語彙力と読解力、速読の力を向上させることに重点を置きました。校内模試が近くなってきて思ったより学習時間が取れない場合は、とにかくひたすら過去問を解くことをおすすめします。校内模試が迫ってきているのに何もしていないからといって諦めるのではなく、過去問を解いてみるだけでも高得点をとることにつながると思います。なので、取り組んでみて欲しいです。

指定校推薦に限らず、大学受験は3年間の努力の積み重ねが必要になってくると思います。自分の可能性を広げ、充実した高校生活を送るためにたくさんのことに挑戦し学業を疎かにしないでほしいと思います。

東京経済大学 経済学部経済学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
東京 東大和第一中出身

何か一つでも習慣化して続けることが 成長にも受験にもプラスになります

■「日常生活がプレーに出る」 という言葉が心に響きました

私が仙台育英に入学して大事だと思ったことは文武両道です。私は3年間サッカー部に所属し、毎日全国大会出場を目標にし活動してきました。3年間ほとんどトップチームに絡むことが出来なくて苦しい時期の方が多かったですが、毎日試合に出るために出来ることを考えて行動していました。1年生の頃に言われた日常生活がプレーに出るとという言葉が響きサッカーだけでなく日常生活で時間をうまく使い勉強しようと思いました。

■勉強に励むうちに試合に 出場できる力も付きました

そんな中で、私はサッカーをするだけじゃ目標達成はできないと考えていたこともあり、日々の練習に加えて毎日英語の勉強に取り組みました。学校設定科目では、3年間英語検定を受講していて英検準2級を取れるように勉強を続けました。時間をうまく使うために、練習の前に図書室で英語の授業で習ったことの復習や英検の勉強をしました。練習が終わって家に帰ってからでは勉強は捗らないので、時間を見つけ勉強をすることの大切さを実感しました。3年間続けることで習慣になり毎日の勉強が苦痛ではなくなりました。大学進学を希望した際には毎日の勉強の積み重ねのおかげで指定校推薦を取ることが出来ました。実際に文武両道を心がけてからは指定校推薦を取ただけでなくトップチームに絡めるようになり最終的には選手権予選の全試合に出場することが出来ました。文武両道が試合に出る要因になったかは分かりませんが何かを続けることの重要性を見つけることができ、成長することができたと思います。

仙台育英に入学して、部活動や勉強で充実した生活を送るためには、自分で考えて行動することが大切なんだと実感することができました。この3年間で文武両道出来ていたと自信を持って言えるようになったと思います。最後に1年生、2年生はまだ時間があるのでなにか1つを習慣づけることを意識してほしいです。それが大学進学などに役立つと思います。

大東文化大学 社会学部社会学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
高崎中出身

iPad のアプリなど学習ツールを 上手に活用しましょう

■ iPad のアプリをテストの 勉強に活用しました

私が指定校推薦で大学に入学しようと思ったのは高校2年生になってからでした。元々興味があった大学の枠があることを知り、指定校推薦で受験してみようと思ったことが理由でした。校内選考で内定を頂くために私が取り組んだことは、平均評定を上げるために真面目に授業を受けて定期テストの点数を上げることです。また、英語検定や数学検定などの検定試験に合格するため、授業以外での勉強にも力を入れたことです。

まず、定期テストの勉強に関して。私は学校から提供されている iPad を使いながら取り組みました。例えば、iPad 内にあるメタモジ (MetaMoJi Classroom アプリ) を使いました。メタモジでは、先生方からテスト対策のプリントを配信してもらったり、自分で英単語や漢字などの単語帳を作ることができます。なので、上手く使ってテスト勉強をスムーズに進めることができました。

■ 過去問を繰り返し解くことで 克服ポイントが見えてきます

次に、検定試験の勉強に関してです。勉強法は、過去問を何度も解いて復習を徹底することです。過去問を何度も解くメリットとして、苦手なポイントがわかるということです。正答率の低い部分や間違えやすい問題など自分の弱点を理解することができ、弱点を集中して対策することで正答率を上げることができます。例えば、英検では、単語と熟語が苦手で点数が上がらなかったため、不合格になったことがあります。対策として、専用の単語帳で英単語を覚えてから過去問をひたすら解きました。2次試験の対策では、アプリの ELST という英語4技能対応してるアプリを使いました。ELST 内に2次試験対策の過去問が入っています。実際の流れで演習を行えるので、より本番に近い形で対策できました。

私は大学進学できるのか不安でしたが、周りのサポートや iPad を利用した勉強で大学進学することができました。少しでもこの合格体験記を読んで役に立ってもらえたら嬉しいです。

帝京大学 法学部法律学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
宮城教育大学附属中出身

指定校推薦枠を獲得できてからも 対策を怠らず気を引き締めましょう

■入学当初から指定校推薦での 受験を意識していました

私が大学進学を意識し始めたのは高校1年生になってからでした。入学当初に担任の先生から推薦入試について教えてもらい、それがきっかけで指定校推薦での大学進学を意識し始めました。私が指定校推薦をもらうために頑張ったことは2つあります。1つ目は、評定平均値を上げることです。指定校推薦での大学受験をする際に出願条件を満たしていないと受験できないので、定期テストで高得点を取る、提出物を忘れずに出すことなどを1年生の時から心がけ、評定平均を上げました。また、テストの素点だけでなく平常点も評定に関わるため提出物を忘れずに出すこと以外にも授業を欠席しないことも心がけました。2つ目は、遅刻や欠席をしないことです。指定校をもらうためには遅刻や欠席をしないことが大事です。これが多くなると授業の進度についていけなくなって理解をするのも遅くなってテストにも影響が出るし、指定校推薦の選考の際に自分と同じ大学を志望している人がいて競合になった場合、成績の他にも遅刻や欠席の回数も選考の対象となるため、そのことも考えて体調管理を日頃からしっかり行うことを心がけました。

■高校時代に頑張ったことは 決して無駄にはなりません

高校生活に関しては、中学生までに出来なかったことにどんどんチャレンジして行った方が良いと思います。例えば、英検などの資格を取得したり、学校外での活動への参加をするなどといったことです。指定校推薦での受験を考えている人は、自己推薦書を書かなければなりません。その際に、高校時代に頑張ったことについて書く時に、資格の取得や学校外での活動などをしておくと自己推薦書を書く時に苦労はしないと思います。

指定校推薦の校内選考が通っても大学に合格している訳ではないので、受験が終わるまで時間があるので、面接や小論文などの対策をしっかりと受検当日を迎えられるように準備をしておくようにしてください。高校時代に頑張ったことは決して無駄にはなりません。いろいろなことにチャレンジして目標達成に向けて精一杯頑張ってください。応援しています。

帝京大学 外国語学部外国語学科英語コースに
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
古川学園中出身

高い意識を持ち将来のために 一日一日を大切に過ごしましょう

■指定校推薦を目指すならば

欠席は極力避けましょう

私は、将来就ける職業の幅を広げるために大学進学を目指しました。仙台育英には、指定校推薦という制度があったため、せっかくなら、と1年次から視野に入れて過ごしていました。自分が指定校推薦を受けるために努力したことと言えば、休まずに登校したことです。指定校推薦をもらうには3年間の欠席日数が15日以内という規定があったため、欠席は少ない方がいいという考えで毎日1時間かけて通学していました。受験が終わるまでの欠席日数は0です。勉強面では、定期考査は平均点以上とれるようにしていました。自分は計画を立てて勉強することが苦手だったので、定期考査2日前くらいから始めていました。声に出しながら知らない紙に延々と単語を書く方法が一番覚えやすいと思うのでおすすめです。ほとんどこれで指定校推薦が決まると言っても過言ではない校内模試の対策も、この方法で学習していました。ひたすら過去問を解き、間違えたところは紙に書きまくる。これで完璧です。校内模試では時間を気にしましょう。特に英語は時間配分をミスると大変なことになります。

■部活動の厳しさが生活面に

プラスに影響しました

また、自分は3年間チアリーディング部に所属していました。規則に厳しい部活だったのでそれに救われていた部分もありますが、時間を守ること、ルールを守ること、挨拶をすることなど、小さいことですが信頼が得られる行動を心がけていました。先生から注意されることも比較的少なかったと思います。色々な経験ができたので、受験にも良い影響があったと思います。

自分自身、受験に成功した一番の要因は、自分のために行動する意思を持っていたことだと思います。高校生ライフを楽しみたいという気持ちも分かりますが、羽目を外さず、自分の将来のため一日一日を大切に過ごしてください。

国士舘大学 21 世紀アジア学部 21 世紀アジア学科に
指定校推薦で合格

令和 5 年 3 月 フレックスコース卒
茨城 平井中出身

コロナ禍の高校生活を頑張って乗り切り 第一志望に進むことができ幸せです

■卒業後の進路の選択肢が 広がる大学だと思いました

私が国士舘大学を目指した理由は、公務員試験に強い多くの実績を持っているからです。また、21 世紀アジア学部で学ぶことを活かし、教員またはスポーツ関連の職に就くといった将来の選択肢を広げられると考えたからです。21 世紀アジア学部にはスポーツに関連するカリキュラムも複数存在します。高校在学中に注力したサッカーも続けます。サッカーに本気で取り組みながら、将来の選択肢の幅を広げられるのは国士舘大学しかないと思い、志望しました。

私は、学校推薦型選抜で受験しました。指定を受けるために日々の学習に取り組みました。特に定期考査では、考査の点数がそのまま評価につながるため、全教科 80 点以上を目指し続けました。考査の直前になって取り組むのではなく、日頃の授業から理解を深め、余裕を持って考査対策に臨むことで、安定した成績を修めることができました。安定した評定を維持することで行ける大学の選択肢が増えました。小論文、面接の対策では、学校設定科目で受験小論文を受講し、キャリアサポートの時間でも、小論文と面接練習に取り組みました。

■高校 3 年間の経験を大学で 飛躍するための糧にします

私にとって高校生活では我慢の連続でした。新型コロナウイルスによって入学式は規模を縮小しての実施となり、まともに登校できない日々が続きました。オンライン授業や分散登校ばかりで全員登校できる回数も限られていました。部活動のスタートも遅れ、行事に関しては何も実施できないといったとても難しい 1 年間でした。2 年生、3 年生となり、コロナウイルスの規制は緩くなりました。しかし、修学旅行や文化祭などは行えず 1 年目と特に変わりない生活が続きました。そんな生活の中でも評定だけは取り続けました。学校生活の思い出や部活動での成績不振など、世の中に対する不満や自分の実力不足を感じながらも、自分の志望した大学に進むことができ幸せに思います。この高校 3 年間で経験を大学で飛躍するための糧にして新たな 4 年間で頑張ります。

拓殖大学 商学部経営学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
米山中出身

3年間無遅刻無欠席を達成したので 進路決定が遅れても受験できました

■入学当初から指定校推薦での 受験を視野に入れていました

私は3年生の夏に志望大を決めましたが、高校入学当初から指定校推薦での大学進学を考えていました。そのため1年生の時から指定校推薦をいただくために心がけていたことが三つあります。

一つ目は、定期考査です。指定校推薦では評定がとても重要なので平均評定が高くなるように、授業で習ったことの復習や対策プリントの問題を繰り返し解き、定期考査に臨んでいました。気が緩んでしまい点数が落ちてしまった事もありましたが、授業態度や提出物を期限内に提出していたおかげでカバーすることができたので、授業態度や提出物をきちんと提出することも指定校推薦をいただくために大切なことだと思います。

■推薦入試に対応できるように 規則正しく生活しましょう

二つ目は出席日数です。指定校推薦をいただくためには遅刻・欠席の数も気をつけなければいけません。1年生の時点で指定校推薦を考えている人はもちろん、視野に入れていない人もいつ指定校推薦にシフトするかわからないので、ぜひ普段の生活にも気を配ってみてほしいと思います。私は出席日数に気をつけ過ぎしていたため、3年間無遅刻無欠席で通学することができました。私が受験した拓殖大学の欠席日数の基準が3年間で10日以内でしたが、無遅刻無欠席だったため、志望大をギリギリに決めてしまったのですが、基準を満たして指定校推薦で受験することができたので、心がけていて良かったなと思います。

三つ目は校内模試です。指定校推薦をいただくにあたってもっとも重要なのが校内模試になります。少しでも良い結果を残そうと思い、校内模試の過去問を何度も解きました。私は英語の長文読解が苦手でしたが積極的に取り組みました。

私は三つのことに取り組み、志望大学に合格することができました。指定校推薦は3年間の過ごし方が関わってくるので、過ごし方に気を配りながら楽しい高校生活にしてほしいです。これから進路選択が控えている在校生の皆さんの参考に少しでもなれば嬉しいです。

桜美林大学 健康福祉学群精神保健福祉学専攻に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
神奈川 横浜中学校出身

将来の夢に近づくことができるかを しっかり考えて進路を決めましょう

■校内模試対策は苦手教科の 克服を重点的に行いました

私は桜美林大学健康福祉学群精神保健福祉専攻に入学します。私は、3年生の始め頃から指定校推薦で入学すると決めていたので、指定校推薦の獲得を目標に日々校内模試の勉強に励みました。その上で私は英語が苦手教科だったので、英語の教科を重点的に勉強しました。桜美林大学の健康福祉学群の指定校は仙台育英から1名ずつしか選ばれることができなかつたため、不安と焦りがありました。結果はその1枠に入ることができました。普段からテスト勉強や部活動を頑張っていたかいたが感じました。また、指定校推薦にはテストの成績や授業態度、提出物なども関わってくるので、頑張っていて良かったと思いました。また桜美林大学の入試課題は2つある読書レポートから選択式になっていて、自分はイチロー・カワチさんの「命の格差を止められるか」という本を読みました。その本ではイチロー・カワチさんの人柄溢れる本を読むことができ、命の偉大さや、大事さをより深く実感することができました。また、面接では、今まで自分が頑張ってきたことをとにかくアピールし、いろんな質問対応できるように、自分から先生に頼み込んでさまざまなシチュエーションで面接練習をしました。面接当日はとても緊張しましたが、多くの質問をしてくれた先生方のおかげで、無事面接を終えることができました。

■カウンセラーになるための 素養を大学で養います

大学を決めるにあたって、大事にしたことは将来の夢とどのように繋げることができるかです。自分は将来カウンセラーになりたいと思っています。その上で桜美林大学健康福祉学群では、カウンセラーになるための必要な社会福祉士や、健康福祉士について学ぶことができ、必要な資格を取ることができるため、この学群にしました。また精神保健福祉士に必要な精神障害の予防や治療、障害者を支える福祉の仕組み、相談援助の技術などを学ぶことから大変魅力を感じ、桜美林大学決定に至りました。

桜美林大学 ビジネスマネジメント学群に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
宮床中出身

確実に推薦枠をいただけるように 定期テストには集中して取り組みました

■大学で経営について学び

起業するのが夢です

私は、桜美林大学ビジネスマネジメント学群に入学が決まりました。私が大学を決めるにあたって条件となるものが3つありました。

1つ目は、経済や経営などを学べる学科などがあるかです。理由は、将来私は起業したいと考えています。そのために必要な会社のしくみや、経済の流れや会社での礼儀を学ぶことが必要だと思ったからです。

2つ目は指定校推薦の学校を選ぶことです。私は部活動などをしていたため一般受験として勉強する時間や総合型選抜用の資料を作成する時間がとれないと考え、短期間で勝負できる指定校推薦を選びました。

3つ目は、関東の大学にすることです。私は大学生活でなるべく都心付近の大学にしたいと思っていたので、この大学で良かったです。また、祖父母の家から通おうと思っていたので最寄り駅で通えるところも考えていました。

以上の3つの条件に合った大学が桜美林大学でした。

指定校推薦を貰うために意識したことは、毎回の定期テストや提出物などで評定4以上を目指すことと、校内模試で良い点数を取ることです。私は部活動で時間があまり無いため、短期間でしっかり集中してテストに取り組むことで点数を取っていました。提出物などは必ず出すようにしていました。

私は3つの条件で大学を決め、そのため必要な評定を落とさないことや、校内模試で点数を取ることを意識して桜美林大学ビジネスマネジメント学群に合格しました。

立正大学 文学部社会学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
福島 中村第一中出身

新しい事に挑戦し今まで気付かなかった 自分の一面を知ることも重要です

■文武両道をやり遂げた自信が 第一志望合格に繋がりました

私は入学当初から指定校推薦での大学進学を考えていました。3年間、評定平均が大学からの条件を満たすように定期テストや提出物、欠席しないことを心がけ3年間やり通しました。入学当初から新型コロナウイルスの影響で学校に行くことができずオンライン授業など私が思っていた普通の高校生活ではありませんでした。それでも大学進学するために、日頃から評定を意識し校内模試の勉強を行い、指定校推薦で第一志望の大学に進学することができました。

私が1年生の時から常に意識していたことは、3年生になり、進路を決定するときに多くの選択肢を持てるようにすることです。私はサッカー部に所属しており、勉強と部活動の両立をしてきました。スポーツ推薦やAO入試でも大学進学できるように準備をし、進路の時には部活と勉強を頑張ったという自信があったから第一志望の大学に進学することが出来たのだと思います。

■仙台育英で最高の仲間と出会い 一生残る思い出ができました

また、自分自身と向き合い客観的な視点を持つことが大事だと思います。大学進学をするにあたって勉強するということは当たり前のことですが、やみくもに勉強すればいいというわけではないと思います。自分の学びたい分野や興味のある分野を見つける、主観的な視点も大切です。しかし、自分に向いていることや自分が持つ能力が求められていると気付く「客観的な視点」を持つことは、今まで考えもしなかった新しい目標や夢を見出させるかもしれません。高校生活の3年間で様々な事にチャレンジして、自分の知らなかった一面に気付くことも進路達成の一步になると思います。

高校生活はあっという間に終わります。私もうまくいった事よりうまくいかない事の方が多くて、何度もやめようと思いました。しかし振り返れば、高校3年間は今まで出会うことのなかった最高の仲間や忘れられない思い出ばかりで、仙台育英に入学して本当に良かったと思います。3年間で培ったものを存分に生かして、これからも前に進んで行きたいと思います。

立正大学 仏教学部仏教学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
塩竈第三中出身

一人一人に真剣に向き合って下さる 先生方に出会えて感謝しています

■指定校推薦枠が多いので
頑張れば進路が開けます

私は3年生の夏休みまで、明確な志望大が決まっていませんでした。自分はなにが好きでなにを学びたいのか見えていませんでした。その時に担任の先生が後押ししてくださり納得のいく結果にすることができました。仙台育英の先生方は私たち一人一人に真剣に向き合ってください、そんな先生方に出会えたことにとっても感謝しています。

1, 2年生の頃は、志望大は決まっていなかったもの、どんな進路にも進めるようにと思い、定期テストに力を入れていました。基本ではありますが、授業をしっかり聞き、テストの範囲を何度もくり返し勉強するなどをしてオール5を目指し、頑張りました。仙台育英学園は指定校推薦の枠が多いので、努力すればするほど自分の進路の幅が広がると思います。

また、私は情報科学コースに所属しているので、検定の勉強も頑張りました。勉強を始める前は、情報処理やパソコンを使うということに不安もありましたが、授業として学んでいくので、高校入学までまったく知識のなかった私でも情報処理検定3級を取得することができました。

推薦入試を受けるにあたって、自分をアピールするものを増やすということ、受ける大学のことを知ること、自分のことを知ることが大事だと思います。この3つのことをサポートしてくれるのが仙台育英です。これから皆さんが納得のいく進路に進めることを祈っています。

大妻女子大学 社会情報学部社会情報学科情報デザイン専攻に
指定校推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
若柳中出身

指定校推薦では積み重ねが大事なので 1年次からコツコツ勉強しましょう

■指定校推薦で受験をしたいと

仙台育英に入学しました

私は、中学生の頃に仙台育英のオープンキャンパスで指定校推薦という大学入試制度を知りました。仙台育英には多くの指定校枠があり、私も指定校推薦で大学進学をしたいと思い、仙台育英に入学しました。指定校推薦には、評定や遅刻欠席をしないということ、普段の生活態度がとても大切になってきます。私は1年生の最初の定期テストから悪い点数を取らないようにたくさん勉強し、提出物も丁寧に仕上げることを心がけてきました。また生徒会に入り、学校行事の係やオープンキャンパスの補助員をしました。そして高校3年間、無遅刻無欠席で登校しました。大学への推薦を頂くことができるのかが決まる、校内模試という試験に向けての勉強も頑張りました。私は、文系が校内模試で重視される国語と英語がどちらもあまり得意ではなかったので、校内模試のために漢字や言葉の意味、英単語を覚えたり問題演習をしたりしました。

■合格後は大学で必要な

数学を勉強しています

推薦を頂くことができると決まってからは、大学入試のための準備をします。大妻女子大学は志望理由書と面接が重要です。志望理由書は、大学についての情報をたくさん集めてから書きました。そして学校の先生に何度も添削して頂き提出しました。面接に関しては、私は緊張しやすいのでとても不安でした。そのため、担任の先生にお願いして何回も面接練習をして頂きました。回数を重ねることで、自信に繋がり、本番はあまり緊張することなく受験することができました。

合格した後は、たるんでしまわないよう気を引き締めて生活しました。苦手な英語も、大学での授業で遅れをとらないように基礎から復習したり、社会情報学部では数学が必須なので、数学の大学入学前準備講座を受けたりして、継続的に勉強するよう努力しました。

指定校推薦は、1年生からの努力の積み重ねがとても大事だと思います。コツコツ勉強し、体調管理に気をつけて高校生活を送ることが合格に繋がると思います。

学習院女子大学 国際文化交流学部日本文化学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
大河原中出身

大学卒業後を見据え夢に向かった一歩を 踏み出せる大学かどうか見極めましょう

■学べる環境が自分に合うと 強く感じて志望しました

私は、学習院女子大学国際文化交流学部日本文化学科に、指定校推薦で合格しました。学習院女子大学を志望した理由は、将来の目標に近づくこと、少人数教育がなされており、落ち着いた雰囲気のキャンパスが自分に合っていると強く感じたからです。これから、志望大合格を達成するうえで重要だと思うことを書きたいと思います。

まず、時間の使い方を工夫することです。私は忙しい高校生活の間でも、趣味である読書の時間を作っていました。また、自宅から学校まで距離があり、登下校中電車に乗っている長い時間を、単語帳や参考書を読むなど、少しでも勉強に充てる時間として利用していました。限られた時間を大切に使うということは、社会に出てからも重要なことなので身に付けておくと良いと思います。

■努力を惜しまずできることを 探して実行しましょう

次に、定期考査で気を抜かず最善を尽くすことです。定期考査は評定が決まる大きな判断材料になりますが、指定校推薦を使うにあたり、1年生から高い評定を維持することは必須だと思います。授業態度や提出物を怠らないことはもちろん、評定が足りずに志望大を諦めるということは非常にもったいないことだと思うので、定期考査はベストを尽くして挑むことが大切です。

そして、後悔のない選択や判断をすることです。大学進学を適当に考えている人はいないと思いますが、大学入学後だけでなく、卒業後までの自分を見越すこと、自分がやりたいことや学びたいことが、本当にその大学で実現できるかどうかを慎重に考えることが大切です。

最後になりますが、高校生活はあっという間に終わってしまいます、後悔のないよう、楽しむことも忘れず、これからたくさんの経験を通して見つけた自分の目標を達成するために努力を惜しまず、自分が今できることを探して実行してみてください。応援しています！

共立女子大学 家政学部児童学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
逢隈中出身

入学時から指定校推薦枠を得ることを 常に意識して学校生活を送りました

■指定校推薦枠が多いので
仙台育英に入学しました

私は、以前から県外の大学に進学するという目標を持って、日々勉強に励んでいました。その目標を達成するための第一歩が、仙台育英に入学することでした。なぜなら、仙台育英は特に指定校推薦枠が多いからです。県内だけでなく、県外の指定校推薦枠もたくさんあるので、県外の大学進学を希望していた私にはぴったりでした。

入学してからは、指定校推薦枠を獲得するために、普段の生活態度に気を付けることはもちろん、部活に励み、定期テストで良い点数を取れるように勉強に取り組みました。

私は保育士を目指しています。保育士に必要な専門的な知識を学ぶために共立女子大学に決めました。

■3年間はとても短いので
有意義に過ごしましょう

無事、指定校推薦の受験資格を得ることができてからは小論文と面接の対策をしました。小論文対策として行ったのは過去問を解いて先生に添削していただくことと、教育や子どもに関するニュースを調べることです。面接対策では、聞かれそうな質問を思いっただけ書きだし、それにどう答えるかを考えました。面接は聞かれたことに対して自分の言葉で伝えることが大切です。私も答えを丸暗記するのではなく、話したい内容だけを覚えるようにしました。特に志望理由など必ず聞かれそうなことはすぐ答えられるようにしておくといいと思います。他にも休み時間や放課後に先生と面接練習をして面接時のマナーや話す内容などをアドバイスしていただきました。

3年間はとてもあっという間に過ぎてしまいます。入学式の日が昨日だったかのようです。努力を怠らずしていれば必ず結果が自分に付いてきます。受験期は大変ですが、自分を信じて突き進んで下さい。仙台育英の卒業生として心から応援しています。

工学院大学 情報学部情報通信工学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
宮城野中出身

コロナ禍で思うようにいかない時も 地道に勉強を続け目標を達成できました

■苦手分野を早く見つけて 克服しておきましょう

私が、指定校推薦を利用して大学へ入学しようと考えたのは高校2年生の冬頃でした。それまでは、一般受験を利用しようと思っていましたが、ほかの人よりも早く入学が決定することで、進学する大学の専門分野を先取りして学習できることに利点を感じたため指定校推薦を利用しました。

3年間を通して私が取り組んでいたことは評定平均を安定させることです。1年生の頃は特に推薦のことは考えていませんでしたが、中学時代に評定で痛い目を見たのでこれを安定させたいと思いました。また、仙台育英の評定は定期テストの比重がとて高かったのも、結果的に定期テストに対する緊張感は高くなりました。私が定期テストの勉強で重要だと思うのは、苦手の見つけと取捨選択です。高校のテストは中学と違って、教科は多く日程は長いです。苦手な教科や範囲をいち早く見つけることで、そこに割くことのできる時間は大きく変わります。安定して80点取れる得意教科で100点を狙って勉強するよりも、50点くらいの教科で70点目指すほうが安定した評定を維持しつつ苦手を克服できると思います。苦手な教科の成績が上がることで、私はモチベーションが高い状態で勉強を進めることができました。

■英検は受験回数も考慮して 早めに挑戦しましょう

指定校推薦を利用しようと決めてから行ったことは、校内模試の勉強です。私は英語と数学の成績によって校内選考が行われたため、この2教科の勉強に取り組みました。定期テストとは違い教科数も少ないため、時間をたくさん使って過去問を解いていました。また、推薦入試で重要なのは英検です。志望したい大学の最低評定に届いていても、必須だった英検を持っていないとスタートラインにすら立てません。英検は回数も限られており、3年生になるとなかなか時間を作れないので早い段階から挑戦してみてください。

最後に、私の高校生活はコロナ禍で思うようにいかないことがたくさんありました。その中でも継続して勉強を続けることで目標を達成することができました。後輩の皆さんも自分の目標を掲げ、そこへ向かって頑張ってください。

実践女子大学 人間社会学部人間社会学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
岩沼西中出身

自分の言葉で将来について話す事が できるようになり自信になりました

■この大学に出会えたのは 推薦枠があったからです

私は、指定校推薦を利用して大学に進学したいと一年生の頃から考えていました。しかし、私は行きたいと思うような大学や学部がなかなか見つけられず、2年生の頃までかなり迷走していました。やりたいこともいまち自分では分からず、とにかく色々な大学を調べることにしました。そこで出会ったのが私の進学する大学です。仙台育英にはたくさんの指定校があったため、私の進学する実践女子大学を知ることができました。指定校の枠がなければこの大学には出会えてなかったと思います。私は法律学や心理学、経済学などたくさんのことを学びたいと思っていたので、実践女子大学の人間社会学部は私にとっても合っていました。自分の行きたい大学が定まってからは今まで以上にたくさんの努力をしました。私が仙台育英での3年間で特に意識して努力したことは2つあります。

一つ目は定期考査です。指定校推薦では、評定をある一定数とっていないと推薦をもらえる資格がありません。そのため、できるだけ良い評定を取るために定期考査では高得点を取ることを目標にしていました。私は、英語が特に苦手だったのでテスト前からコツコツ勉強を進めていました。提出物などはなるべく早めに取りかかり、習ったところはその日のうちに復習するようにしていました。当たり前のことではありますが、この積み重ねが定期考査で高得点を取るのに活きたと思います。

■情報を集めるほど自分に 最適な志望大が見つかります

二つ目は校内選考後の小論文や面接の練習です。私の進学する大学では、時事問題についての小論文が例年出されていました。そのため、新聞を読むようにしたり、たくさん本を読むようにしました。また、書いた小論文を先生が添削してくださり、練習を受験日近くまで繰り返し行ってくくださったおかげで自信に繋がりました。面接練習では、最初は頭が真っ白になって考えていたことが言えないこともありました。しかし、先生方の厳しい指導もあり、志望動機や将来について自分の言葉で話すことができるようになりました。面接での経験は自分に自信を与えてくれました。

指定校推薦で大学進学を目指している方は是非やりたいことを早めに明確にしておいてください。やりたいことや学びたいことがはっきりしていれば自信にもモチベーションにもなります。また、大学入ってから後悔しないためにも大学調べは徹底的にしておいた方がいいです。視野に入れてなかった大学で学びたいことが学べる場合もあります。みなさんも目標を見つけ、挑戦する3年間にしてください。

大正大学 表現学部表現文化学科アート&エンターテインメントワークコースに
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
山形 鶴岡第二中出身

仲の良いクラスであれば受験期も 張り詰めた空気にならずに乗り切れます

■リフレッシュ方法を工夫し 心身を健やかに保ちましょう

私は、指定校推薦で大学を受験することを選びました。その際に私が意識して行ったことについて、いくつか紹介したいと思います。

1つ目は、日頃の授業態度を意識し、期末テストにしっかり取り組むことです。指定校推薦の場合、テストで良い点数を取ることはもちろん日頃の行動もよくなければなりません。そのため、1年生のときから受験方法がどのようになるか関係なく、少しでも良い成績を取ることを意識して生活することが良いと実感しました。また、学校の規則もきちんと守ることも常識ではありますが、周りに流されずしっかり自分自身で守っていくことが必要です。

2つ目は、心身共に健康的に過ごすことです。特に3年生の時期は忙しい日々が続きましたので、時間や行動に余裕をもつことで健康的に過ごすことができた実感しました。しかし、余裕をもって時間を確保しても、その時間のなかで日常から常に自分の志望する大学の情報を収集し、面接や小論文の練習を何回も行っていくことが必然的に多くなってきます。そのような状況でも自分をリフレッシュさせるために楽しみを作っておくことがとても大切になってきます。また、クラスの雰囲気も大事になるので、全員の仲が良く、意見を出しやすいクラスだと、受験期でも張り詰めた空気にならずに生活できるのだと実感することができました。

■様々な経験を経て進路の 答えを探していきましょう

このようにして、地道に受験の準備をしていく3年間でもあります。たくさんの選択肢があるなかで、自分の答えを探しながら結果に辿り着かなければなりません。私の高校生活は、コロナの影響で常に制限との隣り合わせの生活を送りながら、今までのなかで一番の挫折や後悔を体験し、その分の楽しさを多く感じるなどさまざまな経験を積んできた3年間でした。そのため、この3年間で何事も自分で行っていくことの大変さなどさまざまなことを経験しながら、充実した高校生活を送ってほしいです。

東京工科大学 メディア学部メディア学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
埼玉 滑川中出身

アドバイス通りではなく自力で 最適な受験対策を見つけましょう

■校内模試対策は最低限

過去問を解いておきましょう

私が指定校推薦という形で大学に入学をしようと決めたのは高校2年生の時でした。自分の場合は、将来したいと思っていることが明確にあったため、それに合うような大学を探すというやり方で大学選びを進めました。その中でも特に目を引く大学や学部を絞り、そこから最適解を導いた結果が、指定校推薦を使って東京工科大学のメディア学部メディア学科へ進むことでした。そこからは校内選考でその指定校推薦の枠を勝ち取ることを目標に勉強をしました。専修大学や東洋大学などの人気の高い枠を取ろうとなると、必要以上に校内模試に向けての勉強に力を入れなければならないと思いますが、基本的には過去問を解くことだけでも十分点数は取れます。そして、無事にその枠を勝ち取れた後は入試で行われる面接に向けての準備が始まりました。基本的にはどのような質問がされるのか自分で予測してそれに対する答えを考えるという形でした。そこで、自分の中で意識したことがひとつあります。それは、答えるべき内容を全て暗記するのではなく、伝えたいと感じた重要な点をいくつか頭に入れておき本番でそれが伝えられるように言葉を繋ぐということです。

■自信を持って取り組みれば

結果は必ずついてきます

やはり本番は緊張しました。それでも、自分でくまなく予測していた質問が、質問内容の大半を占めており伝えるべき点もしっかりと覚えていたので、多少の不安は残しながらもなんとかこなすことができました。

そこで、最後に私が感じたことを話すと、自分が今話したやり方も含め他にも様々な対策などがあるとは思いますが、そんなものは参考程度に聞いておき、一番は自分に最適なやり方を見つけてそれに全力で取り組むということが大切だと思いました。不安が存在しない受験などありません。ですが、自分に自信を持って真摯に取り組めば必ずと結果はついてくると思うので頑張ってください。

東京電機大学 理工学部理工学科建築・都市環境学系に
指定校推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
中国出身

担任の先生の親身なサポートのお陰で 本番の面接にリラックスして臨めました

■ホームステイをしながら 日本語に慣れていきました

私は小学生の時から橋梁を設計するデザイナーになりたいと思っていました。日本では、建築物の建設構造や耐震技術が発達しており、建築物の構造強度が高いと世界に知られていますから、絶対に日本の学校に留学しなければならないと思いました。

仙台育英に留学を決めるのは中学3年生の時、日本の高校に行く機会があることがわかった私は直ぐに日本語を自分一人で学習しました。仙台育英の入学試験は合格しました。

1年生の時、指定校推薦を取ることを決めました。毎回の試験を一生懸命に頑張っ、最後まで油断できないと思いました。また、日本語の能力も私に対してとても重要です。日本語会話能力の向上や日本文化体験を目標として、ホームステイにしました。そして日本語試験内容を勉強する以外に、毎日1時間以上の日本語ニュースや会話を聴きながら、ホームステイの家族と会話練習を続けてきました。日々の努力を積み重ねて、ようやくスムーズにコミュニケーションすることができるようになりました。進学したい大学の指定校資格も取りました。

指定校資格を取ってから、担任の先生は何回も私の小論文や志望理由書を修正して、とても真剣でした。また面接の練習も何回もやりました。とても助かりました。大学で面接をする時もそんなに緊張しなかったし、面接の先生たちも優しい方でした。大学に進学して、私も自分の目標を達成できるように頑張ります。

神奈川大学 経済学部経済学科現代経済専攻に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
秋田 男鹿南中出身

部活動で厳しい練習や怪我を乗り越えて 自信が生まれ入試対策が楽に感じました

■ 苦手克服の為にあって 英語に取り組みました

私は、小学校から続けているサッカーに磨きをかけるために、親元を離れ本校に入学しました。しかし、卒業後の進路が明確に決まっていなかったため、少しでも多く選択肢を持てるように学習にも力を入れてきました。英語が苦手だったため、克服するために2年生からは英語コースを選択しました。初めはどのように勉強すればいいのかも分からず、成績もなかなか伸びませんでした。先生からのアドバイスを受け、自分に合った勉強法を見つけてからは少しずつ成績が伸び始めました。評定平均維持のための定期テストや、推薦時に利用される校内模試の他に、英検取得のための学習も頑張りました。

部活動では、プレーヤーとしてのスキルアップはもちろんですが、挨拶や礼儀、時間、ルールの厳守、協調性など、人としても成長することが出来ました。そして何より、辛い練習や怪我を乗り越えた事が自信へと繋がり、自己推薦書を書く際にとても楽に感じました。入試期間になると、志望理由書や自己推薦書など、様々な書類や、大学によっては小論文試験や面接試験など、文章力や語彙力を求められる場面が多くあります。小論文の授業や他の大学の過去問題などで何度も文章を書いたおかげで文章力が上がり、書類を書く際にあまり苦労しませんでした。語彙力も上がったりと、自分と向き合う時間が増えたりと、面接にも役立ちました。推薦入試を考えている皆さんは、自分の得意なこと、好きなことを見つけることや、小論文の練習をすることがとても重要になってくると思います。また、大学側が求める生徒像や、入試方法について、卒業後はどのような進路があるのかなど、早い段階に様々な情報を知っておくことで余裕を持って準備できると思います。実際にオープンキャンパスなどに参加し、施設の素晴らしさや雰囲気を感じ取れることもおすすめします。

■ 3年間の寮生活を経て 心身共に成長できました

そして、私が一番不安だったことは寮生活に関してです。中学までは身の回りの事も家族に頼ることが多く、食事、掃除、洗濯、他にもたくさんのことを当たり前のようにやってもらっていましたが、寮生活になってからは、自分のことを自分でやる必要があります。慣れないことだらけでしたが、退寮する頃にはたくさんのことができるようになりました。仕事と両立して毎日家族を支えている親へのありがたみを身にしみて感じました。県外からチャレンジする人は、自分自身の成長に繋がると思います。

最後に、コロナ禍で学校行事が無くなるなど、辛い日々を送っていたかもしれませんが、どうか、クラスメイトと過ごす時間を大切に、充実した学校生活を送ってください。受験するにあたって、自分自身の努力はもちろんですが、先生方や家族の協力が必要不可欠になります。周りへの感謝の気持ちを忘れず、自分の時間や体調にも気を使いながら頑張ってください。皆さんが志望大学に合格できますよう、心よりお祈りしています。

神奈川大学 経営学部国際経営学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
秀光中出身

自信をつけるための3年間と捉え 強みを増やしていきましょう

■茶道の授業で取得できる
許状は強みになります

私が推薦入試合格のために心がけたことは大きく2つあります。

1つ目は検定を取得することです。私は受験日までに、英語検定、中国語検定、秘書検定を取得し、面接時にはこれを強みに自己PRすることができました。また、面接官の先生方には、茶道の免許状にも興味を持っていただきました。外国語コースでは茶道の免許状を取得することができるので、外国語コースの方であれば免許状取得に向けて、しっかり茶道の授業に参加することも大切だと思います。

2つ目は学校を休まないように努力することです。私は受験日までの学校を一度も休んだことがなかったので、そのことも強みとして話すことができました。また推薦入試の種類によっては出席日数が関係するものもあると思うので、休まず学校に行くことは推薦入試を考えている人ならどの学部でも大切になってくると思います。

私は大学を決めるまですごく時間がかかりましたし、2年半の高校生活の中で何度も目指す大学、学部を変えました。それでも、自由に選ぶことができた理由は、推薦入試を受けるための基礎が整っていたからであると思います。自分の持っている強みを大切に、自分に自信をつけるための3年間を過ごすことで、結果、自分のためになると感じました。自分を信じて頑張ってください。応援しています。

神奈川県 外国語学部英語英文学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
八乙女中出身

第二外国語のスキルは強みになり 他の受験者との差を付けられます

■ 評定を落とさないことを
常に意識していました

私は指定校推薦を利用して大学に進学しようと思っていたので、1年生の時から成績や評定を落とさないことを意識しながら、毎回テストを受けていました。評定3を取ってしまうと平均評定が落ちてしまうので、4以上を取るよう心がけていました。この心がけから4.5以上をキープすることができました。提出物を必ず提出したり、授業を真面目に受けたりするなど基本的なことも大切だと思います。指定校推薦をとるために、校内模試で良い点数や順位を取ることが重要だと思います。少しでも良い成績を取るために、校内模試の過去問題を解くようにしていました。出題傾向を確認したり、問題を多く解いたりしておくことが大切だと思います。また、資格取得も大切だと思います。私は実用技能英語検定とスペイン語技能検定を取得しました。面接の時にスペイン語もできるとアピールできたので、あまり他の人とは被らない第二外国語の資格取得もおすすめです。校内模試や自己推薦書など大変なことがたくさんあると思いますが、自分の進路実現に向けてがんばってください。

神奈川大学 外国語学部中国語学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
中国出身

仙台育英で各国の留学生と交流し 異文化に触れることができました

■母国語である中国語の 教師になりたいです

神奈川大学を初めて知ったのは仙台育英の指定校推薦一覧を見たときです。そして、仙台育英で行われた神奈川大学のオンライン説明会に参加して、この大学についてもっと詳しくなりました。説明会の後、私はこの大学に興味を持ち、インターネットで大学に関する情報をたくさん検索し、この大学を受験することにしました。なぜ中国語学科を選んだかという、中国語は私の母国語ですが、外国人に中国語に関する知識を具体的に説明するのはなかなか難しいからです。中国語の教師になるため、専門的かつ全面的な中国語と中国に関する知識が不可欠だと思います。

仙台育英で指定校推薦で大学を受験したい場合、最も重要だと思うのは以下の4つです。1つ目は、普段の各科目の期末試験でできるだけ高い点数を取ることです。十分な評定値を取得した場合にのみ、指定校推薦を申請する資格があります。2つ目は、高校3年の6月に行われた校内模試でできるだけ高い順位を取ることです。3つ目は、学校で十分な出席率を確保することと良い行動を維持していることです。最後は、様々な資格と試合の成績を持つことです。その中で、英検の成績はととても重要です。

■合格後も大学に向けての 勉強に励んでいます

最も重要なことは、自分の能力レベルに合った大学を選ぶことです。そして合格後も、学校で行われたフォローアップ講座や、大学の入学前教育の課題をしっかりと取り組む必要があります。このように大学に入ってからこそ、もっと勉強できると思います。

仙台育英で留学したこの一年半、出会った先生方はみんな私に優しく、真剣に接してくださいました。仙台育英は国際的な高校で、私は日本、タイ、インドネシア、韓国など世界各地の出身の生徒と交流したり、多くの国の文化を理解したりしました。仙台育英での留学生活は結構充実していて楽しかったです。

これからも学校生活を楽しみながら、頑張りたいと思います。

関東学院大学 国際文化学部英語文化学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
青葉中出身

自分を客観的に見ることにより 目標を見出すことができます

■指定校推薦枠が多いので
仙台育英に入学しました

私は、指定校推薦で大学に入学しようと入学当初から考えていました。仙台育英を選んだ理由は、サッカーがしたいことに加え、指定校推薦の枠が幅広く展開されており、自分の希望する大学や、学部があると聞いたからです。

学習面では、サッカー部に所属していたこともあり、普段から家の中での学習時間を確保するのが難しかったのですが、授業の空き時間を有効活用するなどをしました。テスト前は特に集中し、苦手科目の勉強に力を入れ、得意科目と苦手科目の評定に差が生まれないように頑張りました。なかなか部活動と勉強の両立をすることが難しかったのですが、自分なりに努力しました。3年生の校内模試では、自分の思うように実力を発揮することが出来なかったのですが、第一志望の大学の指定校推薦の枠をいただくことができました。

■可能性を広げるために
色々挑戦しました

私が1年生の時から常に意識してきました。それは、3年生になり、進路を決定するとき多くの選択肢を持てるように努力することです。部活動に所属する、テストでの点数が良くなるように努力し、評定をあげるなど、検定にチャレンジするなどが大切です。私も自分自身の可能性、選択の幅が広がるよう取り組みました。もちろん勉強や部活動も手を抜くことなく取り組みました。大学進学をするにあたって勉強するということは当たり前ですが、やみくもにすればいいというわけではないと思います。自分の学びたい分野や興味のある分野を見つける、主観的な視点も大切です。しかし、自分に向いていることや、自分が持つ能力が求められていると気付く「客観的な視点」を持つことは、更に自らの可能性を広げ、新しい目標を見出せるかもしれません。

高校生活は実際、あっという間に過ぎてしまいますが充実した生活を送ることができました。この3年間で培ったものを存分に活かして、これからも前に進んでいきたいと思っています。

関東学院大学 国際文化学部比較文化学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
岩沼西中出身

先生方や友達、家族などたくさんの方々の 支えがあったからこそ合格できました

■高い評定平均値を活かせる 指定校推薦で受験しました

私が大学進学を目指したきっかけは、大学という環境で様々な分野について学び、自分の将来やりたいことや夢を探ることができると思ったからです。私は、指定校推薦入試で関東学院大学国際文化学部比較文化学科に合格することができました。初めは総合型選抜での入学を目指していましたが、先生方からのアドバイスや面接等の手応えのなさから、指定校推薦入試の入学に変更しました。総合型選抜のときから指定校推薦入試まで多くの先生方にご指導していただきました。さらに、友達に励ましてもらったり、家族に支えてもらいました。私は、たくさんの方々から支えていただいたからこそ頑張ることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

■入試準備は余裕を持って 済ませておきましょう

そして指定校推薦入試で進学するためには、校内模試での順位が高いことも重要な要素の一つです。校内模試に向けて主に、英語では単語暗記や文法の理解、長文読解に時間を割き、国語では小論文の対策をすることです。また校内模試の過去問を先生方からもらい、解いてみることでより実践的な対策をすることができたと思います。後悔しないためにも1年生のときからテストでいい成績を修めることや普段の授業から集中することが大切だと思います。また私はサッカー部に所属していました。私の高校3年間はコロナウイルス影響で学校行事がほとんど行うことができありませんでしたが、勉強と部活動の両立に重きを置くことができたと思います。大学受験では事前準備も大切になってきます。出願書類などを余裕を持って終わらせておくことでスムーズに出願を行うことができると思います。面接や小論文の対策もしっかり行くと本番に余裕を持って臨むことができると思います。このような日々の積み重ねが重要になると思います。

関東学院大学 社会学部現代社会学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
新潟 金津中出身

高校生活は短いので悔いが残らないよう やるべきことを考えて過ごしましょう

■コロナ禍でも前を向いて 毎日を過ごしました

私は、高校に入学してコロナと共に過ごしてきました。オンライン授業が多くなり、部活動もできない日々が続きました。この状況の中で一人でもできることを考えて取り組み、コツコツ勉強しました。1年の7月頃から分散登校が始まりましたが、制限された日々を過ごすのは苦しかったです。しかし、高校は3年間なので時間がないと思い前を向き続けました。部活はサッカー部に所属していましたが、1年のときにはなかなか試合に出場する機会がありませんでした。私はすごく悔しかったです。それからどうしたら出場できるか考え、自主練習する時間を増やそうと考え実行しました。自分に何が足りないのか自分と見つめ合い必死に取り組んできました。2年生に上がると、徐々に出られるようになりとても嬉しかったです。

■勉強や家事は意識を変えて コツコツ取り組みました

親元を離れた私は全部一人でやらないといけないのですごく苦労しました。洗濯や掃除が大変でした。私はめんどくさがりだったので、三日坊主になりすぐ汚くなりましたが、時間の使い方意識的に変えていき徹底的にやりました。勉強面では、より一層自主的にやりました。高校に入ると中学の時よりも難しい内容になり、コツコツとやっていかなければついていくことができません。でも、そうすることでテストでもよい成績をとることができました。

高校生活は、すごく短いです。コロナ禍の中で過ごしてきた私はもっと短く感じました。そんな中でもやるべきことすべきことを考えなくてはなりません。とにかく悔いがないように過ごしてもらいたいです。まだ制限がある生活をしていくかもしれませんが、そこで落ちこまず、むしろプラスに考えられるようにしてください。高校生活は一度しかありませんのでやって良かったと思えるように過ごしましょう。

城西大学 経営学部マネジメント総合学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
東京 文京学院女子中出身

部活動など一つのことを継続するのは 決して無駄にはなりません

■部活動を続けて良かったと
合格できて心から思いました

入学当初から指定校推薦での大学進学を考えていました。3年間、特に定期考査に力を入れて、評定平均が大学からの条件を満たすように努力を続けました。また、テストの素点だけでなく平常点も評定に関わるため授業を欠席しないことや、提出物をしっかり出すことを心がけました。1年生の頃から新型コロナウイルスの影響でオンライン授業になることが増えて、勉強のモチベーションを保つことが難しい時期もありましたが、合計点を競い合うなど友人と協力しました。

また、私は女子サッカー部に所属していました。練習や大会の他に除雪作業などサッカー以外での活動も行ってきました。時々、勉強との両立が辛く辞めたいと思うこともありましたが、部活動での経験が大学合格に繋がったと確信した時は辞めずに続けて良かったと思えました。私の所属する部活動では、オンライン授業になることが多くあったため、周りとの学力で差が付いてしまうのではないかという不安がありました。不安が消えることは無いかもしれませんが、3年間続けてきたことは決して無駄にはなりません。これは部活動に所属していない人にも言えますが、今後の入試は勉強以外の部分も高く評価されるので、外部の活動を行うことも重要だと思います。

城西大学 理学部数学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
南郷中出身

指定校推薦で受験したいならば 最低でも4以上の評定を目指しましょう

■1年次には指定校推薦での 受験を決めていました

私は、指定校推薦で大学に入学しようと決めていたのが高校1年生の後半頃という早い時期だったため、新型コロナウイルスの影響もあってオープンキャンパスに行けない代わりに、ホームページやパンフレットを見て大学の特色などを調べました。

学習面では、評定4.1以上を取ることを目標に、苦手分野でも期末テストで65点以上を取ることを意識して学習に取り組みました。しかし、成績が伸び悩んだ時期があったため、友人に勉強を教えてもらったり、小テストやワークなどで分からなかった問題は何度でも解き直せるように印を付けたりなどしていました。その結果、成績も安定し、自分が思っていた点数よりも高い点数が取れるようになりました。3年生の校内模試でも実力を発揮でき、志望する大学からの内定をいただくことができました。

■推薦入試を甘く見ずに 日々努力を続けましょう

部活動では、今までやったことがない文化系の部活に入りました。最初の1年間は慣れるまで一苦労しましたが、充実した活動することができました。

大学入試で大切なことは、努力することと対策を練ることです。指定校推薦で大学をめざしたいと思っている方は、最低でも4以上の評定を取ってください。1年生の時に評定が良かったのなら、それを維持できるようにしてください。逆に悪かった人は各教科の評定は4以上取れるように努力してください。また、推薦は面接試験があるので早いうちに練習しておいて損なことは一つありません。なので、いろんな先生方と練習しておいた方が良いですよ。心配しないでください。このおかげで私は合格しましたから。最後に、推薦入試を甘く見ずに日々の努力に動んでください。そして充実した学校生活を送ってください。

文教大学 経営学部経営学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
埼玉 土合中出身

勉強や部活動など目の前のすべきことを 普段からきちんと行うことが大切です

■定期テストは目標点数を 設定し対策しましょう

私は指定校推薦で文教大学へ進学を決めましたが、私自身は、進路を決める上で大変苦労したわけではありません。その理由は明らかです。それは「やるべきことを分析し、目の前の事を一生懸命やること」です。

具体的にいえば、定期テストは自分で目標を立て、点数をとることです。英進進学コースの人たちなら理解できると思いますが、対策をすればそれほど難しい問題ではないはず。毎度のテストですっきりと対策をすることは大切だと考えます。また、私の場合は、部活動に所属していたため、部活動でも引退まで頑張り続けることも大切だと考えます。進路に直接関係するかは入試形態によりますが、自分自身と闘うという点では、似ているものがあると考えます。

■受験前の追い込みではなく 普段の努力が重要です

また、指定校推薦で行きたいと考えるのであれば、定期テストでの成績も大切ですが、校内模試も外せません。校内模試は普段の授業よりも難しい問題が出題されます。そこで私が考える一番やるべきことは「英単語」です。むしろ最低限英単語をやっているだけで、点数がとれると思った私は英単語しかやっていませんでした。ほとんどが長文読解なので、単語の意味を理解さえすれば、ある程度文章の内容が理解出来ます。余裕のある人は過去問を解くなどすべきです。

もし、文教大学経営学部への進学を希望する人がいるならば、こんな文章で申し訳ありません。ですが私はこの文章を読んで特に頑張りすぎる必要はないということを伝えたいです。しかし、持続的に頑張り続けることを大前提としてです。前述のとおりまず、目の前のことを一生懸命やってほしいです。参考になるかわかりませんが、「やるべき事をやる」ということだけ伝わってほしいです。志望する大学のことはよく調べるのは言うまでもないと思いますが最後に書いておきます。

東京国際大学 国際関係学部国際関係学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
寺岡中出身

大学で学びたいことを軸に据えておくと 自分に合った進路を選ぶことができます

■マイプロジェクトを機に

国際問題に関心を持ちました

私は幼少期から父の仕事の都合上、海外に行く機会が多く、それがきっかけで飛行機が好きになり、次第に将来は航空業界で働きたいと思うようになりました。そう思っていた中、高校2年生の時にマイプロジェクトという授業があり、4人のグループでジェンダーについて調べて発表する機会がありました。調べていく内に私は、日本は世界各国に比べてLGBTQへの理解が足りず、その人たちが生活しやすい環境が整っていないように感じました。そこで自分は、他国と自国で社会問題に対する改善策や意識を比較することに興味を持つようになりました。そのことを踏まえて、国際的な問題について考えたり、英語をはじめとした語学や他国の文化を学べたりする学部がある大学に進学したいと思うようになりました。私は指定校推薦入試でこの大学に合格することが出来ましたが、実は第一志望として考えていた大学ではありません。しかしながら、私はこの大学に進学することに決めて後悔はしていません。なぜなら自分が学びたい分野の学部・学科であり、自分の夢に繋がっていく大学生生活を送る事ができると思うからです。

■努力を積み重ねることが

受験で大きな武器になります

私が大学推薦入試を体験して一番大切だと感じたことは、自分が大学で学びたいことはこれだという自分の中の大きな軸をぶれずに持ち続けることです。そして、その軸にあった大学を複数挙げておくことで、自分の学びたい環境が整っている大学を正しく選ぶことができると思います。自分が高校入学後、心掛けた事として、定期考査で出来るだけ高得点を維持することや、各教科の提出物をきちんと出すなど、基本的なことを意識し、良い評定が取れるようにしていました。定期考査の対策として、私は通学時間が長かったため、バスや電車内での隙間時間を有効に活用し、試験勉強に充てていました。私は在学中に、英検準2級やニュース時事能力検定を取得しましたが、振り返ると1年生の時から積極的に資格や検定の取得にチャレンジし、そして出来るだけ高い級を取るべきだったと思います。後輩の皆さんに伝えたいことは、1、2年生の時から先を見据えて努力を積み重ねることで、後の自分の大きな武器になるということです。高校生活はあっという間でしたが、この3年間で出来た思い出や、多くの貴重な経験をこれから先の大学生生活に活かしていきたいと思います。

駿河台大学 スポーツ科学部スポーツ科学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
埼玉 高篠中出身

本から得た知識はこの先の人生にも 役に立つので本をたくさん読みましょう

■取得したい資格から

志望大を絞っていきました

私は指定校推薦での大学進学を選びました。この推薦方法にした理由は、確実にその大学に進学したいと考えたからです。スポーツ推薦で進むつもりではなかったのですが、少しでも確実に大学を決めることが出来たらと思いました。

私は大学でも野球を続けず、将来の目標に向かって頑張っていきたいと高校2年生の3月頃に決めたため、大学への入学方法が限られてしまいました。私は将来の目標が明確になっていたため、その資格を取る事ができる学部、学科を見比べ大学を絞っていきました。その大学がどのような大学なのかを理解するために、インターネットでのホームページや、幾つかの大学の資料をもとに比べることも大事だと感じました。実際にオープンキャンパスに足を運び、自分の目で確認する事も大事だと感じました。候補に挙げた大学に一度はオープンキャンパスに参加することがいいと思います。また、野球を続けられないため自分自身の学力に見合った学部を選ぶことにも気をつけました。その後は、指定校推薦枠を貰うために、6月に行われた校内模試でなるべく高い順位を取る事が求められたので、前々から部活動と並行して勉強をしていきました。

■読書量が少なかったことを

一番後悔しました

指定校推薦の試験は大体小論文と面接です。私が一番後悔していることはそれまでに本を多く読まなかったことです。小論文は多くの知識が必要とされるので、知識が多い方が圧倒的に文章が書けると感じました。読む本はどのような内容でもいいと思います。その知識は受験だけではなく、その後の大学でも生かすことか出来るので、今から本をたくさん読んで損はないと思います。面接練習では、質問に対して回答を一つに決めず、大まかに何を答えるかを抑えておくことが大切だと感じました。

大学進学はその後の人生を分ける大きな分岐点です。自分自身が将来何をしたいか、何になりたいかをもとに決めていくことが大切だと思います。

駿河台大学 法学部法律学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
埼玉 熊谷東中出身

自分の現状を把握し努力することが 成長できる一番の近道です

■公務員試験対策とサッカーを 両立できる環境を探しました

私が駿河台大学に入学することを目指した理由は、勉強とサッカーの文武両道ができる環境が整っていると感じたからです。将来の夢は地方公務員となり県庁で働き、地元の埼玉県をサッカーで盛り上げるなど地域の活性化に貢献したいと考えています。そのためには地方公務員試験に合格しなければなりません。駿河台大学では公務員になるための専門的知識を少人数ゼミナールで学ぶことができ、試験対策を充実しているので私にとっても適していると感じました。また私はサッカー部に入り4年間サッカーも頑張りたいと考えています。小学生の頃からサッカーをしてきて、本気で取り組むのは大学生までと決まっているので悔いのないように頑張りたいです。この2つの条件を満たしているのが駿河台大学でした。ここにしようと考えたきっかけはサッカー部の先輩からの紹介でした。高校生の頃から信頼できる先輩からの話だったので興味を持ちました。また寮に入るのですが、実家から近いというのもありとても良いと感じました。

■校内模試は半年前から しっかり対策しましょう

私は指定校推薦を取るために3ヶ月前から勉強を始めました。今となっては3ヶ月前だと手遅れだったと感じています。後輩達に校内模試の問題はとても難しいので6ヶ月前から勉強を始めるのが良いと教えたいと思います。受験に受かるために頑張ったことは面接練習と小論文対策です。面接では礼儀とハキハキ喋ることを意識して練習しました。小論文は繰り返し問題を解いていました。試験本番では練習通り緊張することなく取り組めたので練習した甲斐があったなど感じました。高校の部活動ではサッカーをしていました。3年間で学んだことは諦めない心と人間性です。自分がどんな立場でも現状を受け止めて努力することが成長する一番の近道だと経験しました。またサッカーだけでなく私生活からルールとモラルを守ることの大切さを学びました。人助けなど人間性が回り回って自分に返ってくることを知ったので大学でも人間性も大事にしていきたいです。入学したら勉強とサッカーの文部両道に努め、充実した大学生活を送りたいと考えています。

日本工業大学 先進工学部情報メディア工学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
米山中出身

友達との面接練習で考えを深めるべき点や 自分には無かった視点が分かります

■担任の先生のアドバイスで 資格取得に励みました

指定校推薦で日本工業大学先進工学部情報メディア工学科に合格することができました。

私は、入学当初から情報系の大学に指定校推薦を利用し大学に進学したいという思いがありましたが、入試の意識はせず日頃の授業を受けていました。しかし、1年生の三者面談の際、担任の先生に推薦枠を獲得するためには校内模試の順位で決まり、点数が同率の場合資格などを取得していた方が良いと知りました。そこで資格に力を入れようと思い情報処理検定やMOS、これだけでは足りないと思い国家試験にも挑戦しITパスポートを取得することができました。

ほかに評定を下げないために日頃の授業態度、定期考査などやるべきことをしっかり励みました。電車で1時間の通学とバドミントン部に所属しており多賀城校舎までの移動時間を利用し、英単語の聞き流しなど暗記できる科目を学校では数学や国語の過去問をつかい、校内模試対策をしました。

このような日頃の努力の積み重ねもあり、無事に校内選考が通りました。

■先生方に口頭試問対策を サポートして頂きました

校内選考が通り、入試は面接と口頭試問があり、対策として面接練習を特にしました。面接練習では将来の夢を明確にしていなかったので面接練習しながら自分は何にしたいのかなどを考えました。

志望動機、将来の夢などを整理した上で面接練習することをおすすめします。

友達と二人一緒に面接練習することで自分には足りない所などを見つけることができ、自分にはない考えなどを知ることができるいい機会になりました。

試問対策では数I、数A、物理と範囲が広くなにを勉強すべきか悩みましたが先生方に質問し、練習や公式を覚えるなど対策をし、先生方に問題を出していただきわからないことは基礎から教えていただきました。

その結果無事合格することができました。

まず、自分は将来何をしたいかを考えるのが大事だと思いました。

それに向けて資格を取得することでやりたいことの視野が広がることや志望動機を考える際に苦労することがないと思います。

自分は情報系の資格しか取得しませんでした。英検などにも挑戦していればと後悔しています。様々なことに挑戦することをおすすめします。

頑張ってください。

明海大学 経済学部経済学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
山形 山形第四中出身

思い通りにいかないことに対する 向き合い方を決めるのも自分自身です

■オンライン授業は普段以上に 集中して臨んでいました

私は高校1年生の冬頃から指定校推薦での進学を考えており、指定校枠がある大学に出願しました。コロナウイルスの関係でオープンキャンパスなどのイベントには参加できませんでしたが、出願までの間に資料請求をするなど、大学についての情報を集めていました。そのほかにも3年間の定期考査に力を入れて、評定平均が大学からの条件を満たすように努力を続けました。また、テストの素点だけではなく平常点も評定に関わるため授業態度や出席率、そして提出物等の遅れがないようにしっかり準備して出すことを心がけてきました。1年生の頃からコロナウイルスの影響でオンライン授業になることが増え、勉強に対してのモチベーションを保つのが難しかったからこそ自分でより集中して板書や重要部分のメモをするように工夫しました。

私はなかなか学部を選択できずにいました。興味があった学部は法学部、国際系、経済学部でした。その時私は将来を考えた結果、指定校枠があった経済学部に決めることができました。経済学部には国際系と関連していることが多くあると考え、多様な学びが出来るのではないかと思います。

■入試対策で学びたいことが 明確になりました

志望理由書や面接では、担任の先生や他の先生のご指導の下、たくさん書き直し、たくさん練習し、本番で最善にアピールできるようにして行きました。私の大学では、面接の他にも書類審査や小論文があり、どんなことを質問されてもいいように対策をとってきました。面接では、「将来何をしたいのか」「政治・経済を学んで何が印象に残ったのか」という質問があり、準備しておいた質問であったので緊張が和らぎました。また、自分が大学で何を学びたいのかが明確になりました。

私は3年間という短い期間で、「自分が大学で何を学びたいのか」「将来何をしたいのか」ということがきっかけを作る大切さを知りました。また、何もかも自分の思い通り、ということはありません。想定外の出来事に阻害される可能性もゼロではありません。これらとどのように向き合っていくのか。決めるのも自分の選択です。自分のため、将来のため学業を怠らないのはもちろんですが、何があっても自分のやりたいことや目標などを絶対にふいにしないでください。皆さんの努力が実ることを祈っています。

尚美学園大学 スポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
館中出身

一緒に頑張る仲間がいたからこそ 努力を積み重ねることができました

■好きなサッカーに関連する 職業に就きたい

先生方にはたくさんのご指導をしていただきました。さらに、友達に励ましてもらったり、家族に支えてもらいました。私はたくさんの方々から支えていただいたからこそ頑張ることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

高1の私は、将来の夢がなく、進路について深く考えていませんでした。しかし、あっという間に高3になり、焦り出しました。そこで私は、サッカーをすることが好きなのでサッカーに関係する職業に就きたいと考え、サッカーの指導者になりたいと考えるようになりました。将来の夢であるサッカーの指導者になるために必要なスポーツをマネジメントする基礎知識や職場体験などを通して人との接し方を学べると考え、将来の夢を達成することができると考え進学することを決めました。

中学生の頃、私は勉強することがとても苦手でしたが、高校での最初のテストをきっかけに部活と勉強の両立を目標に頑張ろうと思うようになりました。高校のサッカー部はレベルが高く、私も上手になりたいと思い部活動の後に自主練習を始めました。なかなか成果を出すことができず、たくさん悩むこともありました。そんな時、私の周りには、声をかけてくれる仲間がいました。その声をかけてくれた仲間がいたから、諦めずに続けることができ、部活動を通して、努力するということが結果につながるということを改めて感じました。

■先生方が親身になって 面接練習をして下さいました

しかし、私にとって部活動をしながら勉強を両立させることは簡単ではありませんでした。普段はサッカーのことばかりで勉強をする時間があまりなく、テストの1週間前に始めていました。そのため、しっかり覚えることができなくなり、焦ることもたくさんありました。それでも、自分なりの勉強方法を見つけて勉強し、成績を維持し続けました。

大学受験には面接があり、人と話すことは得意なのですが少し不安でした。しかし、先生方が放課後、面接の練習をしてくださり、自信をつけることができました。練習で自信をつけたことにより、受験本番は緊張せずに、力を出しきることができました。

私は高校3年間を通して、どんなことでも努力すれば良い結果がついてくる可能性が高くなると感じました。また、それは自分一人では決して出来ることではなく一緒に頑張る仲間がいるからこそ出来ることだと感じました。後輩の皆さんは、これから進路を決めるまでに悩むこともあると思いますが、自分を信じて、感謝の気持ちを忘れずに、目標に向かって頑張ってください。

日本医療科学大学 保健医療学部臨床工学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
成田中出身

高校の振り返りや大学の学問の先取り等 推薦合格の後も勉強を続けましょう

■スキマ時間を有効に使い 暗記物の勉強をしました

私は、高校入学時から医療系の大学に進学することを考えていました。初めは指定校推薦で受験しようとは考えていなかったのですが、私が志望する大学に指定校推薦の枠があることを知り、指定校推薦で受験することを決めました。

私が指定校推薦の枠をもらうために努力したことは、2つあります。

1つ目は、学力の維持です。定期考査や校内模試はもちろん普通の授業の復習などに力を入れて勉強し、高い評定を得られるように努力しました。例えば、登下校の時間にバスや電車の中などで、英単語帳や文法の勉強をするなどし、スキマ時間を有効に使うことを意識しながら勉強しました。

■色々な手段で志望大の 情報収集をしましょう

2つ目は、志望大学の情報収集を行うことです。指定校推薦をもらうにあたって志望大学の入試に関する情報や、大学の特徴を知っておくことはとても重要でした。例えば志望理由書を書くときになぜ入学したいのかを大学の特徴と織り交ぜながら書くために、オープンキャンパスに行き、ホームページや資料を見て情報を収集していました。

大学に合格した後も勉強し続けることが大事だと思います。指定校推薦は、一般受験よりも早く合格が決まるので、入学までの期間、高校3年間で勉強したことの振り返り学習や、自分の入学する学科の勉強で必要になってくる基礎知識の勉強をすることが一般受験の人達と学力の差をつけられないようにするためにも大事だと思いました。

日本医療科学大学 保健医療学部臨床検査学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
高砂中出身

勉強する環境を変えてみるなど モチベーションを保つ工夫をしました

■合格のチャンスが増えればと 指定校推薦に挑戦しました

私が指定校推薦で大学に入学しようと決めたのは、高校3年生になってからでした。もともと、指定校推薦で行くことを考えていませんでしたが、第一志望が私立大学になり、その大学に枠があることを知ったので、少しでも合格のチャンスが増えればと思い指定校推薦を希望しました。

推薦枠を取るためにしていたことは、学力の向上に励むことはもちろん、提出物や授業に取り組む態度など当たり前のことをしっかりこなすことを心がけました。1年生の頃から新型コロナウイルスの影響でオンライン授業になることが増え、授業に集中し、勉強のモチベーションを保つことが難しい時期もありました。しかし、勉強する環境を変えてみたりするなど工夫をして学習に取り組んでいました。

■校外活動をせず面接での アピールに苦労しました

また、学校の学習だけでなく部活動や課外学習などにも積極的に参加して欲しいです。私は、部活動に所属しておらず新型コロナウイルスの影響もあって学校外の活動に積極的に参加していませんでした。私が推薦枠を取ろうとした大学は面接があったので部活動などの経験がない自分には面接の応答を考えるのにとっても苦労しました。無事合格はできましたが入試が終わった今、学校外での活動に参加しなかったことをとても後悔しています。皆さんには後悔してほしくないし、自分の経験を増やして推薦入試の時に役立ててほしいので、新型コロナウイルスの影響でなかなか思うような活動は難しいと思いますがそういう活動に積極的に参加してもいいと思います。

この3年間の高校生活を振り返ると本当にあっという間だと感じました。コロナ禍ということもあってオンライン授業になったり、友達と会う機会も減ってしまったりと、普通の高校生活を送ることが少し難しいかもしれませんが、周りの友達や先生、家族への感謝を忘れずに充実した高校生活を送ってください。

城西国際大学 福祉総合学部理学療法学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
八乙女中出身

短い高校生活はやりたいことに 全力で打ち込める貴重な時間です

■お世話になった理学療法士の 先生に感銘を受けました

私が理学療法士を目指そうと心に決めたのは高校2年生の時です。部活動で怪我をした際に診てもらった病院で、リハビリの指導をしてくださった理学療法士の方の、笑顔で優しさのある対応に衝撃を受けたからです。

高校入学当初は、まだ自分が将来どうしたいのかは決まっていませんでしたが、指定校推薦で大学に進学したいと思っていたので、規則正しい生活をして、部活動と勉強を両立し、期末考査前は集中して勉強に取り組み、評定を「5」に近づけること心がけました。1年生の時から受験の準備は始まっているのだと思います。

大学進学を考えるうえで重要なことは、自分が大学で何を学びたいのか、自分は将来どうしたいのかを時間をかけてじっくりと考え早めに明確な目標が決まればその目標に向かって、自分が今何をすべきなのかが見えてきます。

■部活動での経験が将来に プラスになったと思います

部活動はサッカー部で、全国高校サッカー選手権大会で全国大会に行くことを自分の目標に掲げ、日々の練習に全力で取り組みました。目標は達成できませんでしたが、3年間の部活動を通して得た貴重な体験は、私の人生に大きな影響を与えてくれたと感じています。

部活動でも、勉強でも、そしてこれからの人生においても、常に目標に掲げそれに向かって努力を継続することが大切だと思います。高校生活は人生の中のわずか3年間という短い時間ですが、青春を感じ、自分のやりたいことに全力で打ち込める貴重な時間だと思います。後輩の皆さん、限られた時間を大切に使い、高校3年間、目標に掲げ、高校2年生と言わず、高校1年生の時から進路のことを考えて、充実した高校生活を送ってください。

敬愛大学 経済学部経済学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
千葉 習志野台中出身

3年間部活動を続けて自信がつき 周りが見えるようになりました

■やりたいことを大学に 進学してから見つけます

敬愛大学に指定校推薦で合格しました。なぜ私が大学進学を目指したのかというと、私は高校生の内にやりたいと思うことが見つかりませんでした。ありのままに自分のやりたい学部が選べて勉強ができたり、大学の勉学以外に自分のやりたいと思える事ができる大学に魅力を感じ、私は大学進学を希望しました。

私は高校では部活に専念していました。1年次から陸上部に所属し、一番になりたい一心で努力してきました。私はまず自分がどこまでできて、どこまでできないかを考えてやり、できるものはそのまま伸ばしていき、できないものは限りなくできるようにしていました。自分で考えることやできないものを補うことなども日常生活などに役立つものが多くあります。部活での技術向上と一緒に人間としても成長したんだなと身をもって感じる事が多くあります。大きい大会などに出ると緊張すると思います。高校の内にもものすごく緊張する事を経験していると面接なども落ちついて自分の最大限のアピールができると思います。自分に自信がついたり、周りを見ることができたりするようになるなどの成長は、3年間部活を頑張れば得られるものだと思います。

■失敗も経験のうちなので 前向きに進んでいきましょう

指定校推薦で大学に行こうとしている人は推薦文などを書くといいと思います。自分をアピールする場面がある時に部活を本気でやっていると書くことが浮かんできます。私は勉強も大事だと思いますが、部活をして多くのことを得られていると思っています。勉強、勉強と視野を狭めてしまうだけではなく、きっと進んでいける道があります。自分がやりたいなどと思ったものをとにかく勉強していけばいいと思います。時には失敗などもありますがそれも経験なので前向きに成功へと進んでいってほしいと思います。

千葉工業大学 工学部機械工学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
中国出身

どのような人生を歩んでいきたいのかを 早くから真剣に考えてみましょう

■面接では基本のマナーから 先生にご指導いただきました

指定校推薦の取得を本格に考え始めてから3年生でした。確かに決断するのは遅いですが、先生のおかげで志望大に推薦していただくことができました。

指定校推薦が決まっても、それで終わりではなく、期末テストや大学の試験や面接の準備が必要です。行きたい大学は面接だけなので、面接の準備に余力があるのが良いところです。語学が苦手な私のような留学生はともかく、日本の学生にとって大学の面接は大きなハードルでしょう。その後、面接の質問について先生によく相談し、私の回答に修正や指摘をしていただきました。また、教室に入るときと出るときにドアを静かに閉めること、座るのは面接官の同意を得てから、手と足の置き方、話すときは面接官を見ることなど、面接でのマナーを教えてくださいました。私はこれらの教養知識を身につけ、最終的に先生の助けを借りて面接に合格することができました。

■指定校推薦受験を決意し 主体的に勉強しました

指定校推薦で最も重要なのは学力であり、指定校からどのような推薦を受けるかが決まります。私は2年生の頃はあまり勉強が得意ではなく、3年生になってから授業に集中するようになり、自分から図書館に通うようになりました。また、平日は教科書や参考書を多めに読み、テストの過去問もこなしてみてください。勉強しながら、将来どんな人になりたいか、どんな職業に就きたいか、どんな人生を歩みたいかを考えてみたらほうがいいと思います。そうすることで、大学選びの事前準備ができますし、ネットで大学の情報を調べたりすることで、事前準備もできます。また、高校生活の中で、英検やTOFFLやTOEICなどの資格取得に挑戦しておく、大学進学の際に必ず役に立ちます。

部活動に関しては、私は一番忙しくなる高学年で入学したため、部活動に入る機会がなかったのが残念で、部活動を通じて高校生活を充実させたかったと思います。

千葉工業大学 工学部電気電子工学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
中国出身

校内模試の結果を細かく分析し 興味・関心を踏まえ進路を決めましょう

■校内模試対策はまず過去問を 解いて弱点を把握しました

千葉工業大学に合格しました。私の入学方法は指定校推薦であり、ここでは私が合格するために努力したことをいくつか共有したいと思います。

まず、仙台育英での6月に行われた校内模擬試験です。最初に、学校から配布された過去の問題集をすべて解いて、解答と解説を比較して自分の問題を答え合わせ、自分の弱点を分析しました。そして、これらの弱点に対処するために、より多くの練習を行いました。次に、私は理科を選んだため、問題の範囲やポイントを知ることは非常に役立つことだと気づきました。したがって、過去の問題を解いた後、今回の校内模擬試験の範囲やポイントの概要をまとめ、例えば、何問目で確率に関する問題が出題されるか、そしてこの問題で最も出題される可能性が高いポイントは何か、最も可能性の高い出題形式は何かなどを分析し、より詳細な復習を行いました。校内模擬試験の試験時間は、問題の量や難易度に対してやや緊張感があります。特に理科学の場合、良い成績を取るには、日常的にわからない問題を研究し、大量の練習が必要です。

■推薦枠獲得から入試までは 時間的な余裕はありません

校内模擬試験が終わり、自分の成績と学校内ランキングを知ったら、担任の先生と話をすることができると思います。必ず自分が興味を持っている専攻を選び、自分の成績に基づいて推薦資格を獲得するように努力しましょう。指定校推薦は一般入試よりも比較的容易だと思う人が多いかもしれませんが、実際には推薦資格を獲得した後、すぐに大学の面接があります。成績を知ってから面接が始まるまでの期間は比較的短いため、大学の調査や志望理由の準備を事前に始める必要があります。大学によっては面接の難易度が異なるため、面接後に不合格になる可能性は0ではありません。そのため、面接資料を早急に準備し、担任教師や他の先生に確認して練習する必要があります。目標の大学や学部のホームページの調査資料を確認し、背景を理解することは非常に重要だと考えます。

以上が私の指定校推薦入試に関する個人的な経験です。後輩の皆さんも一緒に頑張りましょう。

中央学院大学 法学部法学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
八乙女中出身

努力や諦めないことの大切さを 高校生活を通して再確認できました

■勉強と部活動の両立を やり切り成長できました

私が進学を志望した理由は、公務員になりたいという自分の夢に近づけるため、足りない知識を補いたいと考えたからです。推薦入試を選んだきっかけは、早く合否が決まり、その大学で必要な学力など知識を早いうちに身につけ遅れを取らないというメリットもあります。また第一志望大の合格するチャンスを増やすためでもあります。推薦入試の指定を受けるために、校内模試の勉強と平均評定に関わってくる定期テストに励み、普段の授業態度や提出物になるべく早く出して、指定を受けられる大学の幅を広げることも意識して励んできました。部活動ではサッカーはもちろん、挨拶や基本的な礼儀も意識して生活してきました。自分が成長できるように、先輩などのアドバイスをよく聞きそれを試合で生かせるように励んできました。時には進路関係のことと部活動との両立が難しく厳しいときもありましたが、それを乗り越えて自分も成長できたと感じました。

■苦楽を共にした友達には 感謝しかありません

受験前の対策として、面接練習をなるべく多く行い、話が詰まってしまうところなどを無くしスムーズに面接を進められるように頑張りました。受験日では最後まで面接の確認をして受験に挑み、合格することができました。私にとって大学は就きたい職業の幅を広げる場所だと思います。大学に入る前のある程度の計画を立て、その就きたい職業に就けるように頑張っていきたいと思っています。最後に高校生活ではコロナなどもありなかなか楽しめずにいたけど、それを不幸と思わず、少ない行事を楽しめた友達に感謝しかありません。部活動でも辛いことも楽しいことも友達みんなと共有しあい3年間過ごしてきました。また、高校サッカーを通して努力することの大切さや諦めないことを再確認することができ、貴重な高校生活を大学生生活に生かして行きたいと思っています。

帝京平成大学 健康医療スポーツ学部医療スポーツ学科救急救命士コースに
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
米山中出身

将来の夢が明確だったので熱意が ストレートに伝わり合格できました

■公務員試験を受け消防士に なる為に大学に進学しました

私は、指定校推薦で帝京平成大学健康医療スポーツ学部医療スポーツ学科救急救命士コースを受験し、合格することができました。この学校を受験した理由としては、私は将来消防士になるために4年間をかけて、専門的なことを学んだり資格を取るための勉強や公務員試験に向けてじっくりと対策をしていきたくったからです。またコロナの影響で就職も難しくなっていて、今後は公務員の倍率も上がると思ったので、自分の将来に必要な能力や知識を身につけるという意味で、4年制の大学へいくことは必要であると感じました。初めは、専門学校への進学を考えていましたが、就職してからのことや自分と向き合って考えた結果、大学に行くことを決意しました。そこで大学について、自分で調べるようになり、気になった大学についてパンフレットやインターネットなどを使って帝京平成大学を見つけることができました。大学の試験は面接だけでしたが、専門的な質問や医療についての質問をされたときの対策や、自分についてしっかりと述べられるように友達や先生方をお願いして、何度も練習して合格に繋げることができました。実際に医療についての質問もあり、練習の成果を発揮することができました。

■進学目的が定まっていると 準備がスムーズに進みます

面接を終えて感じたことは、高校生のうちに将来やりたいことを明確にして、理由をもって大学に進む準備をするということです。大学を決めるときや面接で志望理由を聞かれたときに、やりたいことが明確であればスムーズに進むことが多いからです。私の場合は消防士になりたいという目標があり、絶対大学に受かって実現したいという気持ちがあったので面接に気持ちをぶつけることができ、合格できたのだと思います。まだやりたいことが見つからない人も、しっかりと目標を明確にして頑張ってください。

帝京平成大学 健康医療スポーツ学部医療スポーツ学科動物医療コースに
指定校推薦で合格

令和5年3月 技能開発コース卒
不動堂中出身

間違えた問題はできなかった理由を 考えながら復習しましょう

■講習で理解がさらに定着し 考え方の幅が広がりました

私にとって大学は、好きなことを学べる場だと思っています。大学進学を目指した理由は、一般教養も学ぶことができ、資格や免許を複数取れるからです。

私は推薦入試で合格しましたが、推薦入試を目指した理由は、他の入試方法よりも早めに決まるため高校で習ったことの復習や大学の準備ができると考えたからです。推薦入試合格のために努力したことは、面接練習を多くの先生方と行ったことです。入試内容が面接のみだったため気を抜かず練習をして本番に備えました。

日頃から授業中はノートをきちんと写したりメモを書いたりして、私語を慎み一つ一つの授業に集中して取り組みました。また、習った内容はその日のうちに復習するように心がけていました。講習にも参加し、国語では読解のポイントを押さえ問題演習をし、解き方を定着させました。数学では、授業で習った公式を使い応用問題を解いたり別の方法、公式で解いたりしたことが新しい発見につながりました。以上のように、講習では苦手分野の克服や新しい知識を得ることができました。

■毎日教科書やワークで 復習をメインに勉強しました

平日の勉強時間は日によって異なりますが、平均2時間程度行っていました。勉強内容はワークの問題や教科書の問題を解いて復習することを主としていました。休日や長期休暇期間は、午前は息抜きする時間を多く取り、単語練習や基礎の問題を解く時間にしていました。午後は午前中にやった内容の復習をしてから、応用問題を解いたり、大学で必要になる専門科目の勉強をする時間にしていました。

後輩にすすめたい勉強法は間違えた問題や分からない問題の答えを写すとき、同じような問題を解く時にスラスラ解けるようになるということです。テストで良い点数を取りたい人や志望大に向けて勉強を進めている人にはぜひ実践してほしいと考えています。

流通経済大学 社会学部社会学科に
提携校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
高崎中出身

諦めない気持ちや強い精神力が 部活動で鍛えられました

■ 普段の生活態度や評定を

受験に生かそうと思いました

大学進学を目指したきっかけは、大学に入って自分のやりたいことを見つけるためです。小さい頃から将来の夢ややりたいことなど何もなかったのですが、この先どうしようと考えながら小・中学校を過ごしていました。仙台育英に入学してからは、将来のことを真剣に考えるようになり、大学の様々な情報や先生方の手厚いサポートもありました。最初は一般入試で受けるか指定校推薦を取るかですごく迷いましたが、生かせるものはすべて生かそうという気持ちがあったので指定校推薦を選びました。学校の評価がとても大切なので、テストだけをちゃんとしていても、普段の生活態度もとても重要になるので気は抜けません。実際に、入試の面接では「学校でどのようにしていたか」と聞かれます。それに学校での評価の書類を見て質問をしてくるので本当に学校での行いが大切です。

■ 仲間や家族の支えで3年間

部活をやりきりました

高校生活でがんばったことは部活動です。中学校から始めたソフトテニスを高校でもひき続き3年間打ち込みました。中学校と高校のレベルの差がとても大きく、全然試合で勝てない時期がつづきました。中学とは違い、高校になると他県の選手がいきにご増えます。宮城のソフトテニスのレベルは全国的にも高く、県内の大会で上位をとれば全国でも通用するくらいの実力となっています。そのため、1試合目、2試合目ですでに実力者と対戦する機会が多いので勝つのがとても困難でした。途中でモチベーションが一気に下がり、部活を休んでしまう時もありましたが、その時支えてくれたのがテニス部のメンバーと家族でした。そのおかげで私は最後までやりきることができました。しかも最後の大会では、強豪と言われている学校に勝つことができました。私はこの3年間の部活動であきらめない気持ち、精神力などを身につけることができました。これは大人になっても大事なことなのでみなさん部活にぜひ挑戦しましょう!!

流通経済大学 スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科に
提携校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
志波姫中出身

どんな時も諦めずに前に進んで行けば 高校生活が一生の思い出になります

■接する機会の少ない先生方に 面接練習をお願いしました

私が大学進学を目指した理由は、保健体育の教師の夢を実現させるためです。私は、指定校推薦で保健体育の教師の資格が取得できる流通経済大学を受験し、合格することができました。指定校推薦で大事なことは、日頃の勉強を欠かさないと、校内模試の勉強をすることです。もし、日頃の勉強を疎かにしていたら、流通経済大学に指定校推薦で合格する事ができなかったと思っています。また、面接練習はとても重要です。私は1ヶ月前から面接練習に取り組みました。面接練習を行う上で大切なのは先生選びです。なぜなら、担任の先生や普段会話をしている先生だとコミュニケーションがとりやすいので、本番を想定した練習ができません。そこで、私はあまり接したことのない先生をお願いをし、面接練習に取り組みました。本番に近い適度な緊張感が生まれ、とても有意義な練習となりました。

■サッカー部で過ごした時間が 生涯の財産になりました

仙台育英での3年間、たくさんのことを学び、心身共に成長する事ができました。私はサッカー部に所属していました。サッカー部では日々辛い練習がありましたが、妥協せずに練習に取り組む事ができました。また、その経験で鍛えられた、メンタルの強さや粘り強さは勉強面にも繋がりました。その結果、定期テストや校内模試でも高得点を取る事ができ、大学合格という目標が達成できました。しかし、私は大学に入る事が最終的な目標ではなく、将来の夢を実現させるための過程であると考えています。

私は仙台育英に入学して本当に良かったと実感しています。サッカー部の仲間とは、切磋琢磨しながら一緒に目標に突き進むことができ、生涯の財産になりました。

後輩の皆さん、辛い事があって心が折れそうな時も絶対諦めず、前に突き進んでください。最後には仙台育英に入学して良かったと思える高校生活になるはずです。大学進学を考えている人も多くいると思います。大学を選ぶ上で重要なのは、何のためにその大学に入学するか、明確な目標を持つ事です。

同志社大学 法学部法律学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
名取第一中出身

時間をきちんと管理することで 高校生活を楽しむ時間を確保できます

■ 学生生活は社会に出る為に 心身を鍛える時間です

私は、指定校推薦で京都の同志社大学法学部法律学科に合格しました。そして高校同様硬式野球部に所属して大学でも野球を続けます。私は指定校推薦をいただき同志社大学を受験し合格するまでに、たくさんの経験を積み重ねてきました。その中で、1番の目標としていたのは文武両道です。高校生でまだ未成年というものの、数年後には社会人となり自分の人生のためそしてこれからの社会のために働かなければなりません。私は学生生活というものは社会で通用できるように、頭と身体と心を鍛え成長ししっかりと準備をする時間だと考えています。そのため部活動のみに力を入れては十分な成長はできません。

■ 仙台育英での豊かな経験を 次世代に伝えていきましょう

私は部活動で時間が限られている中でも、両立を実現するため、合間の時間などで勉強をしていました。部活動と勉強の両立は難しい部分が多々ありますが、自分がこうして文武両道を実現できたのは、時間の使い方を見直したことが1番の要因にあります。部活動をしながら勉強となるといつ休むのか、自由時間はあるのかなど、たくさんの疑問が出てくると思います。しかし、時間設定をしっかり行い無駄な時間を減らせば意外と自由時間、そして睡眠時間を確保できるものです。そして最後に、学生生活全てを通して大切なことは楽しむことを忘れないことです。人はなにか目的がないと継続しづらいものです。どんなに苦しい生活の中でも、楽しい瞬間を見つけていく必要があります。楽しい瞬間などないと感じる人もいると思いますが、しっかり探せば、行動すれば、必ず見つかります。時間の使い方や、楽しむことを忘れないことなど、学生生活をより良いものにしていく上で大切なことを書かせていただきましたが、これも全て、私に関わってきた先輩方や先生方から教わったものです。どうか皆さんも自分自身が良い学生生活を送ってその経験を色々な形で次の世代にしっかりと伝えていきましょう。

同志社大学 法学部政治学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 秀光コース卒
秀光中出身

志望大のアドミッションポリシーを 意識して学校生活を過ごしましょう

■ IBDP の CAS 活動を通して 国際的な視野が広がりました

はじめに、指定校推薦での出願にあたってやるべきことは以下の2つだと考えています。まずは自分の行きたい大学・学部・学科のアドミッションポリシーを熟読することだと思います。そこでどのような人材を集めているのかを知ることができ、人材像を意識しながら、普段の学習や生活に関連しているしている出来事を探すようにしていました。例えば、その人材像のなかに「主体性」「多様性」「協働性」が挙げられています。私はIBDPの特性を活かしてCAS活動においてフード&クローズドライブ活動を自らが企画し、事前に生徒や保護者さんに家に余っている食材や衣類を募り、地域のボランティア団体へ届け困窮者へ届けてもらう活動を実行しました。焦点は地域にあてているものの、貧困という世界の問題に目を向けることができ、国際的な視野を養うことができました。次に、大学のレベルと自分の学力の差を縮めることです。私がこれから行く大学はアドミッションポリシーのなかに、高校まで身につけて欲しいことというものが学部・学科ごとに細かく設定されていました。特に英語に力を入れている大学、加えて英検2級以上の取得とかなり具体的に挙げられていました。そのため、最低でも高校3年生の夏休み前までには取得しようと努力しました。

■ 小論文はマンツーマンで 先生にご指導いただきました

次に、出願後から受験までに努力していたことについて話します。私の場合、試験内容に小論文と口頭試問が課されていました。まず、小論文については社会系学部専用の対策本と2022～2023年のニュースをまとめた冊子を購入し、どちらも電車や朝のHR始まる前などの隙間時間に読むようにしていました。執筆に関しては60分で1000～1200字程度と決められていたため、時間を計りながら執筆していました。練習内容は政治に関する問題と過去の問題の傾向をもとに問いを作って練習していました。執筆したものは国語科担当の先生に添削とアドバイスをお願いし、マンツーマンで指導していただきました。また、面接では先生方およそ13人程に指導して頂きました。様々な先生方をお願いすることで質問の傾向や雰囲気を知ることができ、本番はあまり緊張することなく終えることができました。

少しでも参考にしていただけたら幸いです。皆さんも頑張ってください。頑張った先には春色の未来が待っています。

同志社大学 文化情報学部文化情報学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
郡山中出身

決断を迫られた時に親身になってくれる 友達や先生方との出会いは私の宝物です

■勉強と部活動を両立し時間の 使い方が上手になりました

3年間の高校生活は、中学生時代の私が思い描いたものとは全く違うものでした。コロナに始まりコロナに終わった3年という月日は想像よりも短く、あっという間に学年が上がりあっという間に卒業式を迎えました。進路について本格的に考えなくてはならない季節もあっという間にやってきて、私はただ漠然と、自分は一般受験でどこかの大学に入学するのだと思っていました。ですが、具体的な志望大も分からないままだった時、3年生の時の担任の先生が私に合った受験方法与大学を提案してくださったのです。

私は、3年間バスケットボール部に所属していました。放課後や休日は部活の練習に参加し、定期考査や模試に備えた勉強時間を確保するのは簡単ではありませんでした。ですが、ちょっとした空き時間を大切にしながら両立を努めたことで、その分時間の使い方が上手になり、部活動を引退してからも様々な面で生かすことができました。また、指定校推薦を視野に入れたのは高校3年生からでしたが、1年生の時から両立に対する意識を持ってどちらも手を抜かず取り組んだことが、結果的に受験資格を得ることに繋がったと考えています。また、校内選考で内定を頂くために、校内模試に向けた勉強に特に力を注ぎました。過去問をひたすら解き、分からないところは学校の先生に質問して疑問をなくし、出題傾向を知って弱点をなくしました。

■受験では諦めないことが 一番大切だと思います

大学入試で大切なことはあきらめないことだ、と私は思います。ありふれた言葉かもしれませんが、一度は第一志望の高校に合格できず、暗い気持ちで入学した経験のある私にとって、第一志望の大学に合格できたことは、高校3年間だけでなく、中高6年間分の喜びがありました。3年という月日は想像よりも短かったと最初に言いましたが、部活と勉強に励みながら限られた時間の中で友達と過ごす毎日はとても充実していました。高校には、これからの将来を決断しなければならないときに、自分のことのように手を差し伸べてくれる友達や先生がたくさんいます。そんな人たちとの出会いが3年間の一番の宝物だったと思います。これからの4年間は、これまで支えてくださったたくさんの方たちの思いを忘れずに、自分の夢に向かって頑張ろうと思います。

同志社大学 商学部商学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
台原中出身

高校生活で色々な人と触れ合うことで 視野が広がり進路の選択肢が増えます

■英検は語学力の向上に加え 入試でアピールできました

私は3年生の初めまで国公立大学を目指して勉強していました。しかし、進路について考える中で担任の先生や家族と相談し、推薦枠の一つである同志社大学商学部でやりたいことを実現できると考え、校内模試が終わった頃に志望を変えました。進路決定が遅めでありながらも校内選考を通ることができたのは、やはり受験を意識した普段の勉強のおかげであったと思います。1年生の頃から放課後はできるだけオークルームに通い、予習や復習、課題をこなすようにしていました。また、定期テストや英検の勉強も、成績向上の要因であったと思います。定期テストは教科や分野ごとに苦手、得意を確認するきっかけにもなりますし、クラスでの順位が出るので勉強を継続するモチベーションにもなりました。また私は大学で留学をしたいと考えているため、高校生の中に英語力を向上させる必要があると思い、1年生の時から英検を受けていました。英検のために勉強したことは受験勉強でも大いに役立ちましたし、校内選考の際にも強みになりました。

■志望理由書は将来を具体的に 考える良い機会になりました

校内選考を通過してからは、志望理由書と小論文、面接の対策に集中しました。中でも苦戦したのは志望理由書の作成です。もともと商学に興味があったものの、大学入学後に自分がどんなことをしたいかまでは明確でなかったため、具体的に考えるきっかけとなりました。また、私は緊張しやすい性格であるため面接が心配だったのですが、先生方が何回も練習をしてくださり、アドバイスをいただけたおかげで本番はあまり緊張せず自分の思いを伝えることができました。また、所属していた生徒会執行部での活動も、アピールポイントになったと思います。小論文の対策は、政治経済担当の先生に添削してもらいながら、何度も書いて練習しました。初めはまとまった文章を作り上げるのが難しく苦戦したのですが、何度も書いているうちに少しずつ筋の通った文を作ることができるようになりました。

無事合格することができたのは、友達や家族、学校の先生など周りの人たちの支えがあったからこそだと思います。進路選択は将来を決める大事な分岐点であるためとても悩むと思いますが、一人で抱え込まずに周りの人に相談して欲しいと思います。また、色々な人と会話したり、時には息抜きもしたりして視野を広げることで、なるべく多くの選択肢を得られるといいなと思います。みなさんが楽しく充実した学校生活を送り、目標の進路を達成できるよう願っています。

立命館大学 情報理工学部情報理工学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 秀光コース卒
秀光中出身

「選んだ道で努力して爪痕を残すんだ」 という覚悟で3年間を過ごしましょう

■将来はITを応用し社会の 発展に貢献したいです

私は幼少期からIT分野に強い興味を抱いており、GAFAをはじめとする企業が作り上げた革新的な技術に心を動かされてきました。こうした背景から、将来は情報技術を活用して社会をより便利な方向に導きたいと考えるようになり、高校1年次には、生徒会長として学校生活を、情報技術を通じてより便利で効率的な方向へ導く改革に取り組んだり、MYPの集大成であるPPでは、環境問題を支援するウェブサイト「Donate For Everyone」を作成・運営したりするなど自分の夢と学校での活動を絡めて励みました。

私が志望した立命館大学には、ソフトウェアを通じて社会問題を解決するための研究が行われている情報理工学部があることを知り、私の学びたい分野やビジョンにマッチしているのではと感じました。最終的には、オープンキャンパスでの模擬講義も受講し、この大学なら、情報技術に関する豊富な知識に加え、それを応用して現実社会のニーズに沿ったサービスを生み出す力を身に付けられると確信したため、立命館大学を志望することを決断しました。

■合格はゴールではなく 人生の節目の入口です

指定校推薦で志望大学を目指すためには、高校3年次の6月に実施される第1回校内模試で高得点を獲得することが必須です。しかし、DP生にとってライバルとテストの点数で競争することになるのは事実であり、自己管理スキルを駆使して内部評価レポートやEEの執筆と校内模試対策の勉強を両立させる必要があります。私は高校2年生の11月頃から、数学I・A・II・Bの全単元について一から青チャートを用いて復習及び学習を行い、学校で学習していない単元については放課後にプチ講習を開いていただくなど先生の力も借りながら学習を進めました。DPで学んだ単元であっても、他高校生と内容のズレがあることに加えて、もちろん忘れてしまっている部分もあるので、一から丁寧に復習したことがかなり効果的だったと感じています。

よく受験はゴールではないと大人の方々から言い聞かせられますが、私は、受験は新たな人生の節目となる「入口」だと考えています。受験後に待っている新天地で新たなストーリーを積み重ねていくのは、大学ではなく自分自身です。受験後に待っている大学生生活を価値あるものにできるか否かも自分次第ということです。たとえ、受験が不合格だったとしても、新天地で惜しめない努力を積み重ねて爪痕を残すことが出来たのなら、それは自分にとって価値のある期間となっています。この3年間、自分を信じて必死に努力すれば必ず自分の力になります。自分が選んだ道で必死にもがいて爪痕を残すんだという覚悟を持って励み続けましょう。

関西大学 外国語学部外国語学科主専攻言語英語に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
上杉山中出身

自分自身と向き合う時間を持つことで 将来の夢や目標が見えてきます

■先生の雑談と結びつけると 記憶に残りやすいです

私は指定校推薦という入試形態で大学受験を行ったため、今回はその手法で大学に出願することを目標とする後輩の皆さんに向けて心がけるべきことをまとめていきます。

まずは、日々の授業を大切にすることです。板書だけでなく、先生が何気なく言った言葉もノートにメモしていました。たとえ授業のテーマと関係のない内容だったとしても、先生がこの話をしたときにこの語句を習ったというように、先生の言葉と結びつけながら覚えることで、記憶に残りやすくなります。また、授業で習ったことは授業内で完璧に理解することも大切です。テスト前にまとめて復習しようとする、短期記憶としては良いですが、長期的な記憶にはつながらないと考えます。指定校推薦は校内模試の結果で志望大学の枠を勝ち取れるかが決まるため、授業での学びを長期にわたって記憶することは大切です。そしてもし、授業内で疑問が生じた場合は、その日のうちに聞き、理解を深めることで、定期考査前に焦らず、ストレスを抱えることなく臨むことができます。

■学校と家で過ごし方を変えて メリハリをつけていました

次に、部活動がない朝や放課後に学校で自習を行うことです。私は家に帰ると気が散って勉強に集中できなかったため、学校のことは全て学校で終わらせることをモットーとしていました。宿題や定期考査対策を喫茶店で行う手法もありますが、お金や移動時間がかかるので、学校での自習はおすすめです。学校では勉強し、家ではリラックスするという意識の切り替えを行うことによって、メリハリのある生活を送ることにつながると考えます。

最後に、自分と向き合う時間を作ることです。私は日記をつけていました。志望理由書を書くときに、自分の性格、高校で取り組んだこと、将来の夢を明確にする必要があるため、その日自分が思ったことを記録できる日記は非常に役に立つと考えます。

受験期はストレスが多いと思いますが、その先の大学生活に胸を躍らせつつ、今の時期しか経験できない生活を大切にしてほしいと思います。

龍谷大学 経済学部に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
長命ヶ丘中出身

わからないことをそのままにせず 先生方に質問し解決しましょう

■文章力を鍛えるために何度も
先生に添削して頂きました

私が、指定校推薦を視野に入れ始めたのは高校3年生の夏頃です。私は、総合型選抜で大学に進学しようとしていましたがうまくいかず、進路を考えているときに担任の先生に勧めていただき指定校推薦を考え始めました。仙台育英は多くの指定校推薦枠があり、多くの選択肢があることを知り、指定校推薦で進学することを決めました。

私が指定校推薦を勝ち取るために行ったことは、良い成績を維持することはもちろん、文章力を鍛えることに力を入れました。自分は文章を書くのが上手な方ではなかったため、文法について調べたり、漢字の本を読んだりして知識を増やしました。そして先生方に何回も文章を持っていき、添削をしてもらいました。とにかくわからないことは先生方に質問をすることが大切です。わからないことをわからないままにしてしまうことが一番良くありません。

指定校推薦を選ぶ際に注意をしなければならないのが、出願資格を確認することです。指定校の中にはさまざまな条件をつけている大学があります。しっかりと自分で情報収集をすることが大切です。

指定校推薦を獲得するためには、普段の勉強を頑張り、評定をしっかりと取っておくことや、文章力を鍛えておくことが大切なので早いうちから意識して生活するようにしてください。みなさんが志望大に合格できることを願っています。

立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
松陵中出身

自分についてじっくり考える時間を 作ることで進路が見えてきます

■偏差値だけで進路を選ぶのは 得策ではないと気付きました

私が大学入試で大切にしていたことは、大学よりもまず先に自分を知ることです。最初は、先生に言われた通り大学のパンフレットを見てみたり、偏差値のランキングを見てみたりと大学について知ることから始めました。しかし、それでも自分の行きたい大学は見つからず、周りの子が偏差値の高い大学を目指していることから、私も進路希望調査にはとりあえず偏差値の高い大学の名前を書いていた。そんな時、私は三者面談がきっかけで初めて親と進路について話し合ってみました。すると、私が志望先にしていた大学は留学が必須であることが分かり、親には大学の学費と留学の費用を同時に払うことはできないと伝えられました。その時、私は大学についてもほとんど知らないけれど、その前にまず自分の状況すらも理解できていないのだと気づきました。

■高校生活を丁寧に振り返り 最適な進路に出会えました

それからは、自分のことや自分の身の回りのことをなるべくすべて書き出してみました。例えば、現在国際バカロレアを受講していて、兄弟は同時に大学に進学して、英検は準一級を取得しているなどです。こうして自分のことについて書き出してみた時、やっと自分の選択肢が徐々に見えてきました。まず、国際バカロレアは最終試験があるため、大学入試はなるべく後回しにしたいと考えました。また、英検など英語に関わる検定を利用して出願できる大学が良いと思いました。すると、おのずと自分に合った入試方法は、検定を生かして進路が比較的早く決まる指定校推薦であると分かりました。そのため、私がこれから大学進学をめざす皆さんに一つお話しをするのであれば、大学の偏差値や口コミを調べることも大切ですが、その前にまず皆さん自身についてよく調べて欲しいと思います。そうすることで、少しずつ自分が目指す場所や今やらなければならないことが見えてきます。焦らずじっくり自分について考える時間をとってみてください。

立命館アジア太平洋大学 国際経営学部に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
松陵中出身

家族など周りの人に相談して 進路決定の糸口が見つかりました

■グローバル規模で活躍する 経営者を目指しています

初めに、大学進学を目指した理由は、まず経営者になるための知識を養うことです。そして、グローバルに起業するためには、世界中の人々とのネットワークを構築する必要があると考え、大学はそれをするための良い環境だと思ったからです。

次に、指定校推薦を選択した理由は、私は2年生から国際バカロレアを受講していたからです。国際バカロレアの最終試験と受験の期間は重なっており、大学合格と国際バカロレア資格の取得を叶えるためには、大学の受験を少しでも早く終わらせる必要があると考えたからです。

また、推薦入試合格のために心がけたことは、評定を落とさないように、提出物やテストなどは真剣に取り組むことです。また、IB生の場合は、試験結果だけでなく、授業のディスカッションなどに積極的に参加しているかや、提出物のクオリティーなども大きく反映されるため、試験以外の過程の部分も手を抜かずにやるのが大事です。

■大学でどう成長したいかを 考えて進路をきめましょう

次に、私が思う大学は、大学はあくまで人生の過程であり、どこに行くかよりも、自分が大学でどんなことをしてどんな人になりたいのかが重要だと思います。大学に行くことが目標だと、大学に進学後、自分が本当にすべきことを見失ってしまうため、進学前は常に自分は大学に行った後何をすべきが考えることが大事です。そして、周りが自分の大学に対してどう思うかに囚われずに、自分が本当に幸せに生きるために、学びたいことが学べる大学を選びましょう。

最後に後輩たちへの激励の言葉を述べていきます。私は、2年生の頃、校内模試の順位は3桁で、成績もそこまでよくなかったです。さらに、行きたい大学もなくて、志望大を何度も変えることがありました。高校生でやりたいことを見つけることは難しいと思います。それは私も同じでした。しかし、家族、親戚など色々な人に意見を貰ったことで自分が本当にやりたいことが見つかりました。そこからは、志望大や受験形態を決めるのは早かったです。そして、この二つが決まってからは、自分が何をすべきかが明確に見えたので、それに向かってひたすら取り組みました。その結果校内模試の順位を50番以内に上げることができました。なので周りの大人から意見を貰って、やりたいことを見つけて、そこから志望大、受験形態を担当の先生とよく話し合っ、目標を決めて努力すれば必ず志望大合格につながると思います。頑張ってください！

東北芸術工科大学 デザイン工学部映像学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
北仙台中出身

色々な経験をすることと自ら学ぶことは どんな進路にも大きな力になります

■評定平均の維持の重要性を

3年次に実感しました

私は、志望大学の指定校推薦があることから仙台育英を進学先を選びました。入学当初から大学進学を指定校推薦と決め、校内選考の通過を目標に学校生活を送ってきました。

指定校推薦で進学をするには、大学入試の前に校内選考を通過することが絶対の条件でした。まず、校内選考を通過するために私が力を入れたのが定期考査と資格の取得です。

定期考査では、1年次から評定平均を上げる、そしてそれを保つことを心がけてきました。評定平均は、校内選考だけでなく、大学の受験資格の条件としても提示されていました。志望大学の受験資格すらない、というようなことにならないように、1年次の第1回定期考査から各教科、点数が悪くならないよう気をつけてきました。実際、3年生になってから、評定平均は1年生の頃からの積み重ねが大切だと改めて感じるが多々ありました。

■資格取得により自分の価値を

高めることができます

また、資格の取得に関しても、評定平均と同じく大切なことだと受験を通して感じました。資格取得の一番のメリットとしてあげられるのは、自己アピールの大きな武器になることだと思います。受験の書類に書けることはもちろん、面接で自分が力を入れてきたことを結果として相手に伝える事ができるのが資格だと私は考えています。資格を取ることは大変なことではありますが、その分自分の価値を上げることができるのは間違いのないと思います。簡単なものでも、あるのとないのではそれなりの差があると感じています。

私は3年間、この二つのことを心がけて、受験を迎えました。受験を終え、学校生活を振り返ってみても、評定平均と資格の取得は絶対にやっておくべきことだと身をもって感じました。そして、個人的にたくさんの経験をする事や、進みたい道の分野に触れることも大切にしてきました。それぞれ、人によって進路は異なりますが、経験をすること、自ら学ぶことはどんな道に進むにしても大きな力になると思います。大変なこともあるとは思いますが、志望大学目指して頑張ってください。

東北公益文科大学 公益学部公益学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
東向陽台中出身

人として成長し夢を実現できる進路を 選ぶためにしっかり勉強しましょう

■校内模試で高順位を取り 進路を決めようと考えました

私は、高校生になった時から大学には行きたいと考えていて、その時から教員の免許が取れる大学に行こうと考えていました。大学に行くということを考えた時に、私は指定校推薦を利用して大学に行こうと考えました。校内模試の時に私は行きたい大学をまだ決めきれていませんでした。しかし、点数を取らないと選ぶ権利はないので、行きたい大学は決めきれていませんでしたが、順位を良くするために日々の英語の授業と国語の授業を真剣に取り組みました。私は校内模試に向けて勉強を始める時期はとてもぎりぎりでした。しかし、私は高校1年生の頃から特に評定を5にするためにテスト勉強などに取り組んでいました。1つの教科を深く学ぶのではなく、色々な教科を満遍なく勉強することを意識しました。授業を受け、テスト前に勉強をしたら点数はとる事ができます。自分の努力次第です。

■大学でも自分自身を高め続け レベルアップしていきます

私は硬式野球部に所属していました。練習の時間も多く、たくさんの部員もいました。その中でメンバーを目指し、全員で、日本一を目指していました。私はメンバーを目指す中でたくさんのことを学ぶことが出来ました。野球面だけではなく、挨拶や礼儀など社会人として必要なことを学びました。周りとの協調を大事にしたり、周りの環境を綺麗にしたり、部活動に所属すると教室では学べないことが学べると私は考えています。

私は目標をもって大学に行くことができます。教員になるために学べることができます。

大学を選ぶ際には、自分の夢ややりたいことが出来るところを選んだり、自分を高められるところを選んだ方がいいと思います。そのためには高校1年生の頃から見据えて勉強をしなくてはなりません。

私は大学で自分を高め人としてレベルアップ出来るように精進していきたいと考えています。

東北学院大学 法学部法律学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 技能開発コース卒
宮城野中出身

仙台育英の先生方の分かりやすい授業で 学ぶ楽しさを知り進学を決意しました

■地方公務員を目指す環境が 整っているので志望しました

指定校推薦で東北学院大学法学部法律学科に合格しました。

私は、高校入学時から大学進学を目指していました。ですが、私は中学生の頃勉強が得意な方ではなかったため、大学に進学することは困難だと思っていました。

しかし、先生方のわかりやすい授業やサポートのおかげで自分の学力が上がっていくのを実感し、勉強が得意になり、学ぶことの楽しさを知ることができました。様々なことを学び、自分の視野をもっと広げたいという思いから、大学に進学したいと考えるようになりました。

地元宮城で公務員になって働きたいという思いがあった私は、東北学院大学のオープンキャンパスに行き、特に法学部法律学科にとっても魅力を感じました。法学部法律学科は、公務員の勉強が専門的にできるコースがあり、公務員試験への対策講座が充実しているため、私の夢を叶えるには最適だと思い、受験を決めました。

■授業で学んだ内容を 毎日確実に理解しました

私が指定校推薦を取るにあたって、特に努力したことは、毎授業確実に理解することと、毎日机に向かうことです。小さな積み重ねをすることはなかなか難しいことではありますが、諦めず、努力することで入学当初から良い成績を維持し続けられました。

その結果、第一志望の大学の指定校推薦をいただくことができました。

大学の試験は、小論文のみでした。小論文は、あまり書く機会がなかったため苦手意識を持っていましたが、国語の先生に添削をお願いしたり、過去問を何度も解くことによって、徐々に書けるようになりました。

入試当日は、とても緊張しましたが、家族や友人、先生方の応援とこれまでの練習の成果もあって力を出し切ることができ、無事大学に合格することができました。

最後に、後輩の皆さんへ。

私は、高校3年間を通して、明確な目標を持つことと、何事にも諦めず全力を尽くすことが大切だと感じました。

周りの人々に感謝の気持ちを忘れずに、充実した学園生活を過ごしてください。

仙台育英で培った経験を糧にして、大学でも頑張っていきたいです。

東北学院大学 工学部電気電子工学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
成田中出身

一生に一度の高校生活を精一杯楽しみ 実りある3年間を送りましょう

■英語の勉強を怠ったことを 今では後悔しています

初めまして。この文章を読んでいる君がどこの誰かは分かりません。どんな思いで今を生きて、もがき苦しんでいるかは分かりません。そんな中この文章と出会ってくれた君たちより先に高校を卒業し、受験という君たちが直面している問題を乗り越えてきた私だからこそ与えられるヒントを大学合格体験記という形で記していこうと思います。

まず初めに、私は指定校推薦で大学に受かりましたが、この高校では3年次の6月に校内模試という全コース同じ試験を受けます。端的に言えばこのテストで良い点数を取れば推薦が取れるということです。国数英の3教科ですが理系は数英、文系は国英の点数で順位が決まります。私は理系なので数学を重点的に勉強しました。正直数学は元から苦手であれば、3月頃から高校で習った範囲を全部復習したり、校内模試の過去問をやれば心配ないと思います。問題は英語です。私は英語をやらず数学だけにシフトしたことを後悔しています。もちろんその判断のおかげで数学で高得点を取ることができ推薦枠をいただくことができましたが、英語は絶対に勉強すべきです。文系でも理系でも英語は必須科目だし将来的にも必要になると思います。

■友達と競争することで 成績が上がりました

次に定期考査です。まず校内模試の点数が良くても、各大学ごとに決められた評定に達していないと点数を貰えません。私は1年次の最初のテストはクラスで下から3番目の順位でしたが、あることを心がけることによって評定がオール5、クラス1位になることができました。1つ目は自分と同じぐらいの成績の友達と競争することです。最初は友達に自分の成績を見せるのが嫌でしたがテスト後に見せ合い競争することで闘争心が湧き、自ずと勉強のモチベーションが上がると思います。2つ目は勉強スケジュールを上手く組み立てることです。この高校はテスト日がだいたい5日から6日に分けて配分されます。例えば1日目が数学と日本史なら早めにこの二つを勉強しておくなど、その時のテスト日程によって、勉強する時期を上手く決めて実行できるかが高得点につながると思います。また、勉強面以外にも大切なことはあります。私は3年間で遅刻、早退、欠席がゼロです。当たり前のことですがこれらを3年間続けられた真面目さが高校生活を充実したものにしてくれたことは言うまでもないでしょう。

ですが、何より一生に一度の高校生活を楽しんでもらいたいです。これから何が起きるか分からない不安と葛藤の中、更にコロナというこのご時世。今や誰もが数年先すら見えないレールの上を必死で歩んでいます。私はもう卒業ですが私の高校生活は不完全で発展途上です。やってもやらなくても後悔はするし、このように思うことは仕方のないことだと思います。だからこそ、極端に言えばいつ死んでしまってもいいと思えるくらい今を大切に充実したものに勉強面、生活面でも実りある自分だけの高校生活を送れることを願っています。

東北学院大学 工学部環境建設工学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
秋保中出身

日々コツコツと努力を積み重ねることで 不可能を可能にすることができます

■ニュースや新聞に耳を傾け 話題の引き出しを増やしました

私は東北学院大学工学部環境建設工学科に学校型推薦で合格しました。進路達成に向けて、行ったことを説明します。
私はライフル射撃部に所属し、副部長兼総務を努めるとともに市民戦1位などの成績を残しました。また、学校の皆勤賞はもちろんのこと部活動でも3年間皆勤賞を取り続けました。勉強面ではテストの順位を一桁台に維持し、校内選考で志望大の推薦資格を得ることができました。

大学に合格するために小論文をひたすら書き、特に小論文ならではの言葉遣いを勉強しました。また、時事問題や専門的な問題の際、困らないようにニュースや新聞から国内や世界中で話題となっていることを調べました。その結果、一つの話からたくさんの引き出しを作ることができ、より良い文章を書けるようになりました。

■高校で学んだ知識を土台に 今後も勉強を続けていきます

最後に私が一番力を入れたことは資格取得です。ICT関係の知識や技術を学べる情報科学コースへ入学したことにより、今までパソコンさえ扱えなかった私がデータ処理やプログラミングなど様々な専門技術を身に付けることができました。その結果として、MOS (Microsoft Office Specialist) の称号 MOS Associate と MOS Expert を取得することができました。その他にも情報処理検定1級や文書デザイン検定1級、プレゼンテーション検定1級など多くの資格を取得しました。これらの資格を勉強したことにより、学校でのレポートやプレゼンテーションの作成などに役立っています。

これからは情報化社会になっていくので、今までの知識を生かして、大学での課題や将来の仕事など幅広く活用し、よりよい生活をつくるために勉強を続けていきます。

後輩へのメッセージは、自分は努力型で勉強や部活などでできないことは毎日コツコツ行い、成果を出してきました。ぼーっとしている時間や空いた時間に英単語や化学式を見るだけで意外に覚えられていくので、時間を有効に使うことや日々の積み重ねが大切だと思います。

東北学院大学 人間科学部心理行動科学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
仙台第二中出身

受験までの時間は想像以上に短いので 後々納得できるように過ごしましょう

■部活動に集中するために 授業も真剣に受けました

私は学校推薦型（指定校推薦）で東北学院大学人間科学部心理行動学科に合格しました。
まず、担任の先生をはじめとした私の進路決定に関わってくださった先生方に感謝を述べたいです。ありがとうございました。

私は3年間、硬式野球部に所属していました。そこではスポーツ推薦を使用してとりあえずどこかの大学に進学しようと漠然と考えており、最初は指定校推薦を使って進学するつもりはありませんでした。

私は3年間のほぼ全ての時間を部活に費やして、具体的なアドバイスや試験のテクニックのようなものはあまりうまく説明できませんが、私は自分の校内模試という体験に基づいた教訓を後輩たちにアウトプットできればと考えています。

私の所属する硬式野球部は部活に費やす時間が他の部よりも長く、普段の勉強時間は自分が思うように確保できていませんでした。そこで放課後や寮でまとまった時間がない分、授業中にできることはすべて時間内に終わらせるということを意識していました。具体的にはその日の教科書のページに載っている英単語はすべて覚える、のような簡単なことです。そんなことをしていると気が付けば3年生に進級していました。

4月からは試合続きで特に模試の対策をすることもなく、あっという間に当日を迎えていました。新学期になってから当日までのこの時間は私の人生で最も早く感じました。今、自分たちが思うよりも時間は短いということを後輩たちには一番理解してもらいたいです。問題を解いたり、英単語を覚えることはもちろん点数や順位に直結しますが、与えられた時間を認識することの方が優先順位は上だと私は思っています。数ヶ月後の自分が納得できる形で過ごしてください。

■分からないことを放置すると 点数や順位に影響します

また、指定校推薦は校内模試の順位が高ければ高いほど、自分の選択の自由度は上がっていくということもしっかり分かってほしいです。当たり前に見えるかもしれませんがこれについても一度考えてほしいです。言い換えるとすれば、1問のミスを防ぐだけで見える景色が変わるということです。もしかすると、今あなたが何気なく読んだこの文章の中に読めない漢字があったかもしれません。それを雰囲気を読み進めたり、分からないままにしないでほしいということです。その1文字が1問に変わり、それが点数になり順位として現れる。それがあなたの向こう数十年になると影響は大きいのではと私は考えます。

私は少し大袈裟に書いたかもしれませんが、あまりネガティブにならずに「今の頑張りが未来の自分の助けになる」と思って日々を丁寧に過ごしてください。数ヶ月後、自分の行きたかった大学へ合格していることを心より願っています。

東北学院大学 国際学部国際教養学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
蒲町中出身

定期的に小さい目標を立てると 自分を見つめるきっかけになります

■英検対策が校内模試で 大いに役立ちました

私が志望大を明確に決めたのは3年生の夏になってからでした。私が志望した学科は新設で、前例もなかったため、3年生の夏の面談の段階でもどの受験方法で受けるかとても悩んでいました。しかし、指定校推薦の校内選考が始まる1か月ほど前に指定校枠ができることが分かり、指定校推薦で出願することに決めました。私は、志望大を決めていなかったときから、志望大を見つけたときに出願すらできない状況に陥ることは避けたかったため、毎年何かしら自分の力になり、かつ調査書に書ける英検や漢検などの試験を受験していました。特に、英検の勉強は校内模試の際にも役立ったように感じます。校内模試は全てのコースの人と順位を競うことになる重要な試験ですが、英検の際に英単語の勉強に力を入れていたため、長文読解もあまりストレスを感じることなく解くことができました。

■受験期に心が疲弊しないよう 自信をつけておきましょう

志望大への進学が決まった今、振り返ってみて思うのは計画と目標を立てることの重要性です。私は3年間部活動もやっていました。部活を言い訳にして、やりたくないことを後回しにしてしまう癖がついてしまい、学校の定期テストと外部検定試験が重なり、追い詰められる環境を自分で作ってしまったことを後悔しています。ストイックに自分を追い込む人もいますが、私は追い込まれると心が落ち込んでしまうタイプなので、母に強く当たってしまうことも多々ありました。3年間という時間はあっという間です。貴重な時間を楽しく過ごしたいと思うのも当然です。ただ、1年生のうちから定期的に小さな目標を立ててみてください。自分のレベルを測り、自分自身を認められたり、見つめなおしたりするきっかけになると思います。受験期に入ると何か短い期限でこなさなければならないことが増え、自然と周りの空気に焦燥感を感じます。そのときに心が疲弊してしまわないようにできるだけ余裕と自信をつけておくと良いと思います。そして、進路に迷っているとき、投げやりな気持ちになってしまうこともあるかと思いますが、大事なことはどんなに時間がかかっても自分で決めることだと私は思います。私自身、周りの意見に耳を傾けるべきと自分の意思をもつべきタイミングを見極めて、納得できる選択をした方がモチベーションの維持に繋がると実感しました。

東北工業大学 ライフデザイン学部経営コミュニケーション学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
大和中出身

自分の殻を割った挑戦そのものが 成功への第一歩になります

■英語力を伸ばしながら 経営を学んでいきたいです

私は、自営業を営んでいる父の影響で、経営関係の仕事に興味をもつようになったことと、将来様々なビジネスの場で活躍できるような英語力を身につけたいと思ったことから、東北工業大学のライフデザイン学部経営コミュニケーション学科に進学することを決めました。指定校推薦での入学を希望していたため、学校生活での行動、授業を受ける態度、提出物の期限など普段から心がけるようにしていました。また、指定校推薦での受験資格を得るためには校内模試での点数が重要なので、過去問題を何回も解く等して対策をしました。私は部活動をしていなかったため、資格の取得にも力を入れました。夏休みなどの長期休暇期間を活用し、学校へ登校して情報処理検定の勉強をしました。私からのアドバイスは、取れる資格はできるだけ全部取っておくことです。取得している資格が一つ多いただけでも受験では大きな違いになります。私自身あの時取得していれば良かったという資格が何個かあるので、やらずに後悔しないように、積極的に挑戦していきましょう。

■学園の動画出演など人前で 話す機会に自ら挑みました

私が高校生活でみなさんに大切にしてほしいことは二つあります。

まず一つ目は、新しいことに恐れず挑戦する「チャレンジ精神」です。新しいことに挑戦する時は、失敗しないかと不安な気持ちになると思います。私は、周りからどう思われているかなど人の視線を気にしてしまう性格で、人前で話すことがとても苦手でした。その性格を変えたいと思い、学校紹介の動画や新入生へのメッセージ映像に出ることを決めました。そのおかげで以前よりも人前で話すことへの恐怖心が減り、落ち着いて話せるようになりました。うまくいかないことがあったとしても挑戦したという事実が必ず力になり、成功への第一歩になります。悔いが残らないように様々なことにチャレンジしてみてください。

大切にしてほしいことの二つ目は短い高校生活を思いきり楽しむことです。高校3年間は長いようであつという間に過ぎてしまいます。将来のために勉強することはとても大切ですが、遊ぶ時は思い切り遊び、友達との思い出をたくさん作ってください。皆さんの高校生活が有意義なものになるよう祈っています。

東北文化学園大学 医療福祉学部リハビリテーション学科理学療法専攻に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
青森 佃中出身

仙台育英生であることを誇りに思い 目標に向かって日々頑張らしましょう

■吹奏楽部では将来役立つ 貴重な経験ができました

私が大学を目指したきっかけは、4年間で豊富な知識を得て、社会に貢献したいと思ったからです。しかし、この大学の指定校推薦を受験しようと思ったのは高校3年生の夏でした。周りの友人は着々と受験の準備を進めており、少しあせりがありました。先生や母との面談で自分の意志を固め、志望しました。私が推薦をもらえるために努力したことは2つあります。1つ目は、学校での生活態度です。授業を受ける時は当たり前ですが寝ないことを目標に姿勢をよくし、大事だと思う部分は教科書にメモをしたり、提出物を忘れずに出したり、自習中は静かに勉強したりしていました。2つ目は、部活動です。私は1年の頃から吹奏楽部に所属し、放課後に活動することはもちろん土日祝日も活動があり、演奏会もたくさん行ってきました。公認欠席をすることも多く定期考査前は辛いところもありましたが、生活面においてコミュニケーション能力や集団行動の難しさや大切さを学ぶことができたと思います。吹奏楽部での経験はこれから先の将来にも役立つものだと感じています。推薦で大事なことは毎回の定期テストでいい点数を取り続けることと、第一回校内模試でいい成績をとることです。まず大前提として、定期テストに限らず2時間でもいいので勉強し、勉強する習慣を作ることが大事だと思います。そうすることで、自分が習った知識が、頭の中に残りやすくなり、テスト勉強する効率が良くなると思います。勉強方法は人それぞれだと思いますが、私の場合は、1年の頃から、復習・予習は毎日するように心がけて2時間以上勉強するようにしていました。定期考査前は、1か月前から本格的に勉強し始め、最初に勉強日程を作っていました。自分なりに大事な部分をノートにまとめ、ワークを3回以上解くなどしました。最初の2週間は、部活動があったので平日4時間、休日は午後からしていました。テスト休みに入ると、平日6時間、休日は10時間以上していました。その結果3年間90点以上をとることができ、今考えれば、この頑張りのおかげで推薦を勝ち取ることができたのではないかと考えています。

■入試本番はその場を楽しむ つもりで臨みましょう

話は変わりますが、今から私が経験した受験内容についてみなさんに教えたいと思います。この大学の入試方法は、志望理由書を提出し、面接を行うことでした。志望理由書では、たった400字の中に自分の熱意を閉じ込めなければなりません。そのため、誰が読んでもしっかり自分の一番伝えたい思いを簡潔にまとめることが大事だと思います。面接では、練習する際は自分の思いを文章にするのではなく簡潔書きで最初はまとめ、どんな質問がきたとしてもその場で考えられるようにし、いかにも事前に考えてきましたという感じを出さないように、たくさんの先生方へお願いし、場数をふむことが大事だと思います。本番では、おちついて、練習通りには絶対いかないと思い、その場を楽しむことが大事だと思います。たくさんの先生方や叔母に練習をお願いしたり、アドバイスをもらったりしたので、私は合格できました。とても感謝しています。ありがとうございました。

今まで長く話してきましたが、受験をする際に一番大切なことは、受験前は新聞を読みニュースについて知り、自分の考えを持つことです。受験前日は、不安に駆られ、寝ることができない可能性もありますが、早く寝てください。当日は、最後まで自分を信じて根気強く、落ち着くことです。これから大変なこともあると思いますが、今から努力した分は、未来の自分に返ってくるので頑張ってください。最後になりますが、私の高校生活はコロナが流行して行事が中止になってしまうことが多く、面接の時は苦労しましたが、利点も多くありました。例えばオンライン授業では授業を家で受けるので自分の空間で静かに先生の声だけ集中することができ、より頭に入りやすくなり、さらに勉強する習慣を作ることができました。また、友達にも恵まれた高校3年間でとても楽しい時間でした。だから私は仙台育英に入学して良かったと思っています。先生方は親身になって相談に乗ってくれましたし、友達と分からない問題を質問しあえる環境があるなど良い環境が整っていると思います。このおかげで大学に合格させていただく事ができました。本当にありがとうございました。みなさんも仙台育英に在ることを誇りに思って一度きりの高校生活なので、目標に向かって頑張りがち楽しんでください。

東北文化学園大学 医療福祉学部リハビリテーション学科作業療法学専攻に
指定校推薦で合格

令和5年3月 技能開発コース卒
向洋中出身

何事も優先順位を決めて しっかりと高校生活を送りましょう

■職業の幅が広がると考え 大学進学を目指しました

私は高校2年生まで、生き物が好きで、動物系の専門学校に進学を考えていました。それなのに、3年生になるとき大学進学を目指した理由は、大学では、仕事をする上で役に立つことが多く学べると考えたからです。そこで、職種について調べているとやりたい仕事が見つかり、大学卒業時に国家試験の受験資格を取得できる大学を志望しました。

私は学校からの指定校推薦枠をいただく為に、しっかり授業を受け、テストでは80点以上取ることを3年生では心がけ、評定5をもらえるように意識しました。1年、2年生の評定平均が大きく上がり、指定校推薦枠をいただけ、志望していた大学に合格することができました。半年、1年で進路を現実に変えることができるので、気持ちを切り替えて行動することが私は大事だと思います。

私は1年、2年生はテストでは赤点をとったこともあり、進路に関しても興味を持たず適当に調べるぐらいだけでした。就活や受験にまだ時間がある人は、学校の授業はちゃんと受けて、優先順位を決めて高校生活を送っていただきたいです！

東北文化学園大学 医療福祉学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
七郷中出身

友人と互いを鼓舞し合いながら勉強し クラスでの順位が上がりました

■進路を途中で考え直して 志望大を決めました

私が大学受験を通して皆さんに伝えたいことは4つあります。

1. 本当に行きたい大学が見つかるまで探す

私は最初違う大学に行こうとしていましたが、本当にその大学でいいのか考えた時に違う大学に行きたい気持ちがあり、高2の夏休みが終わるギリギリで今の大学に変えました。

2. おすすめしたい勉強方法

個人的におすすめした方法は、一人きりで勉強しないことです。一人きりの方が集中できていいという人が多いと思いますが、一人きりだと集中が切れたときに、始めるまでグダってしまったりするからです。友達と一緒にグダることはありませんでした。お互いに負けじと勉強を進めていて、お互いを鼓舞し合っているので一番おすすめです。この方法のおかげで高1はクラスの半分以下だった順位が高3では5位以内を保つことができました。

■モチベーションを保つために 合格後を想像していました

3. モチベーションの保ち方

モチベーションを保つには、先のことを考えていました。自分の将来像など。私の場合は、大学に行ったらどんなことを学べるんだろうとか、どんな友達ができるだろうとか、将来はこんな言語聴覚士さんになりたいとか、自分の好きなことを学びに行く所なので楽しみなことばかり考えてモチベーションを保っていました。

4. 受験生の皆さんへ

大学を決めるのは自分のタイミングでOK！ 周りが決まってきたからって焦る必要はないよ！ 本当に行きたい大学を選ぶこと！ 大学に行くのは自分自身なんだから周りの人の言うとおりにしなくていい！ 後悔しないように！ 自分一人だけで頑張らないで友達や家族の皆と一緒に頑張る！ 周りには頼れる人がたくさんいるからどんどん頼ってみんなで乗り切りましょう！ 受験生の皆さんが第一志望の大学に合格できますように。

東北文化学園大学 医療福祉学部看護学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
中野中出身

部活動と両立するために早くから 自分なりの勉強習慣を身に付けましょう

■定期考査の対策プリントに 集中的に取り組みました

私は、指定校推薦型で大学受験を受けました。まず指定校推薦型では、校内選抜を勝ち抜かなければなりません。そのためにも、勉強をすることが大切になってきます。しかし、私は部活動に所属していたため、勉強時間を確保することがあまりできませんでした。ですから1年、2年の時から自分なりの勉強習慣を身につけることが重要になってくると思います。また、校内模試だけでなく、評定平均値も自分の進む大学に関わってくるので、定期考査でも気を抜いてはいけません。

定期考査での点数をあげるために私が行った勉強方法は、対策プリントをひたすら解きまくるというものでした。先生方が定期考査用の対策プリントを作成してくれます。そのおかげで部活動が忙しかった私でも点数をあげることができました。先ほども書いた通り、日頃から勉強習慣を身につけておくことが大切です。私は高校3年生になってから苦労したことがあったのでぜひ気を付けてほしいです。

■口頭試問対策は基本的な 専門用語を押さえました

そして、入試が近くなると、空き教室やゼミを活用して先生方が面接練習をしてくださいます。私が受験しようと思った大学は面接と口頭試問でした。面接練習で気を付けることは「予想される質問の答えを丸暗記しないで、キーワードごとにまとめて頭に入れること」と「多くの先生と行うこと」です。1つ目の、丸暗記してはいけないというのは、忘れてしまった際に思い出すのが大変だからです。実際の面接では質問された際に受け答えが遅くなるとあまり良い印象をもたれないので、キーワードで整理し、すらすら言えるようにします。2つ目の多くの先生と行うことは、さまざまな質問パターンになれるためです。本番になると緊張してしまい質問の意図を理解するのが大変です。多くの先生に声を掛けて練習をしてみてください。口頭試問については、看護学科なので医療・福祉・看護の基礎的な用語を最初に覚えることが大切です。実際に私が受けた口頭試問は「ヤング・ケアラー」についてでした。ニュースでも医療関係についての記事を読むと、役立つかもしれません。

受験する皆さん、頑張ってください！

東北文化学園大学 経営法学部経営法学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
中国出身

いつ何をしなければならぬかを 把握し計画的に行動しました

■授業以外にも様々な方法で 日本語習得に励みました

私は東北文化学園大学経営法学部経営法学科に合格しました。将来、父が経営をしている会社を手伝い、一人前の経営者になりたいと考えて、会社を順調に経営するためには専門知識やどんな状況にも最適な判断ができる思考力・従業員を統率するためのリーダーシップやコミュニケーション能力が必要となります。専門知識を勉強するため大学の進学決定をしました。

日本の高校を卒業して日本の大学に進学するために、相当な日本語能力が必要であると痛感しました。その為に私は学校の授業だけではなく、放課後の時間にビデオを利用して日本語の自学自習に取り組みました。ボランティア活動をする中で、日本語で会話する努力をしました。その他にも新聞を読み、テレビのニュースやアニメなどから日本語の聞き取りの能力も向上させました。日本語の習得にはクラスメイトとの交流も重要でした。授業や生活面でわからないことをクラスメイトに聞き、教えてもらうことで日本語が理解できるようになりました。日本語能力試験N2に合格して指定校の推薦にとっても役立ちます。私が推薦を選んだ理由は、私の勉強もそんなに上手ではないから、指定校推薦で進学することができれば、私にとっては安心できる方法です。

■文理選択ではしたい勉強や 将来をしっかりと考えましょう

高校生活で自己管理は大事なことです。私は高校生活でいつ何をやらなければいけないかということをしかりと把握し計画的に行動するようにしました。このような自立した生活を大学進学後も継続し、難しい講義についていけるよう頑張ります。

二年生になる時に文理科を選ぶことも大事です。自分が何を勉強したいのか、どんな仕事をしたいのかを考えてから選択してください。

最後に、みんな自分が行きたい大学に合格することを祈ります。

皆、なりたい人になれます。頑張ります。

東北文化学園大学 工学部知能情報システム学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
沖野中出身

行事は少なかったですが高校生活は 友人と楽しく過ごすことができました

■ eスポーツ部では多くの 貴重な出会いがありました

私が大学を目指したきっかけは、高校を目指した時と似ていてパソコンが好きだったので、より知識を深めたいと思い情報分野に関わる学校を目指しました。推薦入試を目指したのは勉強よりも面接の方が自信があったことと、学校の成績も悪くはなく先生方にも勧められたので挑戦してみました。面接は何度も練習しました。

部活動ではeスポーツ部に所属していました。私は副部長をやっていて、私が行っている部門のチームリーダーでもありました。リーダーをやることは初めての経験だったので自分に出来るのか不安でした。しかし、チームメイトや先輩方などにサポートなどしてもらい少しは良いリーダーになれたと思います。とても良い経験となり、面接時にも有利になりました。部活動内で私が心がけたことは交流を多く行いました。1年の時は先輩や顧問の先生などによくお話しして、コツなどを教えてもらっていました。いろいろな人と出会い、一緒にゲームなどするような仲になったりとおもしろい経験が出来ました。

■ 資格は知識が深まるので 数多く取得しましょう

高校での勉強方法はやはりコツコツとやるのが大事だと思います。しっかり授業を聞き、わからないことは先生方に教えてもらうなどすると良いと思います。資格などの勉強などは友人と行ったりしました。資格は、私は情報処理検定の2級を取ったのですが、もっと他にも取っておいた方が良かったなと思います。受験時に有利になり、情報に関する知識が深まるので取ったほうが良いと思います。

高校生活は自分にとってとても楽しかった思い出です。友人と楽しい日々を過ごせて良かったです。後輩の人達はしっかり高校生活を楽しみ、しっかり勉強してほしいです。これからも頑張ってください。

東北文化学園大学 工学部知能情報システム学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 技能開発コース卒
丸森中出身

オープンキャンパスに積極的に参加し 講義や環境を自分の目で確かめましょう

■オープンキャンパスに参加し 進学の目的が見つかりました

私は、3年生の夏まで、石巻専修大学へ行きたいと思っていました。しかし、石巻専修大学へ行って自分が何をやりたいのかを見つけられず、とりあえず大学へ行って学びたいという程度だったため、受験への不安が高まるばかりでした。そんな中、兄の通っている東北文化学園大学のオープンキャンパスで、自分のやりたいことを見つけることができ、東北文化学園大学に進路を変更し他の人たちよりも対策勉強などは遅れたものの、無事合格できました。

1, 2年の時からこういうことがしたい、このような事についてより深く学んでみたいというような、具体的な考えを持っている人は、そのために何を準備すべきか、どんな勉強をしておくべきかなどを考えておくの良いと思います。他にもオープンキャンパスに積極的に参加し、自分がやりたいことができるか、自分に適した環境なのかを実際に行って、自分の目で確かめることも大切だと思います。

これらの事を3年生までに行うことで、よりスムーズに進路を考え、何の心配もせずに受験勉強に集中できるようになると思うので皆さん頑張ってください。

東北文化学園大学 現代社会学部現代社会学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
多賀城第二中出身

仙台育英は指定校推薦枠が豊富なので 大いに活用しましょう！

■先生方と入念に対策したので
落ちついて面接できました

初めは、指定校推薦を考えていませんでしたが、3年生の夏の面談の時に、担任の先生から指定校推薦のお話をいただき、エントリーしました。校内選考を通った後、面接の準備をしました。面接の練習を先生方にご指導していただいたので、受験当日は緊張しましたが、落ちついて対応できました。おかげで合格することができました。先生方には、感謝しています。

仙台育英には、大学からの指定校推薦の依頼がたくさんあります。これから大学進学を目指している人たちは、ぜひ活用してみるといいと思います。

私は、コロナ禍の中、スタートした高校生活でしたが、楽しい3年間を過ごすことができました。

後輩の皆さん、目標達成できるように頑張ってください。

東北医科薬科大学 薬学部薬学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
上杉山中出身

普段の生活から受験まで先生方に アドバイスを頂き参考にしましょう

■薬剤師になるのが夢なので

この大学を志望しました

私の第一志望である東北医科薬科大学が指定校推薦で受験できることを知り、本格的に指定校推薦での受験を検討し始めたのは2年生の後半でした。私は薬学に興味を持っており、将来の夢である薬剤師になるためにこの大学を志望しました。

指定校推薦での受験ができるかどうかには学習成績概評、資格、部活動、ボランティア活動、などが深く関わってきます。私はボランティア活動や部活動をしていませんでしたが、指定校推薦の受験資格を得るために良い評価をとることを普段から意識して、課題の提出や授業態度に気をつけながら生活してきました。テスト前に提出するワークなどは、普段からまめに解いておかないとテスト前にそればかりにばかりきりになって、勉強する時間が無くなってしまうので徐々に進めていくことを心がけました。先生の話を注意深く聞き、期末テストでは75点以上を目指していました。

■大学のイベント等の情報を

まめにチェックしましょう

また、3年生になると受験勉強に傾倒していくようになるため、英検などの資格は早いうちから積極的に取っておくようにしました。大学のオープンキャンパスやイベントは、定員がいっぱいになってしまい参加できないこともあるので、できる限りこまめに情報をチェックして早めに参加予約をしたりするよう注意が必要です。実際に行ってみると、よりその大学に入学したいという思いが強くなることも多く、私はオープンキャンパスでより詳細にその大学の設備や学習環境等を知り、改めてこの大学に入学したいと再認識できました。

受験対策としては入試で課される小論文や面接対策など先生方が丁寧に行ってください、自信をもって本番の入試に臨むことができました。大学の志望理由や将来なりたい職業を明確にし、熱意をもって相手に伝えることが大切です。普段の生活から受験に関する事まで、一人だけで考えるよりも仙台育英の整った環境を活かして先生方に意見やアドバイスをいただき、自分を磨いていくことが大切だと思います。

宮城学院女子大学 学芸学部人間文化学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
蒲町中出身

自分が将来どうなりたいのかを 1年次からしっかり考えましょう

■担任の先生のアドバイスで 指定校推薦で受験しました

私が指定校推薦で大学に入学しようと考えたのは高校3年生の時です。それまでは、総合型選抜での入学を考えていたため、指定校推薦は意識していませんでした。しかし、担任の先生からのアドバイスにより指定校推薦も選択肢に入れ、その中から自分に合った大学、学部を見つけたため指定校推薦を希望しました。

学習面では、定期考査や校内選考で良い成績を取るために、自分の得意な教科だけでなく苦手な教科にも取り組むといったことをしてきました。また、授業中や定期テスト時に出される課題等を期日通りに提出するなどを心がけていました。

生活面では、私は部活動に所属していなかったため、高校での日々の生活に力を入れていました。例えば、授業での先生方からの間に対しても積極的に答えることや、授業での必要な物を忘れないようにするなど心がけていました。

■あっという間の3年間を 有意義に過ごしましょう

大学入試では、小論文や面接などの試験が出てきます。小論文は、学校での講習だけでなく自分で過去問を取り寄せ解いてみるといったことをしたほうが良いと思います。面接では、面接練習を繰り返し行い、たくさんの先生方と練習をしてもらうのが良いと思います。また、どんな質問が来たとしても慌てず答えられるように練習した方が良いと思います。

後輩の皆さん、高校3年間というのはあっという間に過ぎてしまいます。1年次からコツコツ勉強に取り組み、資格なども積極的に取りに行くなど始めても損することはありません。これを怠らずに積み重ねて行き、自分の将来についても良く考え、自分がどうなりたいかを見直してみてください。また、高校生活の中で先生方や友人などの交流を重ね皆さんにとって有意義な3年間になるよう応援しています。

宮城学院女子大学 学芸学部心理行動科学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
東豊中出身

小論文も面接もこれまでの傾向を分析し 繰り返し練習して慣れておきましょう

■部活動の頑張りを入試で

アピールしたいと思いました

私が指定校推薦で大学に進学しようと思ったのは高校2年生になった時でした。指定校推薦を選んだ理由は2つあります。1つは私が行きたい大学が私立大学で、毎年仙台育英に指定校の枠があったからです。もう1つの理由は、1年生の頃から勉強だけでなく部活動にも熱心に取り組んでいたため、それを生かせる受験方法に魅力を感じたからです。2年の時に指定校推薦での進学を決めてからも、授業に真剣に取り組む、定期考査で高い成績を修め評定も4や5を取れるように努めました。また、部活動にも一生懸命取り組み、指定校推薦書の自己推薦書を書く時や、面接の時などに大きなアピールポイントになりました。あとは、指定校推薦がもらえるかは校内模試の結果で決まるので、それに向けての勉強にも励みました。ですが、もう少し早く勉強を始めるべきだったと感じたので、日々の積み重ねを大切に頑張ってください。

■勉強は受験だけではなく

将来のためにもなります

入試では、小論文と面接がありました。小論文は志望大学の赤本に載っている過去問を解いて、先生に添削していただくのをたくさんやりました。また、他の学校と同じような学科の過去問を解いてみたりしました。最初のうちは時間内に終わらなかったり、文字数が足りなかったりしたので、何問も解いて慣れておくことが大切だと思います。面接も過去に先輩が聞かれたことなどを参考に、自分の答えをまとめて先生方に練習をお願いしたりしました。その他にも、ニュースを普段から見ることや、自分について知っておくことが大切だと感じました。

まだ夢がない人や行きたい大学が決まっていなくても、勉強することは将来のためになると思うので頑張ってください。皆さんの高校生活や将来が良いものになるよう願っています。

宮城学院女子大学 教育学部教育学科幼児教育専攻に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
涌谷中出身

授業は休み時間ときちんと区別して 集中力を切らさずに臨みました

■定期考査は毎回必死で 勉強し評定を維持しました

私は宮城学院女子大学を指定校推薦で受けました。指定校推薦を取れるように、私は1年生のときから良い成績を維持するようにテストは毎回必死に勉強しました。具体的に勉強法は、暗記系では音読をして覚え、計算系では先生から渡されたプリントを何度も解いたり、ネットで同じような問題を探し、たくさん解きました。その他にもワークの問題を覚えるまで繰り返し勉強しました。

勉強するのは大事なことです、普段の生活態度も大切です。当たり前の話ですが、提出物は期限内にしっかりと出してください。特に受験が近づくにつれて提出期限が短い提出物が多くなるので、期限間近に提出するのではなく、なるべく早く出せるように日頃から心がけるようにしておくといいと思います。また、授業は真剣に、休み時間は友達と一緒に話し合ったりと区別をつけて過ごしていました。そのおかげで、先生の大事な話を聞き逃さずに聞くことができ、休み時間も楽しく過ごすことができたので、充実した高校生活をおくることができました。

■自分に合う勉強法を 早めに見つけましょう

最後に後輩に伝えておきたいことが二つあります。一つ目は、私の勉強法は数ある勉強法の一つであり、自分に合った勉強法を使うのが一番いいと思います。私は自分に合う勉強法を見つけるのに1年程かかってしまいました。そのため早めに自分に合う勉強法を身につけて勉強に取り組んだほうが効率よく覚えられると思います。二つ目は、何事にも挑戦してみることです。私はあまり積極的ではなかったので後悔したことが多くありました。私のほうに後悔することが多くなるように、何事にも挑戦してみるといいと思います。始めから失敗することを恐れずに挑戦してみてください！先生方は生徒の頑張りをしっかり見てくださっているので、自信を持って頑張ってください！応援しています！！

宮城学院女子大学 教育学部教育学科児童教育専攻に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
河北中出身

将来が決まる進路を決めるのは あくまでも自分自身です

■当たり前のことを行うのは 意外と難しいものです

小学校入学時に東日本大震災を経験し、それから小学校教師を目指すようになりました。そのため、仙台育英に進学したのも指定校推薦が多く、国を超えた繋がりができると思ったからです。指定校推薦を取るために、日頃から当たり前のことを当たり前に行うことを心がけていました。これは簡単そうに見えて意外と難しく、制服を正しく着こなしたり、学校に休まず行ったりなど、慣れてくると疎かになりがちなることを常に意識して続けました。また定期テストでは、すべて平均点以上取ることを目標にしていました。私は部活に所属しており、最初は勉強と部活の両立が難しかったのですが、隙間時間を有効的に使うようにしました。電車の中で課題を終わらせたり、英単語を覚えたりすることで帰宅後すぐに予習や苦手克服に時間を割けるようになり、時間を有意義に使うことの大切さを知ることができました。

■コロナ禍を経て登校できる 喜びを実感しました

また、志望大は早めのうちに決めることをおすすめします。1, 2年生のうちに多くの大学のオープンキャンパスへ行き、各大学の特色や強みなどを比較することが大切だと思います。3年生になってからでいいやと後回しにしているとすぐに受験はやってきます。大袈裟かもしれませんが、自分の将来が決まる大切な選択の最終決定は自分自身です。誰のせいにもできません。そのため早い段階でいろいろな大学を見て将来何をを目指すのか、それにあって何を学ぶべきなのか自分なりに計画を立てるといいと思います。

高校生活は、新型コロナウイルスの世界的な流行によって思うようにいかないことも多々ありました。オンライン授業が多くなかなか友達と会えなかったり、行事がなくなったりと。それでも、規制が緩和されてからは普通に登校できるようになり行事も行えて、学校に行けることがこんなに嬉しいことなんだと思えた高校生活でもありました。とても濃く、貴重な高校生活を送ることができました。

宮城学院女子大学 教育学部教育学科健康教育専攻に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
岩沼北中出身

努力すれば人は変わることができる 仙台育英の3年間で体感しました

■養護教諭を志す上での

専門知識を身に付けたいです

高校入学時は、将来自分が何をやりたいのかも分かりませんでした。ですが、高校2年生の冬頃養護教諭を志すようになりました。周りと比べて将来の夢を決めるのはとても遅かったと思いますが、そこから大学調べを行っていく中で、養護教諭は看護系の学校で資格を取る人が多いと知りました。ですが私は、養護教諭をして子どもと接する上で、教育に関する知識を備えておきたいと思うことから教育について学べて養護教諭の資格を取れる大学に進学したいと思い、調べるうちに宮城学院女子大学に行きたいと強く思うようになりました。そして、受験することを決めました。入試方法は、3年間部活を頑張ってきたことから、指定校推薦で受験しました。校内模試での成績があまりよくなく校内選考を通過することができるかどうか心配ではありましたが、なんとか通過でき受験資格を得ることができました。指定校推薦で受験ができることになってからは、さらに大学について深く調べたり、過去の小論文問題を解き、国語の先生に添削をして頂いたり、面接でよく聞かれるような質問はノートに箇条書きにまとめ、その後担任の先生など何人かの先生に面接練習にお付き合いして頂きました。入試当日は緊張はもちろんしましたが、今までの練習もあつたおかげか自信を持って臨むことができました。

■書道部の活動で有意義な

3年間になりました

私は、志望大を決めることが遅かったことから少し焦りながら入試の準備を進めてしまったのですが、志望大を決めることが早ければ早いほどできることも多く、焦ることも少なくなると思うので、なるべく早くから自分と向き合い将来やりたいことをだいたいでも決めておくことをおすすめします。そして、高校3年間はあっという間です。何か一つでもやりたいことを決めて有意義な高校生活を送ってください。私は書道部に所属したことでたくさんの思い出ができました。コロナ禍で活動が制限されていた中でも、全国大会出場、MVやイベントに出演したりして様々な経験を得ることができました。一瞬だけれど自分次第で大きく変わることのできた高校生活。努力すれば人ってこんなに変わることができるのだと知りました。だからこそこの高校生活を大切に、第一志望合格に向けて頑張ってください。

宮城学院女子大学 生活科学部生活文化デザイン学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
高崎中出身

受験対策は大変ですが気を緩めずに 誠実に取り組むことが大切です

■未知の分野も学べる所に 魅力を感じ志望しました

私は元々専門学校を志望していました。しかし、大学の方が幅広い分野を学ぶことができると思い、短期大学に変更しました。それでもその大学で良いのか決めきれず悩んでいました。2年という短い期間で学び、卒業したら社会人になるという不安など様々ありました。そんな中、担任の先生が声を掛けて下さり、自分に合う文系の大学を調べてくださいました。学べる内容や大学の雰囲気など、パンフレットやインターネットで見た時に自分が触れ合う事なかった分野についても深く学ぶことができる魅力に惹かれ、「宮城学院女子大学」に志望を固めました。

■自分の長所をどう生かすかを 自己推薦書で伝えました

まずは指定校推薦での出願を目標に、準備に取りかかりました。推薦をいただくまでの過程でもとても苦労しました。高校生活での活動や、自分の可能性へのアピールを全て記す自己推薦書を書かなければいけませんでした。始めは書くのに苦戦しましたが、私は、自信の長所である粘り強い探究心があるという所を、大学に入ってからどう生かしていき継続していけるのかをより深く考え書きました。部活動でも、今まで取り組んできた内容や部活内での立ち位置を明確に伝えなければなりません。大学では様々な考えを共有することが多くなると思うので、それを踏まえて相手にどう伝わるのかを常に考える努力をしました。推薦を頂けてからもすぐに受験に向けての準備が本格的に始まります。普段の学校生活と並行しながらの準備になりますが、気を緩めることなく一つ一つ誠実に取り組む事が一番大切だと思います。

受験を終え、合格発表まで不安もありましたが、今までたくさんの先生方に小論文や面接を見ていただき自分自身も最善をつくせたので、合格という結果として出た事がとても嬉しかったです。何に対しても日々の積み重ねが大切なので、今年受験を受ける方は自分の強みを生かして行ってほしいと思います。

仙台白百合女子大学 人間学部子ども教育学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
五城中出身

部活動で多くを学び成長できたことが 受験における私の武器になりました

■ 中学時代の職場体験で 保育に関心を持ちました

私が指定校推薦で大学に入学しようと思ったのは、高校3年生になってからでした。指定校推薦を選んだ理由は、高校3年間の取り組みが重視されることと、早期に結果が決まるため、入学後の準備ができることに利点を感じたからです。

私は、高校3年生の5月頃まで進路が決まっていませんでした。将来どんな仕事に就きたいか考えた時に、自分が興味のあることで、勉強したいと思うものを選びました。中学生の時に職場体験で行った保育園での出来事が印象に残っており、子どもの成長や心理について学びたいと思い大学に進学することを決めました。ギリギリで進路を決め、指定校推薦を受けると決めましたが、高校1、2年生の頃から良い評定を保っていたことで、指定校推薦を受けることが出来ました。進路が決まっていなくても良い評定があれば進路の幅が広がります。あの時やっていたらと後悔しないためにも、1年生の頃から、定期テストに力を入れて学習することが大切だと思います。私は、常に目標をたて、時間を有効的に活用するため、勉強に必要な時間を逆算し、計画をたて勉強することを意識しました。その結果、今までの定期テストではクラスで10位以内、平均点数を80点代にキープすることができ、良い評定を保つことができました。

■ 甲子園で演奏し人前で 緊張しなくなりました

そして、私は部活動にも力を入れていました。3年間吹奏楽部に所属し、たくさんの仲間と出会い、切磋琢磨し、日々の練習に励んできました。新型コロナウイルスの影響で様々な制限がありましたが、吹奏楽コンクールや定期演奏会などその他にも多くの演奏する機会があり、たくさんの貴重な経験を積むことができました。甲子園での応援では、多くの人前に立ち、自分たちの演奏を聞いてもらうことで、人前に立つことへの苦手意識が無くなりました。部活動に真剣に取り組んだことで、協調性や忍耐力、責任感、コミュニケーション能力などを学び、精神的な面での成長もできました。これらは、私の経験値を高め、武器になっています。

私が高校生活を通して感じたことは、高校生の3年間は本当に短く、あっという間ということです。後悔しないように、勉強はもちろん部活動や学校行事にも積極的に取り組んで、充実した高校生活を過ごして欲しいです。

仙台白百合女子大学 人間学部健康栄養学科管理栄養専攻に
指定校推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
宮城教育大学附属中出身

合格するために何をすべきなのかを 逆算して考え行動に移しましょう

■スポーツ選手を食事面から サポートしていきたいです

私は小学生の頃から現在に至るまで多くのスポーツを経験してきました。これまでは競技者としてスポーツを楽しんでいましたが、いつからか競技者を支える立場としてその競技にあった栄養指導を行いたいと思うようになり、仙台白百合女子大学の人間学部健康栄養学科を目指すようになりました。私は指定校推薦で大学受験するにあたり、多くのことを実践してきました。

まずは学習面です。平日頃から定期テストで高得点を取り、評定を落とさないように成績の維持に努めました。最低でも2週間前にはテストに向けて復習を行ったり、分からない問題が出てきた際には先生や友人に聞くなど分からないままにしないように意識して勉強に取り組みました。そのほかにも英語検定や中国語検定などの資格取得に向けて1年生のうちから積極的に勉強に励みました。

次にオープンキャンパスはできるだけ多く参加して自分に合った大学をしっかりと見極めることです。私は実際に5校の大学のオープンキャンパスに参加しました。オープンキャンパスでは模擬授業に参加してみたり在校生の方のお話を聞いたりすることでその大学に入学した時のイメージ像が膨らんでくるのでより自分に適した大学を選択することができると思います。

■志望動機を明確にすることを 面接練習で意識していました

最後に、面接や口頭試問に備え入念な準備を行うことです。指定校推薦は校内選考が通ったら終わりではありません。大学で面接と口頭試問を受けて合格をいただきます。そのため、自身が志望する学科の情報を入念に調べ、かつ自身がなぜその大学を志望するのかを明確化させながら面接の練習を行いました。先生方にも協力していただきながら面接練習を行った結果、面接当日面接官の方からのさまざまな問いかけに対しても動じることなく臨機応変に対応することができました。

このように事前に合格するために何をすべきなのかを逆算して考え、行動に移すことで志望大への合格は近づいてくると思います。応援しています。

仙台白百合女子大学 人間学部健康栄養学科管理栄養専攻に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
上杉山中出身

推薦枠は評定に救われることもあるので 定期テストを大事にしましょう

■管理栄養士になることが
高校入学前からの夢です

私は幼い頃から「食べること」が好きで常に何かを口にしていました。物心が着いた頃に料理に目ざめ、頻繁にお弁当作りや夜食作りなど積極的に行うようになりました。中学生の時に、将来の夢を考えた時「食」に携わる仕事はないかと考えました。調理師という選択もありましたが、好きなことを仕事にするのは端的すぎると思い関連付けられる職種をネットで調べるようになりました。そんな時、テレビで管理栄養が取り上げられていて、これだと直感的に感じたのを覚えています。それから夢は変わることなく管理栄養士を目ざしつつ、高校は部活動も頑張りたかったので大学の指定校推薦が多い仙台育英に入学を決めました。

入学してからはとにかく評定だけは落とさないように定期テストに力を入れ、提出物や授業態度を気にしながら高い評定を取ることができました。そして、3年生の9月に行われる校内審査を経て、目標であった大学の指定校推薦の枠を勝ち取ることができました。

行きたい大学はあっても、指定校推薦の枠を狙うには学力や校内模試の点数が足りず、諦めかけていましたが3年間維持してきた評定が最後に自分を救ってくれました。自分の選択肢を広げる意味でも、高校1年生からの定期テストは大事に取り組んでいくことが進路達成の鍵になると私は考えます。

テスト前たった2週間の頑張りが、将来の夢に繋がると考えたら短くて楽なものだと感じられると思います。夢がまだなくとも選択肢を広げるには大学進学は必須になってくるのではないのでしょうか、私は長い目で将来を見つめることができたので、今満足のいく進路を切り開くことができました。

仙台白百合女子大学 人間学部心理福祉学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
しらかし台中出身

部活動に励むことで成長に繋がり 入試でも様々な面で有利になります

■部活動では育英祭の参加など とても充実していました

私は高校入学当初から大学へ進学したいとは思っていたのですが、夢がなかったため具体的に「どこの大学でどの学部に行きたい」というのは決まっていませんでした。それでも、推薦に関わる評定はキープしたいと思い、高校1年の時から定期考査で高得点を取れるよう努力してきました。

高校2年の6月には、校内模試という指定校推薦枠を取れるかどうかに関わる模試があります。私は、校内模試の2週間前くらいから本格的に勉強に手を付け始めたため納得のいく結果ではなかったため、過去問が配布されたらすぐに取り組み、分からないところがなくなるまで繰り返し問題を解いた方がいいと思います。英語は全て長文で苦戦したので、日頃から英文を読む癖をつけ、単語の知識を増やすことが大切です。

また、私は3年間を通して部活動を頑張りました。育英祭に参加したり県外で活動したりと、有難いことにたくさん活躍の場を頂けました。そのため、自己推薦文を書くときや面接で話すときに困らなかったので、勉強以外にも力を入れて3年間所属して良かったと感じています。部活動に所属することは自分自身の成長にも繋がり、校内選考や大学入試でも有利になるため、所属した方がいいと思います。

■大学の個別相談で伺った 入試情報を活用しました

指定校推薦の受験資格を得ることができてからは、口頭試問と面接の対策をしました。口頭試問は出題が大学から送られてきてそれについて調べたり考えたりしたことを答えます。私は大学の個別相談に行き、どんなことを聞かれるか、前年度はどんなことを聞かれたか、を教えてくださいました。それを元に調べたことをノートにまとめてひたすら暗記しました。面接対策では、昔の面接内容のデータを先生に頂いたり、聞かれそうな質問を書き出したりしてそれにどう答えるかを考えました。特に志望理由は絶対に聞かれると思いますので、どこを突っ込まれてもいいように具体的に、深く考える必要があります。放課後に何人もの先生と面接練習を重ね、アドバイスを頂き、改善することを繰り返し行ったため本番でもなんとか乗り切ることができました。

少しでも皆さんの参考になれば嬉しいです。志望大合格に向けて頑張ってください。

尚絅学院大学 人文社会学群人文社会学類に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
矢本第一中出身

学校生活と勉強、部活動を上手く両立し 充実した3年間を過ごしました

■友達と一緒に問題を考え 解いたのが効果的でした

私は、この大学のオープンキャンパスの説明会で、指定校推薦を初めて知り、先輩方たちからの実際の体験談を聞いた際に指定校推薦の魅力が多く知ることが出来ました。私が志望とする大学には推薦の枠がありました。推薦を得るために、定期考査、英検、自宅での自主学習に力を入れてきました。

まず定期考査では、普段の授業で先生方が言った重要な点を抑え、教科書や授業などに印を付けることを日々の心がけとし、友達たちと協力しながら分からない問題を一緒に解き、お互いが理解出来るまで考え合い定期考査対策へと繋げていきました。これらの対策を取ることで、テストを実際に解く際にも友達と考えながら問題と同じ様な問題を出題されても思い返してみることで、すらすらと解くことが出来ました。

■定期考査と英検対策を両立し 時間配分が上手くなりました

次に、英検については高校入学当初から3年間、英検の勉強に励んできました。定期考査で高得点を取ることや課題提出、授業態度で高い平常点を得ることも大切ですが、これら以外にも英検のように資格を取得することで推薦を貰うために有利だと考えました。英検は定期考査と時期が重なりますが、両立して勉強していくために時間配分を考えながら進めていくことや、英検の単語練習が出来るアプリをスマホに入れ、通学途中の電車で解いていくなど英検の教材と照らし合わせながら勉強するなど日々の努力のおかげで英検準2級を取得することができました。

自宅での自主学習では、私自身、部活動には所属していなかったので、勉強に当てる時間が多くありました。平日では家に帰宅してから約30分、夜8時から約3時間、休日では午前、午後に自主学習を進め、自身で立てた計画通りに時間を有効に使うことによってそれぞれの教科に焦点を当てることが出来るので重要な点をしっかりおさえ、文法や公式、人物名などを授業用プリント、教科書の問題を解き、振り返ることでテストの点数に困ることはありませんでした。

高校3年間の中ではもちろん友達と楽しく充実した時間をすることも大切ですが、勉強に専念し、課題提出することを忘れずに評定を落とすことなく、日々の生活と勉強を両立し、楽しく充実した高校生活を過ごしてほしいと思います。

尚絅学院大学 人文社会学群人文社会学類に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
利府西中出身

コロナ禍でも皆で工夫して学校生活を 楽しめたことは思い出になりました

■英語学習に注力したことを 面接でアピールしました

私が大学合格のために頑張った事は2つあります。

1つ目は、資格取得です。3年間で英検準2級取得を目標とし勉強を始めました。英語の授業ではノートを取ることだけに集中せず、先生の解説や教科書の英文を読むCDを意識して聞きました。また、英語の中でも特に苦手な熟語に力を入れました。熟語をただ覚えるだけでなく、英文として覚えることで意味と使う場面を理解することができました。その結果、高校2年生で英検準2級を取得することができました。目標達成後、新たにTOEICで600点以上を目標として勉強を続けています。大学入試の面接でも入学後の英語の学修について質問をされ、自信をもってこれまでの勉強やこれからの目標について答えることができました。

■幅広い分野を学べる所に 魅力を感じ志望しました

2つ目は、自分の興味や関心のあるものを探し、まとめることです。私には具体的な将来の夢がなく、進学するかを迷っていました。しかし、考え方を換え興味、関心があることを探すと、学びたいことや少しでも興味のある仕事がたくさんあることに気づきました。私は、経営学と言語に興味があり、経営コンサルタントや翻訳家、通訳などの仕事に繋がることに気づき、学びたいことを自由に組み合わせることができる尚絅学院大学に進学を決めました。

3つ目は、高校生活を全力で楽しむことです。私達は、学校行事もほとんどなく、高校生らしい理想の3年間ではありませんでしたが、自分達が工夫して学校生活を楽しめた事は、いつか良い思い出になると思います。

コロナ禍で先が見通せず不安な事が多々あるかもしれませんが、勉強も行事も全力で頑張っ、全力で楽しんでください。

東北生活文化大学 家政学部家政学科健康栄養学専攻に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
三条中出身

自分一人で何でも解決しようとせずに 周りの人達に相談してみよう

■受験で緊張していた時の

友人の応援が力になりました

私は指定校推薦という形で東北生活文化大学に合格しました。合格するために心がけていたことは、授業での態度や課題の提出期限を守ることです。先生の話をしっかり聞き、分からなかったところは友達に聞いたりしていました。定期考査の期間は、ワークで復習したり、対策プリントを1回だけじゃなく2回以上解くことを意識しました。大学の面接試験の練習では、面接の基本となる礼儀や面接官に聞かれる質問を想定して、先生や友達と何度も練習し、試験に臨みました。受験で緊張している時は、周りの友達が応援してくれたのがとても励みになりました。

私は3年間部活や授業を通して、問題を解決しないまま置いていかないことを学びました。自分一人では出来なかったことがたくさんあると思います。そのため、周りの友達や先生、両親を頼りにすれば一人で抱え込まずに乗り越えられると思います。これからも一人で抱え込まず、大学生活を送っていきたくらいと思います。

仙台大学 体育学部スポーツ情報マスメディア学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 秀光コース卒
秀光中出身

大学入学後と卒業後の将来設計を 明確にし推薦でアピールしましょう

■面接は本番当日まで

とにかく練習しましょう

私は指定校推薦を利用して志望大への合格を勝ち取ることができました。指定校推薦を受けるためには必須条件を満たしていることが重要です。日々の授業や課題をしっかりとこなし評定を下げないことが基本です。それにプラスして校内模試の結果も重要になります。

その校内模試の結果を受けて私は仙台大学への進学を決めましたが、出願に必要な自己報告書の執筆では、自分の目標やこれまでの進路学習を振り返ることが重要です。私は高校3年次にスポーツボランティアに参加していたこととDPの自主研究をアピールしました。また、大学入学後と大学卒業後の明確な将来設計を書くことも重要です。大学入学後に履修したい科目やその科目の受講を通じてこういう学びを深めたい、将来どのように活かしたいかを書くことがおすすめです。

私が志望した仙台大学では面接と小論文が試験内容でした。私が面接練習で特に対策していた良かったと感じることは、進路選択に不安はないかという質問への対策ができていたことでした。面接練習では先生から「進路に不安はないし家族も賛成して応援してくれる」と答えると良いよとアドバイスをいただきました。実際、本番当日に進路選択に不安はないかと質問されましたが、練習通り落ち着いて答えることが出来ました。面接練習ではいろいろな先生に見てもらうことで様々な視点からのアドバイスを頂けます。本番当日までとにかく練習することが大事だと実感しました。

■教科書には小論文に必要な

知識が十分にあります

小論文は最初は時間内に執筆できず上手くいきませんでした。しかし、執筆の構成として問題提起→自分の意見→反対の立場の意見→自分の意見→結論を意識したら上手く執筆が出来るようになったと感じています。自分の意見を述べる際には具体例があると意見の説得力が増し意見の補強にも繋がります。そのためにも、小論文では知識のインプットとアウトプットが大事だと思います。私は教科書をよく読んで対策しましたが、教科書の知識でも十分に具体例として活用できました。後は過去問を何度も繰り返し解くことと先生に添削やアドバイスを何度ももらい修正すれば良いと思います。

大学を決め、それに向けての準備期間はとても大変だと思いますが、時間に余裕をもって終わらせることがなによりも大事だと思います。頑張ってください。

仙台大学 体育学部スポーツ情報マスメディア学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
玉浦中出身

大学では自主性が更に必要になるので 今のうちから能動的に行動しましょう

■先生方からの信頼が 指定校推薦には不可欠です

私は指定校推薦で大学進学をすることになりました。指定校推薦を取得するにあたり、生活面、学習面、部活動で特に意識してきたことを挙げます。生活面ではまず、体調管理を大切にしてきました。欠席日数が増えてしまうと指定校推薦に関わってくるため、体調を崩すことのないように努めました。また、学校での過ごし方や授業態度、言葉づかいに気をつけました。特に授業態度が悪くなってしまうと担任の先生からの評価はもちろんのこと、全体的に評価されなくなってしまいます。先生方からの信頼、評価があってこそ指定校推薦による大学進学が可能になると思うので注意して生活しました。

■推薦枠獲得後も自主的に 入試対策に励みました

学習面では普段の定期テストの他に、校内模試の勉強に力を入れました。定期テストは赤点を取らないこと、高得点を目指せるようにしてきました。校内模試は3学年全員が受験し、点数の順位によって指定校枠に入れるか入れないか決まるテストでもあります。私は目標にしていた大学に進学できるように勉強に励み、枠に入れることができました。枠に入れた後も油断することなく、大学入試に向けて自己推薦文を書いたり、小論文や面接練習を先生方に積極的をお願いをし、繰り返し練習をしました。最初は小論文の構成や面接の答え方もなかなかうまくいきませんでした。練習を重ねるにつれてすらすらとできるようになりました。大学では高校よりも自主性が重要になってくると思うので練習の時から自ら行動することは大学に入学してもスムーズにできるため大切だと思います。

部活動でも学習面でも学ぶことがたくさんあると思うので、そのような部分を有効に活用していきたいと思います。

仙台大学 体育学部現代武道学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
蛇田中出身

1年次から入試方式などの情報を収集し 推薦基準をチェックしておきましょう

■消防士になるために勉強や 体力づくりに励んでいました

大学を目指すためには、まず入試にどのような入試区分があるかを理解し1年生の時から準備をしなくてはなりません。なぜなら、3年生になってからでは今までの成績によっては学校推薦型（指定校推薦）を選ぶことができなくなります。毎年教室に学校推薦の評定が提示されるので、大学を目指す人は1年生の時から参考にした方が良いでしょう。私も3年生になってから初めて目にしドキドキしたからです。

私は、将来消防士になり火事や災害から多くの市民を救い安心安全な街づくりに貢献したいと思っています。そこで、消防士になるために必要な資格や知識を得られる大学に行きたいと思い1年生の時から勉強を体力向上のため部活動（バレーボール）を頑張ってきました。

指定校推薦について詳しく知ったのは高校3年生の春でした。「校内模試の成績で指定校推薦の枠の優先順位がほとんど決まる」という話を聞き、内心自分は大丈夫だろうか、と心配でしたが、今までの努力が実を結び指定校推薦で合格することができました。仙台大学のバレーボール部は宮城県でも1, 2位を争う大学ということもあり、高校時代に頑張ってきたバレーボールも一流の人達と出来ると大変楽しみにしています。

■苦手だった小論文は先生方のご指導のお陰で上達しました

大学受験で私は、指定校推薦で小論文と面接を受けました。特に小論文を書くことが一番難しかったです。私は、小論文がすごく苦手でした。国語力があまりない私は、文章構成があまりにも酷くて何回も書き直しました。その結果、私が一番納得のいく小論文を書き上げることができました。そして面接は、すごく緊張しましたが先生達のご指導があったおかげでここまでこれました。

私は指定校推薦で受験しましたが、一般や総合型選抜などそれぞれ受ける人はたくさんいると思います。授業に対する意欲的な取り組みや期末テストの結果や評価が大学を受けるための第一歩になるのでそれを大事にし、受験勉強は人それぞれだけど、誰にでも目標があると思うので夢に向かって頑張ってください。

仙台大学 体育学部子ども運動教育学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
柳生中出身

友人とのかけがえのない時間である 高校生活を一日一日大事にしましょう

■ 中学時代の職場体験を機に 保育に関心を持ちました

私が仙台大学体育学部子ども運動教育学科に進学した理由は、中学2年生の時にCSWという仕事を体験することができる機会があり、その時に児童館の仕事を体験し、その時に乳幼児との触れ合いや小学生と交流することが楽しいと思い、将来保育系の仕事に就きたいと思うようになったからです。

私は中学で始めたハンドボールを高校でも続けていました。副部長として適任され自らが積極的に声を出しチームを鼓舞し、メンバー一人一人にアドバイスするなど副部長としての役割を果たしていました。また、勉強面では定期テストの成績を上げるために日頃から予復習を行い、テスト範囲はできるだけ反復練習をしていました。定期考査の勉強以外にも英検の資格取得に挑戦していました。英語が好きな人、将来大学の選択の幅を広げたい方にお勧めです。

■ 面接練習は対応力の 強化を心がけました

私にとって高校生活とは友人とのかけがえのない大切な時間だと思います。今は新型コロナウイルスなどで部活動や学校行事が無くなってしまっているかと思いますが、そのような状況だからこそ、一日一日を楽しく過ごしてもらえたらと思います。

最後に、推薦入試合格のために心がけたこと、努力したことは、どんな質問にも対応できるように違う先生と面接練習をして、どんな質問をされても対応できるようにしておけば良いと思います。また、志望動機や高校生活で頑張ったことなどを具体的な内容を言えるようにしておけば良いと思います。本番の面接に関しては緊張せずに練習したことを発揮してもらえば良いと思います。

もうそろそろ受験が近づいてきますが、各々の合格に向けて頑張ってください。

聖和学園短期大学 保育学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
蛇田中出身

部活動での努力や経験、学びは 推薦入試の殆どの場面で活用できます

■小論文は部活動の経験に 繋がったら筆が進みました

私は学校推薦型（指定校推薦）で入試を受けました。なぜその入試方法を選んだかと言うと、部活動と共に学校生活にも力を入れていたため、スポーツに限らず全体を評価される指定校推薦に挑戦しました。指定校推薦は、定員人数を超えてしまうと、評定と学力で順位が決まります。そのため、入試方法を決めているのならば学力調査にとっても力を入れる必要があります。決まっていなくても、後々のことを考え選択肢が広がるよう、進学を考えている人はまず学力調査に力を入れることが必要です。そして私は高校3年間部活動をしていました。部活動を3年間続けると本当に入試の時役に立ちます。そして活動内容がしっかりしているとより役に立ちます。部活をしていても内容が薄いとどうしても書類や口頭で答える時に困ってしまうので、部活動もしっかり3年間続ける事と活動内容を濃く充実したものにすることが大切です。面接・事前書類・入試、ほとんどの場面で部活動の内容がすごく役に立ちました。面接では部活のことをたくさん質問され、経験の学びを伝えることが出来、部活をしていると面接内容も部活のことを用意しておこうという自分も準備しやすく、面接に少しは自信がつくのではないかと思います。事前書類でも、ほとんど部活動のことを書きました。自分のしてきた事を書くのでとても書きやすかったです。入試当日には小論文がありました。その小論文ではテーマが当日にならないとわからなくて、対策にとっても悩んでいました。想像以上にペンを動かすことが出来ず、何度練習しても自信がつかず諦めそうになるほど辛かったです。ですが、先生のアドバイスで全て部活の経験に繋げて考えてみることにしたらとても書きやすく考えが思い浮かぶようになってきました。

■早くから資格や検定を 取得しておく心安いです

私はコロナの世代で行事やクラス活動などがあまりなく、書くことや答えることにとっても難しい部分はありましたが、部活動や係活動などでも濃い内容にさせることにより入試の時役に立ちました。そこで、部活に入ってる人は積極的に活動し、定期考査や学力調査では1点差で順位が決められ人生の選択が決まってしまうかもしれないのでたくさん勉強をし、自分の力を出し切るよう望むといいと思います。そして、検定など資格取得をすることにより学費が一部免除される制度もあるので挑戦するのいいと思います。

資格や活動内容が多ければ多いほど、入試の時に本当に役に立ちます。そして自分のいい所をたくさんアピールすることが出来ます。まだ大丈夫と言って、後回しにして早くすればよかったと後悔する人がほとんどなので早いうちから資格取得すると焦らず入試を迎えることを出来ると思うので頑張ってください。指定校推薦は、小論文などの配点が高いので小論文の授業もしっかり受けるとより効果的だと思います。受験の時は本当に嫌になる時もありますが、最後まで力を出し切ることで楽しい春の生活が待っています！

仙台青葉学院短期大学 ビジネスキャリア学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
七ヶ浜中出身

進路を決めていなくても出来ることから 確実に取り組むことが大切です

■医療事務など将来に役立つ スキルを身に付けたいです

この大学を目指したきっかけは、医療事務の資格取得のための授業があることに加えて、ビジネスマナーやパソコンスキルなども2年間で学ぶことができるからです。

指定校推薦を受けるために、1学年から定期テストは手を抜くことなく取り組み、校内模試の学習も計画的に行いました。校内模試は定期テストより問題が難しくなり問題数も多くなるので、知識はもちろんなるべく早く問題を解くことも必要でした。私は校内模試の過去問を多く解き、分からないものはすぐに調べるようにして対策に取り組みました。

また、受験の条件にはありませんでしたが、英検も取得しました。大学によっては、英検の取得が条件となるところもあるし、条件にはなくても学費が免除されたりすることもあるので、時間に余裕があるときに英検やその他の検定を受験しておけたら良いのではないかと思います。

志望大が決まっていなくても、資格の取得や普段の学習など出来ることはたくさんあると思うので、自分が出来ることから確実に取り組んでいくことが大切だと感じました。

仙台青葉学院短期大学 ビジネスキャリア学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
利府中出身

たくさんの経験や努力を重ねることで 新しい発見や学びを得て成長できます

■甲子園で演奏したいという

入学前からの夢が叶いました！

中学生の頃の私は、目指したい大学やなりたい職業もなく、唯一持っていた夢が甲子園で演奏することだけでした。正直この夢を叶えたところで受験や就職で有利になるわけでもないのに、ただ一心に憧れて仙台育英に入学しました。

しかし現実新型コロナウイルスの影響により部活動どころか普段の生活さえも思うように送れず、虚しさを抱えたまま時間だけが過ぎていきました。

そんな中、2年生の秋に吹奏楽部の部長を務めることになり、私の中に夢を叶えるモチベーションが生まれました。部長の仕事は一切の妥協をせず責任を持ってやり抜き、仲間とコミュニケーションを取りながら最大限の活動を目指すなど、とにかく自分にできる限りの努力を続けました。すると3年生になってからは定期演奏会やコンクールでも納得のいくステージを作り上げることができ、夏にはずっと憧れていた甲子園で演奏する機会を掴むことができたのです。

それからは、部員や先生方と協力しながら練習や準備を重ねて大会を迎え、甲子園初優勝という歴史的瞬間に、演奏に携われることができました。演奏に耳を傾けてくださったたくさんの方々から「感動した」「素晴らしかった」とSNSやニュースを通してメッセージをいただき、今までの努力が実った気がしてとても嬉しかったことを今でも覚えています。

■吹奏楽部での経験から

目標が見つかりました

私はこのことから、音楽が人に与えるパワーの大きさを実感し、将来も誰かに感動を届ける立場でありたい、と考えるようになりました。イベントやコンサート関係の仕事に興味を持つようになり、企画や運営の面で活躍できるよう、オールマイティに資格を取得できる仙台青葉学院短期大学ビジネスキャリア学科を受験することを決め、合格することができました。

私はこの経験から、夢や憧れを叶えることは自分の中に一生残る思い出となり、新しい目標ができたり自信を持つきっかけになることを実感しました。

今、夢や目標がない人は、もっとたくさんの経験をして視野を広げてみましょう。どんなに小さな夢や目標だとしても、達成するために諦めず努力した過程に意味があります。条件や状況が良くないとしても、物事を多角的に捉え工夫して行動することで、必ず新しい発見や学びを得て成長することができます。

今しかない大切な時間の使い方を決めるのは自分自身です、たくさんの経験や努力を重ねて、後悔しない高校生活を送ってください。

仙台青葉学院短期大学 ビジネスキャリア学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
七ヶ浜中出身

勉強にプラスアルファできることを 見つけ高校生活を充実させましょう

■大学では資格類を積極的に 取得し就職に備えたい

私が大学進学を目指した理由は、検定や資格を取得するためです。私は将来就きたいと思う職業を見つけることができていなかったため、たくさん検定や資格を取得することで、就職の時の職業選択の幅が広がると考えました。また、指定校推薦を目指した理由は、面接をすることで自分自身を知ってもらえることや、直接質問ができるので資料やパンフレット、オープンキャンパスで知ることができなかった大学の特徴を聞くことができるという点です。指定校推薦を得るために努力したことは校内模試です。指定校推薦を得るには同じ大学、学部を目指す人もいるため校内模試で高い点数が大事だと思います。また、推薦なので調査書の内容をできるだけ豊富にしておくことが大事だと思います。そのために私は、部活動で部長を務めたり、高校入試のボランティアに参加するなど積極的に活動してきました。このことが指定校推薦を得ることに繋がったと思います。

■仙台育英の代表としての 意識をもって受験しましょう

大学入試の内容は面接と口頭試問だったので、自分自身を短時間で知ってもらいアピールすることが大切だと思います。どんな質問をされるか分からなかったため、色々なパターンを考え、どんな質問でも端的に分かりやすく答えられるように努力しました。また、面接が大学側からの第一印象になるため、服装などの身だしなみや笑顔ではっきり答えることを意識しました。指定校推薦は全員が得ることができるわけではなく、限られた人が学校の代表として受けることができる受験方法なので、普段の学校生活から提出物や身だしなみなどをしっかりしておくことは大切だと思います。高校3年間は短いので、検定などを後回しにするとタイミングが合わなくなったりしてしまうので、できるだけ早くチャレンジすることが良いと思います。3年間で充実させるために、勉強だけでなく部活動やボランティア活動、習い事など勉強+αで頑張れる事を見つけると充実させることができると思います。私にとって大学とは就職までの準備期間であり、自分自身をスキルアップすることのできる大事な期間だと思うのでしっかりと勉強し、充実させられるように頑張りたいと思います。

仙台青葉学院短期大学 リハビリテーション学科作業療法学専攻に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
高崎中出身

友人や部活の仲間と過ごした3年間は 忘れられない思い出になりました

■お世話になった作業療法士に 憧れて同じ道を選びました

私が仙台青葉学院短期大学の作業療法学専攻を目指した理由は、オープンキャンパスに参加した際の授業の雰囲気や教授と学生の人間関係です。また、交通も便利で通いやすく、校舎内も綺麗だったので、ここで学んでいきたいと強く感じました。作業療法士を目指したきっかけは、大怪我で入院・手術を経験し、そこでリハビリのためにサポートして下さった作業療法士の方の優しい対応や言葉で不安だった心が救われ、その方のようになりたいと思ったことです。私は、指定校推薦で受験しました。高校1年生の時から、定期テストの勉強は家ではなく、図書館に行って長時間行いました。評定を取るべく、高得点を目指して頑張っていました。模試のテストは、とても苦手だったので重点的に行いました。おすすめしたい勉強法は、ワークを何回も解いて間違えた問題は印をつけ、解説をしっかりと読んで次回間違えないようにしっかり理解することです。また、教科書の大事な部分を書いておくか、マークをしておく後で見返す時に便利です。学力面で不安な人は、部活面や資格でアピールポイントを作ると良いと思います。

■何事にも投げ出さないで 最後まで頑張ってほしいです

吹奏楽部に所属したくさん活動してきました。練習でサボらずに一生懸命取り組み、自分の役割を全うし最後まで諦めずに行ってきました。推薦で行くからには、何か一つでもいいので、努力したことを面接でアピールすると良いです。私の場合は、小論文がなく面接だけだったので、受験に近づくにつれて面接練習をたくさんしてもらいました。学校生活は、出来る限り欠席しないで、たった3年間の貴重な時間を大切に過ごしていました。友人との人間関係や部活仲間がいることの幸せを感じ忘れられない思い出になりました。

この原稿が役に立つと良いのですが、何事にも投げ出さないで最後まで諦めずに頑張ってほしいです。応援しています。

仙台青葉学院短期大学 こども学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
中野中出身

授業のグループ学習で自分とは異なる 考え方に触れて視野が広がりました

■ 2年間で就職に必要な資格を
取得できる所が魅力でした

私が仙台青葉学院短期大学こども学科を第一志望としたのは、高校1年生の夏でした。

2年という短い期間で保育に関する知識を学ぶことができ、保育士や幼稚園教諭二種免許を取得できることを魅力に感じ、この大学へ指定校推薦での合格を目標に高校生活を過ごしてきました。

勉強では、苦手教科である英語を中心に予習に取り組みました。予習をすることで、授業で後れを取ることは少なかったと感じます。授業でわからない部分があったらその日のうちに家で復習を行い、わからない部分を一つずつ無くしていきました。テスト前にはワークを重点的に取り組み、友達と問題を出し合ったりしてテスト勉強に取り組みました。得意教科も、苦手教科に劣らず勉強に取り組みました。授業ではどの教科もグループ学習が多くあったので自分の考えだけでなく、たくさんの人の意見を聞き、それを参考にし、自分の勉強へ結びました。指定校推薦での合格を目標としていたので定期テストの結果や出席日数に気を配りながら高校生活を過ごしてきました。

仙台青葉学院短期大学 観光ビジネス学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
中野中出身

授業態度や出席日数が入試に響くことを 意識して学校生活を送りましょう

■人に喜んでもらえることが嬉しくて 接客が好きになりました

私は、高校3年間将来どのような職に就きたいか、自分になが向いているのか分からずずっと迷っていました。しかし、学校外の活動で自分の行動によって周囲の人が喜んだり楽しそうな顔をしたりすることで私も嬉しい気持ちになるということに気づきました。私は人と接することや人を喜ばせることが好きになり、このことから、誰かの思い出となる特別な瞬間に携わりたいという気持ちが芽生え、お客様に満足していただく為にサービスをするホテルスタッフになりたいと考えるようになりました。その為、ホテル業を学べる仙台青葉学院短期大学を目指しました。

指定校推薦を取るために私は、評定が大事だと思ったので授業態度を見直し定期考査に力を入れて赤点を取らないよう頑張りました。定期考査では対策プリントの他にワークなどを何回も解き直すことが大事だと思います。その他にも学校での生活態度や出席日数も入試に響くので体調管理をしっかりとしなるべく学校を休まないよう気をつけていました。

■友人同士やネットの動画等 入念に面接練習をしました

自己推薦書は、志望理由や大学入学後について詳しく書いたり、オープンキャンパスに参加した際の模擬講義の感想もたくさん書きました。その他には、私はインターアクト部で研修に参加していたので部活動で頑張ったことや学んだことなど具体的にエピソードを書くようにしました。

指定校推薦の入試では面接が重要だと思います。そのため担任の先生に面接練習を頼んだり、休み時間などに友達と一緒に練習をたくさんしました。家ではネットで面接練習の動画を見て何回も練習をしていました。私は面接の他に口頭試問もあったので先輩が残してくださった、入試で聞かれた内容が書いてある紙をもらい自分が聞かれても困らないよう練習しました。大学入試で大変なこともたくさんあると思いますが最後まで諦めず頑張ってください。

仙台赤門短期大学 看護学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
多賀城中出身

先生方が質問に丁寧に答えて下さるので 学びがより深まりました

■部活動が忙しくても授業の 復習を欠かしませんでした

私は高校3年間、部活動と勉強の両立を果たせるよう努力してきました。部活動をしながら、すきま時間や自宅に帰ってからその日学習したことをインプットさせ、テスト前はたくさんの問題にふれることでアウトプットし、定期考査などでは良い成績を修めることができました。また、積極的に実用英語検定などに挑戦するように心がけていました。

私は、大学受験の2週間程前から担任の先生や授業を担当している先生などに面接練習をお願いし、受験当日、どのような質問が来てもあせらずに答えることができるようにするために準備をしました。そして、小論文は学校から配布された小論文のテキストで書き方を復習し、先生方に添削していただきました。

■勉強で分からない所は すぐに質問しましょう

私が高校に入学した頃から新型コロナウイルスの流行が始まってしまったため、オンライン授業になってしまうことが多かったです。それでも、オンライン授業でも怠けることなく授業を真剣に聞いていました。また、オンライン授業だけでなく対面授業の時にも分からないことがあったとしても分からないものをそのままにせず、授業が終わった後や放課後など、先生に聞きに行けるときに必ず聞きに行くようにしていました。分からないことがあった時に先生に質問するとより分かりやすく、丁寧に教えてもらえることができるから、より自分の学びを深めることにつながっていたのだと感じています。また、このようにすることで校内模試で良い点数が取ることができるようになり、目指していた大学の指定校推薦をもらうことができました。そして、将来の夢を叶えるためのスタートができました。

大学受験をするにあたり、まずは分からないところを少しでもなくしていくことが大切だと考えます。また、部活動などをしていて時間があまりない人は効率良く自分に合った学習法を見つけ、検定などをできるだけ挑戦していくことも大事だと感じました。

仙台赤門短期大学 看護学科に
指定校推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
利府西中出身

面接や小論文の練習で教わったことを 本番で実践し上手くいきました

■卒業前から大学の学びの 準備をしたいと思います

私が、指定校推薦を利用して大学を受験しようと、考え始めたのは高校2年生の頃からです。1年生の時は入試についてあまり考えていませんでしたが、2年生になって大学の説明会や高大連携講座を受けて推薦の良さを知りました。指定校推薦の良さは、早期合格なので残りの高校生活で大学に進学した際必要になる科目を学ぶ期間ができるため、より良いスタートを切ることができると思いました。

まず、指定校推薦の受験資格を得るためには3年間定期テストや模試などの試験に真剣に取り組み、良い評定を維持することが大切だと思います。また、普段から部活動やボランティア、英検に積極的に参加していると校内選考の時に有利になることもあるので気を抜かないで取り組むことが重要です。

■面接練習は複数の先生と 行い対応力を磨きました

私は、合格するために面接練習に力を入れました。私は先生方や同じ大学を志望する友人と面接練習を行いました。最初はマナーや言葉遣いなど曖昧な部分もありましたが、指摘されることで少しずつ改善していくことができました。同じ先生に何度もお願いするよりも多くの先生に少しずつお願いする方が臨機応変に対応する力が身につく、どんな質問にも答えられるようになると思います。面接では、志望理由は必ず言えるように準備しておくこととニュースについて聞かれることも多くあるので、普段からニュースを見て自分なりの意見を考えておくのと良いと思います。

また、私の受験した大学には小論文の試験もありました。小論文を上手くまとめるには、最初に段落構成をして大まかな内容を決めてメモしておくことが大切だ、と先生から教わりました。何も考えずに直接書いてしまうと、文字数が合わなかったり、内容の軸がずれてしまうからです。なので私は、教わったことを意識して小論文を書くように心がけていたその結果、試験当日も時間内に文章を書くことができ、合格することができました。また小論文はあらかじめ話のネタを持つしておくことが大切なので、自分の進路に合ったニュースや本などを読み、様々な知識や意見を身につけていると良い文章が書けると思います。入試は緊張すると思いますが、練習してきたことを発揮できるよう頑張ってください。

2023 栄光への軌跡

2023年春、志望大学に現役で進学した仙台育英学園高等学校卒業生による
大学合格までの軌跡



学校推薦型選抜【公募制推薦】

新潟大学、岩手大学、山形大学、福島大学、宮城大学、
上智大学、同志社大学、東北学院大学、東北福祉大学、
東北工業大学、東北文化学園大学、東北医科薬科大学…

新潟大学 経済科学部総合経済学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
仙台 中田中出身

定期考査対策はただ覚えるだけではなく 入試本番に繋がる勉強をしましょう

■コロナ禍で増えた在宅時間を 活用して見聞を広げました

私が進路を決定し、達成する上で大切だと感じたことは3つあります。

1つ目は、多くのことを見たり経験したりすることです。私が高校に入学した時はオンライン授業が続き、家で過ごす時間がとても多く、その時間を自由に使うことができました。インターネットを通して言語交換をしたり、海外のニュースを読んだりすることで広がった価値観が進路決定に大きく影響しました。

2つ目は、学びたいことを基準に進学先を探すことです。大学には学部があるため、同じ学部であれば学ぶ内容はだいたい同じであると考えてしまいがちですが、大学によって異なった内容を学ぶため、ホームページやパンフレットで講義の一覧を確認して進学先を決めることが大切だと思います。

■やりたいことを見失わずに 自分を信じ頑張りましょう

3つ目は、定期考査に本気で取り組むことです。高校生活の学習面では資格を取得することと評定をできるだけ高くとることの2つが大切だと思いますが、私は評定を高く保つことが特に大切だと感じました。受験をするにあたって、推薦系の入試では評定平均の基準が設けられます。選択の幅を広げるためにも定期考査に真剣に挑むべきだと感じました。また、考査に向けた勉強でも、ただ暗記するだけでなくその後も活かせるように身につける勉強をすることで実技試験や一般入試への力がつくと思います。

進路を選び、達成するにあたって多くの壁があると思いますが、自分の好きなことやしたいことを見失わずに周りを見ていれば、すべきことが見えてくるので、自分を信じて頑張ってください。

岩手大学 農学部植物生命科学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
七北田中出身

自ら動いて問題を解決し学びを得て 成長することが推薦合格に繋がります

■生徒会での活動を通して 課題解決能力が磨かれました

私は高校生活の中で、高2から高3にかけて、自分のしたいことや学びたい分野を見つけられずにいました。しかし、幼少期に自然に触れた経験や、自分なりに世界中で起きている食糧・環境問題について調べているうちに、農業こそそういった問題に広く対応していけると確信し、農学部への進学を決めました。また、その中で農業を営む人や研究者とのパイプ的存在であり、直接農家と関わりを持てる普及作業員になりたいという目標を持ちました。志望大を決め、様々な手段を使ってできるだけ合格に近づけるよう努力しました。その中でも立命館大学の高大連携プログラムに参加した経験はとて印象に残っています。このような機会を頂けるのはなかなか無いことであるので、学校には感謝しています。高大連携プログラムでは、生命理工学分野でのレポート・プレゼンテーション発表をオンラインで行うというものでした。はじめに講義の視聴があったのですが、大学での研究がどういったものであるのか、身近な現象をどのように応用するのかといった理系分野における視野を広げてくれるものでした。大学レベルを扱うので当然レポートもプレゼンテーションも難解でしたが、それでも諦めることなく今知っている情報を多角的な視点から見て結論を導く努力をしました。このような訓練は小論文でも、大学の学びにおいても必要な力を身につけるのに役立つと思います。また、私は生徒会にも所属しており、コロナ禍により出来ない事が増える中で、動画やメディア媒体を活用し、広報活動に力を入れ、工夫してきました。課題を解決するために、不可能を可能に変えるために、考え実践する大切さを学びました。社会では、答えを用意されていない課題が多くあります。その中で、自分なりに答えを見出し、行動することで解決していくことが何より重要です。そのような能力を問われる推薦において、合格のために必要な事は、自ら問題に対して主体的に動き、そこから得た学びを大切にすることだと思います。

■入試のプロである先生方 ご指導が合格には不可欠です

推薦での受験の際、体験によって学ぶという材料は出来ていたのですが、直前期にはただひたすらに本番の対策を行いました。面接で聞かれる内容については、ある程度の専門性を必要とされるため、自分の興味ある分野に対してとにかく調べました。その際には大学の文献も使用しました。そして、放課後には先生と面接の練習をし、多くのアドバイスを頂きました。また、小論文では、国語・生物・英語の先生方の力を借りて、とにかく書いて読んでもらい、修正し、着眼点やテクニックを教えて頂きました。多くの受験生を見てきた先生方の力もあって、本番では実力以上の力を出すことができました。推薦入試では、個人の問題解決能力を問われるので、ぜひともプロである先生方の助けを借りるべきです。何でも挑戦し、自分なりに考えて、経験から学ぶ事が、合格への道標となると確信しています。

岩手大学 農学部森林科学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
将監東中出身

大学の情報収集や自己分析などを 主体的に行うことで合格に近づきます

■オープンキャンパスまでに 大学を入念に調べましょう

私が高校3年生になって思うことは、何事ももっと早く取り組んでおけばよかったということです。1, 2年生のうち「受験なんてまだまだ先のことだから、3年生になってから考えればいいか」と思っていました。しかし、1, 2年生のときも受験準備期間として大事な期間です。1, 2年生のうちの過ごし方が受験の合否に直結しているといっても過言ではありません。

早めに取り組むべきこととして、勉強に関することもちろんですが、志望大に関する情報収集もその1つです。一般的に志望大を決めるのは3年生になってからですが、志望大学がはっきりしていない人、推薦入試を考えている人は1, 2年生の段階で蛍雪時代やインターネットを用いて大学調べをしておくべきです。特に大学のオープンキャンパスは、時間のある2年生のうちに行くといいと思います。多くの大学ではオープンキャンパスは夏頃に行われます。そのため、2年生の夏までに興味のある分野学部がある大学をひと通り調べることをおすすめします。近年オンラインでの大学説明会も多く開催されていますが、百聞は一見にしかずという言葉もある通り、実際にその場に身を置いてみることも重要だと思います。

■志望理由書は想像以上に 時間がかかります

岩手大学では志望理由書のほかに小論文と面接がありました。私がとくに大変だったのは志望理由書でした。私が本格的に志望理由書の作成を始めたのが試験の2か月前でしたが、圧倒的に時間が足りませんでした。志望理由書の作成にはたくさんの情報が必要です。将来やりたいことの情報、志望する大学の情報、自分に関する情報です。これらを十分に調べ上げたうえで、自分は将来何がしたくて、そのために大学で何を学びたくて、それらを学ぶために自分は大学の生徒として、どこが適しているかをまとめる必要があります。一見簡単そうに聞こえますが、想像以上に時間がかかるので、夏休み以降に推薦入試の対策で手一杯にならないように計画的に取り組みましょう。

大学受験は自分の受験です。だから主体的な行動が志望大の合格を左右します。そして周りの先生方や家族にもたくさん相談してみるといいと思います。後輩の皆さん、高校生活の1日1日を大切にしながら、充実した学校生活を楽しんでください。

山形大学 人文社会科学部人文社会科学科総合法律コースに
公募制推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
岩切中出身

仙台育英の設備や学習スペースなど 恵まれた環境で学べて幸せでした

■将来は地方公務員として 地域に貢献したいです

私がこの大学を志望したのは、地方公務員として働き、地域に貢献したいと考えているからです。山形大学人文社会科学部人文社会科学科総合法律コースには、2つの推薦方法があります。学校推薦型選抜のⅠ型とⅡ型です。Ⅰ型は、読書感想文と志望理由書、面接を課題とするもので、Ⅱ型は、志望理由書と面接、そして共通テストも結果により、合否が決まるものです。私はⅠ型とⅡ型、両方で受験し、Ⅱ型で合格することができました。Ⅱ型は共通テスト500点（国語200点英語200点地歴公民数学100点）、面接50点の計550点で合否が決まります。私立大学の共通テスト利用入試と同じ科目なので勉強もしやすいと思います。また、高校3年間の平均評定も重要になってきます。1年生の頃からしっかり取り組んでいれば、平均評定5.0を達成することもできます。私はこの3年間、公立高校にはないような設備や教育環境の中で学ぶことができ幸せだったと思います。この恵まれた環境の中で、進路実現のために頑張っていました。

■先生方の面接対策は とても心強かったです

共通テストについては、ほとんどの人が初めての経験であり、とても緊張するものです。その中で最も大切なことは、リラックスし、落ち着くことです。私は政治経済が得意科目ですが、社会の第一解答科目として政治経済を選択しました。得意科目ということもあり、かなり手応えがありました。その結果、後の科目に落ち着いて取り組むことができました。私は化学基礎が苦手でした。そのため、計算問題より暗記の分野に取り組み、全て正解できるように取り組みました。その結果、平均点くらいは取れたので、そのような選択をしてみても良いと思います。

私が志望大に合格できたのは、先生方の手厚い支援があったからです。担任の先生、面接を担当して下さった先生には本当にお世話になりました。担任の先生には、お忙しい中、何度も読書感想文や志望理由書の添削をしていただきました。面接の担当の先生もお忙しい中、山形大学の面接に耐えられるような様々な知識を身につけられるようなお話をしてくださいました。本当に感謝しています。

一般入試の勉強と並行して、推薦の対策をするのは、大変なこともあると思います。しかし、1年生の頃からしっかり勉強に取り組んでいれば、進路選択の際に選択肢は大きく増えます。後悔のない高校3年間を送ってください。応援しています。

福島大学 人文社会学群行政政策学類に
公募制推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
上杉山中出身

特別進学コースで部活動に励むのは 忙しい反面メリットがたくさんあります

■部活動で身に付けた集中力が 勉強面でも役に立ちました

私は学校推薦型で、福島大学人文社会学群行政政策学類に合格しました。この大学を目指したきっかけは、復興から得た知識をこれからの社会で、どのように活かすことが出来るかや、現代の諸課題について行政を通して解決する方法を模索したいと考えたからです。

私は高校在学中、ライフル射撃部に所属していました。部活は週に6回、週末は遠征に行くなど、文武両道を目指すにはハードでした。私は副部長と総務に就いており、業務が多く、家でも部活のデータ作成に時間を費やしました。そのため、朝7時から学校で自主学習をすることで、文武両道に努めました。それは、毎日の生活習慣の確立にとっても役立ったと思います。射撃で身につけた集中力は、勉強面でも非常に役に立ったと思います。また、大会参加による係留期間には、先生方がオンライン授業を開講してくださったため、授業に遅れを取らず学習することができました。

■部活動などから学んだことを 表現する練習をしましょう

私から後輩に伝えたいことは、定期考査に真剣に取り組むことです。評定が足りず、受験資格を得ることが出来なければ元も子もありません。様々な受験方法の可能性を残しておくためにも、評定は非常に大切だと思います。

また、なにかに熱中して取り組むことをおすすめします。私の場合は部活動でした。そこで何を学んだのか、自分にどのような影響を与えたのかを感じる事が大切です。それを言葉にすることも練習しておくこと、自己理解も深まるかと思います。

特別進学コースで部活動に所属することは決してマイナスなことではありません。むしろ、積極的に取り組んでほしいと思っています。もちろん忙しくなります。しかし、時間を効率よく使えるようになったり、短い時間でタスクをこなす集中力も身につきました。部活動をしていたおかげで、とても充実した3年間でした。

宮城大学 事業構想学群に
公募制推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
蒲町中出身

焦らずにマイペースを貫き コツコツと努力を積み重ねましょう

■宮城が抱える課題と向き合い 地元の発展に貢献したいです

デザインを学びたいと考えてはいたものの、具体的には何を学びたいか決まっていなかったため、専攻を後から決められる宮城大学を選びました。また、将来は宮城の発展に貢献したいと考えていたので、フィールドワークで宮城の課題を直接知ることができる機会があることも決め手の一つでした。

はじめは学校推薦での受験を考えていなかったため、勉強の方が大事だと考え、探究活動をあまり熱心に行ってきませんでした。そのため、いざ学校推薦に向けて書類の準備を始めたときに、自己推薦書の高校生活の探究活動についての欄に書くことがほとんど無く、書けないまま時間を浪費してしまい、とても後悔しました。ですから、ちょっと大変だなと思って真剣に取り組む、頑張ったことなどを作っておくべきだと思います。

試験科目には、共通テストの他に面接があります。面接練習で、最初は話し始めで既に言葉に詰まってしまう状況だったものが、練習を重ねるごとに少しずつ話せるようになりました。その上、先生方と会話していく過程で自分がどうしてデザインに興味を持ったのか、どうして宮城の発展に貢献したいと考えるようになったのかを改めて認識でき、自分の回答に自信が持てるようになりました。そして、質問に対して、少しでも良く見せようと背伸びしたりごまかして答えるのではなく、わからないものは素直にわからないと言ってもいいということを学びました。

■頑張ったと胸を張れることが 本番での自信に繋がります

後輩の皆さんに最も伝えたいことは、勉強は自分のペースを貫くことが大切だということです。私はちゃんと寝ないと次の日の授業を集中して受けられない人だったので、睡眠時間を確保するために短時間で質の高い勉強をすることを心がけていました。その短い時間で自分の苦手分野である数学の克服を重点的に行い、また、日々の授業や放課後の講習を真剣に受けることで復習の手助けをしていました。

他の人がやっているからと慣れないことをすると逆に頭に入らなくなったりします。無理せず、むやみに焦らず、毎日コツコツと積み上げていくことが本当に大事だと思います。

結果が出ていなくても、頑張ったということは本番のときの自信につながります。最後まで諦めず、努力を続けてみてください。応援しています！

宮城大学 看護学群に
公募制推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
増田中出身

特別進学コースでも部活動に励むことで 高校生活が充実し強みにもなります

■身近な人と面接練習すると 改善点が明確になります

私が志望大学を決めたのは高校3年生の夏でした。志望大学が決まるまでは、目標がないまま勉強をしていました。そのため、具体的な対策をするのが遅くなってしまい、志望大学が決まってからの勉強が大変でした。私の志望した大学は面接があったので、共通テストへ向けての勉強に並行して面接の対策をしていました。やらなければいけないことが多すぎて辛いと思ったこともあり、もっと早く志望大学を決めて、対策をしていればと後悔しました。オープンキャンパスなどにたくさん参加して、志望大学をできるだけ早く決めておくと、受験勉強を余裕を持って始められると思います。

面接の練習をするときは、学校の先生に加えて親や友だちが手伝ってくれました。一人で対策するより身近な人とやる方が自分に足りないもの分かるし、気持ちにも余裕を持ってできました。一人で抱え込まず、周りの人に相談してみると良いと思います。

■サイエンス・コ・ラボは 面接にも大いに役立ちました

私は学校推薦型の選抜で受験しました。推薦を受けるにあたって、やっておいて良かったと思うことがあります。1つ目は部活動です。私は演劇部に3年間所属していました。特別進学コースは勉強に力を入れているので、負担にならないような部活を選んで部活動に取り組みました。部活動で行ったことは調査書に書くことができるし、面接では自分の強みとしてアピールをすることができるので、部活動に入っておくことをオススメします。2つ目は学校で行われているサイエンス・コ・ラボへの参加です。私は3次元培養について学んだのですが、毎回さまざまなテーマについて学ぶことができます。私は医療系の学部を志望していたので、知識の獲得や面接のときの話題の一つとして使うことができました。

皆さんも高校でさまざまな体験や活動をして、その経験を大学受験の際に活かせるように高校生活を有意義で楽しいものにしてください。

宮城大学 看護学群に
公募制推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
将監中出身

部活動などからも学びを得て成長し 目標をもつきっかけにしましょう

■宮城大学で保健師を目指す 入学時から決めていました

私は保健師の仕事に興味があったので、入学当初から宮城大学への進学を考えていました。早い段階で志望大学を決めておくと、自分が学ぶべきことや取るべき資格などが明確になり、高校での勉強の質がかなり変わってきます。私の場合は保健師の仕事について調べたり、新型コロナウイルスに関する情報を得るように心がけていたので、大学に提出する志望理由書や面接の準備をスムーズに進めることができました。具体的な大学までは決められなくても、高校卒業後にどんなことを学びたいのか、どんな職に就きたいのかを3年生になる前までにイメージしておくといいと思います。

■部のマネージャーを務め 心配りが身に付きました

私は生徒会執行部に所属し、軟式野球部のマネージャーも務めました。当然勉強時間が限られるので毎日課題をこなすことで精一杯で、予習復習どころか、引退するまで受験勉強もろくにできていませんでした。周りからは「早く部活動を辞めて勉強に専念すべきだ」と言われることもありましたが、それでも私は部活動を最後まで続けて良かったと思っています。オンライン授業が続いて不安を抱えていたとき、部活動の先輩に勉強や大学受験のアドバイスをしていただきました。同級生や後輩とも勉強に限らず切磋琢磨し合うことで、人として大きく成長することができたと感じています。何より、マネージャーという選手のための活動を通じて、相手を思いやる力を身につけたことが私の一番の強みになりました。

「青春は密」という言葉が有名になりましたが、本当にその通りで、高校の3年間はあっという間に過ぎていきます。勉強はもちろん疎かにしてはいけませんが、後輩の皆さんには、生徒会や部活動など勉強以外の活動からも学びを得て、自身の成長や目標を持つきっかけにしてほしいです。新型コロナウイルスの影響で制限が多くなるかもしれませんが、周りの人たちと支え合いながら、充実した高校生活を送ってください！

宮城大学 食産業学群に
公募制推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
七ヶ浜中出身

苦手教科はいつかは結果が出ると 信じて地道に克服していきましょう

■早いうちに進路を決めると 勉強の方向性が定まります

私が進学先を決めた時期は2年生の春頃だったと思います。自分の好きなことを仕事にしたい、という漠然とした考えからではありましたが、「食」について学ぶということに自分でもじっくりして、周りの友人や家族にも応援されたので、割と早い段階から進学先は一本に絞り込んでいました。そのおかげで、受験勉強の方向性も、早いうちから定められました。やりたい事が明確な人は一本とは言わずとも2, 3校ある程度余裕があるうちに決めておくといいと思います。私が本格的に受験勉強を始めたのは2年生の12月頃です。その時点では、数学の復習に力を入れていました。2年生のうちに数ⅠAを1周しておくことで、模試の判定が大分変わりました。3年生になる春休みは数理英をやっていました。数ⅡBは1周、理科は理論化学、物理の力学、英語は英文解釈100をやって1日8時間を目標にやっていました。春休み後はそれまでは友人と話をしながら2FGPで勉強していたのをやめて、一人で学校の自習できる場所やオークルームで放課後と朝に勉強していました。学校で勉強すれば周りも勉強している人がいて集中力が切れてしまうことも少なかったし、やる気が出たので家にも勉強できない人はおすすめです。夏休みからは朝5時~6時10分ごろまで勉強し、それから1時間ほどで朝食や着がえなどを済ませてまた勉強を開始するルーティーンを作っていました。1日10時間を目安に取り組みました。また、この頃から日本史の勉強を始めました。おすすめは『日本史Bの実況中継』です。話し言葉で解説されてて、面白かったので苦にならずに毎日読めました。あと、この頃に出会った『物理レベル別問題集』はおすすめです。物理が本当に分からなすぎて、公式も全く覚えられなかったのに、この本を読んだ後は、公式がどうしてこの公式の形になるのかが一発で理解出来て、偏差値40→69位まで上がったので物理が分からない人はぜひ使ってみてほしいです。

■自分に合う方法で心の バランスを維持しましょう

夏以降は休み時間も勉強しました。特に化学が模試でも結果がなかなかでなかったです。毎日やっても全然だめで、泣きそうだったけど無機、有機、高分子を徹底的につぶして、12月末位によく伸びたので、次受験生の人達は必ず結果が出ると信じて勉強してほしいです。冬はスキマ時間でいかに勉強ができるか考えていました。お風呂で日本史の流れを聴いたり、勉強の前に単語を見たり、リスニングを聴いたりといった、ペンを持たない勉強がスキマ時間の勉強におすすめです。辛くなったら、勉強系ユーチューバーの励まし動画や好きな曲を聴いてテンションを上げる事が一番だと思います。メンタルをいかに保てるかも受験の合否を分けるポイントになるので、自分の機嫌を上手に扱っていくかも大切です。

受験生の皆さん、辛いけど終わればめっちゃめっちゃ楽しいことが待っているはずですので、頑張ってください。

上智大学 法学部法律学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
色麻中出身

さまざまな強みを持つ仙台育英の 環境を最大限に活用しましょう

■出願に必要な履修教科や 資格を早めに把握しましょう

私は、第一志望は決めていましたが、リスクを想定した次候補を考える際に難航し、3年の夏に進路を確定しました。しかし、受験を意識し始めるのが遅かったため、たくさん後悔の念に駆られました。2年時から第二外国語を選択したため数学Ⅱ・Bを履修しておらず、それらが必修になっている大学の出願条件に合わなかったり、英検やGTECでもっと上を目指して資格試験に臨んでいれば受験できる大学の幅も広がったり、その他の資格取得や留学など、進路についてもっと早い段階で真剣に考えていれば、この3年間で受験のための十分な準備ができていたと思います。また、進路決定にあたっては、たくさん大学を調べて比較しました。同じ学部でも大学によって学べる内容が異なるので、大学のネームバリューではなく、自分の興味と一致しているか、将来のためになるかなど大学の特徴をよく調べて決めることが重要だと見出しました。

■何でも挑戦し自分の強みを 増やすことが合格の鍵です

私は、部活動に所属し、土日も長期休暇中も毎日のように練習がありました。体育会系だったため、練習後も疲労感があり、帰宅後に勉強をするモチベーションはありませんでした。しかし、課題はその日の休み時間のうちに終わらせたり、期末考査の範囲をスマホで勉強できるように工夫したりして、評定は人よりこだわって力を入れてきました。その甲斐があって、推薦をもらうことができ、合格にも大きく貢献したと思います。

仙台育英は、スポーツが強かったり、多くのコースがあったり、IBDPがあったり、独自の取り組みをしていたりなどさまざまな強みをもっており、さまざまな経験をすることができます。このような環境を最大限に生かし、より多くの大会や資格試験、特別プログラムや行事に自主的に参加することで、受験にも今後の人生にも役に立ちます。やっておけばよかったと思う前に何事にも挑戦し、自分の強みを増やすことが受験の鍵になります。

上智大学 国際教養学部国際教養学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
イギリス出身

IBDP は大学で役に立つスキルが 身に付く上に入試で強みになります

■憧れの大学に入りたい一心で 実績を残す努力をしました

私は憧れていた上智大学の国際教養学部を受験し、合格することが出来ました。この大学には多種多様な魅力があり、入学することを強く志望していたので、私は上智大学一本と考えていました。そのため、落ちたらどうしようという焦りと心配がありましたが、絶対に入ると自分を信じ、合格に向けて精進してきました。

私は公募制での受験を選択したため、実績を積むためにあらゆる分野に挑戦し、自己アピール力を高められるように、特に三つのことに力を入れました。

一つ目は国際バカロレアの学習に力を入れてきたことです。私はイギリス出身で英語に自信を持っているため、仙台育英に転校してすぐに IB に入りました。IB は対話型授業を実践しており、身に付いた理論的思考、文章力や国際志向を大学で活かせると思いました。また、面接時に CAS や EE をアピールできるが増えるのと、IB ディプロマ取得者と調査書にかけるとは大きな強みだと考えました。

■大学生や教授と触れ合える 機会に積極的に参加しました

二つ目は UCL-Japan Youth Challenge とスタンフォード国際・多文化教育プログラムに参加したことです。教授陣による多彩な講義やワークショップ、世界の大きな共通課題について意見を交換し、知識と経験を深めることができました。これにより対話力が伸び、様々な角度から世界について学ぶことができました。

三つ目は第 12 回上智大学全国高校生英語弁論大会に参加したことです。ここでは課題として出されるテーマについて直接上智大学へ行き、自分の考えをスピーチで発表しました。この事が大きなアピールポイントに繋がりました。初めての弁論大会でとても緊張しましたが、英検特別賞を受賞することが出来ました。また、その場で上智大生や教授との対話を通し、より大学について知識を深めることができました。

このようにより多くの挑戦を重ねてきたことが、私自身を合格に導くことに繋がったと考えてます。

獨協大学 法学部法律学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
亘理中出身

推薦入試は大学が求める人材であると アピールすることが最も大切です

■英語の試験がかなり難しく
合格できるか不安でした

私は、高校2年生の時に、将来は言語に関係している仕事をしたいという意思を抱きました。そこで獨協大学を知りました。獨協大学には国際教養学部があり、言語の学習に力を入れている上で、教員になるまでのサポートがすごく手厚いです。自分は昔から小さい子に接することが得意であったため、外国語を教える教師を目指しました。正直、一般入試は自信がなく公募制推薦で行く事にしました。ですが、資格が必要なため、HSKと英検を受け、合格し、公募制推薦を申し込みました。ところがさまざまな要因が重なり、国際教養学部に行くことはできませんでした。しかし、英検も持っていたので、法学部なら受験が可能だという事で、法学部に進路を変更し、2年後の編入試験を目指しました。

受験内容は英語のテスト、小論文と面接です。私は部活で部長を務めており、全国大会も数多く出場し、生徒会にも入っていたため、面接の話題は豊富にありました。しかし、試験の英語がとても難しく苦戦しました。後輩の皆さんも頑張ってください。

文教大学 教育学部学校教育課程美術専修に
公募制推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
蛇田中出身

日頃から積極的に新しいことに 挑戦することが合格に繋がります

■モチベーションを保つために 志望大を早めに決めましょう

私は幼い頃から小学校教員になることが夢でした。そのため学部は教育学部以外には考えておらず、迷うことはありませんでした。しかし、学部の枠にとらわれない幅広い学び方や活動をしたいという理想があったため、候補として挙げていた大学ひとつひとつの情報を調べ、行きたい大学を決めるまでにとても時間がかかってしまいました。行きたい大学を決めることは大学受験までに行うべき行動を明確にすることに繋がります。受験勉強のモチベーションを維持するためにも、将来の自分が後悔しないためにも、まずは早いうちに行きたい大学を決めることをお勧めします。

高校生活は推薦を考えているのであれば休まないことが一番です。先生が言っていた言葉、友達との会話で興味を持った話題、部活動での取り組み等、どんなことでも自分を表現するための材料になります。これは検定や資格を取得することにも共通しますが、経験を積むには時間がかかります。受験本番前になって急いで経験を積もうとしても、得られる学びはかなり限られてしまいます。「日頃から積極的に新しいことに挑戦すること」これが私が大学受験に成功できた一番の要因だったと思います。

■今が頑張り時と信じて 最後まで努力しましょう

入試は小論文、面接、実技試験でした。小論文は大学に申し込みをして入手した過去問をまずは解いてみて問題の傾向やパターンを探しました。見つけた傾向に沿った参考書を3冊ほど読み込み、共通している内容を中心にまとめ、先生に相談して用意していただいた似た傾向の問題を解きました。また、最近話題になった社会問題や、自分なりに着眼していた教育に関する課題について、何度か文章化していたことで、本番は一度書いた文章を組み合わせる形で小論文を完成させることができました。たくさん書き込んだことで、文章を書くスピードが上がったので小論文は練習あるのみだと思います。

面接は、定番の質問からひねりのある質問、緊張をほぐすための質問までできる限り予測して、言いたいことを文章にまとめて対策を行いました。この答え方をしたら次はこの質問がくるだろう等、会話のつながりを意識してまとめ、先生や友人と何度も繰り返し練習しました。笑顔や抑揚は慣れてないと不自然になりやすいので回数を重ねることがとても重要になります。

実技試験は3時間で水彩画を一枚仕上げるという内容でした。大切なポイントを抑えて、何を工夫したのかをパッと見て分かるようにすることを意識して取り組みました。実技試験は自分の技量はもちろんですが、他の受験者のやり方やスピードを見ても焦らずに自分のやり方を貫く意志の強さが特に大切だったと受験当日に感じました。

大学受験が近づくにつれて焦りや不安が増えていくと思いますが、今が頑張り時と思って、悔いのないように頑張ってください。私の体験記が皆の助けになれば幸いです。

同志社大学 グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科英語コースに
公募制推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
みどり台中出身

直前に焦ることの無いように 入試準備は早めに取り掛かりましょう

■英検の問題などを工夫して 英語論文対策に活用しました

私は、公募型推薦入試で大学を受験し、合格することができました。試験内容としては、小論文と面接でした。小論文は英語での内容で問題は日本語で問われ、日本語で回答するという方式でした。また、面接の方も日本語と英語で行いました。英語が苦手というわけではありませんでしたが、英語を和訳し文章化する力がありませんでした。少しでも文章化する力をつけるために、受験する学部に似たように他大学の過去問を解いたり、ネットで練習問題見つけ小論文対策を行いました。また、英語の小論文の過去問は数少なく、英検などの長文を自分なりに工夫し練習に取り組みました。小論文を、書いては先生にチェックしてもらい、の繰り返しを行なったことで苦手な文章力を少しでも身につけることができました。また、面接練習では日本語は毎日、英語は1日おき練習しました。面接練習も担当していただく先生が一人だけであると、その練習に慣れてしまい、緊張感などが薄れてしまいリラックスしすぎてしまいそうになる場面がありました。そのため、ひとりの先生だけでなく複数人に面接練習を頼むことが大切だと感じました。色々な先生と練習を行ったおかげで色々な方面からアドバイスをいただき、本番でも緊張せず楽しく面接に挑むことができました。

■書類の書き直しを怠り 出願前に苦労しました

推薦入試では、出願に必要な書類があると思いますが、なるべく早く取り組むべきものだなと思います。私は、めんどくさがりやで先生に確認してもらいアドバイスをいただいてもすぐ指摘されたところを直さず、放置してしまうことが多々ありました。その結果、日に日に出願期限に近づき、焦りながら書類を完成する羽目になりました。焦りながら書類に取り組むのは精神的にもおススメしません。そのため、受験する大学を決めたらなるべく早く取り組むといいと思います。

京都産業大学 外国語学部英語学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 通信制課程卒
秀光中出身

目標を人に伝えておくことが 努力を続ける力になります

■何でもいいので何かに挑戦すれば やりたいことが見えてきます

私は1年生の時に通信制に入りました。入った当初は全くやりたいことがなく、大学進学は考えていませんでした。その後3年生の時に英語と自転車競技にハマり、大学進学を決めました。この経験から、どうやってやりたいことを見つけたのか、大学進学のためにどう行動したのか、この2つを紹介します。

まず始めに、やりたいことの見つけ方です。興味のあること全てに挑戦して下さい。一つ一つ完璧である必要はないので、とりあえず1回、挑戦して下さい。その結果、改めてやりたいことの再確認ができたり、イメージと違ったりすることもあります。挑戦したことで見つかる新たな発見もあると思います。その経験から進路を決めれば、心残りなく、集中して、自分の決めた進路に進めるはずです。

■全てのことを一人で できる人はいません

やりたいこと、進路をきめたら、それをできるだけ多くの人に共有して下さい。色々な人に知ってもらうことで、適度なプレッシャーが常にかかり続けるので、継続していく上で非常に有効です。自分の取り組んでいることを共有することで、思いがけず貴重なアドバイスが頂ける場合もあります。両親、友達、先生、誰でも大丈夫です。まず最初は「今日この宿題を終わらせる」などと小さなことから共有の練習をしましょう。少しずつ、共有する内容を大きくして、最終的には夢など大きいことを共有できるようになりましょう。

最後に、全てを一人でできる人は存在しません。いろいろな人を頼って目標を達成して下さい！ 頼ることは簡単ではないですが、一回誰かに頼ってみると、それが自信になり、他の人にも頼りやすくなると思います。

東北学院大学 地域総合学部地域コミュニティ学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
高砂中出身

部活動では理想のリーダー像を描き チームを支えてきました

■部活動をアピールできる 進路を選びました

私は、将来地方公務員になりたいと考えているので、そのために必要となるスキルを身につけたいと思い大学進学を決めました。大学を調べていくうちに東北学院大学には、文化活動に優れた者の推薦があることが分かり、チアリーディング部として3年間活動してきた私はチャンスだと思いました。

チアリーディング部での活動では、応援、大会、イベントなど様々なことを経験してきました。その中で私が心がけてきたことは自分なりのリーダー像を持つことです。私のリーダー像は、皆の前に立ち率いることよりも常にチームの環境を良くするにはどうするかを考え行動することが、私にとってのリーダー像です。リーダーはどうあるべきであるのかをつねに考え行動してきました。仙台育英のチアリーディング部として誇りを持てるような振る舞いが出来たと思います。

試験内容は、書類審査、小論文、面接でした。小論文は最初は書き方も分かりませんでした。ですが、過去問を解き時間内に書けるようにしました。

■挑戦することで高校生活が より良いものになります

推薦で受かったからといって、入学までの数ヶ月を無駄にせず有意義なものにしたいと考えています。

私は高校生活をより良いものにするために様々なことに挑戦してきました。たとえば、チアリーディング部では、三段ピラミッドの一番下の土台として支える役割を担ったことです。人を上に乗せる緊張感と皆からの信頼がないとできない重要な役割だと思っています。これから受験をする人も、何事も失敗を恐れず挑戦してほしいなと思います。

東北福祉大学 総合福祉学部社会福祉学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 技能開発コース卒
仙台第二中出身

苦手科目は友達と一緒に勉強し 教え合いながら克服しました

■介護や保育に関する資格を 取得したいと考えています

私が、東北福祉大学に合格するまでの事に話していきたいと思います。まず、大学進学を目指した理由・きっかけについてでは、私が大学進学を目指そうとしたのは高2の4月の頃でした。きっかけとしては、元々介護や保育に興味があり調べていくとこの大学であれば、二つの資格を取れると分かり、専門学校ではなく大学進学を目指しました。次に、推薦入試合格のために努力について話していこうと思います。まずこの大学の推薦内容としては評定が3.5以上・小論文・面接と記載されていました。私は、元々勉強は苦手で当時は3.5以上もなくこのままだと駄目だと思い、定期考査に向けて苦手な科目を友達や先生に聞きながら勉強した結果評定を3.5以上にすることができました。次に、小論文・面接についてまとめて話していこうと思います。小論文対策は担任の先生に見てもらいながら、言葉遣いや段落の使い方を教えてもらい、それと同時に面接対策では言葉遣いや入り方や出方など、本番と同じようなことを教えてもらいながら本番まで毎日居残りをしていました。

■授業で分からなかった所は 友達に教えてもらいました

受験大学を絞り込むにあたって配慮した事については、まず介護や保育の資格を同時に取るのは大変だと言われ、私は先生に相談した際に入学した時に決めれば大丈夫だと言われました。そこから検討し、今はまだどちらの資格を取るか決めていませんが入学した際に決めていこうと思いました。

後輩におすすめしたい勉強法は、友達に上手くノートを取ってる子に貸してもらいそれを真似たり、例えば授業中分からないところを授業が終了した後にその教科が得意な子に分かるまで聞いたりしながら勉強をしていくことです。例えとしては私は英語が苦手だったので、洋楽を聴きながら単語を何回も書いて覚えたりしたりしました。ですから、今勉強が苦手だと言う人には、今は苦手だけど友達と一緒に勉強したり教えてもらう事でいつの間に苦手な教科が得意になったりするので、諦めずに勉強すれば良い点数が取れると思うので頑張ってください。私にとって高校生活はとても大変な毎日が続きましたが、毎日友達や先生と話したりしていてとても居心地の良かった高校生活だと思っています。

東北福祉大学 健康科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻に
公募制推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
中野中出身

たくさんの方々の支えで合格を果たし 夢への一步を踏み出すことができました

■推薦条件の評定平均値を 目標に必死で勉強しました

高校入学当初から私は作業療法士になりたいと考えていました。しかし、高校受験を失敗していたこともあり、受験に対してやるせない思いがありました。そのため自分の身の丈に合った大学・受験方法を考え抜いた末、大学を東北福祉大学に決めました。そこからは地道に努力を重ねました。具体的には、定期テストで高得点を出すことです。テストの一ヶ月前からテスト勉強を行い、対策をしましたが、良い成績を修めることは非常に難しく、苦しい道のりでした。とにかく推薦条件にある評定平均値を少しでも上回れるように必死でした。ですが、その苦難をかいくぐってきたおかげで今回の結果に結びついたのでと思います。

■面接練習ではメモを取り 家でもくり返し行いました

私は公募制推薦で入学が決まりましたが、評定だけでなく、小論文と面接がありました。小論文に関しては授業できちんと話を聞き、練習を重ねることが最も大切だと思います。小論文は日々の積み重ねがないと、なかなか言葉が出てこなくて、つまづいてしまいます。過去問などをくり返し解き、先生に添削をお願いすると良いと考えます。

面接はとにかく先生方に声をかけ、数をこなしていく他ありませんでした。先生方につけられた様々な質問はメモを取り、自宅に帰った後、そのメモを見て何度もくり返し言葉に出していました。礼儀作法も集中して取り組むべきだと私は思います。

正直、私が東北福祉大学に入学できるなんて思ってもみませんでした。たくさんの人達に支えられ、ここまで来た以上、大学を卒業して立派な作業療法士になりたいと思います。

東北福祉大学 総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
名取第二中出身

大学では人生の指針を見出し 社会との関わりを考えていきたいです

■大学での新たな出会いにより
更に成長したいと思います

コロナ禍でオンライン授業が主流となる中、「今わざわざ大学に行かなくても、大学で学べることは本やネットでも学べる」という意見もあると思います。しかし、大学へ行く意味は専門的な学問を修めることだけではないと感じます。具体的な意味は人それぞれですが、新しいものや人との出会いがある、人間的に成長できる経験を積める機会を得られるといった意味や価値があると思ったので大学進学を決めました。

私が受けた推薦入試には小論文があり、小論文の対策としてやっていたことは読解力、思考力を身に付けることです。読解力とは、文章の内容を正しく読み取り、問われていることを理解する力です。思考力とは、テーマについて問題背景や本質を読み取り深く考える力です。これを磨けば磨くほど質の高い意見、主張の提示や厚みのある理由、根拠を示せるようになってきました。

■勉強計画を綿密に立てて
実行し合格を掴みました

私が受験に成功した一番の要因だと思うことは、勉強計画をしっかり立てたことです。受験勉強に欠かせない勉強計画の立て方にはポイントがあると考えました。私は自分に欠けていることを踏まえて、合格に必要な勉強の的を絞り、実行可能な計画を立てました。そして立てた計画を必ず実行することで、大学合格を掴み取れたと思います。

私にとって大学とは、研究をするところだと思います。大学で学ぶことは、世の中にある多くの価値観の中から、私たち自身が、何のために生きるか、これからどのように生きるかという問に対する答えを見つけるための方法の一つだと思います。また、自分を取り巻く環境や社会に対してどのように関わっていくのか考え、それを実現していくための方法の一つであると思いました。

東北福祉大学 総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
東仙台中出身

自分に合った勉強計画を作成し 試験前に逆算して取り組みました

■友達が着々と準備する中で
進路が決まらず焦りました

最終的な進路をきめたのは高校3年生の6月頃でした。大学を決める時期としてはギリギリで、友人達が既に進路を決め受験に向けて準備をしている時期だったのでかなり焦りがありました。後輩の皆さんには、早めの段階から気になっている大学へ足を運び、積極的にオープンキャンパスに参加していくことをおすすめします。私は高大連携制度を使い受験に挑むことにしました。高大連携制度とは、東北福祉大学から出たいいくつかの課題を、全てクリアした人が受けることが出来る制度です。配信された授業動画を見てレポートを書く課題でした。完成したレポートは大学に郵送する形でした。字の丁寧さや誤字脱字がないか、また、提出が締切日ギリギリになってしまわないように心がけていました。

■本番では自信を持って
思いを笑顔で伝えました

良い評定をとるためには、提出物やテストの点数をしっかりとれるように頑張れば大丈夫だと思います。テスト前には自分に合った勉強計画を逆算して作成し、勉強を進めていきました。テスト作成する先生方によってのテスト対策をしておくことも大切かと思います。先生方によって問題形式を覚えておくことや、授業中にテストに出す問題やポイントを教えてくれる先生もいるので、授業中も先生方の話を真面目に聞くことをおすすめします。

大学受験には小論文と面接があり、私は準備はしていたもののどちらとも不安でした。ですが、当日は割り切って笑顔でハキハキと喋り、入学したい思いを述べました。自信を持って話すことも大切だと思います。

後輩の皆さん、これから進路決定まで悩むこともあるかと思いますが、最後まで自分を信じて、目標に向かって頑張ってください。

東北福祉大学 総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
桃生中出身

失敗したことも大事な経験であり アピールポイントになります

■自分に合う仕事分からず 就職から進学に変えました

私は、仙台育英に入学してから部活動を一生懸命取り組んでいました。部活動に専念するあまり、進路について真剣に考えていませんでした。漠然と、高校卒業してからは就職するんだろうなと思っていました。3年生になり、卒業後の進路について真剣に考えるようになり、就職の求人を探しはじめました。しかし、自分は何の仕事をしたのか、どんな仕事合っているのかわからないことに気付きました。そこから、家族や部活の先生方に相談し、進学をすることに決めました。先生と相談し一緒に考えていただき自分にはどのような学部が合っているのかなど話し合いました。大学のパンフレットやインターネットで調べたり、自分がやってみたいとこと学んでみたいことがイメージすることができたので東北福祉大学産業福祉マネジメント学科を受験することにしました。

■小さなことでも何かを 頑張れば自信になります

大学に入って学んでやってみたいことを具体的に明文化し、小論文や面接の練習で、どう話せば伝わるのか、印象が良くなるのかなど先生方に聞いてもらいました。たくさんのアドバイスを頂き、自信がもてるようになりました。自己アピールでは、まず、高校生活でがんばってきたことを言えるようにしました。部活動を3年間続けてきたこと、キャプテンとしてがんばってきたことや、学校を一度も休んだことがないこと、小さなことでも自分ががんばったことを思い出して自信を持つことが大事だと思いました。それが面接官にも伝わると思います。そして、進路について悩んだ時は家族や先生、友人と相談しどの道が自分に合っているのか見つけてもらうことも良いかもしれません。自分では見つけられない自分の良さがわかるのかもしれない。でも、決断するのは自分です。決断したのなら、高校生活で学んだことを振り返り自信を持って受験して下さい。失敗したことも大事な経験です。きっと、それもあなたのアピールになると思います。皆さんの未来が希望であふれますように。

東北工業大学 ライフデザイン学部生活デザイン学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
松島中出身

普段は行わない面接や小論文に慣れる為 練習を繰り返すことが大切です

■本番の小論文で予測していた 内容が出題されました

私は公募制推薦型入試で、東北工業大学ライフデザイン学部生活デザイン学科に合格することができました。受験内容は小論文、面接です。

小論文を書く上で重要な文の構成を、受験の2ヶ月前から練習し理解できるよう努力しました。また、小論文を練習する上で現代文の先生がサポートしてくださり、最近の時事問題だとかいうものが出そう、など文の構成以外にも小論文に関して対策してくださいました。実際、受験で出題された内容も、予測していたものと似ていて、容易に書くことができました。また、小論文には要約問題がありました。要約も先生のサポートを受けながら対策してきました。要約問題というのを今まであまり解いたことがなく最初は頭を悩ませましたがたくさん練習することで慣れることができ、本番も上手く書くことができました。

■柔軟に対応できるよう しっかり面接練習しました

面接は受験前に6回ほど練習しました。数をこなすことで、想定される質問に多く答えることができるようになり、練習に付き合ってくださった先生も深く質問してくださり、本番でどんな質問がきても返せることができるような練習をすることができました。本番の面接では全て想定していて質問で、詰まらずに答えることができました。また、書類で志望動機を書く際に書いたことを、基本に、内容を固めることでどんな質問がきても自分の気持ちから逸らさずに答えることができました。志望動機は夏休みの頃にしっかりと内容を決めており、それも先生と何回も面談を重ね添削を繰り返したものです。このようにしっかりと自分の考えていることや自分がやってきたことをまず文章として固めることで面接に答えることができました。

私は受験に挑む上で何事も練習が大切だと考えています。なぜなら受験とは慣れていないことをするからです。普段なかなか面接はしないし、小論文も書く機会はないと思います。だからこそ、慣れていないものを慣れるようになるという作業が必要だと考えています。また、分からないことがあったら、それぞれの分野に合った先生に相談するというのも大切です。以上の理由から私は大学に合格することができたと考えています。

東北文化学園大学 医療福祉学部看護学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
鶴が丘中出身

高校生活と受験に全力を注げるように スケジュール管理の習慣をつけましょう

■説明会で色々な大学の情報を 集め参考にしましょう

私は幼い頃から看護師になることが夢でした。そのため、学部は看護学部なのでそこで迷うことはありませんでした。しかし、3年生になっても行きたい大学が決まっておらず、ずっと迷っていました。私は看護師になれるならどこでもいいと思っていました。そんな時に、様々な県の看護学校だけを集めた説明会に参加しました。その時に行く大学を決めることができました。説明会にはできるだけたくさん参加してください。必ず自分に合った学校が見つかります。高校生活は推薦を考えているのであれば休まないことが一番です。看護学校は特にそうだと思います。なぜなら、自分自身の体が丈夫でなければ、患者さんに元気を与えることができないからです。そして、なんでもいいので検定は一つ持っているといいと思います。私は英検を受けました。一つでも持っていると思えば安心できると思うので、ぜひ何か取りましょう。

■色々な先生方と練習すると 面接での対応力が磨かれます

入試は小論文、面接でした。小論文は書き方を覚え、スピードも大事にしながらたくさん練習していきましょう。面接は練習する前にどんなことを聞かれるか調べました。看護学校は面接でこの人は看護師に向いているのかみるそうなので面接もたくさん練習しましょう。いろいろな人と練習することで、どの角度からの質問がきても、動じなくなります。

大学受験を通して、スケジュール管理の大切さを改めて実感しました。推薦入試などを受験する場合は、考査の期間と重なることもあります。忙しくなっても高校生活と受験の両方に全力を注げるように、1, 2年生の時からスケジュール管理の習慣をつけておくといいと思います。

高校3年間でどれだけ有意義に過ごすことができるかが、大学受験やその後の将来に関わってくると思います。高校生活を楽しむことも忘れずに、充実した環境を活かしていろいろなことにチャレンジしてみてください。

東北文化学園大学 工学部臨床工学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
玉川中出身

仙台育英の豊富な推薦枠を活用し 自分に合う進路を見つけましょう

■本番直前などに精神を整える

方法を工夫をしましょう

受験を終え、受験において大切だと感じたことを大きく三つに分けて書きたいと思います。

一つ目は、志望大は早めに決めておいて損はない、ということです。

志望大を早く決めることができれば志望大に合格するための対策を早くでき、合格への遠回りをすることもなくなるため、ほかの人に差をつけることができます。さらに、日々の勉強に意義を感じることもできます。高校3年生になり、志望大が決まっていなかった場合、受験勉強に意義を感じづらくモチベーションの低下につながります。逆に言えば、明確に目標を決めておくことでモチベーションの向上ができます。

私は、高校入学前からなりたい職業が決まっていたので、比較的早く志望大を決定することができ、勉強も気持ち的に楽にすることができました。

二つ目は、高校の特性、強みを利用しよう、ということです。

仙台育英は多くの大学との繋がりがあり、毎年多くの指定校推薦の枠があります。指定校推薦の中に自分が行きたい大学があれば、指定校推薦に挑戦することもとても良い手段だと私は考えます。

三つ目は受験当日のことです。

受験当日はとても緊張します。私は、自分の人生がかかっていると思うと、なおさら緊張して本来の自分の実力を発揮することがとても難しくなりました。その緊張を和らげるために、スマホではなくいつも見るものに受験本番までに自分がやってきたもの、合格のために対策したことなどを書いておき、それを試験開始前に見ることで緊張を和らげました。

このように、自分の勉強方法のほかに、メンタルケアの仕方も確立すると良いと思います。

東北医科薬科大学 薬学部薬学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
多賀城中出身

早い段階で自己分析をしておく 最適な勉強の仕方が見つかります

■国公立大学と私立大学の 入試の違いに注意しましょう

地域医療に従事したいという思いが強く、東北医科薬科大学を志しました。

医療系進学クラスに所属していたため、2年生までは国公立大への進学が第一志望でした。しかし、判定が全く伸びず、勉強への意欲がなくなってしまっていた時に、両親が私立大への進学も提案してくれました。

そこから、私の一番の目的は薬剤師の国家資格を取ることだと再確認し、気持ちを切り替えて、数・英・理の勉強により一層力を入れ、学力がつかしました。このことから何が言いたいかというと、国公立大学と私立大学では受験の形態が異なります。国公立大学だけではなく私立大学の進学も視野に入れて、多様な選択肢を考慮しておくことが大切だと思います。そのため、私立大学に絞って勉強をすすめるのも1つの手段だと考えます。しかし、受験で使用しない科目は勉強しなければ良いという訳ではなく、定期考査へ向けた勉強は必要不可欠です。私立大学の入試形態は多様なため、基礎学力をしっかりと身に付け評定をしっかりとっておくことが必須です。

学校推薦型選抜（公募制）を活用して進学することを決めた時から、化学と英語に力を入れて勉強しました。朝と放課後は学校で、学校が閉まった後は地元の図書館で閉館時間まで籠って学習しました。化学は「セミナー」を数えきれない程行いました。1周目は2週間程度かけてじっくり丁寧に解き進めました。教科書とは常に一緒に、少しの疑問や、頭の中で整理できていないことを見つける度に、教科書に戻るよう意識しました。3周目以降は1週間から10日かけて実施しました。この時は人に説明できるようになるまで理解することを意識しました。英語は自学の時も授業中も常に単語帳と文法書を横に置き、電子辞書は極力使わないようにしていました。数学は公募制では必要ないのですが、一般受験の際は必須科目になるため、授業を大切にしました。そして教科書や共通テストの予想問題に週2回程度触れるようにしていました。過去問題に関しては公募制を5年分、一般を10年分解きました。この時ももちろん教科書を横に置き、抜けているところは教科書を見て復習するようにしていました。

■友達と家族の存在が 受験勉強の支えでした

私の受験勉強の支えは友達と家族の存在でした。友達は、毎日暑い時も寒い時も、学校が閉まるギリギリまで一緒に勉強して、戦友のような存在でした。友達がいなければ辛い時を乗り越えることができなかったと思います。家族は毎日前向きな言葉をかけてくれ、とても心の支えになりました。

何から始めたらいいかわからない人は、まずは自己分析から始めてほしいです。自分は朝方なのか夜型なのか、静かな所か生活音のする所のどちらが集中できるのか、1人で黙々と勉強するのと友達と一緒に勉強するのとどちらが頑張れるのか、自分の勉強に対する性質を見極めてみてください。世間で良しとされている一般論はあるかもしれませんが、それはあくまで多数派の意見であって自分がそれに合うのかは試してみないとわかりません。早い段階で自己分析ができていれば、安心して勉強に取り組めると思います。皆さんの志望する進路達成に向けて諦めずに頑張ってください。

東北医科薬科大学 薬学部薬学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
南小泉中出身

先生や友達の存在があったからこそ 受験を戦い抜くことができました

■患者さんに安心を与える 薬剤師になりたいです

まずはじめに、この体験記を書けることをありがたく思います。拙い文章ですが少しでも参考になれば幸いです。

もともと薬が人体に及ぼす影響について興味を持っていた私は、身近な人が薬の使い方に不安を抱える姿を見て、人々が治療に前向きになれるよう力になりたいと思い、薬剤師を目指しました。そのため高校入学時にはすでに東北医科薬科大学の公募推薦を利用したいと考えていました。しかし、理系科目には強めの苦手意識があり、勉強不足も相まって化学基礎は徐々についていけない状態になってしまいました。この進路でいいのか不安でしたが、どの教科も高い評定を取れるよう定期テストと提出物は頑張りました。

2年生では部活で部長を務め忙しくなり、楽しい反面勉強で周りとの差ができ、さらにコロナで学校生活や行事が制限され、色々な事が嫌になってしまったときもありました。ですが目標があったので、せめてこれだけは、と化学基礎のセミナーを頑張りました。

3年生になり、部活引退後の秋からようやく本腰を入れました。そうすると苦手だった化学も理解できるようになり授業も受験勉強も楽しく感じました。分からないことはその日のうちに先生にきいて解決するようにしました。先生は忙しいときも親身になってわかるように指導してくださいました。

次に、私自身が取り組んだ勉強内容をまとめます。

- ・化学はセミナーを、英語は単語帳と問題集を、試験日から逆算して計画を立てて取り組む。
- ・何度も間違えるところをノートに大きく書く。特に化学の知識はとても大事。言葉だけでは覚えにくい問題は、資料集の写真の周りに書き入れ視覚的に覚える。
- ・暗記は帰りにブツブツ唱えながらリズムで覚えた。
- ・過去問は6年分を3、4回解き傾向を掴んだ。
- ・英語は長文をいかに早く正確に読めるかが大事。
- ・また分からない問題は潔く捨てる勇気もすごく必要。(私は本番で勇気を出せず、結局解けなかった問題に時間を使ってしまい後悔しました。)
- ・面接は5分程度と短時間ですが、合否を分ける最後の砦になりかねません。勉強で辛いとき、自分が何をやってきて何故自分はこの大学に入りたいのか思い出し原動力にするためにも、自己アピールとこの大学でないといけない志望理由を明確にまとめスラスラ言えるよう繰り返し練習した。

以上が、私の勉強方法です。

■先生のアドバイスで自分を 信じることができました

私は先生と友人に恵まれたことが大きかったと思います。周りが気になり自分の勉強の仕方が合っているのか不安になった時、担任の先生が「それぞれ自分の正しいと思う方法で勉強するのが良いよ」とアドバイスを下さり、その言葉と自分を信じてひたすら机に向かうことができました。また、私は家では集中が続かなかったので、朝は5時に起き7時には登校し教室で、放課後は学習スペースまたは塾の自習室で勉強しました。学習スペースでは先生方が通りすがりに励ましてくださり、友達とは互いに励まし合い精神的にとても救われました。受験はチーム戦だと担任の先生がよくおっしゃっていましたが、本当に一人では闘いきれなかったと実感しています。

最後になりますが、今改めて早くに進路を決めてよかったなと思います。自分の納得いく進路に余裕を持ってまっすぐに進んで来られたからです。これからが夢を叶える本番なので私も頑張ります。みなさんもどうぞ頑張ってください。

宮城学院女子大学 学芸学部心理行動科学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
錦ヶ丘中出身

部活動やボランティア活動など 今だからできることに取り組みましょう

■部活動の実績と経験は 受験に大いに役立ちます

私が大学進学を目指したきっかけは、将来就きたい職業について考える時間が増え、就職できる職の幅が増えるからです。

私には、小学生の頃からもっていた夢があり専門学校への進学も考えていました。しかし、専門学校への進学には個人的にデメリットがありました。1つ目は、新型コロナウイルスの流行です。コロナが流行していることによって将来就きたかった職業の需要がなくなってしまった時に、他の職業へ転職することが難しくなってしまうからです。2つ目は、大学に進学することによって職業選択の幅が増えるからです。

私は、まだ進路を明確に決めていない時からどのような選択をしても大丈夫のように、英検や部活動に力を入れてきました。英検は受験をする際にとても役立ちます。特に指定校推薦を考えている人は、資格を持っているか、いなかで差は広がると思います。また部活動では、常にトップチームに入って活動できるように心がけました。常にライバル心を持ち大会などで良い成績を残せるように、日々の練習を大切に、周りから認められるように努力してきました。大学進学をする際に部活動はかなりアピールポイントになるので何かしら所属すると良いと思います。

■他の人よりも早いうちから 受験準備を始めましょう

私は、総合型と公募制推薦を経験しました。総合型では、なぜその大学、その学部に入りたいのかをとても掘り下げられて聞かれるので、他大学のカリキュラムと何が違うのか、その大学でしか得られない事は何かなどを事前にまとめておくとう良いと思います。また、新聞関連の質問も多いので、自分が読んだ記事は希望する学部とどのような関連があるかなども対策しておくとう良いと思います。

公募型では、いかにアピールポイントがあるかどうかだと思います。部活動での活動が評価され日々の努力が認められるので、一日一日の練習を大切に、アピールポイントを増やしておくとう良いと思います。

面接、小論文対策ですが早いうちから回数を重ねておくだけ本番に強くなると思います。10月になるとみんな面接練習を始めるので9月から始めると良いと思います。面接は、面接官の目を見ながら笑顔でハキハキ話せば大丈夫です。

小論文は時間内で書き終える練習を何度もすることが大切です。本番は周りに圧倒されて練習通りに行かなくなりやすいので気をつけてください。

部活以外にもボランティアなどを経験しておくとうアピールポイントになると思います。学校での過ごし方や友人との思い出が、面接で良い方向に進むことがあります。

今しかできないことを楽しんで、受験頑張ってください。

仙台白百合女子大学 人間学部グローバル・スタディーズ学科に
公募制推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
宮城野中出身

学力や忍耐力など大学受験を通して 得られたものは少なくありません

■ ボランティア活動には 積極的に参加しましょう

私は、大学受験のために期末考査や資格取得を特に頑張っており取り組んできました。先生方が、推薦入試では成績や資格が大事だと教えてくれたからです。そのため、1、2年生のときに韓国語能力試験や英語技能検定などの取得のために勉強をしました。その甲斐があって、大学受験をする際の調査書の助けになりました。しかし、後悔したことが2つあります。1つは、大学調べです。私が本格的に大学調べを始めたのが2年生の後半の頃でした。気になった大学の入試条件を調べると、今から入試準備を始めても遅かったり、資格取得が間に合わなかったことがありました。もっと早く大学調査をすれば良かったと後悔をしました。そのため、進学したい大学やはっきりとした進路が決まってもある程度の大学を調べておいたほうが受験のために行動することが明確になって良いと思います。2つ目は、ボランティア活動に参加しなかったことです。調査書にボランティア活動に参加したことを書けることは知っていたのですが参加を申し込む機会を逃していました。そして、参加をしたボランティアは参加証を受け取ることができないボランティアで、調査書に書くことができませんでした。そのため、あと何年か後に受験をひかえている生徒の皆さんには参加証をもらえるボランティア活動に積極的に参加することをお勧めします。

■ 何事も行き詰まった時は 溜め込まずに相談しましょう

そして、大学受験当日に後悔したことがひとつあります。それは、漢字の勉強です。私が受けた試験が、面接と小論文でした。小論文を書いているときに、漢字が分からなくてひらがなで書いてしまったものが少しありました。小論文での漢字の間違いは減点対象になるのでとても後悔しました。

私が大学受験で得られたものはたくさんあります。受験のための資格取得への勉強で得た学力や、年に4回もある期末考査や、道が長くいつまでも不安な大学受験をやり切る忍耐力などを得ることができました。これから受験生になる生徒の皆さんは、受験勉強や試験勉強で行き詰まっても1人で溜めこまないで誰かに助けを求めてください。一度しかない高校生活を楽しんでください。

尚絅学院大学 心理・教育学群心理学類に
公募制推薦で合格

令和5年3月 通信制課程卒
登米中出身

自分の行動次第で可能性は広がるので まずは思い切って挑戦してみましょう

■レポートとテスト勉強に 計画的に取り組みました

尚絅学院大学を志望した理由は、自分のやりたいことが存分にできると感じたからです。私はたくさんのやりたいことがあって、それをできるだけ多く叶えたいと思い授業の選択の自由度が高く、また学習や学校の環境が温かかったことが決め手となりました。そして総合型選抜で受験することを決め、合格をいただきました。

大学進学にあたり大事にしていたことは、大きく分けて3つあります。

1つ目はレポートをできるだけ早く終わらせることです。通信制は学校に行く回数が少なく、聞きたいことや質問があってもなかなか先生に会う機会がありません。そのため、早く終わらせておくことで、分からない問題にじっくり時間をかけることができます。

2つ目はレポートが終わり次第、テスト勉強を始めることです。テスト結果は評価に直結します。まずはレポートの枚数が多いものから手をつけ始め、徐々に教科を増やしていくことがおすすめです。

3つ目は課外活動や資格を取得することです。私は週に1度、小学生の子どもたちと放課後に運動をする活動を行っていました。また資格は、漢検英検ともに2級を取得しました。全日制に比べ自由度が高いので、自分のために時間を使うことができます。

■課外活動がきっかけで 進路が定まりました

全てに共通していることは時間の使い方だと考えます。毎日勉強しなければいけないわけではありませんが、習慣をつけることは大事です。布団の中でも移動中でも、5分でも触れるべきです。また、自由度が高い分、スケジュールは自分自身で管理しなくてはなりません。自分で考え実行することが必要です。

私はとても実りある3年間だったと感じています。特に小学生の子どもたちとの課外活動は、とても刺激的でした。この経験があったからこそ、やりたいことや将来の夢が定まったと思います。

自分の行動次第でできることは増えていきます。難しく考えず、やりたいことはやる！とわがままになってみてもいいのではないのでしょうか。

仙台青葉学院短期大学 リハビリテーション学科理学療法学専攻に
公募制推薦で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
多賀城中出身

評定を維持したおかげで推薦受験ができて 勉強してきて良かったと思いました

■ 4.5以上の評定を維持すべく 勉強に励んでいました

私は公募制推薦を利用して受験に合格しました。大学受験を目指す上で大事な事は、1年生から3年生まで安定した評定を取ることだと思います。安定した評定を取っておくことで、志望大学の幅が広がり、行きたい大学も徐々に定まってきます。私は定期テストで評定が4.5以下にならないように意識し、勉強に取り組んでいました。また平常点は絶対に落としてはならない項目なので、提出物や出席率には気をつけていました。部活動に所属していると、なかなか勉強時間が取れないですが、私は睡眠時間を削り短時間で効率よく勉強していました。

■ 志望大を決めたのが遅く 推薦入試を諦めかけました

また、志望大学を早めに決めておくことも大事だと思います。私は高校3年生のギリギリまで、学びたい学問はありましたが志望大学は全くと言っていいほど決まっていませんでした。ギリギリの時期で何校かオープンキャンパスに参加し、ようやく志望大が決まりました。その大学は受験がすでに始まっており、一般受験で受けるしかないと言っていたときに助けてくれたのが、今まで積み重ねてきた評定でした。このとき、勉強してきて良かったと思えました。公募推薦では小論文と面接があり、小論文対策は大学の過去問を解いたり、他の大学の同じ学科の過去問を解いていました。面接練習は、先生方とは一回しか行うことができませんでしたがYouTubeでの面接対策や、これまで頑張ってきた部活動の経験から、本番でも100パーセントの実力を発揮することができました。

皆さんも受験頑張ってください。

2023 栄光への軌跡

2023年春、志望大学に現役で進学した仙台育英学園高等学校卒業生による
大学合格までの軌跡



学校推薦型選抜【スポーツ推薦】

立教大学、新潟経営大学、名古屋産業大学、追手門学院大学

立教大学 コミュニティ福祉学部福祉学科に
スポーツ推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
山形 鶴岡第四中出身

勉強もスポーツも目標があれば意欲が湧き 努力することで目標達成に近づきます

■ビジョンを描き必要なことを 考えて練習に励みました

私は、アスリート選抜入試という形で、立教大学への進学を決めました。立教大学を志望した理由は、素晴らしい施設や練習環境が整っていて、身近な先輩も進学しており、自分自身の成長に繋がると感じたからです。

部活動では、硬式野球部に所属していました。高校3年間といっても、現役として部活動に全力で取り組めるのは実質3年の夏まで、2年半しかありません。だから、とにかく時間を無駄にしないように心がけて、練習に取り組んできました。

3年間で大切にしてきたことは具体的な将来のビジョンを立てて、それに向かって何が必要なのかを考え、練習に取り組む事を大切にしてきました。

目標は「日本一」になること。チームに必要となる選手になるために、自分の役割は何か。今、自分に足りないものは何かを考えて練習に取り組みました。

自分たちは最後の夏の大会で東北勢初の優勝を成し遂げることが出来ました。この1番の要因として、横の繋がりがあると思います。自分自身も常に横の繋がりを意識して生活していました。仲が良いことによって絆が深まり、チーム力が上がって行った結果が優勝に繋がったのだと思います。

また、100人近くの部員がいるため、チーム内でも常に競争がある環境は、緊張感とさらに上を目指そうという向上心に繋がりが継続するための原動力にもなりました。

その他、寮生だった私は、3年間の寮生活を通して自己管理ができるようになったことも大きな成長でした。

目標を持つことで、頑張ろうという意欲が湧いてきます。そして努力することで目標が確実に近づいてきます。これは勉強でもスポーツでも同じだと思います。高校の3年間、目標に向かって一日一日をいかに有意義な時間にできるかが、一番大切なことだと思います。

新潟経営大学 経営情報学部スポーツマネジメント学科に
スポーツ推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
新潟 石山中出身

支えてくれる人たちがいるからこそ 諦めずに努力を継続できるのです

■ 仲間の励ましのおかげで 部活動を続けられました

私はこの度、新潟経営大学経営情報学部スポーツマネジメント学科に合格することができました。先生方には、たくさんのご指導をして頂きました。さらに、友達に励ましてもらい、家族にも支えてもらいました。私は、たくさんの方々から支えて頂いたからこそ頑張ることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。中学生の頃、私は勉強することが苦手でしたが、高校での最初のテストをきっかけに部活動と勉強の両立を目標に頑張ろうと思うようになりました。仙台育英のサッカー部で活躍したいと思い部活動の後に自主練習を始めました。なかなか成果を出すことができず、たくさん悩むこともありました。そんな時、私の周りには、声をかけてくれる仲間がいました。そのおかげで諦めずに続けることができ、部活動を通して、努力が結果につながるということを改めて感じました。しかし、私にとって部活動をしながら勉強と両立させることは簡単ではありませんでした。普段はサッカーばかりで勉強をする時間はあまりなく、テスト1週間前に始めていました。そのため、焦ることもあり、嫌になることもたくさんありました。それでも、自分なりの勉強方法を見つけて勉強し、成績を維持し続けてきました。

■ 先生との対策で自信が付き 本番で力を出し切りました

大学受験には面接があり、正直、私は不安でした。先生方が昼休みや放課後、面接の指導をしてくださり、少しずつ自信をつけることができました。当日まで努力し続けたことで、受験本番は緊張せず、力を出し切ることができました。私は高校での3年間を通して、どんなことでも努力すれば必ず結果はついてくるということを強く感じました。また、それは自分一人では出来ることではなく、支えてくれている人がいるからこそ出来ることだと思いました。後輩の皆さん、これから進路決定まで悩むこともあると思いますが、最後まで自分を信じて、諦めずに、感謝の気持ちを忘れず、目標に向かって一生懸命頑張ってください。

名古屋産業大学 現代ビジネス学部現代ビジネス学科スポーツビジネスコースに
スポーツ推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
愛知 大治中出身

仙台育英での3年間を自分の財産にし 将来の自分を形作っていきたいです

■地元を離れ強豪・仙台育英で サッカーに打ち込みました

仙台育英で過ごした日々は楽しいことばかりではなく苦しい日々が続きました。一般入試で仙台育英に入学した私はサッカー部に入部しました。中学2年次に事情がありサッカーを辞め陸上に転向しました。体力に自信はありましたが、中々大会では結果を残すことはできませんでした。中学3年次、遊びで友達とサッカーをした時、もう一度サッカーを本気でしたいと考え、県内の高校では親に甘えてしまうと考え、県外の強豪校に行きたいと親に相談しました。最初は反対されましたが承諾してもらい入学することができました。一年目は試合にも関わることができずサッカー部の厳しいルールもあって苦しい一年でした。二年目は、自分に厳しく私生活の改善や自主練の量を増やしたことで試合に絡む機会が多くなりました。2年次の夏はCチームのユニフォームを貰うことができたのですが、次の日の紅白戦で鎖骨を折ってしまい、全治2ヶ月で運動が禁止されて挫折してしまいました。怪我をしてからは自問自答を繰り返す日々が続き立ち直ってからは、普段しないようなトレーニングを重ね、怪我をする前よりもキレが良い状態で復帰することができました。

■大学では大きな大会に出場し 頂点を目指していきます！

3年次は部活と進路の両立がとても難しく行きたい大学が決まりませんでした。しかし、外部コーチから大学の話を貰い練習参加を通して推薦を勝ち取り名古屋産業大学に行くこと決めました。そこからの期間は今まで以上に文武両道に力を入れ取り組みました。しかし選手権メンバーに入ることはできず、チームとしても全国に行くことはできず悔しさが残りました。この悔しさは必ず大学に繋げて結果を残したいと考えています。大学サッカーの主な大会である、インカレや総理大臣杯に出場し、点を取りチームを勝たせられる存在になりたいです。この仙台育英で過ごした3年間の喜び、悔しさを忘れず、自分の財産にし将来の自分を形作っていきたいです。

追手門学院大学 社会学部社会学科スポーツ文化学専攻に
スポーツ推薦で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
大阪 石切中出身

休日も登校し先生方に小論文を 添削して頂いたのが合格の要因です

■将来を見据えハイレベルな 練習と体力強化に励みました

私がこの大学を目指したきっかけは、同じ中学の先輩方が通っていたからです。大学で活躍している姿を見て自分もこのようになりたいと思いこの大学を目指しました。

入試に合格するために小論文と面接を頑張りました。小論文は、夏休みの期間から学校へ登校して対策練習を続けてきました。面接は、どのような質問にも答えられるようにさまざまな先生方と練習をしました。

部活動の面では、大学に入学した際に1年生のときから上のチームで活躍できるように日々の練習に取り組んでいました。昨年は冬の全国大会もあったのでそれに向けて毎日の練習の中で技術向上のためや細かい部分も意識するようにして取り組んできました。メンバーの体調不良もあって人数が減っていた中でも、自分のすべき事は認識して練習をしていました。さらに全国大会に出場する他のチームに負けられないような体作りも心がけました。あたり負けしないために、筋肉トレーニングや食事の管理をしていて全国大会までに少しでも増量することができました。大学生は高校生よりも体格が大きいので入学するまで更にトレーニングや食事の管理を徹底していきたいと考えています。

■小論文は制限時間内で まとめる練習を工夫しました

定期考査は1,2学期のテスト成績があまり良くなかったのですが3学期では少しだけ良くなったと思いました。1,2学期はテストの前日に勉強をしていましたが3学期では3日程前から対策勉強をしていたので少し改善できたと感じました。

試験内容が小論文だったのですが合格するためにはさまざまなお題の問題をする必要があると思います。さらに時事問題に関する内容も出る場合があるのでニュースや新聞を見ておくのが良いと思います。入試時間が1時間でその練習をするためにタイマーではかりながらやっていました。一日の勉強時間は2時間程度で2つの内容の問題をやっていました。休日に時間がある場合は学校に登校して先生方に教えてもらおうというのが一番良いと感じました。私が一番受験に合格した要因がこれだと思います。この高校生活3年間はとても短く感じました。悔いの残らないような高校生活にして欲しいと思います。

2023 栄光への軌跡

2023年春、志望大学に現役で進学した仙台育英学園高等学校卒業生による
大学合格までの軌跡



総合型選抜

延世大（韓国）、東京学芸大学、東京海洋大学、弘前大学、
秋田大学、山形大学、福島大学、宮城大学、慶應義塾大学、
中央大学、立命館大学、東北学院大、東北福祉大、東北工業大…

東京学芸大学 教育学部教育支援課程 E 類多文化共生教育コースに
特別推薦で合格

令和 5 年 3 月 秀光コース卒
宮城学院中出身

自分にしかできないアピールが できるような活動に取り組みましょう

■国内外の教育に関する知識を

大学で深めたいと考えました

私が東京学芸大学の多文化教育コースを志望した理由は主に二つあります。一つ目は、幼い頃から英語を習っており大学時代は留学をしたいという目標を持っていたことです。また、留学では英語の習得だけでなく他の文化を知ることによって自分自身の視野を広げたいと考えました。二つ目は、教育分野に関する職業に就きたいと考えたことです。高校で国際バカロレアという教育プログラムに出会い、充実した高校生活を送ることができた経験から国内外の教育プログラムに興味を持ちました。そのため、大学では教育に関する知識を習得したいと思いました。これら二つの目標を達成することができる環境が整っていると考え、東京学芸大学の多文化共生教育コースを志望しました。

■1 年次から興味がある大学を

入念に調べていきましょう

自分自身が大学受験を経験し、具体的にアドバイスできることは主に二つあります。一つ目は各大学についてのリサーチを入念に行うことです。私は受験で面接を行い、インターネットや大学のパンフレットの情報に加え、実際に大学を訪れて得る情報が非常に重要だと感じました。私は高校 2 年生からいくつかの大学のオープンキャンパスに参加し、自分が思い描いていた大学のイメージと実際の雰囲気が異なることがありました。そのため、高校 1 年生から大学に関する調査を入念に行なっておくことで自分が志望する大学を選択することができると思います。また、オープンキャンパスに参加することによって、受験の面接では実際に感じた魅力などを効果的にアピールすることができます。

二つ目は積極的に校外活動に参加することです。私は高校 2 年生から CAS 活動という活動を通していくつかボランティア活動を行いました。具体的には、新型コロナウイルスの影響で活動の幅が制限された子どもたちのために地域の児童館に自分たちが作成した DVD を贈呈する活動を行いました。推薦入試は自分の経験を効果的にアピールすることが最大の武器であると考えます。私の周りで推薦入試を受けた人の中で、高校時代にボランティア活動の企画を行ったり模擬裁判に参加経験したりするなど様々な経験をしている学生が多く見られました。このような経験から、自分にしかできないアピールをするために何か興味のある活動をいくつかやっておくことをお勧めします。

東京海洋大学 海洋工学部海洋電子機械工学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
宮城教育大学附属中出身

1年次から定期考査に真面目に取り組み 評定が推薦受験の強みになりました

■志望大について細かく調べ
好きになることが大切です

私が総合型選抜を受験した理由は、大学に合格する機会が増えるのと、自分が入学したいという気持ちを直接伝えられるからです。

総合型選抜を受験する上で重要なことはその大学を好きになることだと思います。調べれば調べるほどその大学の魅力に気づき、オープンキャンパスに参加することで、教授の人柄や校舎の雰囲気を知ることができます。これらのことが大学を好きになるきっかけになり、志望理由書作成の時や面接時に役立つと思います。

■一般入試と推薦受験の対策を
両立するのが大変でした

ここで、私が後悔したこと、良かったことについて記します。始めに、後悔したことは総合型選抜での受験を決めたのが遅かったことです。私が受験を決めたのは3年生の夏休みだったため、受験の山場である夏休みに一般入試と総合型選抜の対策を両立しなければなりませんでした。そのため、周りとの学力差が広がっていくのを感じ、肉体的にも精神的にも追い詰められる日々を過ごしました。次に、物理化学の対策が遅かったことです。分野ごとに内容が異なる理科科目は、対策が遅れてしまうと模試で酷い目に遭います。良かったことは、身近な人に頼ったことです。志望理由書や学科試験を先生方に見てもらっただけでなく、両親には書類の作業を手伝ってもらい、家族に面接の練習を行ってもらったことで、自信を持って受験当日を迎えることができました。次に、1年生のときから提出物や定期考査を真面目に取り組んでいたことです。私は3年生になるまで一般入試のことしか考えていませんでしたが、このことで、評定は良いという強みを持って受験することができました。

総合型選抜はとても大変です。ですが、その分学ぶことも多く、新たに経験することも多いです。私は総合型選抜を受験してすごく良かったと感じています。ぜひ、総合型選抜も視野に入れ、受験勉強頑張ってください。

小樽商科大学 商学部グローバルコースに
総合型選抜で合格

令和5年3月 外国語コース卒
逢隈中出身

挑戦して失敗し、失敗から学ぶことを 繰り返しながら成長していきましょう

■大学・コースの理念に共感し

このコースを志望しました

私はグローバル総合入試（総合型選抜）を受験し、小樽商科大学商学部グローバルコースに入学することが決まりました。志望大学として選んだ一番の決め手は、戦前から旧高商と呼ばれたほど商学に強い大学であるだけでなく、語学にも同等に力をそそぐほど「グローバル（地域規模）な視野で、ローカルに（地域の視点から）考え行動できる人材の育成」を理念としていることでした。

一次試験の出願の際には英語の志望理由書と学習計画書があり、二次試験の際には英語でのグループディスカッションと個別面接がありました。この入試方法を選んだ理由は、仙台育英だからこそ、得ることができた経験や知識を最大限に活用できる入試方法だと思ったからです。

■苦勞の先に光があると信じて

マイペースで進みましょう

総合型選抜は高校での成績や実績を評価されるため、いかに自分自身をうまくアピールできるかが重要視されますが、私自身そこまで成績が優秀というわけではなかったため、成績で競い合うより実績で勝負をする方が私の長所を活かせると思い、あらゆる行事やボランティア活動に参加し実績を大幅に増やしました。その時に心がけていたことは「一般の高校生がやっていないこと・自分の長所を活かせること・仙台育英の生徒ゆえに体験できること」を中心に受験に備えました。実際に、IB主催のウクライナ模擬国連やSDGs オンライン留学に参加したり、中国人留学生にアンケート調査を実施したりするなど、この3年間で数えきれないほどの交流、挑戦、経験値を蓄えました。また、出願書類の作成や面接練習は7ヶ月以上前から少しずつ進めていき、外国人の先生や日本人の先生、家族やクラスの友人などに繰り返し何度も添削や練習をお願いし、納得いくまで仕上げました。

「大学受験」というものは、学生時代最後の大舞台です。一步踏み出して、失敗して、悔しんで、学んで、またやり直す。これを繰り返すことができる高校時代をどう活用するかを1年次のうちからじっくり時間をかけて考えましょう。もし失敗した時、その失敗から自分は今何が成長できて今何を变えたいのかを自分自身と話し合ってみてください。疑問だらけで不安な受験期だからこそ、新しい自分を見つけられたり、挑戦しようと思えたり、気持ちの切り替えができるようになったりなど、苦勞の先に明るい道があることを信じて、決して無理せず自分のペースで歩いていきましょう。"Our greatest glory is not in never failing, but in rising up every time we fail."

弘前大学 人文社会科学部文化創生課程に
総合型選抜で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
松陵中出身

以前の自分と比べ確実に成長していると 気付くことがモチベーションになります

■情報科学コースで学んだ 強みを武器に臨みました

私が弘前大学人文社会科学部文化創生課程の総合型選抜入試に合格するにあたって、試験内容である小論文と5分間の口頭プレゼンテーションを含んだ面接練習に全力を注ぎました。小論文ではひたすら文系のテーマや弘前大学の過去問を書きました。ただ小論文を書くのではなく、それとは別にノートにネタを書くようにしました。例えば人文系のテーマによくある「異文化理解」についての小論文を書こうと思ったらまずはノートに小論文で役立つような内容、異文化理解をするうえで今現在日本や世界で行われていることを調べ、書き写し知識を深めました。これを全てのテーマ型小論文を書く前に行いました。また先生に全ての小論文の添削をお願いし、直されたミスは繰り返さないように心がけました。その結果試験当日どのようなお題が出て今まで深めてきた知識を活用し慌てることなく小論文を書くことができました。

面接対策として色々な先生方に面接練習をお願いしました。何度も行い回数を重ね、違う先生方とも行うことで本番でも冷静さを保ちながら面接に臨めました。また口頭プレゼンテーションでは自己PRの発表でした。私は情報科学コースの生徒であり、情報に関する資格を6つ持っているため他の高校生と比べて情報に関する知識は優れていると思いそこを武器にしました。そしてそれが大学でどのように役立つかを詳しく発表できるかが合格に繋がったと私は思います。

■充実した高校生活だったと 思えるように過ごしましょう

最後に皆さんが高校3年間過ごして何も得られなかった、何も成し遂げることがなかったと感じる人がいるかもしれませんが、他人と比べるのではなく過去の自分と比べてください。確実に成長しているものがあるはずですよ。それに気付けるかが自分自身の自信に繋がり受験へのモチベーションになります。自分自身が気づいていなくても皆さんの友人や先生方、家族が気づいています。受験の際はプレッシャーを感じ、重圧で心が押しつぶされそうになった時、周りが助けてくれるので抱え込まないようにしてください。そうすることで受験当日には自分が持つ実力を最大限発揮できると思います。高校3年間は人生に一度しかないので、濃密で充実したと胸が張って言える高校3年間を過ごしてください。

秋田大学 工学部物質科学科材料理工学コースに
総合型選抜で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
宮城教育大学附属中出身

受験は情報戦！ 大学を自主的に調べ 後悔のない進路選択をしましょう

■自習スペースを気分を変えて 飽きないよう工夫しました

私は、国公立の大学に入学したいと考えていて、早期に決まる総合型選抜に魅力を感じ、受験することに決めました。私が受けた入試では、講義のレポートと面接で合否が決まるものでした。講義の内容は当日に発表されるもので、過去の講義とテーマのみ事前に分かっていたため、夢ナビでそれに近いものを探して数回レポートを書き、本番を想定した努力をしました。また面接では調査書を見られるため欠席や遅刻がないようにするのはもちろんのこと、評定を高く維持するために、提出物は期限までに必ず出すことと、定期テストを手を抜かずに取り組むことを続けました。具体的には、3週間前から計画をたてて勉強し、同じプリントやワークを2～3問解いていました。時間に余裕を持って準備すれば直前に焦ることはないので、早めに準備し始めるべきです。日々の勉強では、飽きないようにすることを心がけていました。仙台育英には勉強熱心な生徒をサポートする環境が十分に整っていて、自主スペースが充実しています。宮城野校舎ではGP2階、GP3階、オークルームなどで勉強することができます。それによってその日の気分自分が飽きないような場所選びが出来ました。

■生徒会活動で得たことを 入試でアピールしました

そして課外活動に積極的に参加するべきです。そうすることで様々な経験が出来ます。実際に私は生徒会活動をしていて主に入試の手伝い、オープンキャンパスなどの学校行事に携わりました。そこで得たことを元に入試で自分をアピールすることができました。また、推薦入試のメリットとして、より勉強すべきことが明確になる点があります。合格後大学から事前課題が送られてくるのでそれを完璧にすることを目標にして勉強を続けられました。私は大学受験を通して受験は情報戦であると感じました。どんな大学、学部、学科があってどんな入試方式があるのかは自分が能動的に調べる必要があるので後輩の皆さんには後悔しないような大学調べを行ってほしいと思います。

山形大学 理学部理学科数学コースに
総合型選抜で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
塩竈第三中出身

何事も勇気を出して一步踏み出せば かけがえのないものを得られます

■ 恩師に憧れ数学の教員を 目指すようになりました

私は1年生の頃に恩師に憧れを抱き、自然と数学教師という道を目指すようになりました。意地でも山形大学理学部に入りたいという思いと面接に自信があったことから、公募制推薦、総合型選抜、一般選抜の全てを山形大学に申し込みました。面接は、今まで自分がしてきたことをしっかりと伝えられること、柔軟に対応できることが特徴です。特に総合型選抜の面接ではかなり凝った質問をされる可能性が高く、SDGsを関連させるものがあります。そのため私は数学科と社会科の先生を中心に面接練習をして頂きました。

私が受験期に大切なことを3つ挙げます。

1つ目は勉強する場所です。私はオークルームのような人が多い場所、いわゆる密集空間が苦手でした。その代わり騒音は苦手ではなかったため、よく2階GPホールで勉強していました。自習できるスペースが豊富で、気分転換に移動したりすることが容易のため、飽きずに勉強することができます。勉強する場所を決めると勉強と休憩のメリハリが付くようになります。

2つ目は質問する又は自分で相手に説明する機会を作ることです。勉強は1人でもできますが、持続はしません。私は勉強を一緒にしてくれる、お互い勉強の質を高められる、そのような友達に出会いました。また、私は塾等に入っていなかったため、1年生の頃から執務室に行っては質問をしていました。特に数学の先生にはほぼ毎日質問をしていました。

■ 大学受験に挑戦できたのは 先生方の支えのおかげです

3つ目はメンタルの維持です。私は1年生の頃からあまりメンタルが安定せず、まともにテストも受けることができませんでした。しかし、担任の先生や保健室の先生、カウンセラーさんと何度も話し合っただけで維持することができました。メンタルの件だけではありませんが、先生方はとても丁寧に対応してくれて、先生方のサポートのおかげで大学受験ができました。

何事も自分から踏み出さないと始まりません。最初は誰でも不安や心配を抱くとは思いますが、それを乗り越えた先で得られるものは大きいです。みなさんも夢に向かって諦めずに頑張ってください。

福島大学 人文社会学群人間発達文化学類スポーツ健康科学コースに
総合型選抜で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
五橋中出身

夢を叶える環境が整っている仙台育英で 安心して一心不乱に努力しましょう！

■受験資格を得るため熱心に 部活動に励みました

中学生の頃から陸上競技に熱心に取り組んできた私は、高校入学後の早い時期から、国立大学の総合型選抜での受験を希望していました。この受験型の私の希望する学部では、どの大学も競技での高いレベルの結果を受験資格としています。そのため私は、全国大会での入賞を目標に、高校3年間、熱心に部活動に取り組んできました。そして、日々の部活動での練習メニューに加え、個人的にストレッチや筋力トレーニングを欠かさずに行ってきた結果、2、3年次にインターハイ出場、また2年次のU18の全国大会では6位入賞を果たしました。

総合型選抜ではまた、調査書の内容も重要な選考基準の一つとされます。そのため私は、勉強にもできるだけ手を抜くことなく頑張ってきました。特別進学コースに所属していたため、周囲には部活動に入らず目標を定めて勉強ひと筋にかけているという友人も多く、正直焦りもありました。しかし、試合やそれに伴う新型コロナウイルスのPCR検査や係留などで授業やテストが受けられないことが多い中、できるだけ提出物の期限を守り、質の高いものを出すことができるように努力しました。先生方も事情を汲んで下さって、頑張ったものを頑張った分だけ評価して頂けたことに大変感謝しています。

■先生方は生徒の夢を必ず 後押しして下さいます

試合を全て終え、希望する進路を決定してからも、先生方には大変助けて頂きました。担任の先生や部活動の先生には、相談に乗って頂き、アドバイスを頂きながら不安なく受験準備を進めることができました。また、体育科の先生には、面接の練習や小論文の添削などで力になって頂き、2ヶ月という短期間ではありましたが、十分に備えて受験に臨むことができました。

仙台育英では、たくさんの生徒がそれぞれの夢に向かって頑張っています。そして、ここにはその努力を形にする環境が整っています。もし叶えたい夢を持ち、それに向かって努力を続けているならば、迷わず安心して一心不乱に打ち込んでほしいです。その思いの深さを先生方がしっかりと受け止めて、必ず夢に近づく後押しをしてくれます。

高知工科大学 経済・マネジメント学群に
総合型選抜で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
名取第一中出身

オープンキャンパスで志望大のリアルを 感じる事がモチベーションになります

■大学でも全国レベルの環境で 卓球を続けていきたいです

私は中学1年生から卓球を始め、高校でさらに強くなりたいと思い、仙台育英に入学しました。そして、卓球部で活動するうちに大学では、全国トップレベルの環境でプレーしたいと思い、全国の色々な大学を調べたところ、私の尊敬する監督がいる高知工科大学になんとしても入学したいと思うようになりました。そこで、高校3年生の7月に開催されたオープンキャンパスに参加するとともに、実際に部活動にも参加させてもらいました。このことは私にとって、とても良い経験になり、この大学に入学したいというモチベーションをさらに高めてくれるものになりました。そのうえで、高知工科大学の入試方式を調べたところ、私には総合型選抜のスポーツ区分という入試方式が合っていると感じたので、この入試方式で受験することに決めました。総合型選抜のスポーツ区分には、小論文、面接、卓球の実技試験があり、特に小論文が難しいと事前に聞いていたため、高校3年生の8月には小論文の練習と面接対策に全力を注ぎました。そして、過去問などを解くのはもちろん面接対策も兼ねて新聞を毎日読むようにし、SDGsなどの時事問題について勉強していました。また、卓球の実技試験もあったため、部活動引退後も卓球の練習に励み、無事に合格することができました。

■高い評定を維持することで 将来の選択肢が広がります

これまでを振り返り強く感じるのは、大学には色々な入試方式があり、最終的にどの大学のどの入試方式で受験するのは意外と直前に決まるため、高校1年生の最初からしっかりと勉強し、3年生までの間、できるだけ高い評定を維持することが、その後の進路の選択肢を広げるのに重要だということです。さらに、私のように大学のオープンキャンパスや部活動に参加することで、志望大のリアルを肌で感じる事ができ、モチベーションを高く保つ要因になるため、積極的に参加すべきだと思いました。

宮城大学 食産業学群フードマネジメント学類に
総合型選抜で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
錦ヶ丘中出身

授業に集中して取り組むことは 入試本番にも大いに役立ちます

■評定のお陰で進路決定が 遅れても対応できました

私は大学進学を考えてはいたものの、大学に行って学びたいことが見つからず、なかなか志望大が決まりませんでした。実際に志望大が決まったのは3年生の6月で、総合型で受験することを決めたのは8月の終わりでした。宮城大学の受験、推薦での受験は今まで視野に入れたことがなかったことに加え、出願が9月、1次試験が10月、2次試験が11月と時間も無い状態でした。そんな中でも合格することができた一番の要因は、授業をしっかり受けてきたことだと思っています。しっかりといてもガチガチという感じではなく、提出物を出したり、授業中大切だと思ったことをメモしたりなど最低限のことを1年生の時からやってきました。そのおかげで安定した評定を取ることができ、突然の志望大決定に対応できたのだと思います。また、授業中にやっていたことが実際の試験に役立ったということが多くありました。例えば、授業中大切だと思ったことをメモするようにしていたことで、レクチャーではその後のレポートやグループワークに必要なことをメモすることができました。さらに、現代文の授業で文章の内容を理解して自分の意見を考えるということをしていたことで、レポートやグループワークの際にスムーズに対応できました。

■悩みに悩んで総合型選抜に 挑戦し本当に良かったです

出願書類の準備をしていてやっておいたほうが良いと思ったことがあります。それは本やニュースなどから知識を蓄えること、積極的にボランティアなどに参加することです。このことは面接や自己推薦書等を書くときにとても役立ちます。私も3年生の時に担任の先生が行った小学校でのワークショップに参加した経験が役立ちました。志望大が決まっていない人は、様々な経験をすることにより志望大を決めるヒントが得られると思います。

最後に、何かを選択するとなった時後悔のない選択をしてください。私は消極的な性格のためグループワークや面接のある推薦入試には不安しかなかったことに加え、時間もあまりない中での挑戦だったため、総合型で受けるかどうかとても悩みました。ですが受けることを決め、多くの先生方の指導のおかげで合格をすることができました。あの時総合型で受けることを決めていなかったら、今大きな後悔が残っていたと思います。挑戦することはとても大切なことですが、受験において時間も大切です。自分自身としっかり相談して自分の意志で選択するようにしてください。

慶應義塾大学 法学部法律学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
秀光中出身

仙台育英には自分が成長できる 環境が整っています

■『栄光への軌跡』を読み

自分を変える決心をしました

中学では1日10分程度しか勉強しておらず、休日はゲームばかりしていました。しかし、高校受験をきっかけに、仙台育英学園高校の先輩の合格体験記を見て努力することに魅力を感じ、惰性で呼吸をするだけの自分の生活を変えようと決心しました。

高校1,2年時には、ゲームを完全にやめて、自分の進路の可能性を広げるために様々なことに全力で挑戦しました。定期テストでは、3週間前から計画的に勉強することで評定平均5.0を達成することができました。また、英語の検定試験を受けるのが趣味だったので、様々な英語の資格試験に挑戦して、最終的には英検準1級を取得することができました。加えて、硬式テニス部に所属し、できる限り練習に参加しました。最高の仲間にも恵まれた結果、県大会優勝、東北大会3位、全国大会出場を果たすことができました。

■受験に向けて何も対策しないのは

0ではなく、むしろマイナスです

高校3年生になって、「弁護士になって難民を救いたい」と強く思うようになり、論文や書籍を夢中になって読み、NGO職員や法務省職員、弁護士、大学教授など約30名の専門家に取材しました。最終的には内閣府に招待されて、当時の内閣府特命担当大臣に直接、政策提言をすることができました。活動を通じて、大学で、教鞭を取っている方から「是非うちの大学に来ないか」と言われ、自信ができました。私は一般入試を受けることは考えておらず、AO入試で約10校に出願したため、書類の提出日の管理が大変でした。しかし、大変な思いをしたからこそ、一次試験は全て通過することができました。二次試験では面接と小論文だけの大学が多かったです。結果としては、慶應と早稲田、その他3大学に合格することができました。

「受験において何もしないことは0ではなくマイナス」です。しかし、仙台育英には自分が成長できる環境が整っています。この環境を活かして、皆さんが自らの志を実現することを願っています。

中央大学 法学部法律学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 外国語コース卒
松山中出身

密度の高い勉強を習慣づけることが 長時間行うことよりも大切です

■司法試験のサポートが 手厚い所に惹かれました

冤罪を減らし、被疑者をサポートする弁護士になるという目標の実現に、多くの法律家を輩出しており、法曹コースや炎の塔などの司法試験合格に向けての制度が充実している中央大学が最適だと考えました。総合型選抜は倍率が高いので指定校推薦で他大学を受験することも考えたのですが、大学入学後に後悔したくないという気持ちが強かったため、思い切って総合型で挑戦しました。

入試を通して特に重要だと感じた点は3点あります。1点目は日々の努力を忘れないことです。私自身勉強することは好きではなかったのですが、休日はダラダラ過ごし、夜になってから慌てて課題を終わらせるという生活をしていました。2年生の時はその生活で大丈夫だろうと思っていたのですが、3年生になり1日5分でもいいから勉強しようとマインドが変わりました。そのため朝早く学校に行きグローバルルームで勉強し、放課後も勉強してから帰ることが多くなりました。大切なのは長時間の勉強ではなく、密度の高い勉強をすることです。そして勉強の習慣をつけることが大切です。受験を意識し早い段階から、勉強の習慣を身につけたことで志望大合格につながったと思います。

■予定を可視化する工夫により 緊張感を維持できました

2点目はスケジュール管理です。私は長期的なスケジュール管理が苦手だったので、事前に予定をスマホのカレンダーに書いたり、カウントダウンのアプリを使って予定を可視化するようにしました。出願期間や試験当日までの日数を可視化したことによって、常に危機感を持って受験勉強に臨むことができ、IBDPの最終試験に向けての勉強と両立することができたと思います。全員に平等に与えられた24時間をどのように使うかはそれぞれの自由です。「あの時もっと勉強していれば良かった…」と後悔しないように時間を有効活用することが重要だと思います。

最後に何よりも大切なのが気合いです。「絶対合格する！」という強い意志は勉強の原動力になります。私は2回中央大学を受験し、1回目は一次試験で不合格だったため、「次は絶対合格する」と自分に喝を入れ直し、必死に勉強しました。試験日が近づくと不安やプレッシャーに押しつぶされそうになることもあります。その時は周りの人を遠慮なく頼ってください。先生や友達、家族は皆さんの第一志望合格を応援し、支えてくれます。

第一志望に合格できる受験は全体の10%程度です。その中に皆さんが入れるように願っています。

東洋大学 社会学部社会心理学科に
特別推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
中国出身

大学受験は自分自身について 深く知ることができる貴重な体験です

■ 普段から関心のある分野の 知識を蓄えておきましょう

もともと私は指定校推薦で進学するつもりでしたが、最終的には外国人入試と総合型選抜を利用することにしました。英検の成績がなかったため、指定校推薦入試を諦めました。指定校推薦を利用する場合、普段の成績に加え、大学ごとに満たす必要がある特定の要件があるため、やはり準備には多くの時間が必要です。

学習面に関しては、試験前に課題をため込むよりも、普段から着実に取り組む方が良いと考えています。特に授業中には真剣に聞き、その場で問題を解決することが望ましいです。試験前には、考査時間割と自分の理解度に基づいて、約1週間から復習を計画します。更に重要なのは、普段から自分が興味を持つ分野（大学の専攻）に対して知識を蓄積することです。ただ知識を学ぶだけでなく、常に自分の思考を書き出すことが大切です、特に総合型選抜では、成績だけでなく独自の考え方も重要視されると思います。

■ 自分に対して正直に 取り組むことが成功の鍵です

受験に成功した最も重要な要因は、事前に計画を立て、自分の能力を正確に把握することだと思います。限られた時間内で、どのような資格を取得でき、どのような成績を修めることができるかを考えることが必要です。また、積極的に情報を収集し、先生に相談することも大切です。先生に情報収集を任せたり、一人で黙々と作業をすることを避けるべきです。計画は変更することがありますが、計画を立てないことはいけません。変化に柔軟に対応できる計画を立てるのが必要です。計画を立てたら、実行しなければなりません。個人的に後悔しているのは、志望理由書をもっと良く書こうと考えているうちに筆が進まなくなり、結果的に修正時間が短くなってしまったことです。

大学受験は、自分を深く知ることが出来る貴重な体験だと思います。高校生活でさまざまな視点を吸収し、自分が何になりたいかを考えることが重要です。受験勉強は、大学生活での新しい挑戦に向けた準備の一部で、自分に対して正直に取り組むことが成功の鍵です。

東洋大学 国際観光学部国際観光学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 外国語コース卒
松島中出身

全てにおいて早くから準備することで 余裕を持って入試対策できます

■英語を生かせる観光関連の 仕事に興味があります

私が、志望大学を決めたのは高校3年生の夏でした。英語を学ぶことが好きで、地元が観光地だということもあり、英語を生かすことができる観光業の職業に興味がありました。そのため、観光学について学ぶことができる大学をたくさん調べた上で、東洋大学国際観光学部のカリキュラムに魅力を感じ、志望大学として決めました。周りが早い段階から志望大を決めて入試の準備を始めている中、私は志望大を決めたのが遅かったため、準備がとても大変でした。私が目指した学部は出願と一緒にレポートの提出があったため、毎日放課後は残ってレポートの作成に取り組みました。

■先生方のお陰で本番には 堂々と臨むことができました

総合型選抜は主に小論文と面接を受ける入試方法ですが、私が目指した学部の総合型選抜の試験には小論文と面接に加え、レポートについてのプレゼンテーションがありました。まず、小論文の対策として、授業の内容以外に大学の過去問に取り組み、何度も添削していただきました。また、小論文を書く上で大切となる観光についての知識を得るためにニュースを見たり記事を読んだりしました。得た知識はレポートを作成する上でも生かすことができました。プレゼンテーションの練習は何度も先生に見ていただき、少しずつ改善していきました。おかげで、本番では自信をもってプレゼンテーションをすることができ、自分の考えを伝えることが出来ました。ご指導してくださった先生方には感謝しています。また、プレゼンテーションとともに口頭試問があったため、事前に質問されることを予想して対策をしました。

私は受験を通して、計画的に準備を始めること、特に受験で必要となる検定は早いうちから受け、取得することが大切だと思います。検定取得に限らず、志望大学を決めたり調べたりしておくなど、全てにおいて早い段階から準備に取り掛かった方が、気持ちの面でも余裕を持って準備ができると思います。

日本大学 芸術学部写真学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
富沢中出身

評定を上げるという目標を達成できて 自信になったのが合格の要因です

■撮影した写真で思いを届ける

仕事に就くのが夢です

私は写真を通して自分の思いを届ける仕事がしたいと思い、日本大学芸術学部写真学科を志望しました。また、進学先を早い段階で決めて写真の勉強に力を入れたいと思うようになり、学力では測ることができない自分の力と日本大学芸術学部で写真を学びたい思いをアピールするために、総合型選抜での受験を決めました。写真作品のプレゼンテーション試験や面接試験は自分の考えを簡潔に分かりやすく伝える必要があったので、何度も紙に自分の伝えたいことを書き出し、その思いを確実に伝えられるように写真の構図やレイアウトを構成していきました。面接機時間受験期に使ったルーズリーフやプリントを見返せるようにしておくと、「これだけ頑張ったから大丈夫!」と最後に背中を押してくれる存在になるのでオススメです。

■気持ちを切り替えて勉強に

打ち込み成績が上がりました

私が受験に合格した一番の要因は、「過去の後悔をバネにして気持ちの切り替えができたこと」だと思います。私達の学年は、高校入学当初から新型コロナウイルスの影響によりオンライン授業が続き、自宅で受ける授業は緊張感や集中力に欠けてしまい勉強面を疎かにしてしまいました。その結果、平均評定や模試の結果などの数字ではっきりとクラスメイトに差をつけられていました。怠けてしまっていた過去に後悔が募るばかりでしたが、3年生の評定はまだ上げられる可能性があると思い、提出物などの学習評価から変えていこうと気持ちを切り替えることができました。私は自宅で集中して勉強することが苦手だったので、授業が始まる1時間前に登校して自習、放課後は閉門の時間まで（平均4時間程度）自習することを習慣化しました。習慣化することで、自習時間が大幅に増えて提出物も計画的に取り組めるようになって良かったです。学校で自習する際は、オークルーム（自習室）を活用して勉強していました。各々が目標に向かって自習に励む姿は、自分への一番の刺激となり、モチベーションを高められる場所でもあると思うので勉強が捗りました。このように学校での自習の習慣化を試みた結果、テストの成績も伸びて、1・2年生の時は3だらけの成績表が3年生になり4と5が増えるようになりました。平均評定を上げる目標を達成出来た上で、自分への自信にも繋がりました。このような経験から、周りと比べることも大切ですが、自分に必要な勉強に優先順位を付けて勉強計画を立てることで合格へ一歩近づくことができると学びました。

日本女子大学 文学部英文学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 外国語コース卒
しらかし台中出身

定期考査を大事にしていたので 受験方法が変わっても対応できました

■外国語コースで学ぶうちに
女子大志望になりました

日本女子大学に興味をもったきっかけは、1年生の時に見た指定校推薦の大学一覧です。外国語コースで勉強しているうちに女子大に行きたいと思い始めたことと、東京への憧れから目にとまったのが日本女子大学でした。しかしながら私は出席日数が足りず、指定校推薦を利用することができませんでした。そのため、総合型推薦で受験することになりました。総合型推薦は指定校推薦と試験内容が異なります。私はそれまで小論文と面接だけで対策は大丈夫だろうと考えており、受験方法を切り替えた時期が遅かったので、ほぼ総合型推薦の対策ができぬまま本番に臨みました。それでも私が合格できたのは日々の学習と成績です。難易度のかなり高い試験内容でしたが、苦戦しながらも解くことができました。私は高校で定期考査に特に力を入れていたので、受験の際に成績について心配することはありませんでした。臨機応変に試験に対応することができたことが合格に繋がったと思います。

二松学舎大学 国際政治経済学部国際経営学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
牛込第一中出身

社会にどう貢献していきたいかを考え 逆算しながら進路を決めましょう

■将来について問われた時に

最初は返答できませんでした

私が大学に進学したいと考え始めたのは、高校2年生の夏の時期で、大学を細かく本格的に調べ始めたのは高校2年生の冬の時期でした。

最初は、なにから始めればいいのか考えることができずに日々を過ごしていました。しかし、このままだとまずいと考え、進路相談の先生に相談したところ、まずは「自分が将来、なにをしたいか」「どのようなことを学んでいきたいのか」と質問されて返答することができませんでした。そこで、私は将来のことを深く考えたときに、「地域の人々を暮らしやすい生活にし、日本全体を金銭面でサポートしていきたい」という結果になり、将来は、銀行員として日本を経済的なところから支えていきたいと考えるようになりました。そのため、銀行員として必要な知識や資格を取得することができる経済学部の大学に絞りました。その後、大学に入学するためには、いくつかの入試方法があることを知り、高校生活で力を入れてきたサッカーの実績を活かした総合型選抜という入試方法で受験することを決めました。

■周りが合格していく中でも

落ち着いて対策しました

はじめ、受験した大学は決めるまでに時間がかかってしまい、受験の準備が十分にとることが出来ず、自分の気持ちや希望を主張出来ずに落ちてしまいました。そのことを踏まえて、次の受験のときはちゃんと準備しようと思い2か月前から小論文と面接の練習を先生に協力してもらいながら行いました。その結果、2回目の受験で合格することができ大学を決めることができました。クラスのほとんどが大学を合格している姿を見て焦りもあった中で、自分なりに、落ちつきながら集中して取り組めたことが合格できた要因だと感じました。

これから受験する後輩達には、たくさんの時間を使い、自分が将来どのようなことをして社会に貢献していきたいのかを考えて、逆算しながら大学を決めましょう。また、大学に合格するために周りの人以上に取り組んでほしいと思います。

玉川大学 観光学部観光学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 外国語コース卒
広瀬中出身

仙台育英での経験で培った力を 社会に生かしていきたいです

■推薦入試を意識して勉強し 様々な取り組みをしました

私は推薦入試で大学進学することを1年次から決めていたため、定期考査や提出物をしっかり行う事を意識して3年間過ごしました。素点では7割を越えられるようワークを3周したり、わからないことがあったらすぐに先生に質問したり、学んだことをさらに理解するように努めました。加えて、野外活動や校内活動にも自主的に参加することを志していました。1年次から地域のゴミ拾いボランティアへの参加や資格取得に力を入れました。英語の資格取得ではより良い級やスコアを取れるよう、教材を用いた勉強だけでなくネイティブ教員と授業内外で積極的にコミュニケーションをとったり、2次試験の面接対策を繰り返し行ったりと総合的に学習をしました。その結果、単語や文法などの知識のほか、話す力や聞く力が身につく目標のスコアを取ることができました。また、私は第二外国語の授業で韓国語を選択していたため、韓国語能力試験の資格取得を目標に単語帳や教科書を用いて継続的に勉強し、2年次に資格を取得しました。

■何でも経験し学ぶことが 進路選択に繋がります

それ以外にも英語スピーチコンテストに参加しました。人前で自分の英語を披露することで自信をつけることができ、初対面の留学生にも自ら話しかけ自分の英語力をさらに伸ばすことができました。部活では副部長を務め、みんなが効率良く均等に仕事ができるよう統括しました。コンテストに参加したり副部長を務めたりしたことで自信をつけ、自分自身の力である主体性を向上させることができました。観光学部への進学を決めたのは3年生の春で少し遅かったですが、高校での学びや体験が進路選択を左右すると感じました。2年次までは観光学部への進学は全く考えていなかったですが、経験を通して培った力は自分の自信へとつながり、それを生かして社会に貢献したいという思いに変わり、3年次には観光学部への進学を決めることができました。この経験から何事にも積極的に取り組み、たくさんのお話を学ぶことで自分自身にあった将来の選択ができるのだと感じました。そして、経験や得た力は大学試験でのアピールにつながることは勿論、大学進学後の学びにも役立つと考えます。将来の目標が決まっていない人も決まっている人も将来のためにならないかもしれないと考えるのではなく、興味をもったものにはとっぴり挑戦してみる事が大切だと思います。

北里大学 獣医学部動物資源科学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
南光台中出身

コロナ禍でも部活動での実績を残し 志望大合格にプラスになりました

■家畜防疫官を目指して 大学進学を決めました

私は総合型選抜で北里大学獣医学部動物資源科学科に合格しました。大学進学を決めた理由は、家畜防疫官になるという夢があったからです。動物資源科学科は、細胞工学や応用微生物学など、動物が病気になるメカニズムを深く学ぶことができます。

試験内容は面接と講義理解力試験の2つでした。講義理解力試験は、過去問やどんな内容で出るかなどの情報がありませんでした。そのため、その日の授業内容をノートにまとめることしか対策はできませんでした。面接は担任の先生や教科担当の先生と繰り返し練習しました。合格することができたのは試験の他にも部活動や評定などの毎日の積み重ねもありました。

私はライフル射撃部に所属していました。入部した頃はコロナが流行りだした時だったこともあり、部活の時間が短かったり、できないことがありました。しかし、家で体幹や午後練の時に午前から学校にきて自主練を行うなどして、実績を残せました。定期テストでは、普段から2時間は勉強すると決め、少しでも評定を上げようと頑張りました。

大東文化大学 経営学部経営学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
東京 府中第九中出身

勉強と部活動の両立に励んでいたことが 受験勉強をやり通す力になりました

■スポーツ用具の開発を通して 選手を支えていきたいです

私は、総合型選抜で大東文化大学に合格することができました。先生方には、たくさんのご指導をして頂きました。また、家族や友人など多くの人達の支えがあり、頑張ることができました。

幼少期からサッカーを続けており、10年以上サッカーに取り組んできました。その中で感じたことは自分に合った道具を使用することでパフォーマンスの向上につながるということでした。その経験から道具に関して興味を持ち始め、将来はスポーツに関係する企業で製品企画に携わりたいと考えるようになりました。スポーツ企業の製品企画者について調べていたところ、製品企画にとって必要な専門的な知識やデザイン力などを学べる大東文化大学を見つけ、総合型選抜での経営学部を受験することを決めました。

■何事も諦めずに続ける力が 3年間で身につきました

総合型選抜を受験する上で、面接や基礎学力テストの試験がありました。面接では先生方にいろいろな質問をしてもらい、どんな質問が来ても対応できるような応用力を身につけられるよう、毎日面接練習に取り組みました。基礎学力テストでは、情報処理の試験のため過去問やワークを行い、情報の知識を深めることに時間を費やすことで合格につながりました。

しかし、部活動と試験対策の両立を図ることは、とても大変で簡単ではありませんでした。それでも、普段の生活から勉強と部活の両立をしていたことから、受験勉強の時でも強い信念を持って最後まで諦めることなくやり続けることができました。

私は高校での3年間を通して部活動との両立を図ることができる力や、どんなことでも諦めずにやり続けることができる継続力を身につけることができました。また、継続していけば必ず結果がついてくるということも高校生活で感じました。後輩の皆さんには、これから受験勉強などたくさん悩むこともあると思いますが、部活と勉強を両立しながら、どちらかをおろそかにせずに、継続して努力し目標に向かって一生懸命頑張ってください。

拓殖大学 工学部電子システム工学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
中国出身

合格を知ったときは長い間の努力が 無駄ではなかったと感激しました！

■毎朝の発音練習など日本語の スキルアップに励みました

大学合格のために、私は一生懸命勉強しました。学校の成績はあまりよくありませんでした。留学生として日本に着いたとき、日本語が一番難しかったです。でも、先生とクラスメイトの助けのもとで、私の日本語のレベルもますますよくなりました。私自身も時間と労力を費やしました。大学の面接試験の1ヶ月前、私は毎朝7時に起きて日本語の発音の練習を始めました。

留学生にとってAO入試でいちばん大切なのは日本語能力検定の合格証です。ことしの7月、私は日本語能力検定を迎えました。私はこの試験の合格のために、私は日本語学習の教科書をたくさん買いました。同時に、私はネットで日本語の先生を探して教えてもらいました。日々の勉強はとても疲れますが、しかしとても充実しています。

努力の結果、日本語能力検定N2と英検準2級を合格しました。

■面接対策は予想される質問を 先生と練習しました

あとは大学の面接です。面接を成功させるために先生に面接の練習をしてもらいました。面接で予想される問題をすべて考えて完璧な答えを出します。私は50個の質問を考えてすべてメモしました。私も先生に答えを改善してもらいました。

ことしの10月、私は拓殖大学のAO入試に参加しました。私は緊張しました。でも、私は十分に準備してきたことを思い出しました。同時に、合格することを案じています。面接が終わった後不安になりました。自分が不合格になるのではないかと心配でした。

1週間後、拓殖大学のホームページで試験に合格したのを見て興奮しました。こんなに長い間の努力はついにむだではなかったのです。

桜美林大学 リベラルアーツ学群に
特別推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
中国出身

大学ではもっと自信をつけて 社会に貢献できる人材になります

■面接での予期せぬ質問も 落ち着いて対応しましょう

外国人留学生として日本の大学に入学するのは大変なことだと思いますので、私は桜美林大学に入学するために「留学生試験」を受けることにしました。この大学は面接だけなので、試験官からどんな質問をされ、どう答えようかと、毎日試験対策に明け暮れました。

もちろん、これだけ準備しても、予期せぬ事態に臨機応変に対応しなければならないこともありました。例えば、「日本語の漢字と同じ書き方で、全く違う意味を持つ漢字は何か」と突然質問されるかもしれません。試験官が思いついた質問だったのかもしれませんが、私にとっては答えられなければ点数を落とすことになりかねない。とても慌てたのですが、それを表に出さず、落ち着いて少し考えてから答えました。慌てずにできるかが、面接のポイントだと思います。

合格発表までの時間も、面接で完璧にできなかったことを何度も思い返し、減点されないかとヒヤヒヤしていました。ようやく合格が決まったときの喜びは、経験した人にしかわからないと思います。今振り返ると、もっと自信を持つべきだったと思います。自信のある人はいつも独特のオーラを放っていますし、たとえ間違ったことをしても、そのうちに修正すればいいのですから、たいしたことではありません。次は、もっと自信をつけて、社会に貢献できるように前進したいと思います。

桜美林大学 リベラルアーツ学群に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
大館 東中出身

自分だけではなく他の誰かの為に いろいろなことに頑張っていきます

■社会に問題定義できる

自作曲を生み出したいです

私は桜美林大学リベラルアーツ学群社会領域に進学します。大学へ進学しようと考えた理由は、将来、就職する際に少しでも有利な状態で就職したいと考えたからです。先生方には、たくさんのご指導を頂きました。さらに、友達に励ましてもらったり、家族に支えてもらいました。私はたくさんの方々からの支えで頑張ることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

高1の私は、将来の夢が固まらず、進路について深く考えていませんでした。しかし、あっという間に高3になり、焦り出しました。そこで私は、元々音楽が好きなので、自分で作詞作曲して曲を作りたいと考えました。音楽大学に行くと音楽の専門的な知識しか学べないと思いました。そこで、様々なことについて学べる私は桜美林大学リベラルアーツ学群を選考しました。そこで、社会領域について学ぶことを決めました。そして、今社会でどのような問題が起こっているかについて学んで自分なりの解決法を導き出して、それに関連した曲を出していきたいと考えています。また、高3まで続けてきたサッカーも大学でも続けたいと考えています。高校3年間、部活動でやってきた事は、間違っていないと思うので自信をもって大学サッカーに向かっていきたいと思っています。

■困っている人達を歌で

勇気づけるのが夢です

もう一つ大学生活で頑張りたいと思っていることがあります。地域のボランティア活動に参加して、少しでも困っている人の役に立ち、その人の心情などについて触れながら、自分の将来の目標である、自分が作詞作曲した曲で人々を勇気づけたいという目標につなげていきたいと考えています。桜美林大学では、授業の一環としてボランティア活動もできるので、素晴らしい大学だと考えています。

私は、高校3年間寮生活をしてきました。そこで今までの自分と変わったと感じましたし、努力することの大切さを覚えました。努力は自信につながりますし、大学生活も自分のため、誰かのために頑張ることを重点的に生活していきたいと考えています。3年間ありがとうございました。

桜美林大学 健康福祉学群スポーツ科学専攻に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
沖縄 小禄中出身

志望大が求めている学生像に 自分が合っているかを確認しましょう

■スポーツトレーナーに必要な 幅広い知識を学びたいです

私は将来スポーツトレーナーになりたいという目標があります。そして、スポーツトレーナーになるために、コミュニケーション力、スポーツの知識などが必要だと考えました。専門学校への進学という方法もありましたが、スポーツの知識だけでなく、スポーツ以外の様々な分野、学問を学びたかったため、大学進学を考えました。

私が桜美林大学健康福祉学群を志望した理由は、専門領域にとどまることなく幅広い視野で隣接した学問分野に興味関心が持てる、という大学のアドミッションポリシーに共感したためです。大学を選択する上で、大学側が出しているアドミッションポリシーに自分が適しているのかを考えることが大事です。ただ大学に入るだけではダメだと思うので、大学側が求めている学生像だったりを調べ、自分に適しているかどうかを確認した方が良いでしょう。

■面接では学びたいことを 明確に伝えることが大事です

大学の受験を考えている皆さんに2つアドバイスをしたいと思います。1つ目は、大学のオープンキャンパスなどに積極的に参加することです。コロナの影響もあり大学によってはオンライン開催だけなところもありますが、大学の雰囲気や学生の様子などは、直接行った方が知れるのでなるべく大学へ行き直接オープンキャンパスなどに参加することをお勧めします。2つ目は、受験に必要な書類や面接練習等は早くから取り掛かることです。私は高校3年生の8月頃に、桜美林大学を総合型選抜で受験することを決め、そこから書類作成に取り掛かりました。1次試験は書類審査なので先生方に添削してもらいクオリティの高いものになり、2次試験は面接になります。面接練習では出願書類や進学している先輩の話などを元に質問と答えを考え、友達や先生方に模擬面接をしてもらいました。面接練習をする上で大事にしていたことは、自分がこの大学で何を学びたいのかを明確に伝えることを大事にしていました。そして、試験当日では自分の思いを伝えることができ、無事に合格することができました。受験の準備は早めに行う、面接は自分の思いを伝えることを意識し、頑張ってください。

杉野服飾大学 服飾学部服飾学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 技能開発コース卒
タイ出身

先生や友達に恵まれ志望大にも合格し 楽しい高校生活になりました

■入試のプレゼンは家族や 先生方と練習しました

私は、ファッションに興味があるので日本の服飾大学に行きたいとタイにいた時から考えていました。しかし、勉強が苦手だったので仙台育英に入学して日本人と同じクラスに入ったばかりの時は授業について行くのに必死でした。大学に合格できるように日本語も他の教科も頑張りました。自分で勉強するだけでなく、どうしてもわからないところは放課後、先生方に教えてもらったりしました。また、毎日その日に勉強したことをノートにまとめ直して一つの教科書のようにして何度も読み直して理解するようにしました。

私の入試は総合型選抜で、制作だったので作品として服を作りその服についてプレゼンテーションをしなければなりませんでした。服を作ったことはあったのですが、パワーポイントを使うのもプレゼンテーションをするのも初めてで、不安でしたがやり方やコツをネットで調べたり、姉に聞いたりしました。そしてまずは自分で制作し、家族にチェックしてもらいました。その後、何人かの先生の前で実際にプレゼンテーションをして、みてもらいました。寮に帰ってからも何度もくり返しプレゼンテーションを練習し、先生方もほめてくれたので、本番では自信を持ってプレゼンテーションをすることができました。

■先生のおかげで友達ができ 毎日が楽しくなりました

仙台育英での生活については、最初は同期の留学生がコロナで来日できずひとりとても寂しかったです。私は勉強を理解することが他の人よりも出来ないのので、日本人と同じクラスに入れるようにまず日本語の勉強を一生懸命しました。初めて入った日本人クラスでは、初めての先生が勉強のことや日本での生活のことで相談にのってくれました。私は疑問に思うとたくさん質問してしまうのですが、そういう時も先生は、私が納得するまで説明してくれました。それから友達をつくるきっかけもつくってくれたので友達もすぐにできて、毎日学校へ行くのが楽しくなりました。勉強だけでは、辛くなって諦めてしまったかもしれませんが、先生や友達がいたので大学にも合格でき、楽しい学生生活を送れたと思います。

日本体育大学 体育学部体育学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
福岡 田隈中出身

部活動の監督や先生方、家族のサポートに 報いるために大学でも頑張ります！

■授業で作文を書く機会を もっと大切にすべきでした

日本体育大学に入学するために取り組んできたことを通じて感じたことは、自分の力だけでは入学することはできなかったということです。自分が受験するにあたって、進学をサポートしていただいた先生方や、後押ししてくれた親がいてくれたから今回合格することができました。自分の受験内容は、一次で自己推薦文と二次で面接と課題文でした。この受験を体験して感じたことは、日頃から自分の将来の目標や今の課題などを考える必要があると考えました。普段から自分がどれだけ無意識で生活していたのかを痛感させられました。そして授業の中などで、作文を書いたりなどする場面があったのですが、一回一回の作文を書くことをもっと大切にしたいと感じました。急に何百文字も書こうとしたら、頭の中で構成が立てられず、書いていくうちに内容を忘れて何度も苦戦したので、普段の取り組みがとても大事だと思いました。

■担任の先生がクラス全員を 親身に支えて下さいました

今回受験したコースはスポーツ推薦で野球という面での評価もしていただきました。最初から日本体育大学を希望したかったのですが、その当時の実力では及ばなかったため最初は希望していませんでしたが、3年生になり希望できる実力を身につけることができ、野球部の監督さんに日本体育大学への進路を繋いでいただきました。その中で、いつどこで見られているのかわからないということを感じました。一回一回の投球であったり、練習試合の一回の登板であったりなど、2度とない貴重なタイミングを逃してはいけないと改めて感じました。そして、受験するにあたってサポートしていただいた担任の先生にとっても感謝しています。クラスの人数が31人いる中で、一人一人の大学の進路のサポートをしていただき自分たちが合格できるように指導していただきました。また日本体育大学に入学するにあたってサポートしてくれた親に対してもとても感謝しています。自分が不自由ないように野球面と学校生活もサポートしてくれています。様々な方々にサポートしていただき合格することができ、受けた恩を仇で返すことがないように心がけて自分の将来の目標に向かって頑張りたいと考えています。

文化学園大学 服装学部ファッションクリエイション学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
川崎中出身

遅刻や欠席をしないのは受験に留まらず 社会に出ても大切なことです

■服に興味があり自分でも
作ってみたいと思いました

私が文化学園大学をめざしたきっかけは、ただただ服が好きで、服を作ってみたいと考えたからです。普通の試験より面接の方が得意なので、推薦入試で受けることに決めました。面接練習を、多くやって、多くの先生と面接練習をするということをごんばりました。心がけたことは、自分の伝えたいことや自分のことをしっかりと面接官の先生に伝えること。普段の学習評価のためにどのような努力をしたか、まず一つは学校を遅刻や欠席をしないということです。これはあたりまえのことですが、これは大学や社会に出ても大切なことなので、努力して遅刻や欠席をしないよう努力しました。授業では先生の話聞き、出された課題は必ず出すということです。私が、普段の学習評価のために努力したことを簡単にいうと、あたりまえのことをあたりまえにするということです。受験大学を絞り込むにあたって、どのような配慮・検討したか、私が服が好きなので、服に関する大学を探し、大学をしぼっていきました。私は東京に行きたいと考えていたので、東京で服飾大学を二つ見つけ、二つの大学で留学に強い方を選びました。

ヤマザキ動物看護大学 動物看護学部動物人間関係学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
仙台 中田中出身

幅広い分野の小説に触れることにより 様々な小論文のテーマに対応できます

■ 1年次から提出物は期限内に 出すよう心がけていました

私はヤマザキ動物看護大学を総合型選抜のA日程で受験し、11月の初めに合格が決まりました。総合型選抜での受験を決めたのは、高校3年生の夏で、受験の日程まで2か月ほどしかありませんでしたが、その期間でオープンキャンパスに行ったり、面接練習・小論文の作成を進めました。

総合型選抜を受験する上で大事になってくるのが、評定と自己PRです。私は定期テストで悪い点数を取ることもしばしばありましたが、提出物ほどの教科も必ず期限までに出すようにしていました。そのおかげで、大学の評定基準をクリアすることができました。高校1年生のうちから提出物は早めに終わらせておく習慣をつけると良いと思います。次に自己PRです。志望理由書や面接では自分のアピールポイントが必要になります。英検などの資格取得やボランティア活動などに積極的に参加しておくことで、他の受験生と差をつけることができ、合格につながると思います。

■ 本番はとても緊張しましたが 達成感を得られました

総合型選抜では主に面接と小論文があります。面接練習では事前に質問されそうなことを多く挙げ、回答を考えておくことが大切です。特に志望大学のアドミッションポリシーや建学の精神はよく理解し、説明できるようにしておくことが大切です。また、ヤマザキ動物看護大学は小論文を出願時に提出する形だったので、テーマに合った納得のいく文章になるまで現代文の先生に何度も添削していただき、やっとの思いで作成しました。小論文対策で大切なことは、文章力を高めるためにできるだけ多くの小説を読むことです。自分の志望大学の分野だけでなく、様々な分野のものを読むことで、どんなテーマにも対応できるようになると思います。

入試当日はとても緊張しましたが、終わった後は達成感がありました。後輩のみなさんも自分の第一志望大学合格を目指して頑張ってください。

東京国際大学 国際関係学部国際関係学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
東京 向陽中出身

仙台育英での3年間は間違いなく 自分を成長させてくれました

■部活動は実績に加えて3年間 続けることに価値があります

東京国際大学をめざしたきっかけは、視野を広くし自分の可能性を広げたいと考えたからです。AO入試合格のために様々なことに取り組んできました。一つ目は、面接練習です。面接はその人の価値を定めるためのとても重要なものになっています。知らない人に初対面で自分を語るということは、とても難しいことです。なので面接練習をする際は自分より周りの立場が上であまり話したことがない先生にやってもらおうとあつという間に上達します。二つ目は、部活動です。AO入試でも3年間部活動を続けていた人という経歴は武器になります。インターハイや新人戦のメンバーに選ばれたというのはもちろん素晴らしいことです。しかし本当に大事なことは続けていたという事実です。継続して努力できる力は面接官に響くと思います。三つ目は、定期テストです。普段の授業態度、テストの結果などは大学を選択する際に自分の選択肢を狭めることもできるし、広げることもできます。ですから、面倒くさいことの方が多い課題やテスト勉強は絶対にサボらず取り組まないと後で後悔することになります。何事も早め早めに行動しておくともっと楽になります。

■文武両道は簡単ではないので 効率よく時間を使いましょう

私は3年生の初期から指定校推薦の獲得を目標に日々校内模試の勉強に励みました。国語と英語の教科を重点的に勉強しました。結果的に指定校が取れなかったため、同じ学部でAO入試で入学することにしました。指定校推薦とは全く違う入試形態になるので準備はおろそかにせずやれることは全てやりました。合格した際は、面接練習や普段の授業を怠らず頑張っていて良かったと思えた瞬間でした。

大学で新しいことにチャレンジしていきたいと考えています。仙台育英での3年間は間違いなく自分を成長させてくれました。文武両道というのは簡単なことではないと思います。成し遂げられるように時間を無駄にしないよう日々過ごしてください。

城西国際大学 福祉総合学部理学療法学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
八乙女中出身

これまでの努力や経験を志望大で 生かすことができるか深く分析しました

■アドミッションポリシーに 自分が合致するか考えました

総合型選抜入試を受ける上でまずしたことは、自分が将来したいことは何なのか、なぜその大学・学部でないといけないのか、大学に入ってから何をどういう風に取り組んでいくつもりなのかという3点をはっきりさせることでした。

それらをふまえてからはまず、アドミッションポリシーを読み込んで、どんな人物を大学が求めているのか、その人物がどのような活躍を将来することが望まれているのかを分析しました。次に自分が今までに努力してきたことをとりあえず書き出しました。そして、それに合致しそうな自分の経験を中学まで遡り探しました。その実体験をも分析し、内容を分かりやすいように、いつ、どのようなことなのか、その時の感情、アプローチの方法、のように分けてまとめました。その中で一番大切なのは、まとめたことが、どのアドミッションポリシーに沿っているのかということなので、具体的に深めて考えました。

■小論文のために様々な方法で 見聞を深めました

小論文に関しては、私は入試の前の段階で課題が与えられていたため、それに関する論文や、教授たちによる学術記事を読み込むことであったり、他大学の教授の講演会に行ったりして、見聞を深め、実体験を絡めた自分の意見を述べることで、説得力を高められるようにしました。

以上のことが、私が総合型選抜を受ける上で取り組んだことです。

さあ、君も医療従事者にならないか。

中央学院大学 商学部商学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
秀光中出身

競技目的で進学する場合も面接では 学問への意欲をアピールしましょう

■面接練習はやり過ぎるくらい 念入りに行いましょう

私は中央学院大学に進学するにあたり、AO入試で進学しました。進学するにあたり入試は面接とエントリーシートで将来の夢、商学部で学びたいことについて書きました。そこでは自分の学びたいことと、なぜそのようなことを学んでいきたいのかや、その大学じゃなきゃダメな理由などを明確にしてかくことと、将来の夢に関してはその大学で学んでどのように活かしていこうと考えているのか、しっかりと書くことが大事だと思います。

面接では、そのエントリーシートにそった内容の質問をされるのでそのエントリーシートの内容をしっかりと頭で覚えておく必要があると思います。言葉遣いや部屋の入り方など学校で練習すると思いますが、本番になったら緊張してしまって頭が真っ白になる可能性があるため、念入りにやり過ぎるくらい練習しといた方がいいと思います。私自身も、面接で将来の夢を聞かれた際、エントリーシートに書いてある夢と違うことを言ってしまう失敗してしまったので、そこはしっかりした方がいいと思います。そしてスポーツをやりたいことが大きな理由で大学に進学する人たちもスポーツのことだけでなく、勉学に関してのことをいった方がいいと思います。最後に大学に進学する人たちは大学選びをしっかりしていきましょう。早すぎることは無いので今からでも興味のあること、興味のある大学について調べることで発見があったりします。それがあとになって役に立つことが多くあると思うのでしっかりと調べるようにしてください。

中央学院大学 法学部法学科行政コースに
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
茨城 石岡中出身

部活動の合間に意識して勉強することが 集中力アップに役に立ちました

■警察官になるという目標を
実現するため進学します

私が中央学院大学を目指した理由は、私は将来、警察官になりたいという目標があり、その目標につながることを学べると考えたからです。その中で総合型選抜で受験した理由は、大学を早めに決め大学受験に余裕をもっておきたかったからです。総合型選抜に合格するために、まず試験内容であったグループ面接の対策としていろいろな先生方に面接練習をお願いし、10日ほど練習しました。面接練習ではまず自分が言いたいことや伝えたいことなどをノートにまとめ、練習時に先生方から指摘をいただいて、改善点などを探していました。面接練習で部活動に行けない日もできました。部活動は受験シーズンにサッカー部のリーグ戦や大会が重なり、忙しい時期ではありました。そのため、与えられた部活動のできる時間をしっかり集中して練習をしていました。受験の期間はいかにうまく時間を使って生活できるかが重要だと感じました。部活動だけでなく学習面でもテストで高得点を取れるように空いている時間に勉強することを意識つけていました。勉強することを意識つけることができたためいろいろなことの集中力が高まり、大学を探すときなども役立ちました。パンフレットや資料、ネットに載っている情報などをしっかり読んで自分の将来につながる要素があるかをしっかりと見極めて大学選択をしました。

私が中央学院大学に進学を決め、合格することができたのは、受かりたいと思うほど面接練習や書類などに意識が向き、ミスなどがなく計画的に練習してきたからだと感じています。

帝京平成大学 健康医療スポーツ学部リハビリテーション学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
千葉 酒井根中出身

自分の目で大学の講義や環境などを 確認し最適な進路を見つけましょう

■ケガをした方などを助ける

職業に就きたいです

なぜ私がこの大学に進学したかという、小学校3年生からサッカーをしていて何度もケガを経験し整骨院の先生によくお世話になり、治療を受けていく中で整骨院の先生になってみたいと思うようになっていったからです。

高校3年生になり進路を決めていく際に体の不自由な方やケガをした方々の助けになれる職業に就くために自分に合った大学を探していました。いくつかの大学を見ていった際に自分に合っている大学があり、まずオープンキャンパスに参加させていただきました。オープンキャンパスではまずその大学では何を学べるのかと学校の環境や教授の方々や在学されている人の対応を私は自分の目で見ていきました。その際に在学されている方に優しく教えてもらい大学に入りどのようなことを学んで活かしているのかを直接聞くことができたり、教授の方々の優しく適格な教え方も見る事ができたので、大学を決める際は、オープンキャンパス参加することでより良く進路をきめることができると強く感じました。

■得意な教科で勝負できる

入試方法を選びました

私は受験でAO入試を選びました。なぜAO入試を選んだかという、私の進学する大学では、小論文か5科目から2科目を選んでテストをする受験方法を選ぶことができます。高校生活で自分なりに力を入れて勉強していた方を選べるので気持ち的に楽になると思います。その他にも、たとえ1回受験を落ちたとしても一度出願をしていれば、再度同じ方法で受験を受けることができるのであまり緊張せずに受験を受けることができました。

合格の要因はこつこつ勉強をし得意な教科を伸ばしたことだと思います。苦手な教科を無理矢理やってもあまり伸ばすことができないと感じたのでこの教科ならまだできると思うものをやってみてください。

帝京平成大学 健康医療スポーツ学部医療スポーツ学科トレーナー・スポーツコースに
総合型選抜で合格

令和5年3月フレックスコース卒
山形 山形第六中出身

目標達成に向け努力することの 大切さと楽しさを部活動で学びました

■トレーニング指導者の夢に 近づける進路を探しました

私が大学進学をめざした理由は、スポーツトレーナーの資格とトレーニング指導者の資格を取得し、将来は指導者になりたいと思っているからです。私は高校3年間支えてくれたトレーナーや顧問の先生に憧れて、トレーニング指導者を目指そうと決めました。トレーニング指導者とスポーツトレーナーの資格を取得するための勉強ができる大学を調べたところ、帝京平成大学は2つ同時に資格をとることができ、就職率が高いことから、帝京平成大学なら夢の実現ができると思い、志望しました。

また、私は高校3年間、女子サッカー部に所属していました。1年生の頃から全国大会出場を目標に日々練習に励みました。しかし何度も怪我をくり返し、試合に出場することすらできませんでした。2年生になってもなかなか出場することができず、たくさん悔しい思いをしました。一時期はサッカーをやめたいとまで思いました。それでも友達や家族にたくさん相談にのってもらい、たくさん言葉をかけてくれたおかげでまた目標に向かってがんばることができました。3年生になりようやくレギュラーで試合に出場できるようになりました。全国大会出場という目標は達成できませんでしたが、目標に向かってがんばることの大切さとたのしさを学びました。逆境をはね返すチャンスを与えていただき、悩んでいた時にあえて厳しい言葉をかけてくれた顧問の先生には、今ではとても感謝しています。

■学校設定科目を有効に使い 必死で勉強しました

学業面では、赤点をとらないようにテスト2週間前から勉強に励みました。また、フレックスコースの魅力でもあるキャリアサポートの時間や、学校設定科目の時間を有効に使い、自分の将来のために必死に勉強しました。

大学でも女子サッカー部に入部し、全国大会優勝という目標に向かってがんばりたいと思っています。これまで支えてくれた家族や顧問の先生をはじめとした先生方に恩返しができるようにまずは大学4年間がんばります。

日本ウェルネススポーツ大学 スポーツプロモーション学部スポーツプロモーション学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
茨城 守谷中出身

普段の学校生活から服装などを意識し 面接で焦らないようにしましょう

■サッカーの試合の出場機会を 考えて志望大を決めました

日本ウェルネススポーツ大学を決めたきっかけは、サッカー部のセレクションに参加したことです。私は、高校1年、2年の時は大学の事を全然決めていなくて、3年になってから考えるようになりました。1年生の頃から大学の事についてしっかりと調べていれば良かったと今でも思っています。入試はプレゼンテーションと面接の2つの試験でした。あまり言葉が出なくて、もっと練習しておけば良かったと思っています。大学が決まっていなくても、面接練習などはしておいたほうが自分のためだと思います。高校受験よりレベルが高いので高校受験で苦戦した人は、人より多く取り組むことが大事だと思います。大学受験と高校受験は、志の大きさや、正しい服装をしているかを見ていと思うので、学校生活から意識したほうが自分のためだと思います。意識することによって自然と身につくと思います。私は、大学に合格したときのことも考えて、どんな生活をするのか、自分に合っているのかをイメージした方が自分のためだと思います。

■部活動に支障が出ないように 早めに受験準備をしましょう

私は大学受験前はまだ部活をやっていました。大学の書類などを出すのを忘れていてギリギリにやっしまい、部活に出られない日もありました。私みたいな思いをしないためには、早めに取り組み、部活などに支障が出ないようにした方が自分のためです。大学によって受験方法は違います。人によっては他の大学と比べて多いこともあります。受験勉強をやる上で、もっと時間がほしいという人もいます。部活をしている人はそう思っている人が多いと思います。そんな時は先生に部活を受験が終わるまで休むことを伝えた方が自分のためになると思います。そうなることがやる前から予想されるなら人より前から取り組んだ方が合格への近道だと思います。私は受験当日不安でした。しかし、練習してきたことや勉強してきたことをしっかりと思い出して自分と向き合いました。しっかりと練習や勉強をしておけば良い方向にいくと思います。

日本ウェルネススポーツ大学 スポーツプロモーション学部スポーツプロモーション学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
弘前 東中出身

友人や先生方に恵まれた3年間は 毎日が楽しくて仕方ありませんでした

■ 普段の厳しい練習で鍛えられ
自信を持って受験できました

私は日本ウェルネススポーツ大学にAO入試で合格しました。入試内容は面接と2分間のスピーチで、そのほかにもセレクションがありました。セレクションでは、仙台育英のキツイ練習があったからこそメンタル面でも鍛えられたし、怖がらず積極的に試合に挑めたと思います。部活動ではキツかったりやめたくなる日もあったけど、自分が成長する事だけを考えて毎日キツイ練習を頑張る事が出来ました。3年間県外に出て部活動や学校生活を送る事が出来て幸せでした。面接とスピーチでは、先生方が協力してくださったからこそ合格できたし本当に感謝しています。練習と本番では緊張感が違うし途中で練習した内容を忘れかけてた場面もあったけど、何とか思い出し思い通りに話す事が出来ました。

■ 久しぶりの対面授業の日は
何よりも嬉しかったです

仙台育英で過ごした3年間は最高な3年間でした。入学した時は中学校とは違いとても広い校舎にたくさん人がいて仙台育英全体に圧倒されていて、楽しい気持ちと一人でやっていけるかどうかという不安もありました。しだいに学校生活を送るたびに友達も増え先生方も優しく私に接してくれたので、毎日学校に行くのが楽しみで仕方ありませんでした。新型コロナウイルスが流行して、3年間行動が制限されていて分散登校だったりオンラインなどクラスみんなで授業をする機会が減ってたけど、コロナもおちつきクラス全体で授業を受けられた時は何よりも嬉しかったですし幸せでした。今でもまだ1年生の気分になる時があって高校3年間あつという間の生活でした。最後の一年はもっと速いです。受験やオープンキャンパス、部活などいろいろありすごく忙しい一年になるとは思いますが受験勉強をして自分の行きたい大学に合格できるように頑張ってください！ 応援しています。

金沢星陵大学 人間科学部スポーツ学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
沖縄 伊良波中出身

部活動に打ち込んだ高校生活で 継続の大切さを学びました

■大学の練習などに参加し

ここで学びたいと思いました

私が金沢星陵大学人間科学部スポーツ学科を目指すきっかけになったのは、サッカー部の監督との出会いだったり、私が志す指導者像を確立するために近い大学だと思ったからです。監督とは、3年生になる前に出会い大学に来てほしいとスカウトをもらいました。練習参加とオープンキャンパスにいてみて自分に合った学部と、優しく接してくれた先輩方がいたので、ここで大学生活を送りたいと思い金沢星陵大学に進学を決めました。

■念願のインターハイ出場で

努力が報われました

私の高校生活で印象に残ったことは、コロナなどの関係もあり、体育祭などの行事を行うことができませんでした。3年生の冬にはスポーツチャレンジを行うことができいい思い出になったことです。

私はサッカー部に所属していましたが、たくさんの幸いことを経験しました。特に冬のフィジカル強化期間では、自分が苦手とする走りのトレーニングが毎日あり、苦しかったり辛かったりしましたが全員で声をかけ合いながら乗り越えることができました。自分一人では乗り越えられなかったと思います。その時、仲間の大切さを感じました。今となってはいい思い出になりました。

私は中学卒業後、地元である沖縄から親元を離れ、3年間サッカーに打ち込んできました。その中で仲間と切磋琢磨したり、先生方にサポートしていただいたりしながら活動してきました。試合に出れないことやメンバーに入らないことなどから辞めたくなる時期がありましたが、日々継続することを怠らず自分なりに努力した結果3年生になった時にインターハイに出場することができました。部活動を通して継続することの大切さを学びました。私たちの代は、インターハイ選手権で良い成績が残せず悔しい結果で終わってしまったので、これから3年生になる選手たちには、全国で先輩方の成績を超えられるように頑張ってもらいたいです。

立命館大学 国際関係学部国際関係学科グローバル・スタディーズ専攻に
総合型選抜で合格

令和5年3月 外国語コース卒
ベトナム出身

For high school students, getting into university has always been difficult, especially for those who are still determining their own future plans, such as the course they want to take or the career they want to pursue. I have experienced the same thing too: I didn't know what university I should apply to or what method I should use. However, after becoming an IB student, I became interested in international Relations. From the moment that I realized my own interest, I started doing research. I recommend everyone to do research about universities carefully because this is a very important step to guide you to the university that suits you the most. I did research about universities all across Japan that have an International Relations course taught in English. Once I got a list of universities, I then decided on the method that I should use to get into university. As an international student in Japan, taking 共通テスト would have been a very challenging thing to do, therefore, I used AO as I only need to write an essay, submit my IELTS test score, and do an interview. I think that you should choose the method wisely. You should consider your own strengths and your own weaknesses so that you can give your best performance at the time. After you decide on the university as well as the method, it is the time to start preparing documents. I spent about 2 months writing the essay, 2 months studying for the IELTS test, and 2 weeks preparing all other personal documents. It took me a lot of time to fix the essay as I had to make sure that I can include the information that I think is necessary to make me stand out, but I also had to write in academic language and with a limited word count. You may think that you only need about 2 months to finish everything, however, 2 months may allow you to get things done, but it might not be enough for you to do your best. In order to summarize my experience of applying to university, the first step is always finding your own interest. If you apply to a course that you are not interested in, then it may be very difficult for you to keep up with that course. And even if you don't know your own interests, I recommend you to do things outside your safe zone. What if you realize that you love teaching children? Next, research universities' courses, requirements, and scholarships...Then make a plan that will allow you enough time to prepare for documents. I understand that getting accepted to university might seem out of reach for some of you, however, once you start your application, you will realize that even though it might be hard, it will never be impossible.

立命館大学 文学部人文学科国際文化学域に
総合型選抜で合格

令和5年3月 外国語コース卒
南中山中出身

誰にも負けないような強みを持つことが 将来の夢の実現につながります

■翻訳家という将来の夢を

入試でアピールしました

私が立命館大学文学部人文学科国際文化学域に合格することができた1つ目の要因は、確かな将来の夢を持っていたからだと思います。私は将来、翻訳家になりたいと考えており、国際文化学域では翻訳を学ぶことができるため、志望しました。そこで、私は翻訳家になるためにはどのような素質が必要なのかを調べるようにしました。調べていくうちに、翻訳家に関する知識が増えていき、自分に必要なことがわかるようになりました。そして、得た知識や今の自分に必要なことを1次選考の志望理由書や将来のキャリアビジョンなどの作文に書くことで、立命館大学で学びたいという思いを伝えるようにしました。2次選考の面接でもこれらを口頭で説明することで、自分の思いや考えを1次選考よりもより強く伝えることができました。

■幅広い課外活動に参加し

語学スキルを磨きました

2つ目は、課外活動に積極的に参加していたからだと思います。私は第二外国語として韓国語を選択しており、2年生の時に「日韓高校生交流事業」に参加しました。そこでは、オンラインを通しての韓国の高校生との交流活動や日韓関係の歴史についての講義を聞きました。この経験を通して私は、同年代の韓国人が日本に抱くイメージや、未だ問題視されている日韓関係の歴史を学ぶことができました。また、「話してみよう韓国語」という韓国語の大会にも出場し、全国大会にも出場することができました。そして、韓国語だけでなく、2年生の時に外国語コースの英語スピーチコンテストに出場しました。日々の練習やネイティブの先生からのご指導のおかげで、3位という結果を残すことができました。さらに、校外の活動として英会話教室にも通っていました。私は海外進学も考えていたことがあり、TOEFLの学習をしていました。最終的には海外進学はしないことになりましたが、TOEFLの学習を英語で学ぶことができ、自分の英語力に大きな自信をつけることができ、現在は躊躇すること無く外国人の方と英語で会話することができるようになりました。このような活動は自分の強みとしてアピールすることができると思います。実際私もこれらの活動は、自分の強みをアピールすることができる材料になりました。

みなさんも3年間の高校生活で、さまざまなことに挑戦し、誰にも負けないような自分の強みを作ってみてください。応援しています！

立命館大学 食マネジメント学部食マネジメント学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
東仙台中出身

高校で学んだ事をどう発展させたいかを 表現するのが総合型選抜では重要です

■自信が無くても可能性に懸け 推薦入試に挑戦しました

総合型選抜を受けると決めたのは、3年生の初めでした。2年生の三者面談の時には、アピールできるほどの実績がないから総合型は受けないとはっきり言ったほどです。しかし、事前に準備して挑める試験だけだったこと、一般受験の理系枠が少ないことから、どちらにしろ可能性が低いならチャンスは多いほうがいいと思い受験しました。

一般的に、総合型選抜は秀でた能力や輝かしい活動実績がある人が受けると思われているかもしれませんが、私自身そう思っていました。大学によって課すものは違うので一概には言えませんが、実際は、高校3年間の中で“何に気づき何を学んだのか”をいかに伝えられるかが重要だと感じました。そしてその学びを大学でどのように発展させたいのかまで表現できれば、誰にでも合格のチャンスはあると思います。

■志望理由書を書くことは 将来を考える良い機会です

さて、ここからは私が受験を通して感じた後悔について書こうと思います。

第一に、志望理由と将来やりたいことを早くから考えておくべきだったということです。2年生で志望理由書を書く課題が出た際、締め切りのことしか考えておらず、きちんと自分と向き合いませんでした。その後出願準備で再び書いてみると、漠然としていた将来や学びたいことが自ずと明確になったのです。自分は一般受験だからと志望理由書から逃げるのではなく、将来を考えるツールとして書いてみてほしいと思います。

次に、もっと自分から行動を起こすべきだったということです。仙台育英では日々たくさんのイベントや公演、ボランティアの案内があります。私は忙しさを理由にそれらに参加しなかったため、受験では過去からの経験と自分が置かれた環境をPR材料として頼りました。勇気を出して参加していれば、貴重な経験にも、説得力のある願書作りにも役立ったと思います。これを読んでいる生徒の方には、行動を起こせるこの環境を最大限活かしてほしいです。

最後になりますが、私の合格は周りの支えがあったからこそ成し遂げられたものです。関わってくれた全ての方、本当にありがとうございました。

京都芸術大学 芸術学部情報デザイン学科イラストレーションコースに
総合型選抜で合格

令和5年3月 技能開発コース卒
登米中田中出身

周りに流されず強い意志を持つことで 未来を切り拓いていけるのです

■日常に変化を取り入れると 新しい自分に出会えます

私が大学合格にあたって、重要だと思う点について話したいと思います。まず、私が合格した京都芸術大学を目指そうと思ったきっかけは、あるアニメの影響です。そのアニメに出会い、主人公がただただ自分が好きなことにがむしゃらである姿にとっても感銘を受けました。そのことをきっかけに私も、自分の趣味に一生懸命になってみようと思いました。それからは、触れたことのないカメラに挑戦したり、鉛筆一本で絵を描いてみたりとたくさんすることに挑戦しました。どれも初めは上手いいかないことばかりですが、それもまた刺激の一部でした。私のように小さなきっかけでもいいので、たくさんいろんなものに触れて、挑戦してみてください。行ったことのない場所に行くだとか、いつもは読まないジャンルの本や音楽を聴くだとか。日常に変化を取り入れることがあなたを変えるかもしれません。

そして次に、私は主にグラフィックデザインを学びたかったのですが、学ぶだけではなくその先の社会と関わっていくスキルまで学びたいと思っていました。そうした教育カリキュラム、大学での生徒が参加するプロジェクトのある大学を探しました。そこで私の目に留まったのは、京都芸術大学でした。私が重要だと思う点の中で、学生の頃から自分が何を学びたいのかを明確にすること、そして自身の好きを追求するだけでは終わらない、自分が社会とどう関わっていきたいのかを考えることはとても重要だと思います。

■自分の武器を磨くことで 存在をアピールしましょう

そして、高校生活の中以外のこれからでも、勉強というのはいつまでもついてくる課題だと思います。面倒くさいかもしれないけれど、その面倒くささとどれだけ向き合うかです。私の場合は、芸術大学に入学するから絵だけ描いていればいいのかと言われると、全くそんなことはありません。例えば、私は先日入学が決まっている人を0年生として扱い、授業を受ける0年生プログラムという大学のイベントに参加してきました。授業内容は、4年生の卒業展を見て、自分の中で最も印象深いものをピックアップし、それを90分間でレポートを作成し、プレゼンをするというものです。そこでは、デザイン性も必要ですが、文章力や時間配分、コミュニケーション能力、すべて私にはまだまだ不足していて、周りの人がすごく上の存在に見えました。大学の先生曰く、「芸大に来ると当たり前だけど、絵がうまい人ばかりだからその中で自分の武器がある人っていうのはすごく輝く」その自分の武器は、何でもいいのです。文章力、コミュニケーション能力など。それは、芸術大学に関わらず、他の物を専攻した大学、就職先でも同じことだと思います。その自分の武器を磨く時間は限られています。周りに流されずに、自分の意志を持つことはこの先の自分の未来をも変えることができることを忘れないでください。

大阪学院大学 経済学部経済学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 通信制課程卒
矢本第一中出身

進路決定は将来設計を考える機会なので しっかり時間をかけましょう

■ 宅建試験に強い教授の講義を 受けたいと考えました

私は総合型選抜で大学を受験しました。受験を通して大事だなと感じた点は3つあります。

まず1つ目に、なぜその学校にしたのかではなく、なぜその学校でなければいけないかを説明できるようにすることが大切だと思います。例えば私の場合だと不動産業に就きたいという夢があり、就職の時にどうすれば有利になれるかを調べていくうちに宅建士という国家資格があると就活に有利なことを知り、大学在学中にその資格を取ることを決めて、不動産業を学びながら宅建士を取れる大学を探し、色々な大学を調べていたら普通なら合格率16.75%のところをある教授の授業を受講している人は61.5%で合格させた実績があることを知り、その教授が在籍していると出てきたためこの大学にしようと決めました。

■ 部活動における貢献度を アピールしましょう

次に2つ目は、学校についてしっかり知ることです。1つ目で言ったその学校ではないといけない理由というのを見つけるのは難しいと思います。それを見つけるためにも資料請求をして資料を見たり、その学校のホームページを見たり、オープンキャンパスに行ってお学生の声の聞いたり、ネットで口コミを見たりなど学校を決めるためにきちんと調べることは怠らない方が今後面接を受ける時のためにも、将来設計を考える機会にもなるのでしっかり時間をかけた方がいいと思います。

最後に3つ目は、高校生活で頑張ったことで挙げられるようなことを高校生活中に作っておくことが大切だと思います。そうすると部活動で大会を頑張ったとか、何位を取ったなどの結果がパッと思いつくと思いますがそうではなくて、大会で勝つためにチーム全体の意見を聞きそれを取り入れることによって練習の効率化が図れたや、チームワークが高まり何位を取ることができたなどの過程を説明できるといいと思います。なぜかという、自分を入学させたら周りの人にとってどのような影響を与えられるかなどのアピールに繋がったり、リーダーシップがあるなどのアピールに繋がるからです。

沖縄大学 人文学部国際コミュニケーション学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 外国語コース卒
六郷中出身

本番のプレゼンテーションの成功は 先生方にご指導いただいたお陰です

■ 検定の取得は入試以外にも
様々なメリットがあります

私は高校入学時から沖縄大学への進学を目標に勉学に励み、総合型選抜の入試で大学に合格しました。大学に合格するために、特に2つのことに力を注いできました。

1つ目は、定期テストで良い成績を取ることです。入試方法に関わらず成績は常に大事になってくるので、1年生の定期テストから好成績を取れるように予習や復習を習慣付けて日頃からテストに向けて備えておくことが大切だと思います。

2つ目は、様々な検定の取得です。私は3年生の春までに英検2級と中国語検定準4級を取得しました。英検は取得するか悩んだ末、学年の先生方に取得しておいた方が良いといわれ、取得することにしました。2級を取得したことで、大学の授業料が減額になり一部の授業の単位が免除されるため、高校生のうちに取得しておいて良かったと思いました。

そして、9月の後半から入試に必要なプレゼンテーションの準備を始めました。プレゼンテーションの作成には教頭先生にも協力していただき、入試本番では練習の成果を十分に発揮し試験官から褒めてもらえるプレゼンテーションをすることができました。大学合格に向けて3年間努力してきたことが報われて本当に良かったと思います。

受験生の皆さん、受験期は大変なことばかりで辛いこともあると思いますが、志望大合格、そして自分の夢に向かって頑張ってください。

東北芸術工科大学 デザイン工学部プロダクトデザイン学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 通信制課程卒
塩竈第一中出身

特徴のある試験内容で不安でしたが 自分なりに工夫して上手く行きました

■体験授業は公式動画を 分析して対策しました

私は、東北芸術工科大学デザイン工学部プロダクトデザイン学科に専願型体験型で合格しました。試験内容は体験授業（2時間）と面接の二つでした。体験授業は午前中にありました。事前にオープンキャンパスで体験授業を受けておらず、とても不安でした。試験対策としては、東北芸術工科大学公式 YouTube に投稿されている体験授業の様子を見て何度も見返し、メモを取りました。試験はグループワークとその後に提案シートの提出です。グループワーク中にわからないところは、周りのメンバーの生徒や先生に質問して、なんとか提案シートを書き上げました。提案シートとはプロダクトを進化させたり、あったらいいなと思うものを商品開発して、マジック1本でわかりやすく書いて、商品を紹介するものです。

■グループ面接は他の受験生と 協力して乗り切りました

午後は面接です。内容は主に志望理由です。事前に提出していたエントリーシートの内容がほとんどでした。対策としては、エントリーシートを書くときに、どこを突っ込まれても回答できるようにしておくことです。志望理由は、曖昧でなく明確で具体的なものにしておくことが必要です。私も初めてのことが多くて、とても緊張しましたが試験でのグループのメンバーは初対面でも優しく話しかけてくれてすぐにグループに馴染め、緊張は次第に解けていき、冷静な判断をしながらグループワークに臨むことができました。大事なことは、進んで発言をすること、人の話をしっかり聞くこと、人の意見を否定しないことの三つです。私も、試験前までは重く考えすぎて、発言できるか正直不安でしたが、落ちついて試験を受けることができました。私は3年生より、外国語コースから通信制課程に転コースした生徒の一人です。人からアドバイスをあまり受けることなくなんとか自力で取り組んだことですが、参考になっていたら嬉しく思います。

東北芸術工科大学 デザイン工学部コミュニティデザイン学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
宮城野中出身

オープンキャンパスで実際に訪れると 大学の印象が変わる可能性があります

■グループワーク対策として 校外イベントに参加しました

私は高校入学当初は専門学校進学を考えていましたが、将来の選択の幅を広げたいと思い、大学に進学することに決めました。3年生の夏まで部活動がありましたが、隙間時間を利用してオープンキャンパスに参加したり、気になる学校を調べたりしていました。パンフレットと実際に学校を見るのでは印象が変わることが多かったので、オープンキャンパスに積極的に参加して良かったです。志望大を決めてからは、新聞やニュースを見て学部に関連する情報を集め、面接対策をしました。また、試験にグループワークがあったので、外部のオンラインプログラムに参加して、初対面の人にも自分の意見をわかりやすく伝えられるように練習しました。様々な人との交流でたくさんの発見をすることができ、大きく受験に役立ちました。受験を通して学校の活動だけではなく、興味のある分野はとりあえず挑戦してみることが大切だと感じました。高校生活楽しんで後悔のないように頑張ってください！

東北芸術工科大学 芸術学部美術学科日本画コースに
総合型選抜で合格

令和5年3月 外国語コース卒
大沢中出身

決して無理せずに受験を楽しむつもりで できる限りの努力を続けましょう

■進路は「好き」を追求して 決めるのが大事です

私が大学進学を目指した理由は、たくさんの経験をするためです。昔から絵を描くことが好きだったので、美術系の大学に進学したかったのですが、絵を学んだ先に将来安定した職につけるのか不安でしたし、学んだ先でなりたい職業もまだ決まっていなくて、初めはなかなか決断することができませんでした。しかし、「好きこそものの上手なれ」ということわざがあるように、好きでやっていることは一生懸命になれるし上達する望みがあるので、そこでたくさんの知識や技術を吸収して様々な経験をしていけば自ずと将来の夢は見えてくると思い決断しました。今将来の夢がなくてどんな大学に進学するか悩んでいる人は、無理にそこで将来の夢を決めて大学に進学するのではなく、自分の「好き」を追求していくことが大事だと私は思います。

大学は推薦入試を受けましたが、合格のために心がけたことは過剰な無理をしないことです。学習の成績も落とさずに入試の実技で絵を描くのでその練習もして、部活の大会の練習もしなくてはいけないと思って1日のスケジュールを立てていましたが、私にはそれを全部こなす体力もなく苦しくなるだけでした。そのため、この日は絵の練習、この日は勉強、といっぺんにやろうとせずに1日ごとに分けて練習しました。数をこなしていても何も頭に入らなかつたら意味がないので、無理はせず少しずつでいいので質を大事にしたほうがいいと思います。

■長期休暇は自己アピールの 素材を増やす絶好の機会です

また長期休みは自己アピールで使える素材を増やしてあげるのもいいと思います。私は絵のコンクールに応募したり、美術の予備校の講習会に参加したりしました。やったことないことに挑戦するのは勇気があるけど、やってみないとわからないし変わらないので勢いに任せて挑戦してみるのもいいと思います。実際、応募した絵も入選して予備校で画力も上がって、自己アピールの素材だけでなく自信もつきました。

高校生活は人生で一度しか味わえない時間なので、受験勉強でずっと苦しい気持ちになっていたらもったいないと思います。そのため無理はせず受験勉強を楽しんでしまうような勢いで努力できたらいいと私は思いました。

東北芸術工科大学 芸術学部工芸デザイン学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 外国語コース卒
秀光中出身

思いが伝わるエントリーシートを 先生方のご指導で完成させました

■試験内容が独特だったので 対策に苦労しました

私が志望大を決めたのは3年生の夏休み明けでした。3年生になるまでオープンキャンパスに参加したことがなく、志望大を決めるのが遅くなってしまいました。本当に早めに行くことをおすすめします。

私が挑戦した総合型選抜試験は専願体験型というもので、エントリーシート、体験授業、面接が評価対象でした。めずらしい試験内容のため対策方法に悩み、オープンキャンパスに参加した際に先生や先輩方に入試についてたくさん質問をしました。私が受験した工芸デザイン学科では、配色での表現と立体・平面制作の体験授業を行うと記載されていました。しかし具体的にどんな問題が出題されるかは当日までわからないのでどんな内容にも対応できるように対策しました。普段、学校では学んでいないことが試験に出るため、知識量を増やすことを心がけました。配色での表現では、どんな意図を持ってその色を使い配色したのか、誰に向けたデザインなのかなど、そのデザインをする意味を深く考え繋ぎ合わせることが大切だと感じました。面接ではエントリーシートと面接での回答に一貫性を持たせることを意識しました。ただ面接の練習シートを一語一句暗記するのではなく、面接官からの質問に自分の言葉で伝えることができるように自分の考えを整理し、何度も練習しました。

■前日眠れずに挑みましたが 本番では上手くいきました！

そして、私が一番苦労したのは出願の際に提出するエントリーシートです。本当に難しかったです。書くことができる文字数が少ないので伝えたいことを短い言葉でわかりやすくまとめることが大変でした。しかし、先生がどんな言葉が最適か、本当に伝えたいことが伝わる文章なのか何度も添削をしてくださいました。先生方からのご指導のおかげで自分の思いが伝わるような文章を完成させることができました。

私は試験前日、ホテルでの慣れない環境と緊張からかほとんど寝られないまま試験に挑みました。試験時間が朝から夕方までと長いので体力が持つのか不安でしたが面接も体験授業もうまくいきました。何が起きてても慌てず、目の前の試験だけに意識を向けてください！ なんとかあります！ 頑張ってください！

東北学院大学 文学部教育学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 外国語コース卒
高崎中出身

外国語コースの授業や環境のお陰で 英語4技能を伸ばすことができました

■小学校教諭として英会話の 楽しさを伝えるのが夢です

私は将来、小学校の教員になりたいと思っていたため、教員免許を取得することのできる東北学院大学文学部教育学科を目指しました。私は外国語コースで英語や韓国語など様々な言語に触れていく中で、言語習得の楽しさを感じ、ここで学んだことを生かして、児童にも英語コミュニケーションの楽しさを教えられるような小学校教員になりたいと思いました。そこで、東北学院大学では質の高い児童教育や英語教育を学ぶことができるという点や、様々な留学プログラムもあるため、より実践的な英語の指導力を学ぶことができるという点に大変興味を持ちました。

■特別講座に参加するなど 英語力を積極的に磨きました

高校生活では、普段から積極的に英語学習に取り組みました。まず、2年生のときに英検2級を取得しました。外国語コースでは日常的に英語に重点を置いた授業が行われており、英語4技能を身につけやすい環境であるため、あまり苦勞はせずに取得することができました。また、3年生でスタンフォード大学 SPICE と仙台育英の共同開発講座である Stanford e-Sendai Ikuei にも参加し、そこでは英語を使ってグループワークを行ったり、プレゼンテーションの作成をしたりしたことで、英語力や批判的思考力を身につけることができました。定期考査対策では、先生ごとのテスト作りの特徴を踏まえ、日々の授業中に発言していた重要箇所を聞き逃さないようにしたり、ワークなどを早めに終わらせたりすることで、テスト期間中は重要箇所の確認にのみ集中することができました。さらに、大学進学のための志望理由書の作成や面接対策では、夏休み中や放課後を利用してたくさんの先生に添削や面接指導をしてもらいました。なるべく多くの先生に指導してもらうことで、色んな意見を参考にすることができ、自分が一番伝えたいことをより正確に表すことができたり、様々な角度からの質問に対応したりすることができました。その対策のおかげで、本番では落ち着いて試験に挑むことができました。

これから推薦などで受験する人は、3年間の定期考査でしっかり良い点数を取り、大学の受験概要などが出たら早めから対策し、より多くの先生に指導してもらうことが推薦で受験するうえで大切なことだと思います。

東北学院大学 文学部教育学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
岩沼西中出身

先生方の優しく的確なアドバイスが あったからこそ合格できました

■英語を深く勉強するために 進級時に転コースしました

私が大学進学を目指した理由は、教師になるため専門的な知識、教養を学びたいと思ったからです。そして、教師に必要なのはコミュニケーション能力と感じ、総合型選抜で受けようと思いました。

私は英語が好きで、英語についてもっと深く重点的に勉強したいと思い、仙台育英の英進進学コースの入試に挑みました。しかし、入試に失敗し、私が臨んでいたコースに入ることはできませんでした。この悔しさを力に変え、私は転コース試験に向けて勉強を積み重ねました。そして高校2年生になった時、英進進学コースへ進学することができました。コースが変わっても成績を維持し、評定を4か5を取れるように努力しました。難易度が変わり、定期考査も授業も追いつかず、大変な時期がありましたが、先生にわからないことを積極的に質問して解決したり、授業態度を心がけました

■面接練習をきちんと行い 第一次選抜を挽回しました

東北学院大学の総合型選抜は第一次選抜と第二次選抜があり、第一次選抜でA, B, C, Dの4段階評価がされ、AからCの評価をもらった人が第二次選抜に進める形になっています。一次選抜の内容は面接でした。面接の試験が初めてで怖かったのですが、私はあまり練習をせず試験に挑みました。私は何を聞かれても自分の事を話せば合格できるだろうと考えていて、甘く見積もっていました。結果は悲惨で志望理由もまともに言えず、Cの評価を見ても少なく、第二次選抜をあきらめて違う入試方法を考える人もいるほどです。しかし、私はあきらめず、第二次選抜を受けることを決心しました。二次選抜の内容は小論文と面接でした。小論文は毎日練習し、どんな内容が問題にされても自分の考えを書けるように新聞やテレビなどを積極的に見たりしました。面接は第一次選抜の反省を生かし、色々な先生に練習をさせてもらい対策しました。努力を積み重ねた結果、合格することができました。

受験を通して私は、協力がなければ絶対合格できなかったと実感しています。様々な先生方の協力で面接は自分の言葉で説明することができて小論文も型に沿って書くことができました。仙台育英の先生は優しく、的確なアドバイスをくれます。困った時は必ず力になってくれると思います。受験は団体戦であることを忘れないでください。

東北学院大学 経済学部経済学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
玉川中出身

面接練習は複数の先生にお願いし 異なる視点から助言を頂きましょう

■地元の活性化に貢献する

人材になりたいです

私が、大学進学を目指した理由は、祖父母が住んでいる町を、今よりも更に活気にあふれている町にしたいと考えたことがきっかけです。東北学院大学は、東北の経済をよりよく学ぶことができる場と考え、東北学院大学に進学することを決めました。

東北学院大学に進学を決めた日から私は、大学のことについて多くのことを知ろうと思いました。パンフレットや大学が開催しているオープンキャンパスに率先して取り組みました。

私は元々指定校推薦を狙っていましたが、枠が少なかったことと、校内模試への対策不足で指定校推薦の校内選考には落ちてしまいました。

■もう少し早く準備すればと

後悔しています

東北学院大学の総合型選抜は、エントリーシートや探求学習、一次選考と二次選考に分かれています。エントリーシートと探求学習、そして一次選考の対策は夏休みごろから取り組み始めました。先生に添削をお願いして最終的な完成は、締め切りギリギリになってしまいました。もう少し早めに取り組めば良かったと後悔しているので、進路が決まり次第早めに準備を始めて良いと思います。特に探究学習はかなり深く調べていくことをオススメします。

第一次選考は、面接とグループディスカッションでした。様々な先生のご協力のおかげで様々な視点からアドバイスをいただくことができました。私は、様々な先生とより多く面接することをオススメします。

東北学院大学 情報学部データサイエンス学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
塩竈第一中出身

受験対策は面接練習や小論文の添削など 先生方を信頼してご指導頂くのが一番です

■資格取得に励むうちに更に 深く学びたいと考えました

私は総合型選抜で志望大学に合格することができました。私が志望大学に合格できた理由として、資格の取得が大きくかかわっていると思います。

私は、高校3年間で資格の勉強に一番力を入れてきました。資格の勉強をするにあたって、一番大変だと感じたのは定期考査の勉強との両立です。定期考査期間の中に検定日が重なったことがあり、片方の勉強しかしていなかった私は、徹夜で勉強をして間に合わせました。この経験から、綿密に計画を立てて、ギリギリではなく早めに行動することを学びました。そして2年生の時に、目標であった情報処理検定1級を取得しました。私は情報に関する知識が増えたことに加えて、もっと深く学びたいと思い始め、情報系の大学に志望することになりました。その後はMOSの勉強を始めました。MOSに関しては、放課後に勉強することが効率的だと思います。また、夏休みなどの期間にある講習に参加して勉強するのも良いと思います。

■受験前日まで毎日小論文を 書き実践力を磨きました

受験は面接と小論文がありました。面接では、練習の時点で声が小さいことと、表情が暗いという課題がありました。それを解決するために、鏡で自分の表情を確認しながら練習したり、面接を行う前に音楽を聴いて気持ちを高めたりして本番に臨みました。また、先生方をお願いして何回も面接練習をしました。小論文では時間内に終わらせることが難しくとても苦戦しました。練習を重ねるしかないと思い、一日一回、小論文を受験前日まで書きました。受験対策をして思ったのはなによりも先生方を頼ることです。先生との面接練習や、添削をしていただくこと、この方法以上の対策はないと思います。そして日々合格のための努力を怠らないことが大切だと思います。総合型選抜は高校3年間の生活や成績が大事になってくるので、日頃から受験を意識して頑張ってください！

東北学院大学 情報学部データサイエンス学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
田子中出身

授業中は先生が口頭で説明したことも 重要なので集中して臨みましょう

- 情報処理検定は1級を見据え
2・3級の対策をしましょう

私はこれから先の未来では情報技術が必要になってくると考え、高校と大学は情報系の学校に進学しました。仙台育英の情報科学コースでは、主に情報系の資格の取得と、定期テストで良い点数が取れるように頑張りました。私は1年生の内に情報処理検定の3級と2級を取得し、2年生では情報処理検定1級を取得しました。情報処理検定の授業を真面目に取り組み、帰宅後も復習を行うなどして、資格の勉強に励みました。情報処理検定の3級と2級も難しいですが、1級は難しさのレベルが違います。1級は全て筆記試験なので、実際はパソコンを使って考えるエクセルやSQLなども、関数を覚えるだけでなく、その中身もきちんと覚えていないと解くことが難しい問題が多いです。そのため、合格するために必要な時間が3級、2級よりもかかってしまいます。それだけでなく、1級は2級や3級で習った事も出題されるので、2級、3級での授業もきちんと受けていた方が良いでしょう。ですから、最初から1級を取る気で勉強すると良いと思います。

- 評定と資格、出席日数は
全ての推薦入試に関わります

定期テストでは毎回良い点数を取れるように努めました。普段の授業に真剣に取り組みました。高校に入ると中学校の時よりも教科の内容が難しくなります。もしかすると家に帰って勉強する時に教科書を読んでも分からない問題が出て来てしまうかもしれません。ですから、授業中に全て理解するようにしていました。先生によっては、黒板には書かないけれど、すごく大事なことを口頭で説明されているという場合もあるので、先生の話をよく聞く、そしてそれをノートにメモを取ると勉強の効率が上がると思います。

後は、なるべく休まないように心がけました。これら三つの事をしていたのは、大学の推薦を目標にしていたからです。どの大学を志望するか決まっていなくても、資格と評定と出席日数は重要です。この三つの事を頭に置いて学校生活に励んでください。

東北学院大学 情報学部データサイエンス学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
滝沢第二中出身

将来学びたいことが明確だったので 入試に向け毎日を大事にしていました

■情報系を目指すならば

多くの資格を取得しましょう

志望大決定について、まず自分が大学でどんな勉強をしたいか、ということは高校入学時から明確に決まっていたことです。

進路達成に向けて、中でも私が重要だと思えることを4つ紹介したいと思います。

まずは、資格取得です。この3年間で私は多くの資格を取得してきました。例えば、情報科学コースではMOS試験や全商情報処理検定試験などを受験することができます。私は全商情報処理検定2級、MOS試験はほぼすべての資格を取得しました。また大学受験に役立つと思い、情報系を目指すなら取得していたほうが良いと言われている基本的なITパスポート試験も取得しました。英検なども定期考査や情報系の資格取得と重ならない日程を選びながら挑戦してきました。

私は中学時代からプログラミングをしており、プログラミングコンテストにも出場しました。情報系の大学に進学したい方は中学時代にプログラミングコンテストを目指すというのも一つの手段かもしれません。

■今まで培ってきたスキルを

ICT部で発揮してきました

小論文対策では、毎日新聞に目を通し日々話題になっている事を読み自分事として考えていました。またその新聞の内容でわからないことは検索するなどして、文章を読み解く力を養いました。読むということは書くということに繋がるのではないかと思います、日課としていました。

高校生活の中でICT部に所属していました。活動内容としては、パソコンの基本的操作をはじめ、基本的なことから自分が挑戦できる内容に取り組みました。特に力を入れたのは育英祭のホームページ作成です。今まで培ってきた力を活かし、ホームページを作ることができました。ICT部は楽しい部活動なので、情報系の大学進学またはパソコンに興味がある方は、ぜひICT部に入部することをお勧めします。

後輩達への激励メッセージ：3年間は長いようであつという間です。一日一日を大事に過ごすことが将来の目標達成に繋がると信じています。私にとっては、明確に決まっていたことや、大学の入試対策を早い段階に取り組むということが大学の決定に繋がってきました。

東北学院大学 情報学部データサイエンス学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
錦ヶ丘中出身

合格が厳しい状況に立たされても 先生の励ましで最後まで頑張りました

■情報科学コースでの学びを 活かせる進路を選びました

東北学院大学情報学部データサイエンス学科に総合型選抜B日程で受験し合格しました。高校で学んだ知識と能力を活かせる大学に進学したい思い、情報を整理して活用する力を学べるデータサイエンス学科を受験しました。総合型選抜では自分をアピールすることが重要なので、資格を多く取得できなかったことについて後悔しています。それでも資格以外のことで自分をアピールしようと思い、学科に対する興味や意欲を話しました。

■一次面接が芳しくなくても 諦めずにリベンジできました

東北学院大学の総合型選抜は、一次と二次の選抜があり、一次選抜では30分の面接。二次選抜では小論文と10分の面接がありました。コロナ対策で一次の面接の評価がA・Bだった人は二次の面接に評価を引き継がれ、二次の面接は免除される仕組みでした。私は、面接も小論文も苦手で、先生方と練習をして対策をしましたが、一次選抜の面接の評価はCで、正直合格するのは厳しい状況でした。過去の受験者のデータを見ても、一次でCだった人で合格している人はほとんどいないため、二次を断念する人も多いと聞き、諦めかけていました。しかし、担任の先生に「二次を受けられるのに挑戦しないのはもったいない」と言われ、二次選抜への準備をしました。小論文の書き始めや流れを先生に借りた本で学習し、面接のおさらいと反省をして、二次選抜に臨みました。二次の会場に行くと、同じ学科に来ている人は全部で9人でした。小論文が無事に終わり、一次の評価がA・Bだった人は先に帰ったのですがB日程の募集定員が3人で、帰った人が4人もいたので、その場で合格は無理だと諦めかけました。しかし、ここまで来て諦めても意味がないので、全力で面接に臨みました。面接では一次で答えられなかった質問のリベンジを果たしました。結局、二次の面接でのリベンジがあってかなんとか合格することができました。ここまでの経験から高校でできるだけ多くの資格を取ることや、面接に上手に対応できるかが鍵になると思いました。

東北学院大学 情報学部データサイエンス学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
名取第一中出身

受験準備期間はストレスが溜まるので 不安要素を取り除いておきましょう

■情報科学コースで習得した スキルを発揮し合格しました

私が、東北学院大学情報学部データサイエンス学科に総合型選抜で合格することができた要因は、この学部で求められている人材についての理解を深め、資格勉強や総合探究にて努力を積み重ねたことで配点の高い書類審査や面接で意欲を表現出来たからです。

特に力を入れた事が総合探究です。

私の場合、情報学部でプログラミングについて学びたいと明確に考えていたので、情報科学コースで勉強していたプログラム言語を使い、簡単な Web サイトを作りました。

その際に気をつけたことは、楽しい、面白いものではなく、利便性を向上させるもの、社会性の強いものを考えることです。データサイエンスとはそれを通して問題を解決することで、利便性の向上、安全性の確保、危険回避に繋げるという目的があるのでそれらに合致するものを考えました。

そして考えついたものをプログラムし、サイトとして動くよう作り上げることで学校で学んでいたような教科書をなぞることだけではなく、パソコンの環境の構築やエラーの原因の探し方、サイトのデプロイメントなど、これらの経験は自分で学ぶ事で身につけ、受験の面接でもしっかりと質問に答えることができたため意欲のアピールに繋がりました。

■もっと早くから準備を 始めるべきでした

私は6月頃からサイトの作成を始め、それらが終わった8月初めから書類作成をしていました。夏休みの間の1ヶ月を書類作成につき込むことができ、推敲はしっかりできましたが、できることなら7月の登校期間中にしっかりと先生方に相談しながらかけていけば、安心感は間違いに上がると思います。

受験準備期間はとても緊張しますし、精神的にも疲弊します。ですから実績や経験を積み重ね、不安なところを減らしていくことで安心感を持って受験に挑戦できると思います。

東北福祉大学 総合福祉学部社会福祉学科に
特別推薦で合格

令和5年3月 外国語コース卒
寺岡中出身

学びたいという自分の気持ちを 大切に進路を選択しましょう

■高福祉国への留学に 興味をもち志望しました

私はバレーボール部に所属し、6月の高校総体まで活動していました。当時、部活ばかりしていたため大学についてあまり考えておらず、関東圏の国際関連の大学に進学したいとだけ考えていましたが、コロナによって諦めざるを得ませんでした。それまでは県内の大学をあまり調べていなかったため、第二希望であった福祉系も視野にいれ大学を考え始めました。そこで東北福祉大学の高福祉国への留学制度に興味を持ちました。ここでなら好きな外国語と福祉について学べると思い、入学を決めました。それからは母の助言を基に受験方法や学科について調べ、推薦入学を決めました。

■緊張をほぐす意味でも 面接の挨拶は大切です

ちょうどその頃に大学に提出される評定を決める大切な期末考査があり、オール5を目標に勉強を始めました。期末考査後は評定を基に受験方法を決め、入試に必要な小論文と面接の練習を行いました。小論文と面接の練習は学年やコース問わずいろいろな先生に協力をしてもらいアドバイスをもらいながら入試の前日まで入念に行いました。その先生のアドバイスの中に、面接は丸暗記ではなくキーワードを覚えることが大切だという言葉があり、その言葉は今でもとても印象に残っています。実際、面接を行ったときに丸暗記の内容をさらに深掘りして質問されたからです。私は、面接で質問の受け答えを完璧にこなそうとすることは大切ですが1番は自分が大学に入りたい熱意を伝えることが大切だと思いました。勉強面の他に普段の生活の中で意識したことは、制服の着こなし方はもちろん先生や用務員さんへの挨拶です。私は、人の第一印象は挨拶で決まると思っているため面接官の先生に好印象を持ってもらえるよう、本番の面接で緊張していても気持ちをリセットさせることができるように挨拶は徹底して行いました。私の大学受験は少々急ぎ足で様々なことを決めてしまうことになりましたが、その中でも自分が学びたいことは優先させました。今後受験を控えている皆さんは、視野を広くし自分の気持ちを大切に大学選択してほしいです。勉強や入試対策など頑張れば結果はついてくるので頑張ってください。

東北福祉大学 総合福祉学部社会福祉学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
増田中出身

部活動に打ち込んだことで 人として大きく成長できました

■大学の監督の目の前で 実力を発揮できました

高校生活で大切にしていたことは、学校のテストと部活動での結果です。コロナと陸上の大会の関係で登校することが少なく、テスト前はクラスの友達にノートを見せてもらって写し、提出物を確実に提出することを徹底しました。私は勉強が苦手ですが、社会福祉について学びながら陸上競技を続けたいと思い、テスト前はそれなりに努力をしました。授業中に先生が大事だと言ったところをチェックし、テスト前に必ず確認しました。寮生活をしていたのでLINEでのやり取りにはなりますが、分からないところは兄に聞いて勉強しました。部活動では、3年生になってから2年生の時以上の結果を大会で残せませんでした。楽しいことや嬉しいことだけではなく、辛く、苦しい経験もしましたが、礼儀や人としての部分で大きく成長することができたと思います。2年生の冬に東北福祉大学の監督が見に来てくださったレースがあり、その時に自分の力以上のパフォーマンスをすることができ、声をかけていただきました。早いうちから介護や社会福祉について興味があり、東北福祉大学にいきたいと思っていたので嬉しかったです。やってきたことが実を結んだのだと思います。「努力は必ず報われる」という言葉を証明できた瞬間でした。

■部活動は競技以外の面でも 入試にとっても役立ちました

3年生の夏頃から入試に向けての勉強に取り掛かりました。文章を書くことは、毎日の陸上の練習報告で身につけていたのでそれが活かされました。面接練習は入試直前に2回しかおこなっていませんでしたが、部活動を通して目上の方と関わる機会が多く、たくさん緊張する場面を乗り越えてきたので自信を持ってのぞむことが出来ました。

3年間の高校生活で得た経験で、大学合格をすることが出来ました。当日自信を持って試験を受けられるように、自分の経験と事前の準備を大切にしてください。

東北福祉大学 総合福祉学部社会福祉学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
松島中出身

仙台育英での3年間を通して 自ら考えて行動するようになりました

■将来は社会福祉士として

人を笑顔にしたい

私が東北福祉大学を目指したきっかけは、社会福祉士になりたいと思ったことです。社会福祉士になりたいと思ったきっかけは、祖母が介護施設で暮らすようになり、そこを訪れて、その環境を目の前にしたときです。私は初めて介護施設を訪れ、介護施設にいる方々が社会福祉士などと話して笑顔になっているのを見て、私も人を笑顔にさせたいと思いました。だれかの助けになることは良いことだと思うし、自分のためにもなると思い社会福祉士を目指しました。社会福祉士の資格は国家試験だからとてもむずかしくて、そんな簡単に取れるものではないですが、その道に進むためには資格は絶対に必要だし、今から勉強して確実に取得しなければならないと思います。

また、部活動も大学を選ぶきっかけになりました。私は、小学校からサッカーをしていました。大学でも続けたいと思い、大学で社会福祉士を目指して部活動を続けられるところを探していたらこの大学でした。

■仙台育英で高校生活を送り

本当に良かったと思います

私は仙台育英に入ってよかったと思っています。大きな行事などはコロナの影響でできなかったんですが、普段の学校生活で基礎を学びながら生活も楽しめました。生活の中では、自分たちで考えて、行動しなければいけない場面が多く、今自分がどうしたらよいのかを自然に考えて行動することができるようになりました。考えて行動することと同時に、楽しみながら学校生活を送ったり、授業を受けたり、友達と遊んだりとても充実した学校生活を送れました。本当に買ってよかったと思えたので、後輩の皆さんもそう思えるようになってほしいと思いました。最後にテストの結果が進路にとっても関わってくるので1年生のうちから勉強しておいた方がいいと思いました。

東北福祉大学 総合福祉学部福祉行政学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
増田中出身

コロナ禍でも仲間と工夫しながら練習し 結果を残したことが合格に繋がりました

■大学で消防士になるための 知識を深めていきたい

私は当初、高校を卒業し一日でも早く消防士として、人の役に立ちたいと考えてきました。また3年間剣道部に所属し、文武両道に励んで来ましたが、夢に近づくためには、より深く知識を学ぶ必要が求められました。

先生や家族の勧めもあり、総合型選抜（スポーツ文化型）の制度を利用し、東北福祉大学を受験しました。希望した学部・学科では、福祉や政治、法律や防災など幅広い分野を学ぶことができ公務員を目指すのに優れています。また授業以外にも、公務員試験対策に充実した支援があることを知りました。大学を目指すきっかけの一つとなりました。大学の部活動にも参加させていただき、先輩方の細やかな気遣いと優しさに触れることが出来ました。また部活動の雰囲気、質の高い指導や設備の整っている道場にも魅力を感じる事が出来ました。

■仲間と切磋琢磨して稽古し 全国大会に出場できました

このような結果に結びついたのも、3年間仲間達と共に切磋琢磨し、厳しい練習に励んでくることができたからだと思っています。この3年間、成績を残してきた先輩方に少しでも近づきたい気持ちで、稽古後の自主練も欠かさずことなく努力してきました。コロナ禍で限られた練習時間を、仲間と試行錯誤を重ね工夫して練習をしてきました。このような状況下でも、先生方が遠征や強豪校との練習試合を組んでいただいた事にも感謝しています。高校3年間の積み重ねで、私は仲間達と全国の夢の舞台に4度も立つことができました。とても貴重な経験を得ることができました。

この経験によって部活動以外にも生活面や学習面、人間性の向上にも大きく成長できたと考えます。日々の積み重ねや目標を明確にし準備することが大切だと思います。

東北福祉大学 総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
塩竈第三中出身

小論文は書く上で大切なことを 自分で調べる所から対策しました

■福祉の勉強と柔道を

両立できる進路を探しました

私はずっと福祉の勉強をしたいという気持ちがあり、高校卒業後の進路を考えた時に、福祉の勉強と部活動の柔道を両立させる事ができる大学へ進学しようと考えました。高校3年生の6月頃に、東北福祉大学の柔道部の先生から入学の誘いを頂きました。東北福祉大学は福祉教育が充実していて、部活動も盛んなので自分の目標を達成できると思い、入学を決めました。

私は勉強があまり得意ではないので、総合型選抜のスポーツ・文化型というやり方で受験をしました。受験内容は小論文と面接の二つで、受験対策として小論文は参考書を読み、小論文を書くときに大切なことは何かについて勉強しました。面接は先生などをお願いして、何度も練習を重ねました。

結果的に私は受験に合格することができました。大学入学後は勉強と部活動の柔道を両立させることができるように頑張りたいと思います。

東北福祉大学 総合マネジメント学部情報福祉マネジメント学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
岩切中出身

スキルアップや自己アピールになる 資格取得を積み重ねましょう

■高大連携プログラムで聴講し ここで学びたいと思いました

私が特に大学進学を考え始めたのは、高校2年生の終わりころです。仙台育英に入学した時から、大学に行きたいと考えていましたが、どこに行き何を学ぶのかまでは考えていませんでした。そんな時に、仙台育英で行われている東北福祉大学との高大連携プログラムに参加しました。そこで東北福祉大学の情報福祉マネジメント学科について知りました。情報福祉マネジメント学科で実際に行われる講座を聴いたりすることができ良さを知るにつれて、そこで高校で学んだことを活かしながらさらなる学びを得たいと思いました。私は将来、情報技術を活かした職に就きたいと考えています。そのためにも東北福祉大学の情報福祉マネジメント学科で学ぶという強い意志が芽生えました。推薦入試は2次があり準備することが多く大変でしたが先生方の支えもあり無事に受かることができました。

■資格対策で身に付けた技術を 入試で活用できました

大学進学を明確に考え私が頑張ったことは勉強です。成績を落とさないことを絶対にしてました。成績はテストが大切になるので毎回しっかりと覚えてテストに挑んでいました。私は暗記が苦手だったので覚えるまで何度も行いました。そして資格取得にも努めました。資格は自分をアピールできるものであり、大学の入試のときにも大切になってきます。情報処理検定3級を1年生で、2級を2年生で取得することができました。3年生ではMOS資格のPowerPointを取得しました。この資格を取ったことにより東北福祉大学の推薦試験であったプレゼンテーションでのPowerPoint作りがうまくいったと思っています。さらに部活面では陸上競技部（短距離）に入部したくさんの経験をすることができました。良い成績を残すことはできませんでしたが、仙台育英の一人として大会に出場したことはこれから生きていくと思います。

高校での3年間は長いようで短いものです。悔いのないように勉強ではとれる資格を取得していき部活でも頑張ってください。そして楽しむことも忘れないようにしてください。

東北福祉大学 総合マネジメント学部情報福祉マネジメント学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
南小泉中出身

「自分の他に誰が受かるのか」と 思えるレベルまで努力しましょう

■ 高大連携講座で福祉への 関心が更に強まりました

私が東北福祉大学を目指そうと思い始めたきっかけは、例年仙台育英と大学が連携して行う高大連携講座を受講した事でした。私は仙台育英に入学してから情報を専門的に学び始め、当時はまだ明確に将来の目標があったわけでもなく、ただ「卒業までに将来したい事がみつかるだろうか」などと漠然とした不安に近いものがありました。

高大連携講座で、私は情報と福祉の融合ということ学びました。詳細をここに書く事は、この記録の主旨からは逸脱するのですが、私はこの時考えました。福祉技術は、それを提供する事によって人を助ける事ができます。医者のように直接的でなくとも、自分が高校で学んだ事を活かし、間接的に人を助けられるという事に心を惹かれ、オープンキャンパスに参加するに至りました。

志望理由書ではないので、そこでの専門的な話などは述べませんが、この最初のオープンキャンパスで実際に校風に触れた事は、それまで漠然とした希望に過ぎなかった東北福祉大学への進学が「志望」という確固としたものになるきっかけでした。

東北福祉大学に指定校推薦の制度はありません。また、私は一般入試については最初から考えていませんでした。その時一度の試験の結果ではなく、積み重ねてきた努力を見せたかったので、総合型選抜、自己推薦と言える方法を目指す事にしました。

■ 努力をアピールするために 面接と書類に注力しました

総合型選抜には、国英の2教科の実力試験に加え、面接、書類審査、第2次試験としてプレゼンテーションがありました。私が意識していたのは、このうち面接と書類審査でした。これらは、私が考えていた「積み重ねてきた努力を見せる」という性格がもっとも強いからでした。書類には活動報告書があり、これと面接は実績をアピールできる機会です。

アピールする事は何でも良いです。高校在学中に取得した資格でも、冒頭に述べたような授業以外の講義への出席でも、あるいは無遅刻無欠席や、3年間成績表でオール5を取るなどの「日々の積み重ね」のような事でも材料になります。

ただ、これらは全て自ら能動的に、という意欲がなければ成し得ません。そして意欲のためには、志望先の決定は漠然とではなく、「ここしかない」と思うまで極める必要があります。準備にじっくりと時間を掛け、自分が何をすべきなのかを知るためには、進路について考えるのは早い方が良いです。そして、常に自分の功労を振り返る事。これは、後から自分が何をしてきたのかを思い出し、アピール出来る事を見つけやすくする事に繋がります。

受験本番で、私は緊張しました。しかしその時、自身がこれまで1年次からずっと、このためだけに頑張ってきた結果がこの実績ではないかと思い、私が受からなかったら他に誰が受かるのだ、とも考えました。これは、最初に意欲がなければ出せなかった自信だと思います。

不安になる事と、自信のなさは違うのだと私は思っています。受験の際、受からなかったらどうしよう、と不安になるのは、自分の目指してきたものに否定されたらどうしよう、という事で、それは一心不乱に走り続けてきた意志の現れです。本番でそれを、自信の裏返しと思えるかどうかなのです。

東北工業大学 工学部都市マネジメント学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
秀光中出身

将来やりたいことや成し遂げたいことを 第一に考え志望大を選びました

■大学は社会に出る準備をする 人生の分岐点だと思います

私は、東北工業大学工学部に AOVA 入試という形で合格しました。AOVA 入試を選択した最大の理由として、高校での活動が大きく反映されたからです。高校での強みを活かすことは自分の最大の武器であると私は考えます。

私は大学は人生の分岐点であると考えます。なぜなら社会に出る一歩手前の準備段階だと言えるからです。大学選びをする際、私は将来何をしたいか、何を成し遂げたいか考えました。自分が将来なりたい職業に特化した大学選びをすることで、大学生活という時間を有意義に使うことができるからです。例えば、明確に目標を置いている人間と、なんとなくやりたいことをやっている人間とでは、物事の達成するスピードが違うと言えるでしょう。これは、時間内にこのクオリティでできるようになるという明確な目標設定ができていてこそできることです。これらのことから、明確な目標、目的を持って大学選びをすることが大切です。やりたいことが決まっていた私は次に卒業生の卒業後の進路について注目することにしました。先ほども私は大学は人生の分岐点であり、社会人になるための準備段階という話をしました。大学でしっかり準備をしたとしても、就職する場所が自分の中で納得するような就職先、大学からの出口がなければ卒業後が苦しくなるのではないと感じたからです。

■面接練習をしながら学びたい 理由を掘り下げていきました

私が受験の中で一番苦労したのが、面接です。面接はなぜこの大学への入学を希望しているのか、という問いが基本です。回答によって内容は変わります。その柔軟な対応ができるかという点で私の中で不安がありました。練習を重ねて行く中で、どんな人物になりたいのかを自分の中で思い描く必要がありました。将来どのようにになりたいかを明確に示して行くことで、質問の受け答えはスムーズなものになっていきました。それまでの私は、その分野を学びたいという抽象的な目標を持っていました。掘り下げて行くことで次に聞かれる内容も予想しやすく、対策もしやすかったです。

将来何をしたいか、どんなことを成し遂げたいかを第一優先に大学を決めました。自分の中で、何が強みなのか、なぜこの大学を選んだのか、どんな人物になりたいかを明確に示していくことが大学合格のきっかけになると私は考えます。

東北工業大学 工学部電気電子工学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
村田第一中出身

トラウマを振り切って総合型選抜に挑み 合格できたことが自信になりました

■オープンキャンパスの帰りに この大学の受験を決めました

東北工業大学に進学したいと思ったのは、オープンキャンパスに参加した時に授業内容や大学卒業後の就職率の高さを知り、ここで勉強したいと思ったからです。また、大学全体としての雰囲気と、施設の充実ぶりを見学して感銘を受け、オープンキャンパスの帰り道に担任の先生にこの大学に行きたいと連絡するほどでした。

本来は指定校推薦で進学したいと思っていましたが、推薦をもらえなかったので、一度は他の大学に行こうと考えましたが、他校の自己推薦文を書いていた時にやっぱりあの大学に行きたいと思い、総合型選抜に切り替えました。

大学に合格するために勉強したことは、まず小論文対策として、寝る前にパソコンで文字数をカウントできるサイトを開き、過去問を指定された文字数以内で文章を考える練習をして、完成した文章を現代文の先生に見せて評価してもらうことをやっていました。あと、面接対策としては、放課後に先生と入室方法などを練習しました。

■心配していたので合格を知り 涙が出るほど嬉しかったです

そして試験当日は、小論文で指定されたテーマが、デジタル教科書についてだったので、私が思う最高の小論文が作れたと思います。面接は、高校で勉強した選択科目で物理等を受けていないことを指摘されましたが、試験を受ける前に想定できたので回答ができました。

合否が分かる2週間は心配すぎて、榴岡天満宮でお守りを買ったり、何回かお参りに行ったりしていました。合格発表も天満宮で見て、合格を知り一人で泣いてしまいました。

高校の3年間は、最初は専門学校に行く予定だったのでのんびりと過ごしていましたが、テストなどではしっかりやっていたり、毎日登校したりと基本のことはしっかりとやって過ごしました。

この高校には一人で入学したので、友達ができるか不安でしたが3年間で友達もでき、とても楽しく過ごすことができました。

今回の受験で合格することができて自信もついたので、とても良かったと思っています。

東北工業大学 工学部電気電子工学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
青森 浪打中出身

何事にも計画的に取り組むことが 文武両道に必要なだと実感しました

■暮らしを支える電気技師を 目指すために進学しました

大学進学を志望した理由は、将来電力会社の技術職として働きたいと思っていたからです。そのために必要な電気の基礎や技能を詳しく学びたいと思っています。また、私が行きたい大学では就職に有利になる資格が取りやすい環境にあると思い志望しました。

6歳の時に東日本大震災を経験しました。停電がおきた際、当時電力会社で仕事をしていた母は夜遅くまで復旧作業を行っていました。私の卒園式前日でした。卒園式ができるか不安だったのですが母を含めた電力会社の人達のおかげで卒園式を無事に終えることができたので、私も将来そこで働いて人々が住みやすい環境にしていきたいと考えようになりました。

私は総合型選抜で東北工業大学を受験しました。受験内容は小論文と面接でした。受験をうけるうえで頑張ったことはニュースなどを見たりして知識を増やすことです。小論文対策としては、文法を覚え過去問を解き国語の先生に添削していただきました。面接では友達や先生方をお願いして練習しました。本番では緊張はしましたが、相手が聞き取りやすい声量で発言することができました。面接内容は私が将来の夢について詳しく聞かれました。

■一生に一度の高校生活なので いろいろなことに挑戦しましょう

私はサッカー部に所属していました。部活動と勉強の両立をすることで、有意義に生活を送ることができました。両立するために必要なことは、時間を有効的に使うことが大切だと思いました。定期考査に関しては授業を真剣に取り組む2週間前から計画的に取り組むことができました。受験の対策だけではなく出願などもあるため提出書類をまとめておくことでスムーズに出願することができると思います。このようなことから日々の積み重ねや努力を怠らずに頑張ることが合格につながったのだと思いました。高校生活は一生に一度なのでいろいろなことに挑戦し充実した高校生活を送ってほしいと思います。後輩の皆さん、進路で悩むことがあると思いますが自分のことを信じて一生懸命頑張ってください。

東北工業大学 ライフデザイン学部産業デザイン学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 外国語コース卒
桜丘中出身

ボランティア活動は視野が広がり 推薦入試でも大いにアピールできます

■ ボランティア活動を通して 協調性が身につきました

東北工業大学ライフデザイン学部産業デザイン学科に合格することができました。私は2つのことがあったため合格できたと考えています。

1つ目はボランティア活動に力を入れたことです。主に単発のボランティアで活動しました。5回以上マラソンのボランティアで給水や給食、受付などのボランティアを行い、楽天イーグルスのボランティアではゴミの回収や客席の除菌をしてきました。その中で自分のコミュニケーション能力や多様な人たちと一つの活動をすることで協調性を学ぶことができました。東北工業大学でも総合型選抜においてボランティアは必要不可欠だと思うため、積極的に取り組むと良いと思います。

2つ目は、検定を受けることです。外国語コースはGTECを必ず受けるので持っているのですが、個人では韓国語能力試験とニュース検定、色彩検定に合格しました。特に色彩検定が自分の志望していた学部に合わせていたので受験しました。私は色彩の知識など一つもなく独学で受験するのは不安でしたが、産業デザイン学部がデザイン系で興味があったため進んで学ぶことが出来たため、色彩検定を受験するのはおすすめです。合格して、受験も合格しちゃいましょう。

■ 面接練習は毎回異なる先生に お願いするのがおすすめです

3つ目は、小論文対策や面接練習です。私は受験の1ヶ月前から受験の対策を始めました。私は文を書くのが早いのですが文章力が足りなくて、一日先生に見ていただいたら、次の日には提出して小論文の対策を進めていました。また面接練習では、毎日放課後に先生を予約して行いました。最初の方では、緊張して言い間違いや、適切ではないことを言って何度も指摘されましたが、合格したい一心で挫けず頑張りました。そして受験日の1週間前からはいつも面接練習をしてくださっている先生とは違う先生と行うようにしました。毎日違う先生と行うことで本番さながらの緊張感で行うことができ、とても良い練習だったと思います。おすすめの練習方法なためぜひ行ってみてください。小論文対策や面接練習は受験日の1ヶ月前からでも良いのですが、もっと前から行うとより余裕が持て、自分の力を発揮できると思います。ぜひ頑張ってください。

自分が行きたい志望大に行くためには日頃の努力がとても必要なため、一日一日を大切に過ごしてください。合格するように応援しています。頑張ってください。

東北工業大学 ライフデザイン学部生活デザイン学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
仙台 中田中出身

文章力やコミュニケーションスキルを 3年間でしっかり高めていきましょう

■ 3年間でアピールポイントを 一つでも多く作りましょう

私は、AOVA 入試（総合型選抜）で東北工業大学ライフデザイン学部生活デザイン学科に合格しました。

私が合格する上で最も重要だと思ったのは、高校生活の中でいくつアピールポイントを作ることが出来るかだと考えました。実際に私は高校生活のなかで、出席日数をできるだけ多くすることと、資格取得に務めていました。出席日数は就職、進学のいずれにおいても重要な評価ポイントとなるので、高校1年生の頃から体調が悪かったときでも午前は休んで遅刻で学校に行くなどして、できるだけ出席日数が増えるように努めました。資格取得は、情報科学コースの課題でもある情報処理検定や、比較的簡単に取得することが出来るプレゼンテーション作成検定や、難易度は上がるが、どの分野でも通用する色彩検定等を取得しました。特に、色彩検定は高校生で取得している人が少なく、独学で取得するのが少し困難な資格のため、志望理由書のアピールポイントにも使うことができました。

■ 高校生活の経験のなかで 表現力を磨いてきました

私の当日の試験内容は面接、小論文でした。経験を積み、小論文のような文章を書くという勉強を1年生の頃からしていたので、受験寸前で焦ることはありませんでした。文章の練習は、まず簡単な作文を書き、文章でよく使う漢字を学習するなど基礎的な所から始めました。基礎的な部分は疎かになることが多く、大切な時に思い出せない事が多いため、高校生になってからも何度も練習しておいて良かったと思っています。面接等での人との話し方は普段からの話し方や癖がよく出ると考えています。私は、少しぼかしたような表現をする癖があったので、普段の生活から言いたいことをハッキリと簡単に伝えることを意識しました。

これらのことから、私が受験の準備において必要なものは、高校生活の中での色々な経験と1年生からの準備だと考えました。人との話し方や文の書き方等は身につけるのにとても長い期間が必要です。高校生の3年間で出来るだけ多くの経験を積んでおいて良かったと思います。

東北工業大学 ライフデザイン学部経営コミュニケーション学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
秀光中出身

小論文は最初は書けなくても 毎日練習すればスキルアップできます

■授業終了後は図書館に通い
先生方にご指導頂きました

私は東北工業大学ライフデザイン学部経営コミュニケーション学科を志望し、AOVA 選抜で合格することができました。AOVA 選抜は面接及び小論文がありました。面接は10分程度で、高校生活で一番頑張ったことや大学の志望理由、大学生活で力をいれていきたいことなど聞かれました。小論文の時間は80分で、文章を読んだ上でその文章を200字で要約をし、600字で自分の考えを書くものでした。私は約1ヶ月以上前から授業が終わった後、毎日図書室へ行き先生方に面接や小論文の指導をしていただきました。面接はどんな質問がきても答えられるような準備をしました。また、小論文は先生方に問題を貰い、每日一題は必ず取り組んで先生方に見てもらおうようにしていました。毎日続けた結果、最初は全く文章が書けなかったけれど、いつのまにか時間も気にせずスラスラと書けるようになりました。とにかく継続することで文章は良くなると思うので、数ヶ月前から余裕をもって取り組みたいと思います。みなさん頑張ってください。

宮城学院女子大学 学芸学部日本文学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
名取第一中出身

多くの支えのお陰で合格できたことを 忘れることなく頑張っていきます

■国語科の先生方のお陰で 課題提出に間に合いました

私は高校3年間コロナウイルスの影響で様々な問題があり、オンライン授業などで十分な勉強時間が取れていませんでした。

評定はいい方だったので、宮城学院女子大学の指定校推薦を狙ったのですが、取れなかったため総合型を受験しようと思い、急いで準備を始めました。少しだけしか進められていなかったため、そこからは必死に調べました。

入学試験は、面接と課題の二つです。課題の内容は簡単に言えば読書感想文のようなものでした。高校生活で読んだ本の中で1冊選んで、それを読んでどう思ったか感動したことなどを1,200文字程度でまとめ、それについてプレゼンを行います。この課題を作る際に、国語担当の先生方にアドバイスをたくさんいただきました。そのお陰もあり、大学が出した必着期限に間に合うことが出来ました。

試験当日にプレゼンをするといっても、パワーポイントを使ったりする訳ではなく、自分の書いた内容についての補足をしました。書ききれなかった自分の考えや解釈をより深く理解してもらうために、何度も原稿を書き直して挑みました。

■面接は日本文学科らしく 本について問われました

面接では、質問は直前のプレゼンの内容にも触れると知らされていたので、自分でも質問に答えられるように原稿を読み返していました。面接の内容は日本文学科ということもあってか、普段読んでいる本についてや、好きな小説家はいるかなど、本についての内容が多いと感じました。そのほか部活動のこと、学校でのことも聞かれました。

私は他の人より面接練習を始めるのが遅かったため、答えられなくても返事はしっかりすること、ハキハキと喋ることを意識しました。

あまり緊張することもなく試験が終わり、無事大学に合格することが出来ました。

こうして私が大学に行けるのも、支えて下さった友達、家族、先生方のおかげです。私はこのことを忘れずに、大学でもたくさんのことを学べるよう頑張っていきたいです。

宮城学院女子大学 現代ビジネス学部現代ビジネス学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
西山中出身

3年生になる前から将来の目標や 学びたいことを考えておきましょう

■ 1, 2年次にテスト対策を怠り 受験を迎えて後悔しました

私が、宮城学院女子大学に入学したいと思ったきっかけは、学部の種類や特徴をみて、自分にぴったりの学部を見つけたからです。入学する予定の現代ビジネス学科では、私が学びたいと思っている、簿記、会計の知識に加えマーケティングなどと幅広い知識を身につけられるという点に魅力を感じこの学科を選択しました。私は総合型選抜という方法で受験したため、筆記の学力試験はありませんでしたが、受験の際に小論文があったため書き方などを勉強しました。クラスみんなが志望大を決めていく中で、わたしは夏休みギリギリまで進学先を悩んでいて、他の人より受験勉強に対して遅れをとっていました。インターネットやパンフレットをみて大学の学科や特徴などを見るだけでも時間がかかってしまい、前もって大学について調べたりすることの重要性を知りました。私は3年生になってからちゃんと大学について考えるようになりましたが、3年生になる前から自分が将来何をめざし、何を学びたいのかを考えておくことが大切だということが分かりました。

私は1, 2年生の時、定期テストに向けての試験勉強を怠ってしまったためテストの点数があまりよくなく成績はいいほうではありませんでした。3年生にあがり、今までの自分の積み重ねが大事になってくると気づき勉強を今までよりも力を入れるようになりましたが、自分の進学したい大学はもちろんですが、色々な進学先への幅を広げるためには1, 2年生からの勉強の積み重ねや成績がとても大切になってくると思います。

尚絅学院大学 心理・教育学群心理学類に
総合型選抜で合格

令和5年3月 技能開発コース卒
鳴瀬未来中出身

明確な目標を持つことにより 今すべきことが見えてきます

■誰かの心を助けることが できる人になりたいです

私が、尚絅学院大学心理・教育学群心理学類に進学しようと思ったきっかけは、私が悩みを抱えていたときにスクールカウンセラーの先生が解決へと導いてくれた経験から、私も誰かの心を助けることができる人になりたいと思ったからです。気になる大学はたくさん調べ、オープンキャンパスや進学説明会などを通して志望大学を決定しました。

私は総合型選抜で受験しました。選抜方法は書類審査、面接、授業体験型審査の3つです。総合型選抜を選択した理由は、受験生一人一人の将来の目標や意思を十分にアピールすることができるからです。面接練習では、様々な質問に対して柔軟に答えられるよう意識し、立ち居振る舞いや言葉遣いを細かく指導してもらいました。私は、練習時でも緊張のあまり、言葉が詰まったり、話が飛んでしまったりすることがよくあったので、より自然にスラスラ話せるよう何度も練習しました。入試当日は緊張もありつつも、滞りなく自分自身をアピールすることができました。面接練習は、回数を重ねるだけ自分に自信がつき、伝えたいことがまとまってくるのでより多くの先生方と練習回数をこなしていくことが大切です。

■目標を見つけるには 果敢な挑戦が必要です

授業体験型審査では、実際に授業を聞いた後に、配布された問題を作成しました。過去問題が無かったため、私はメモを取る練習を行いました。普段の授業で板書以外にメモを取り、大事な情報を的確に聞き取れるように一層集中力を高め、自分なりに対策をしました。入試当日は不安でしたが、過去問題がない分、自分にできることを一生懸命努めてきたので全力で取り組むことができました。

進路を選択するときに大切なことは、自分の将来の夢や目標が明確かどうかであると思います。目標をはっきりさせることで、自分が今すべきことや、それに真っ直ぐ向き合って一生懸命努力することができるからです。自分自身の目標を立てるには、様々な物事に積極的に挑戦することが重要です。経験や身に付けた知識から将来の選択に繋がるかもしれません。日常生活や部活動、行事などを全力で取り組み、有意義で充実した高校生活にできるよう頑張ってください。

東北生活文化大学 美術学部美術表現学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
五城中出身

「自分ならできる」と強い意志を持ち 努力すれば目標を達成できます

■面接では自信を持つことの 大切さを実感しました

私は大学受験を通して学んだことがたくさんあります。最初は、将来やりたいことや夢がはっきりしていなかったため、どうすれば良いのか分からないことが多くありました。進路を決めていく中で、まずは自分のことをよく知ろうと思うようになりました。そうしていくと、自然とやりたい事が見つかっていきました。将来やりたいと思ったことから逆算して志望大を考えるようになりました。私は総合型選抜での受験を決めました。指定校推薦よりも合格率が低いことから大きな不安がありましたが、自分のできる事を精一杯やろうと毎日努力しました。受験の内容は面接と口頭試問だったため、自己アピールに力を入れたたくさん練習しました。面接を通して感じたことは自分に自信を持つことの大切さです。自信を持つことで大きな声ではきはきと受け答えすることができ、大学側からの信頼を得られると思います。実際に受験を終えてより大学について考えることが多くなりました。

■優先順位を決めて効率よく 時間を使いましょう

私は美術学部への進路を決めたため、デッサンや色彩、デザイン、美術史について改めて学習し直すきっかけとなりました。自ら本屋に行き、役に立ちそうな本を買って特に必要だと思うページにふせんを貼るなど工夫していました。入学してから苦労しないように、劣っている部分を見つめ直すなど時間を大切に生活しています。面接練習は、色々な先生と行うことや、隙間時間を使って自分を分析することは確かに合格に必要なことだと思っています。時間の使い方と優先順位をはっきりさせることで、計画的に行動することができ有意義な生活を送れることにも気付きました。大きな不安があっても、自分ならできると強い意志を持つことと、努力をすれば合格につながることを学んだのでこの経験を忘れずに大学でも精進していきたいと思っています。

仙台大学 体育学部体育学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
東華中出身

考えをしっかりと持って行動することの 大切さを仙台育英で学びました

■スポーツ指導に必要な素養が 身に付く大学を選びました

中学3年間と、高校在学中はソフトテニスに励んできました。練習する中で後輩や同級生などにアドバイスを積極的に行っていました。私自身のアドバイスにより、段々上手になっていく後輩や同級生を見て人に指導することに興味を持ちました。

私は学校内にあったパンフレットを見た時にスポーツの指導方法を学べるだけでなく、一人のスポーツ選手として活躍することが出来るという部分に強く興味を持ちました。また、専門資格の豊富さだけでなく、社会に出たときのための基礎的知識を身につけられると感じ、仙台大学を目指すことにしました。

この仙台大学を受験するにあたって、総合型選抜での受験に決めました。総合型選抜は、生徒の学力だけでなく主に内面性を見られるものであり、自分自身のスタイルや適性に合わせて受けることが出来るため、比較的受け易いと考えました。

私は合格するために、面接、小論文、プレゼンテーションなどを頑張りました。正直、どれも簡単ではありませんでした。面接は、特に注意しながら練習しました。問われたことに対して柔軟に対応するために、文章化せず関連性を持たせたワードを利用しながらすることが難しい部分でありました。小論文では、起承転結を使って文を組み立てることに苦勞しました。しっかりと書けるようになるまで繰り返し書くことに努力しました。プレゼンテーションを行う上で、聞き手側に聞き取り易いスピード、声量、内容をおさえてプレゼンテーション作りを心掛けました。私は少ない時間の中でこれらのことをこなさなければいけない状況でした。時間の使い方を工夫し、自身を信じることで受験を乗り越えました。

■多くの人達と仲良くなれた 充実した高校生活でした

私は、高校3年間で喜怒哀楽様々な情に触れ自身を成長させることができました。部活動で、テニスをただやるだけでなく部内での役割を通して社会性を養い、仲間1人1人の個性を理解し、考え方を尊重することで仲間との絆を深めることが出来ました。また、高校生活では、様々な部活動の人ととても仲良くなれました。最初は不安な気持ちが強くありましたが、積極的に話しかけたり、話しかけられたりと周りの人とコミュニケーションを取り合っていく内に様々な人と仲良くなり充実した学校生活を送ることが出来ました。

この学校生活を通して仲間と共生する力を付けることが出来たと身をもって実感することが出来ました。それにもない、自分の考えをしっかりと持ち、考えて行動する大切さを知ることが出来ました。

これからは大学生でもあり一人の大人として自覚と責任を持ちつつ、感謝を噛みしめながら生きていきたいです。

仙台大学 体育学部体育学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 フレックスコース卒
袋原中出身

どんなことでも努力を続けていれば 必ず結果はついてくると強く感じました

■生徒と真剣に向き合える 教員になりたいです

私が大学進学を目指した理由は2つあります。1つ目は、小学校2年生から続けているバスケットボールで次は指導する側になりたいからです。そのために高校1年生で取得したJBA公認E級審判、JBA公認E級コーチのライセンスを取得し実際に練習試合などに活かすことが出来、将来に繋がる経験をより多く積むように努めました。

2つ目は、女子バスケットボール部の監督をしていた先生に出会い、先生のような教員になりたいと思うようになったからです。一人一人に真剣に向き合い、気遣いのできる先生をみて目指すようになりました。

バスケットボール部で心がけたこと、努力したことは、どれだけ辛くても、どれだけ苦しくても自分の嫌なことから逃げない、ということです。私は最初レギュラーに入るどころか試合に出ることすら出来ませんでした。最初の頃は、今までスタートメンバーも選抜にも選ばれてたのにとか、なんで自分が試合に出れないんだろうとか、自分勝手な考えばかりでした。2年生の秋からはスタートメンバーに入ることができ、顧問の先生からも「4月からよく頑張った」と褒めてもらえるまでになりました。自分が嫌いな走るメニューをどれだけ辛くても苦しくても逃げず練習に混ざったこと、当たり前なことだけど嫌いなことを頑張って背番号も上がって本当にここまで頑張ってきて良かったなと思いました。

■嫌いだった勉強も頑張って 部活動と両立させました

中学生の頃、私は勉強することが本当に嫌いでしたが、高校生での最初のテストをきっかけに部活動と勉強の両立を目標に頑張ろうと思いました。しかし、私にとって勉強と部活動を両立させることは簡単ではありませんでした。それでも、自分なりの勉強方法を見つけ勉強し、成績をなるべく中学生の自分よりいい点数を取るよう維持し続けてきました。

大学受験には小論文と面接、実技試験があり、正直私は3つとも不安でした。しかし、先生方が放課後、面接の指導をくださり少しずつ自信をつけることができました。

私は高校での3年間を通して、部活動でも勉強でもどんなことでも努力すれば必ず結果はついてくるということを強く感じました。また、それは自分一人では出来ることではなく、支えてくれている人がいるからこそ出来ることだと思います。担任の先生、部活動の先生には一番感謝しています。

私が目指している保健体育の先生になれるよう、大学での4年間は決して無駄にすることなく自分のベストを全力で尽くします。

仙台大学 体育学部現代武道学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 情報科学コース卒
鶴谷中出身

有意義に過ごせるように自分のレベルや 目標に合うかを考え進路を選びましょう

■志望大を受験するのに

十分な成績を維持しました

私は宮城県内にある仙台大学に進学します。仙台大学を希望した理由は陸上をすることと、学びたい分野があったからです。その上で、大学を選ぶに当たって重要に考えたのはこの2つです。

1つ目は普段の学習です。スポーツで大学に行くことは意識していましたが、保険は何個あっても良いと思っていたので、学校内のテストだけでも得点がある程度取るようにしていました。もしこの大学へ行きたいと思っても成績が足りず入学出来なかったというのはとても悔しいので出来るだけ4.5を取るようになりました。

2つ目に続けていけるかです。もし県外へ行き、高校とは違う自主性があり、一人で家事等をこなさなければならぬ中、高校よりもレベルの高い選手と競うような環境に入りやっていけるかと考えましたが、今の私には自信がありませんでした。無理をしない選択肢も大学選びにはとても重要だと思います。

■卒業したくないと思うほど

高校生活は楽しかったです！

私にとって大学とは、将来の幅を広げる、自分の選択によって変わる場所だと思っています。上手く使えば自分の有意義な時間を過ごせますが、自主性も必要な難しい所です。どれだけ自分のレベルや、たくさんの状況に合っているかよく考えて大学選択をすると良いと思います。

受験対策ですが、私は小論文と集団面接のみでした。小論文のアドバイスは、まず5分かけて書く内容をまとめてからぱっと書き進めて下さい。1時間かかっていたものが40分以内に終わりました。ぜひ実践してみてください。

最後に私にとって高校生活とは、情勢的に大変なことがあり、学校生活がまともに出来ないことも多々あり、イベントが無かったりとたくさんのことがありました。ですがとても楽しかったです。特に3年生は凄く楽しかったです。よく卒業したくないと話しているほどです。皆さんもそれぞれのしたい事を行って残りの学校生活を楽しんで下さい。

函館短期大学 食物栄養学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 通信制課程卒
十和田 切田中出身

資格取得や行事の参加などに励み 受験に挑む自信が付きました

■食生活のサポートにより皆を 元気にしたいと思いました

私は将来、栄養士になりたいと思い進学を決断しました。栄養士を目指そうと思ったきっかけは、高校1年生の時に体調を崩したことです。食生活の乱れで徐々に体調が崩れ、メンタル不調になりました。そこで、食事をしっかり摂るように努力したところ、体調が良くなりました。この経験を踏まえ、自分だけではなく、家族やその他たくさんの人を食生活で元気にしたいと思い、栄養士になりたいと思い、栄養学科のある学校に進学しようと考えました。

数多くある大学の中でも、函館短期大学の食物栄養学科を選んだ理由は、調理、スポーツ、福祉、教職の4つのコースに分かれていて、より専門的な知識が得られるところが魅力だと感じたからです。

総合型選抜を選んだ理由は、県外にある大学なので、早めに合格することで余裕を持って、大学進学への準備ができると思ったからです。

■英検取得により受験への やる気が高まりました

函館短期大学の総合型選抜は自己アピールカードの提出と面接でした。自己アピールポイントを増やすために、私は英語検定と行事への参加を重点的に頑張りました。まず、英語検定については、英語はどの職業でも将来必要になると思ったので、総合型選抜試験を受ける前までに2級を取得しようと努力し、取得することができました。そのおかげで受験に対するモチベーションが上がり自信ができました。次に、行事についてです。学校で主催している運動系の行事や、外来種の駆除をするボランティアに積極的に参加しました。英検取得や行事参加をふまえて、いろんなことに挑戦することで自分に自信がつきとても大切だと思いました。面接では、私は面接をすることに不安を感じていたため、先生と何度か練習をしました。質問を予想して、どんな質問に対しても答えられるように練習しました。そのおかげで本番は自信をもってハキハキと答えることができました。

面接練習をすることで自信がつくので、やって良かったと思いました。また、ボランティアなど、いろんなことに挑戦すると試験の時だけでなく将来にも役立つので、みなさんも挑戦してみてください。

八戸学院短期大学部 介護福祉学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 技能開発コース卒
インドネシア出身

一緒に練習し励まして下さった 先生のおかげで合格できました

■日本語で会話できた時は 学んでよかったと思います

私は留学生です。日本に来てから8ヶ月が経ちました。毎日、他の日本人の方々と一緒に勉強しています。日本語を学ぶのは簡単ではありませんが、クラスメイトや学校の先生の助けで、日本語を学ぶことが楽しくなっていました。一般クラスに参加した後、日本語の課外授業に参加しました。日本語を学んでいてよかったと思うのは、日本人とコミュニケーションをして、相手が私の話を理解してくれたとき、それが私の幸せになるからです。

日本に来た目的は、日本の大学で勉強することだったので、大学に入るために必要なものをすべて準備しようと頑張りました。この12月が入試で、選んだ大学は八戸学院短期大学部でした。その大学を選んだ理由は、自分の希望する専攻があったからです。筆記試験と面接を受けました。

■チャンスを無駄にしないよう 努力を欠かさず続けましょう

入試のために準備したときは、SDGsと高齢者の生活との関わりについて作文を書くこと、作文練習、担任の先生との面接練習などでした。日本語を話すことに慣れていない私にとって、これは簡単なことではなかったし、理解できない単語もまだたくさんありました。でもその分、語彙の練習をしたいという気持ちが強くなりました。小論文を書くときは、語彙を増やし、文章をどんどん改善していかなければならないので、とても大変だと思いました。

時間があるときは、小論文を書いたり、覚えたりする練習をしていました。本当によく覚えらるまで練習を続けました。また、面接の練習は、一般の授業の後、担任の先生にお願いすることが多いです。試験当日になると、初めてのことなのでとても緊張しました。でも、学校の先生は「緊張するのは当たり前だよ」とおっしゃるので、自分を落ち着かせることにしました。そして、たくさんの練習でしっかり合格することができたので、とても感謝しています。

ですから、これからの交換留学生は、練習が欠かせません。ダラダラしていると、せっかくのチャンスを棒に振ってしまうので、努力は欠かせません。すべては努力に見合ったものになるからです。

八戸学院短期大学部 介護福祉学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 技能開発コース卒
インドネシア出身

志望大を早く決め目的を持つことで 時間にも気持ちにも余裕が生まれます

■困難に立ち向かい成功を 手にしたいと思いました

進路が決まったら、澁瀬とした強い意志を持つことが大切です。意志が強い志望大を早く決めれば、それだけ安心です。試験中に学んだことがいくつかあるので、ここで紹介したいと思います。受験を終えた後輩に一番伝えたいことは、行きたい大学を早く決めて、目的を持って生きてほしいということです。その理由は二つあります。1点目は、行きたい大学を早めに決めておくことで、勉強の目標が立てられることです。早く決めれば決めるほど、勉強する時間が増え余裕も生まれます。2つ目の理由は、大学を絞ることで受験勉強をスムーズに行えることです。また、行きたい大学が決まれば、勉強へのモチベーションも上がります。

願書が届いてからは、今まで以上に細かく書くようになり、同時に面接の練習も入念に行いました。入試当日は、今まで以上に自信が持てたと思います。面接官は、私が言いたいことを何でも聞いてくれ、面接中に励ましてくれたりもしました。そして、合格することができました。

計画通りにいかななくても、最後まであきらめずに挑戦することの大切さを学びました。面接では、自分をアピールすることを心がけました。成功者になるのは簡単なことではありません。そのような困難なプロセスを経なければなりません。でも、私はあきらめずに向き合います。私の目標は、親に自慢できるような成功者になることです。

■周りの支え無くしては 合格はつかめません

学校生活では、何事にも積極的に取り組むことが大切です。私がこの受験のために努力したことをお話ししたいと思います。私は仙台育英に入学して以来、大学進学を目標に学校生活を送ってきました。1年生の時から、将来どんな仕事に就きたいのか、どの大学に行きたいのかを考えてきました。私は、仙台育英の先生方のおかげで八戸学院短期大学部に入学することができました。先生方のおかげで、私もいろいろなことを知っています。授業だけではありません。

だから、成功するためには、自分一人の力ではなく、親や先生、周りの人たちの支えなど、教えてくれる人がいなければなりません。だから、私はその人たちにとても感謝しています。彼らのおかげで、私は、成功へと向かうことができるのです。

八戸学院短期大学部 介護福祉学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 技能開発コース卒
インドネシア出身

仙台育英での毎日はとても楽しく 多くを学ぶことができました

■介護福祉士になって 人助けをしたいです

私が八戸学院短期大学に入学した理由は、第一に先生たちの勧めがあったこと、第二に介護についてもっと知りたい、コミュニケーション能力を高めたいと思ったからです。八戸学院短期大学に入学した動機は、もともと人を助けることが好きで、介護福祉士になりたいと思っていたので、八戸学院短期大学に入学し、介護福祉学を専攻することになりました。

私は留学生だったので、大学受験に合格するために、日本語をもっと勉強したり、日本語で話す練習をしたり、漢字はとても大切なので練習したり、筆記試験だけでなく面接練習をしたりと、やらなければならないことがたくさんありました。そして、大学受験では、緊張しないように自信を持つこと、準備したことを忘れないことが一番大切だと思います。

学習方法としては、先生から教わるだけでは不十分で、自分の実力を測り、分からないことが多ければ継続して学習することで、空き時間を使って自主的に勉強しています。また、漢字検定や日本語検定を受けると、自分の日本語の実力が分かるので、受けてみよう。結果が良ければ勉強時間を確保し、悪ければさらに勉強します。大学に合格するために一番大切なことは、一生懸命勉強することです。

■友達をサポートで日本語での 高校生活を楽しめました

仙台育英での生活はとても楽しく、学ぶこともたくさんあります。その中でも特に日本語はとても大切で、話すことができなければ、他の人と話すこともできませんからたくさんのことを学ばなければならない。私は、良い人たちや良い先生たちに出会えてとても幸せです。私の友だちは、私が先生の言っていることが分からないと、いつも助けてくれるし、私と話すときも分かりやすい日本語を使ってくれます。そして、たくさん友だちを作ることができました。

後輩達への激励の言葉は、「欲しいものを追い求めなければ、手に入れることはできない。求めなければ、答えはノーだ。前に進まなければ、同じところに留まってしまう」、「学ぶことをやめた人は、過去の持ち主になる。学び続ける人は、未来の持ち主になる」です。

八戸学院短期大学部 介護福祉学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 技能開発コース卒
インドネシア出身

留学生ならば日本人の先生や友達の 意見を参考に小論文対策をしましょう

■知人がいて心強いので

八戸の大学を志望しました

中学生の頃から、介護士になりたいという希望があり、進学として選んだのは八戸学院短期大学部の介護福祉学科です。理由は入りたい学科があるだけでなく、八戸には知り合いの先輩がいるからです。留学生として一人暮らしするのは少し大変なので、知り合いがいることはとても重要なことです。実際に仙台育英での3年の生活はそれほど難しくなく、むしろとても楽しかったです。時間がかかりましたが、周りの人と関係でき、多くの先生や友だちが助けをくれましたが、時々話すときに少し苦労したことはあります。小論文と面接を受けられる受験は、少し無理だと思いました。でも、一生懸命に準備して合格できました。

■小論文よりも面接の方が

個人的には大変でした

小論文の準備は現在社会で話題になっている問題を取り上げ、自分の意見を述べられました。内容の参考として、インターネットや教科書で調べるだけでなく、日本人と外国人である私では考え方がちがうはずなので、先生や友達に聞いてみるようにしました。書き練習をしながら、内容を理解し、記憶しておきました。私にとって、前に作った例題と完全に同じでなくても、内容を理解していれば、試験で使う小論文は大丈夫です。また、小論文を理解することはとても必要で、面接の際にも役に立ちます。小論文のことだけでなく、自分自身のこと、大学や選んだ学科、将来の計画などを理解することも面接に影響します。そのため、しっかり答えを用意することが必要です。そして、面接ではマナーや声のトーンなど、定期的な練習も大切です。というのも、面接試験は小論文試験よりストレスが大きいです。小論文の場合は良く書いて覚えておくだけでいいかもしれませんが、面接の場合は答えを覚えるだけでなく試験官と直接向き合い、マナーなども維持しなければなりません。ですから、面接試験にはもっと努力と練習が必要だと思います。しかし、そうすると努力は結果を裏切りません。

聖和学園短期大学 キャリア開発総合学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 通信制課程卒
階上中出身

先生方が親身にアドバイスして下さり とても心強かったです

■レポート作成などの合間に 資格取得に励みました

私は、聖和学園短期大学キャリア開発総合学科に総合型選抜A（1期）で受験し合格しました。2年生の後期に受験することを決め、2月にオープンキャンパスに参加しました。聖和学園短期大学の受験方法は、総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜の3種類があり、話を聞く中で総合型選抜が自分には合っていると思い準備を始めました。

まず普段の生活では、スクーリングやレポートを期日より早めに終え、空いた時間で資格取得に向けた学習をしました。

資格試験は、漢字検定・英語検定・日本語検定の3つに的を絞り取り組みました。

英検、漢検は年に3回、日本語検定は年に2回の受検機会がありますが、いずれも日程が近かったり、日程が重なったりするので、早めに準備を始めた方が余裕を持って取り組めると思いました。私は部活動に所属していないので、その分公募の料理コンクールやレシピコンテストなど、特技を活かしたものに応募、参加しました。また校外活動として、小学校の頃から続けて取り組んでいる植樹・育樹活動やビーチクリーンなど環境保全活動にも継続して参加しました。

受検にあたり、担任の先生や、ILCの先生方に相談に乗っていただいたり、聖和学園短期大学についてのお話を伺うことができとても心強かったです。私は学校に行けないというマイナスからのスタートでしたが、ILCに転校したことで健康な心を取り戻し、進学意欲を取り戻すことができました。いつも温かく見守ってくださった先生方ありがとうございました。

聖和学園短期大学 キャリア開発総合学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 通信制課程卒
南中山中出身

失敗しても次に進めるということ 受験を乗り越えて学びました

■大学進学に向け出来ることは 全て精一杯取り組みました

私は、この仙台育英の通信制課程に転入してきました。前回の高校は、普通科の高校で、周りのクラスメイトとあまり馴染めず、みんなとは違うということが怖くなり、学校に行くことが出来なくなりました。そこで、普通科の高校は自分には向いていないと判断し、通信制の高校である。仙台育英通信制課程を選びました。通信制では、人と余り関わらず、高校生活を送ることができ、単位取得が可能のため、自分にとって、とてもありがたかったです。

将来は図書館司書の仕事に就きたいと思っています。高校を卒業してからは、司書資格を取得するために、大学に進学したいと思っていました。しかし、この高校生活の中で、高校を卒業することのみを目標にしていた自分は、大学に進学することが出来るのかと、かなり不安に思いました。そう思ったため、高校の課題はなるべく早く終わらせて、テスト勉強もしっかり行い、もう挫折しないように、前を向いて歩けるように、出来ることは全力で取り組み、内申点を上げられるように努力しました。2年生の後半、私は、聖和学園短期大学に進路を決めました。理由は、まず目指している司書資格が取得可能なことや、公務員資格、図書館司書には必須であるパソコン技術等も学べるため、最も有意義な2年になると思ったためです。それに地元であるため、地域に対してボランティア活動など、なにか恩返しをしたいと思ったからです。

■面接練習は本番さながらの スタイルで行いました

聖和学園短期大学の入試で、私は総合型選抜を選びました。その入試内容は、高校からの学習書の内面と、1分間の自己PR、それから個人面接があります。先ほども書きましたが、内申点はどの入試にも入ってくるため、出来るだけ取っておいた方がいいと思います。自己PRと個人面接は、相手を用意して、話すスピード、間、声の大きさ、相手の目を見て話す、相槌を打つ、スピーチの中身など、様々なことを本番想定でスーツを着て、マスクをして、行いました。そうすることにより、本番は、そこまで緊張せずに行うことができました。

この経験から一番学べたことは、失敗しても次に進めるということだと思います。今の自分は凄く清々しい思いがあります。この仙台育英で勉学に努力して大学に進めたように、だれでも可能なことだと思います。

東北生活文化大短期大学部 生活文化学科子ども生活専攻に
総合型選抜で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
七北田中出身

オープンキャンパスに参加し自分の目で 進路を見極めることが大切です

■学びの環境に魅力を感じ

志望大を決定しました

私は、総合型選抜試験で東北生活文化大短期大学部に合格しました。入試前に、新型コロナウイルスに罹患してしまい、不安と焦りがありましたが、先生方と家族のサポートのおかげで平常心を取り戻し、安心して受験に臨むことができ合格することができました。私が、東北生活文化大短期大学部を志望した理由は、保育士資格と幼稚園教諭二種免許を取得する事ができ、またオープンキャンパスに参加させてもらった際に、自分の目で学校の雰囲気を見たり、先生方、在校生や卒業生の方々のお話を実際に聞いたり、少人数制でいながらも、担当教科の先生方が多く、分からない事があっても必ず聞ける環境の所に魅力を感じ志望したからです。

■中学生の職場体験を機に

幼児教育に関心を持ちました

私が保育園教諭を目指したきっかけは2つあります。1つ目は、幼い頃から弟や年の離れたいとこの面倒を見ており、その頃から子供と関われる仕事をしてみたいと思ったからです。2つ目は、中学生の時の職場体験です。実際に保育園に4日間、実習に行き保育士の体験をしました。そこで人見知りの女の子に出会いました。人見知りの女の子が、私の袖を掴んで抱っこをせがまれた時に、何も出来ない中学生の私にさえ、助けを求め来てくれる子に、もっと保育園の先生として知識を付けて、教育に携わろうと思った出来事でした。幼児教育とは、楽しい・可愛いだけでは、通用しないものだと思います。子供達の未来に繋げられるお手伝いを根気強く愛情を持って教育をしたいと思った事が2つ目のきっかけです。入学当初から、コロナ禍で思うように、登校が出来ず、家で過ごす時間が多くあり、その時間を活用し、1年次の頃から進路について調べたりしていました。長期休暇などには、オープンキャンパスに行き、自分の目で実際に学校を見ることも、とても大事だと思いました。まだまだ、コロナ禍で大変な学校生活だと思いますが、たくさんの事に挑戦し、一日一日を大切に充実した高校生活を、仲間と共に楽しんでください。

宮城誠真短期大学 保育科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 技能開発コース卒
塩竈第二中出身

入試では社会で生きていく力が 必要なのだと実感しました

■読書によって文章づくりの構成も 学べました

私は総合型選抜で宮城誠真短期大学に合格しました。総合型選抜の試験内容は国語と面接だったため、その対策を中心に行いました。感想文と面接のどちらも多くの先生方にお世話になりました。

感想文の対策では、国語の先生にとってもお世話になりました。私は本を読む習慣があまりなかったため、読書をするところから始めるべきと教えられ、小説などではありましたが、本を読むことを習慣にすることから対策を始めました。そこで気付いたことが、小説にも多くの知識が書かれているということです。作家は、リアリティを出すために多くの取材をする、ということテレビなどで見て知ってはいましたが、実際に学校を舞台にされている作品などは自分の学校生活と重なるところがあり、とても驚きました。感想文でも、そのような現実味を出すことが重要になる、という風に先生に教えていただいたこともあり、読書をするのは文章を作る上でとても大切なことだと学びました。

面接の対策は自分が話すことに対して苦手意識があったこともあり、簡単には乗り越えることができませんでした。先生に教えていただいたことで心に残っているのは「面接は会話の延長であること」と「緊張はしない方が不思議だ」ということです。面接試験となると必要以上に緊張してしまい、自分が考えていることを話すことができなくなっていました。会話の一部であることを意識することで緊張がほぐれ、以前に比べて話すハードルが下がった気がしました。人前で話すことは、先生でもあまり得意ではないというお話を聞いて、私も安心できたということもありました。

大学入試を終えて、試されていることは社会で生きていく力であると感じました。コミュニケーション能力という部分で、このような科目が受験科目になっていると感じました。大学入試の推薦試験では、学校での勉強も大事なものではありませんが、同時に社会人として生活する上で必要な力も身に付けなければならないと感じました。

仙台青葉学院短期大学 栄養学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
玉浦中出身

知識が増えて色々な挑戦もできる 高校生活を悔いなく過ごしましょう

■栄養士を目指す上で幅広く 学べる大学だと思いました

私は将来、栄養士の資格を取得したいという思いがあります。その思いから、栄養士を目指せる学校を調べていた際に、実際に調理を行う授業や、食品学の実験など充実したカリキュラムである大学に魅力を感じ、進学しようと思いました。

私は、高校生活ではチアリーディング部に所属していました。部活動では、野球部やサッカー部の応援活動や大会やイベントに向けて一生懸命練習に励んでいました。部活動で特に努力したことは、大会やイベントでノーミスを目指せるように、苦手なことは何回も練習して辞めないで部活動に励みました。大会やイベントでは、お客さんがいる前で演技をするため、緊張しながらも緊張感をみせず、勇気・元気・笑顔を忘れず常にノーミスを目標に努力しました。また、勉強面では、テスト期間は家で勉強するだけでなく、家ではついだらけてしまうので図書館に行って勉強するなど場所を変えて勉強を行ったりしました。図書館で勉強することで集中力を高めることができました。

私にとって高校生活とは、勉強や部活動などできるようになるため、将来に向けて知識を高めることや、新しいことにも挑戦できる場所だと私は思います。

今より勉強が難しくなったり大変なことも増えると思いますが、悔いなく楽しい高校生活を送って下さい。

仙台青葉学院短期大学 歯科衛生学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 特別進学コース卒
矢本第二中出身

3年間で様々なことを経験しながら 受験の材料を集めておきましょう

■自分で問題を作成するなど 口頭試問対策を工夫しました

私は自分の進路希望をなかなか決められずにいたので、常にさまざまな職業を調べ、それに関連のある学校のオープンキャンパスなどに多く参加しました。2年生の後半に医療従事者である親戚から話を聞いていたとき歯科衛生士を提案され、その仕事に強く興味を持ち、東北で唯一の歯科衛生学科のある短期大学の仙台青葉学院短期大学を受験することに決めました。

私は総合型選抜入試ですが、志望大学の内容は、エントリーシートによる一次試験と、面接・口頭試問による二次試験がありました。オープンキャンパスなどには何度か参加し、ホームページやパンフレットに目を通したり、在学生の方に聞いたり志望大学について細かく入念に調べ、エントリーシートや面接に備えました。先生方と行う面接練習はあまり時間が取れなかったため、その面接練習を本番だと思い、それまでの期間を自主練として、聞かれることを予測してその受け答えを考え、常にひたすら唱えたり、時間を計ったりしながら練習に取り組みました。口頭試問はあまり過去問などのデータが残っておらず、参考にできるものが少なかったため高校の学習の基礎的内容や一般常識問題を自分で作ったり調べたりして対策を行いました。

■進路決定が遅く全ての力を 発揮できず後悔しています

それぞれの試験内容に応じて、しっかり準備はしましたが、やはり入試合格に向けて重要なことは余裕をもって早めに準備取り掛かることだと思います。私は志望大決めに時間がかかってしまったため、準備に全ての力を発揮できなかったように思います。

自分の進路がなかなか決められなくても、どこにでも対応できるように、特に推薦入試を少しでも考えている方には、3年間の学生生活で様々なことに取り組み経験を増やし、受験に向けて常に材料を集めておくべきだと思います。

受験が近くなるにつれて、打ちのめされたり挫折することはあると思いますが、自分の頑張り次第でどうにでもなると思うので頑張ってください。

仙台赤門短期大学 看護学科に
総合型選抜で合格

令和5年3月 英進進学コース卒
西山中出身

夢を現実するために出来ることを考え 後悔のないように行動しましょう

■母の勧めで看護師という 職業に興味を持ちました

私が仙台赤門短期大学を目指した理由は、看護師になりたいという夢があるためです。本格的に看護師になりたいと思えたのは受験を目前に控えた高校3年生の夏でありそれまでは明確にどんな職業に就きたいか決まっていなかった。学校生活や部活動をしながら過ごしていくと、いつの間にか3年生になり本格的に夢を見つけなきゃ、という焦りに駆られました。そんな時自分の夢を見つけるきっかけを作ってくれたのは母でした。母は現在医療従事者として働いております。自分が小さな頃から看護師という職業について母から聞いており、「あなたに合う職業じゃないか」と母からひと押しされ看護師になるという決意をし、看護学科への入学を決めました。学業面では、2年生、3年生に上がった時に焦らないように1年生の定期考査や日頃の授業態度、提出物など、提出期限を守らなければいけないものはきちんと出す、などいい評定平均を取れるようしっかり行動してきました。分からない問題があれば先生や友達に質問したり、学習動画などを視聴して理解するなど3年間自分なりに一生懸命取り組んできました。これまでの生活で培ってきた習慣を大学でも引き続き継続していきます。

■面接も小論文も繰り返し 練習し力を付けていきました

総合選抜入試に向け、休み時間や放課後、進路の授業を活用して小論文の対策や先生方の協力の元、面接練習など行っていました。より多くの先生に協力してもらおうと様々な先生に面接練習をお願いしました。様々な思考から自分では予想もなかった質問内容も、たくさんの先生を通して練習していくことでアドリブ力を身に付け、注意を受けた部分をメモしたりすることで、咄嗟の質問にも答えられるようになりました。小論文対策では進路担当の先生にある大学の過去に出た問題をコピーしてもらい添削してもらい直していく、ということを繰り返していました。なるべく数をこなしていくということを目指して入試本番まで取り組んできました。充実した大学生活はもちろん、自分の将来描いてる夢を現実させるためにも今何が出来るかをよく考え、後悔のないように行動して行きましょう。

延世大学 経営学部
総合型選抜で合格

令和5年3月 外国語コース卒
古川黎明中出身

海外大学を志望するならば早くから 語学に注力し資格を取得しましょう

■ 経営学を英語で学ぶため

外国人入試に挑戦しました

私は、将来マーケターとして、日本の音楽を世界に広めたいと考えているため、経営学を英語で学べる大学を探していました。しかし、日本の大学では英語で受講できる科目の種類が限られているなど、条件にあった大学が少なく、海外の大学も視野に入れることにしました。そこで、普段から英語を話す環境の中で、経営の専門知識も英語で学ぶことのできる大学があることや、趣味で韓国語を学んでいたため、韓国の大学を外国人入試で受験しました。韓国の外国人入試は8月から出願の大学が多いのですが、私が留学を決めた時にはすでに6月でした。TOPIKやIELTsはその前に取得していたので受験資格はあったのですが、その他の種類を2ヵ月しかない中で全て集めなければならない状況でした。大学に送る書類は日本語では遅れないので、韓国語または英語に訳し、仙台市にある韓国領事館に認証の印鑑をもらいに行きます。また、「自己紹介書」という志望理由書のようなものを書くのですが、韓国語で文章を書いた経験が無かったので、何度も書き直して修正をしていきました。IBDPの最終試験のための勉強や最終課題などと同時並行で書類を準備するのは容易なことではありませんでした。けれど韓国人の先生などに協力をしていただきながら夏休み中に書類を集め、郵送することができました。

■ IBDP の様々な活動を

自己PRに利用しました

受験をするにあたって役に立ったのは、1年生からの高校の成績とIBDPで取り組んだ活動、そしてTOPIKやIELTsなどの資格でした。成績や資格を提出することは受験のための資格として、IBDPでの活動は自己紹介書を書く際の自己PRとして活用することができました。外国人入試には面接がないので（一部の学部を除く）、自己紹介書で自分を存分にアピールしなければなりません。その際に、今までIBDPで行ったボランティア活動や韓国語を教える活動などを書くことによって自分がどのような経験を積んできたのか、そしてその経験から何を学んだのかを伝えることができたと考えます。

韓国の大学を受験したいと考えている後輩の皆さんに伝えたいのは、TOPIKの資格を取得しておくこと、自己紹介書を早めから書いておくことが重要だということです。入試要項はほとんどの場合韓国語版又は英語版しかなく、出願の際の資料も韓国語で書かなければいけないものが多いです。TOPIKがないと出願できない学部や大学もあるので、韓国語の勉強は2年生のうちに頑張ってください。また、自己紹介書は何度も修正して改良していく必要があるため、遅くとも出願の1ヵ月前には書き始めることをおすすめします。